

大学番号：私033

注3

[平成28年度設置]

計画の区分：学部設置

注1

届出

国際医療福祉大学 成田保健医療学部

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人国際医療福祉大学
平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 事務部

職名・氏名 シュン 主任 サトウ 旬

電話番号 0476-20-7703

（夜間） 0476-20-7703

F A X 0476-20-7702

e-mail shunsato@iuhw.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（◇◇学部（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

成田保健医療学部

<理学療法学科>

ページ

1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	15
6. 留意事項等に対する履行状況等	41
7. その他全般的事項	63

<作業療法学科>

ページ

1. 調査対象大学等の概要等	69
2. 授業科目の概要	73
3. 施設・設備の整備状況、経費	79
4. 既設大学等の状況	80
5. 教員組織の状況	83
6. 留意事項等に対する履行状況等	103
7. その他全般的事項	125

<言語聴覚学科>

ページ

1. 調査対象大学等の概要等	131
2. 授業科目の概要	135
3. 施設・設備の整備状況、経費	141
4. 既設大学等の状況	142
5. 教員組織の状況	145
6. 留意事項等に対する履行状況等	164
7. その他全般的事項	186

＜医学検査学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	191
2. 授業科目の概要	195
3. 施設・設備の整備状況、経費	201
4. 既設大学等の状況	202
5. 教員組織の状況	205
6. 留意事項等に対する履行状況等	222
7. その他全般的事項	244

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人国際医療福祉大学

(2) 大 学 名

国際医療福祉大学

(3) 大学の位置

〒286-8686

千葉県成田市公津の杜4丁目3番

(本部：〒324-8501 栃木県大田原市北金丸2600番1)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(タカギ クニノリ) 高木 邦格 (平成7年4月)		
学 長	(キタジマ マサキ) 北島 政樹 (平成21年7月)	(オオトモ クニ) 大友 邦 (平成28年4月)	任期満了に伴う変更(28)
学 部 長	(スギハラ モトコ) 杉原 素子 (平成28年4月)		
学科長等	(ニシダ ユウスケ) 西田 裕介 (平成28年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
 ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
成田保健医療学部 理学療法学科 学士(理学療法)	保健衛生学 関係 (リハビリテーション関係)	4 年	80 人	— 年次 人	320 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	80 (-) [0]		80 (-) [-]								1.10倍	
志願者数	504 (-) [0]	- (-) [-]	569 (-) [3]	- (-) [-]								
受験者数	498 (-) [0]	- (-) [-]	562 (-) [3]	- (-) [-]								
合格者数	139 (-) [0]	- (-) [-]	125 (-) [1]	- (-) [-]								
B 入学者数	92 (-) [0]	- (-) [-]	85 (-) [1]	- (-) [-]								
入学定員超過率 B/A	1.15		1.06									

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には, 編入学の状況について外数で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ [] 内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「—」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	92 [0] ()	[] ()	85 [1] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2 年次			92 [0] (0)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3 年次					[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
4 年次							[] ()	[] ()	
計	92 [0] ()		177 [1] (0)		[] ()		[] ()		

(注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
- ・ () 内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成28年度 入学者	92 人	0 人	平成28年度	人	人		0.00 %
			平成29年度	人	人		
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
平成29年度 入学者	85 人	0 人	平成29年度	人	人		0.00 %
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	人	平成30年度	人	人		#DIV/0! %
			平成31年度	人	人		
平成31年度 入学者	人	人	平成31年度	人	人		#DIV/0! %
合 計	177 人	0 人					0.00 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内訳を記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)」により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<成田保健医療学部 理学療法学科>

(1) 授業科目表

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数								専任教員等の配置	
			必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
人間系	文学論	1 2 3 4 前	2								兼1	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任秋原北胤に変更 (28)
	演劇論	1 2 3 4 前	1								兼1	
人間系	パフォーマンス表現論	1 2 3 4 前	2								兼1	
	心理学	1 2 3 4 前	2								兼1	就任辞退に伴い兼任矢口大雄に変更 (28)
	哲学	1 2 3 4 前	2								兼1	
	コミュニケーション概論	1 2 3 4 後	2								兼1	就任辞退に伴い兼任山川誠司に変更 (28)
	雑談と傾聴～話す力と聴く力～	未開講 1-2-3-4 前	2								兼1	履修希望者がいなかったため (29)
	人間学	1 2 3 4 後	2								兼1	履修希望者がいなかったため (28)
	歴史学	1 2 3 4 後	2								兼1	就任辞退に伴い兼任鹿島晴雄に変更 (28)
	倫理学	1 2 3 4 後	2								兼1	就任辞退に伴い兼任町田明広に変更 (28)
	宗教学	1 2 3 4 後	2								兼1	
	日本近現代史	1 2 3 4 後	2								兼1	
	文化人類学	1 2 3 4 前	2								兼1	就任辞退に伴い兼任加藤尚子に変更 (28)
	教育学	1 2 3 4 後	2								兼1	
	死生学-死を通して生を考える	1 2 3 4 前	2								兼1	
社会系	法学	1 2 3 4 後	2								兼1	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任伊東達也に変更 (28)
	法と道徳・倫理	1 2 3 4 後	2								兼1	
	医療関連法規	1 2 3 4 前	2								兼1	
	社会保障制度論	1 2 3 4 前	2								兼1	就任辞退に伴い兼任金野充博に変更 (28)
	経済の仕組み	1 2 3 4 前	2								兼1	就任辞退に伴い兼任樋岡健一に変更 (28)
	経済の歴史	1 2 3 4 前後	2								兼1	就任辞退に伴い、兼任濱田敏彰に変更 (29)
	世界の経済	1 2 3 4 前後	2								兼1	教育効果を考慮し、開講期を変更 (28)
	アジア諸国の経済・社会・文化	1 2 3 4 後	2								兼1	教育効果を考慮し、兼任村上大介に変更 (29)
	世界の中の和文	1 2 3 4 前	1								兼1	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任高須賀茂文に変更 (28)
	世界遺産と国際文化政策	1 2 3 4 前	2								兼1	専門性の深化を図り、各回の講義テーマに基づく専門化によるオムニバス化 (28)
	経営の仕組み	1 2 3 4 前	2								兼1	就任辞退に伴い兼任佐藤禎一に変更 (28)
	組織運営管理論	1 2 3 4 前	2								兼1	教育効果を考慮し兼任羽田明浩に変更 (28)
	社会学 (人間と社会)	1 2 3 4 前	2								兼1	
	マスメディア論	1 2 3 4 後	2								兼1	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任川上久に変更 (28)
	新聞でみた日本と世界	1 2 3 4 前	2								兼1	
	国際関係論	1 2 3 4 前後	2								兼1	教育効果を考慮し、兼任村上大介に変更 (29)
	国際医療福祉論	1 2 3 4 前	2								兼1	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任高須賀茂文に変更、教育効果に配慮し開講学期を変更 (28)
	海外保健福祉事情Ⅰ (認識)	未開講 1-2-3-4 前	1								兼1	履修希望者がいなかったため (28)
	海外保健福祉事情Ⅱ (実習)	未開講 1-2-3-4 前	1								兼1	履修希望者がいなかったため (28)
	ボランティア論	1 2 3 4 後	2								兼1	退職に伴い兼任宮田浩吉に変更 (29)
	ボランティアコーディネート論	未開講 1-2-3-4 前	2								兼1	履修希望者がいなかったため (28)
	手話入門	未開講 1-2-3-4 後	2								兼1	教育効果を考慮し、開講期の変更 (29)
	防災と生活デザイン	1 2 3 4 前	2								兼1	履修希望者がいなかったため (28)
自然・情報系	統計学	1 2 3 4 後	2								兼1	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任榎秀樹に変更 (28)
	疫学・保健医療統計学	1 2 3 4 後	2								兼1	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任稲垣誠一に変更 (28)
	数学	1 2 3 4 前	2								兼1	
	物理学	1 2 3 4 前	2								兼1	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任宮嶋宏行に変更 (28)
	化学	1 2 3 4 前	2								兼1	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任清宮正徳に変更 (28)
	生物学	1 2 3 4 前	2								兼1	退職に伴い、兼任湯沢聡に変更 (29)
	情報処理Ⅰ (初歩)	1 2 3 4 前	1								兼1	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任稲垣誠一に変更 (28)
	情報処理Ⅱ (基礎)	1 2 3 4 前	1								兼1	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任宮嶋宏行に変更 (28)
	情報処理Ⅲ (応用)	1 2 3 4 後	1								兼1	
	生命倫理	1 2 3 4 前	2								兼1	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任樽井正義に変更 (28)
	医学/医療史	1 2 3 4 後	2								兼1	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任宮嶋宏行に変更 (28)
	人間工学	1 2 3 4 後	2								兼1	
総合系	大学入門講座Ⅰ (基礎)	1 前	1								兼1	教育効果を考慮し、担当の追加変更 (29)
	大学入門講座Ⅱ (展開)	1 2 3 4 前	1								兼1	教育効果を考慮し、担当の追加変更 (29)
	郷土論	1 2 3 4 前	1								兼1	専門性の深化を図り、地方自治体および地域と連携しオムニバス化 (28)
	医療福祉教養講義	1 2 3 4 後	1								兼1	
	メディカルマナー入門	1 2 3 4 後	2								兼1	
総合系	食と人間	1 2 3 4 後	1								兼1	就任辞退に伴い兼任門脇弘子に変更 (28)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育（Ⅱ） (英)	英語A-1 (聽說基礎)	1 前	1									第2期 成田キャンパス所属の担当教員着任および効果的な教育のための少人数教育実践のため、担当教員の追加変更 (28)
	英語A-2 (聽說応用)	1 後	1									第2期 教育効果を考慮し、兼任師岡ビビアン・ルイスを追加 (29)
	英語B-1 (視聴覚英語基礎)	1 前	1									第2期 成田キャンパス所属の担当教員着任および効果的な教育のための少人数教育実践のため、担当教員の追加変更 (28)
	英語B-2 (視聴覚英語応用)	1 後	1									第2期 教育効果を考慮し、兼任Vivek Paul Pintoに変更 (29)
	英語A-3 (聽說中級1)	2 3 4 前		1								第1期 教育効果を考慮し、兼任師岡ビビアン・ルイスに変更 (29)
	英語A-4 (聽說中級2)	2 3 4 後		1								第1期 教育効果を考慮し、兼任師岡ビビアン・ルイスに変更 (29)
	英語C-1 (英会話初級)	2 3 4 前		1								第1期 教育効果を考慮し、兼任師岡ビビアン・ルイスに変更 (29)
	英語C-2 (英会話中級)	2 3 4 後		1								第1期 教育効果を考慮し、兼任師岡ビビアン・ルイスに変更 (29)
	英語ライティング1 (Primary)	1 2 3 4 前		1								第1期 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任田中泰郎に変更 (28)
	英語ライティング2 (Basic)	1 2 3 4 後		1								第1期 退職に伴い、兼任押見貴之に変更 (28)
	国際医療通訳入門	1 2 3 4 前		1								第1期 成田キャンパス所属の担当教員着任および効果的な教育のための少人数教育実践のため、担当教員の追加変更 (28)
	資格英語1 (Primary)	1 2 3 4 前		1								第1期 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任師岡ビビアン・ルイスに変更 (28)
	資格英語2 (Basic)	1 2 3 4 後		1								第1期 辞任に伴い、兼任東風太一に変更 (29)
	基礎英文法1 (Primary)	1 2 3 4 前		1								第1期 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任張佳恵に変更 (28)
	基礎英文法2 (Basic)	1 2 3 4 後		1								第1期 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任崔誠姫に変更 (28)
	上級英語文法講義	1 2 3 4 前		1								第1期 教育効果を考慮しネイティブスピーカーである兼任Silvia Antoniaに変更 (28)
	上級英語会話1 (発展)	1 2 3 4 前		1								第1期 教育効果を考慮しネイティブスピーカーである兼任Silvia Antoniaに変更 (28)
	上級英語会話2 (総合)	1 2 3 4 後		1								第1期 教育効果を考慮しネイティブスピーカーである兼任Silvia Antoniaに変更 (28)
	ドイツ語入門 (会話含む)	1 2 3 4 前		1								第1期 辞任に伴い、兼任小川有子に変更 (29)
	ドイツ語応用 (会話含む)	1 2 3 4 後		1								第1期 辞任に伴い、兼任小川有子に変更 (29)
	中国語入門 (会話含む)	1 2 3 4 前		1								第1期 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任張佳恵に変更 (28)
	中国語応用 (会話含む)	1 2 3 4 後		1								第1期 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任崔誠姫に変更 (28)
	韓国語入門 (会話含む)	1 2 3 4 前		1								第1期 教育効果を考慮しネイティブスピーカーである兼任Silvia Antoniaに変更 (28)
	韓国語応用 (会話含む)	1 2 3 4 後		1								第1期 教育効果を考慮しネイティブスピーカーである兼任Silvia Antoniaに変更 (28)
	フランス語入門 (会話含む)	1 2 3 4 前		1								第1期 教育効果を考慮しネイティブスピーカーである兼任Silvia Antoniaに変更 (28)
	フランス語応用 (会話含む)	1 2 3 4 後		1								第1期 教育効果を考慮しネイティブスピーカーである兼任Silvia Antoniaに変更 (28)
	スペイン語入門 (会話含む)	1 2 3 4 前		1								第1期 教育効果を考慮しネイティブスピーカーである兼任Silvia Antoniaに変更 (28)
	スペイン語応用 (会話含む)	1 2 3 4 後		1								第1期 教育効果を考慮しネイティブスピーカーである兼任Silvia Antoniaに変更 (28)
	タイ語入門 (会話含む)	1 2 3 4 前		1								第1期 辞任に伴い、兼任小川有子に変更 (29)
	タイ語応用 (会話含む)	1 2 3 4 後		1								第1期 辞任に伴い、兼任小川有子に変更 (29)
	ベトナム語入門 (会話含む)	1 2 3 4 前		1								第1期 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任張佳恵に変更 (28)
	ベトナム語応用 (会話含む)	1 2 3 4 後		1								第1期 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任崔誠姫に変更 (28)
	ビルマ語入門 (会話含む)	1 2 3 4 前		1								第1期 教育効果を考慮しネイティブスピーカーである兼任Silvia Antoniaに変更 (28)
	ビルマ語応用 (会話含む)	1 2 3 4 後		1								第1期 教育効果を考慮しネイティブスピーカーである兼任Silvia Antoniaに変更 (28)
留学生の 日本語科目	日本語Ⅰ-A (作文)	1 2 3 4 前		1								第1期 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任張佳恵に変更 (28)
	日本語Ⅰ-B (文法・語彙)	1 2 3 4 前		1								第1期 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任崔誠姫に変更 (28)
	日本語Ⅱ-A (作文)	1 2 3 4 後		1								第1期 教育効果を考慮しネイティブスピーカーである兼任Silvia Antoniaに変更 (28)
	日本語Ⅱ-B (文法・語彙)	1 2 3 4 後		1								第1期 教育効果を考慮しネイティブスピーカーである兼任Silvia Antoniaに変更 (28)
	日本語Ⅱ-C (発表討論)	1 2 3 4 前		1								第1期 新規教員の就任に伴い、兼任福田朋幸、品川なつき、山元一穂、加藤林大朗および兼任江頭由美を追加 (29)
	日本語Ⅱ-D (専門日本語)	1 2 3 4 前		1								第1期 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任茅野正雄、小川美音に変更 (28)
	日本語Ⅲ-A (作文)	1 2 3 4 後		1								第1期 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任張佳恵に変更 (28)
	日本語Ⅲ-B (文法・語彙)	1 2 3 4 後		1								第1期 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任崔誠姫に変更 (28)
	日本語Ⅲ-C (発表・討論)	1 2 3 4 前		1								第1期 教育効果を考慮しネイティブスピーカーである兼任Silvia Antoniaに変更 (28)
	日本語Ⅲ-D (専門日本語)	1 2 3 4 前		1								第1期 教育効果を考慮しネイティブスピーカーである兼任Silvia Antoniaに変更 (28)
	医療福祉専門漢字	1 2 3 4 後		1								第1期 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任張佳恵に変更 (28)
	医療福祉専門語彙	1 2 3 4 後		1								第1期 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任崔誠姫に変更 (28)
保健 体育	健康科学理論	1 2 3 4 前		1		1						第1期 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、専任西田裕介に変更 (28)
	健康科学実践	1 2 3 4 前		1				1	2			教育効果を考慮し、兼任中村計大、櫻井陽子を追加 (29)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置						
			必修 修	選択 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門教育	公衆衛生学	1 2 3 4 後	2								兼1 新増教員の就任に伴い、兼担柳生弘宏に変更 (28) 就任辞退に伴い兼担小川俊夫に変更、教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	救急医学	2 3 4 前	1								兼1 教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	感染と免疫	1 2 3 4 後	2								兼4 退職に伴い、兼担長沢元章、梅宮敏文、工藤芳子、本村明佳子に追加変更 (28)
	リハビリテーション概論	1 前	2			1					兼2 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼担林玲磨に変更、教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	関連職種連携論	2 後	2			1					兼1 教育効果を考慮し、兼担吉田浩志を追加 (28) 兼4 教育効果を考慮し、兼担杉原素子に変更 (28)
	ケアマネジメント論	2 3 4 前	1								兼1 退職に伴い、兼担林和典に変更 (29) 就任辞退に伴い兼担井上善行に変更、教育効果を配慮し配当年次を変更 (28)
	ケースワーク論	1 2 3 4 後	1								兼1
	医療管理学	1 2 前 未開講 1 2 3 4 前	2								兼1 教育効果を考慮し兼担堀岡健一に変更、教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	保健医療福祉制度論	1 2 3 4 後	2								兼1 教育効果を考慮し兼担金野充博に変更、教育効果を配慮し配当年次を変更 (28)
	社会福祉学	1 2 3 4 前	2								兼1 退職に伴い、兼担小林雅彦に変更 (29) 就任辞退に伴い兼担井上善行に変更、教育効果を配慮し配当年次を変更 (28)
	臨床心理学概論	2 前	2								兼1 就任辞退に伴い兼担山川誠司に変更 (28)
	医療情報学概論	2 3 4 後	2								兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い兼担宮嶋宏行に変更 (28) 教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	福祉支援工学概論	1 2 3 4 前後	2								兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い兼担中村美緒に変更 (28)
	関連職種連携ワーク	3 前	1			1					兼4
	関連職種連携実習	4 前	1			1					兼4
	リスクマネジメント論	3 4 後	2								兼1
	電子カルテによるチーム医療概論	2 3 4 後	2								兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い兼担宮嶋宏行に変更 (29) 教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	エビデンスベースドプラクティス（研究と文献）	2 3 4 前	1			1					兼1 教育効果を考慮し兼担堀岡健一に変更 (29) 教育効果を考慮し開講期を変更 (28)
	レクリエーション概論	3 4 前	1			1					兼1 教育効果を考慮し開講期を変更 (28)
	災害保健学	1 2 3 4 前	1					1			兼3 教育効果を考慮し開講期を変更 (28)
	予防保健学	1 2 3 4 前	1					1			兼3 教育効果を考慮し開講期を変更 (28)
	国際医療保健学	1 2 3 4 前後	1					1			兼2 教育効果を考慮し開講期を変更 (28)
	異文化体験実習	1 2 3 4 後	1			1	1		1		兼6 教育効果を考慮し、各学科教員による担当制を施行 (29) 兼3
	解剖学Ⅰ（運動器系、内臓器系）	1 前	1			1					兼2 教育効果を考慮し、兼担松野義晴、吉岡広陽を追加 (29)
	解剖学Ⅱ（内臓器系、神経系）	1 後	1			1					兼2 教育効果を考慮し、兼担松野義晴、吉岡広陽を追加 (29)
	解剖学実習Ⅰ（肉眼）	1 前	1			1					
	解剖学実習Ⅱ（組検）	1 後	1			1					
	生理学Ⅰ（植物性機能）	1 前	1			1					
	生理学Ⅱ（動物性機能）	1 後	1			1					
	生理学実習	1 後	1			1					
	運動学Ⅰ（基礎）	1 前	1				1				兼1 人事異動に伴う担当教員の所属変更 (29)
	運動学Ⅱ（応用）	1 後	1						1		
	運動生理学	1 後	2			1					
	病理学	2 前	1								兼1
	臨床医学概論	2 前	1								兼1
	内科学Ⅰ（基礎）	2 前	1								兼1
	内科学Ⅱ（臨床）	2 後	1								兼1
	神経学Ⅰ（基礎）	2 前	1								兼1
	神経学Ⅱ（臨床）	2 後	1								兼1
	整形外科Ⅰ（基礎）	2 前	1			1					
	整形外科Ⅱ（臨床）	2 後	1			1					
	精神医学Ⅰ（総論・各論）	2 前	1								兼1
	精神医学Ⅱ（各論）	2 3 4 後	1								兼1 教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	運動学実習Ⅰ（基礎）	2 前	1			1	2	2	3		兼1 人事異動に伴う担当の変更および教育効果を考慮し、兼担中村美緒を追加 (29)
	運動学実習Ⅱ（応用）	2 後	1			1	4	4	2		兼1 教育効果を考慮し、学科内にて担当変更 (29)
	人間発達学	2 後	1			1					
	リハビリテーション医学	3 後	1			1					
	小児科学	2 後	1								兼1
	老年学	2 3 4 前	1								兼1 教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	神経心理学概論	2 3 4 後	2								兼1 教育効果を考慮し、兼担岸浩一郎に変更 (29)
	薬理学	2 3 4 前	1			1					兼1 教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	スポーツ傷害学	2 3 4 後	1					1			
	外科学	2 3 4 前	1								兼2
	栄養学	2 3 4 後	1								兼1 教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	国際医療保健学演習	2 3 4 後	1					1			兼3
	国際医療保健学実習	2 3 4 後	1					1			兼3

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					
			必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門教育	理学療法概論	1 前	2			1			1		教育効果を考慮し、専任竹内真太を追加 (29)
	運動解剖学	2 前	2					2 1			教育効果を考慮し、専任志村主太を追加 (29)
	病態運動学	3 前	2						1		
	物理療法Ⅰ(理論)	1 後	1				1	1			教育効果を考慮し、専任宮森隆行へ変更 (29)
	物理療法Ⅱ(実践)	2 前	1				1	1			教育効果を考慮し、専任宮森隆行へ変更 (29)
	PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン)	1 後	1				1 4	5	1 4		教育効果を考慮し、学科内にて担当変更 (29)
	PTスキルⅡ演習(検査・測定)	2 後	1				1 4	4 5	2 4		教育効果を考慮し、学科内にて担当変更 (29)
	PTスキルⅢ演習(障害理解)	3 前	1			1	2 4	5	4		
	PTスキルⅣ演習(専門知識の確認)	3 後	2			1	2 4	5	4		
	理学療法評価学	2 前	2			1					
	理学療法診断学Ⅰ(基礎)	2 前	1					2 1	4		教育効果を考慮し、専任志村主太、澤藤一、竹内真太、山口 将希、櫻井隆平を追加 (29)
	理学療法診断学Ⅱ(神経診断学)	2 前	1					1			
	理学療法診断学Ⅲ(疾患別評価)	2 後	1						1		
	理学療法診断学Ⅳ(電気診断学)	2 3 4 後	1					1			
	理学療法診断学Ⅴ(画像・臨床検査値)	3 4 前	2				1				教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	スポーツバイオメカニクス	2 3 4 前	1					1			
	動作分析学	2 3 4 前	1				1				兼1 人事異動に伴う担当教員の所属変更 (29) 教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	理学療法計測法	2 3 4 前	1					1			
	運動療法学総論	2 後	1				1				
	理学療法治療学総論	3 前	1					1			
	メディカルイングリッシュポカブラリー	2 3 4 後	1				1				兼1 人事異動に伴う担当教員の所属変更 (29)
	グローバルメディカルコミュニケーションⅠ(基礎)	3 4 前	1					1			教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	グローバルメディカルコミュニケーションⅡ(応用)	3 4 後	1					1			
	運動系理学療法Ⅰ(評価)	3 前	1				1		1		人事異動に伴う担当教員の変更 (29)
	運動系理学療法Ⅱ(治療)	3 後	1						1		
	神経系理学療法Ⅰ(評価)	3 前	1				1				
	神経系理学療法Ⅱ(治療)	3 後	1					1			
	高次脳機能障害学	3 4 前	1				1				教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	代謝系理学療法	3 前	1					1			
	循環系理学療法	3 前	1						1		
	呼吸系理学療法	3 前	1					1			
	ベッドサイド理学療法	3 4 前	1						1		教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	癌のリハビリテーション	3 4 後	1						1		
	装具学	3 前	1				1				
	職能学	3 後	1				1				
	生活技術学	3 前	1						1		
	生活環境学	3 後	1						1		
	地域理学療法演習(在宅・地域)	3 後	1						1		
	小児理学療法	3 前	1				1				
	理学療法治療学特論Ⅰ(神経系治療手技)	3 4 前	2					1			教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	理学療法治療学特論Ⅱ(運動器系治療手技)	3 4 後	2					1			
	先端トレーニング理論	3 4 前	1			1					教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	先端基礎理学療法	3 4 後	1						1		
	先端運動系理学療法	3 4 後	1				1		1		人事異動に伴う担当教員の変更 (29)
	先端神経系理学療法	3 4 後	1					1			
	先端内部障害系理学療法	3 4 後	1					1			
	先端スポーツリハビリテーション	3 4 後	1					1			
	スポーツ理学療法	3 4 前	1					1			教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	テーピング治療学	3 4 後	1					1			
	クリニカルリーズニングⅠ(基本的疾患)	3 4 後	2			1	1	1			人事異動に伴う担当教員の変更 (29)
	クリニカルリーズニングⅡ(応用的疾患)	3 4 後	2					1			
	予防理学療法	3 4 後	1				1				
	運動心理学	3 4 後	1					1			
	教育・管理系理学療法	3 4 前	1				1	1			教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	産科理学療法	3 4 後	1						1		
	精神科理学療法	3 4 後	1					1			
	ヘルスプロモーション論	3 4 後	1					1			
	障害者スポーツ概論	3 4 後	1					1			
	産業理学療法	3 4 後	1				1				
	災害リハビリテーション学	3 4 後	1					1			兼2
	理学療法特論Ⅰ(基礎)	4 後	2			1	2 4	5	4		
	理学療法特論Ⅱ(応用)	4 後	2			1	2 4	5	4		
	基礎実習	1 前	1			1	1 4	1 5	4		教育効果を考慮し、学科内にて担当変更 (29)
	検査実習	2 後	2			1	1 4	1 5	4		教育効果を考慮し、学科内にて担当変更 (29)
	評価実習	3 前	4			1	2 4	5	4		
	総合臨床実習	4 前	12			1	2 4	5	4		
	卒業研究Ⅰ(研究計画の立案)	3 4 後	2			1	2 4	5	4		
	卒業研究Ⅱ(研究の実践)	4 後	2			1	2 4	5	4		

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時より変更されているものは赤字で見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
- なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼○」と記入してください。
- ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成○年○月 提出予定」と記入してください。)
- ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設 置 時 の 計 画				変 更 状 況				備 考
必 修	選 択	自 由	計 (A)	必 修	選 択	自 由	計	
科目 68	科目 160	科目 0	科目 228	科目 68 [0]	科目 160 [0]	科目 0 [0]	科目 228 [0]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{228} = \boxed{} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	※大学全体			
	校 舎 敷 地	262,852㎡ 194,962㎡	0㎡	0㎡	262,852㎡ 194,962㎡	成田キャンパス（医学部）校地を無償借用のため増加(28) 小田原保健医療学部と小田原市とで土地の等価交換を行い、18㎡減少(H28)			
	運動場用地	88,807㎡ 83,147㎡	0㎡	0㎡	88,807㎡ 83,147㎡				
	小 計	351,659㎡ 283,796㎡	0㎡	0㎡	351,659㎡ 283,796㎡				
	そ の 他	372,772㎡ 372,790㎡	0㎡	0㎡	372,772㎡ 372,790㎡				
	合 計	724,431㎡ 656,550㎡	0㎡	0㎡	724,431㎡ 656,550㎡				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
		143,615㎡ (143,615㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	143,615㎡ (143,615㎡)				
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
		176室	60室	216室	18室 (補助職員 4人)	6室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数		教員研修室レイアウトの見直しによる (29)		
		成田保健医療学部 理学療法学科			8 43 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	成田保健医療学部共通 図書、視聴覚資料、機械・器具の増加分は新規購入による。学術雑誌の減少分は、H28報告時に誤って冊数をカウントしていたものを種数にて再カウントしたため (29)	
	成田保健医療 学部	11,000 [1,540] 9,268 [604] 6,501 [264] (4,400 [616])	64 [20] 77 [13] 156 [0] (52 [16])	3,336 [2,205] 5,267 [4,004] 4,115 [2,892] (3,176 [2,085])	196 317 136 (44)	6,500 3,746 2,478 (5200)	590 175 113 (334)		
	計	11,000 [1,540] 9,268 [604] 6,501 [264] (4,400 [616])	64 [20] 77 [13] 156 [0] (52 [16])	3,336 [2,205] 5,267 [4,004] 4,115 [2,892] (3,176 [2,085])	196 317 136 (44)	6,500 3,746 2,478 (5200)	590 175 113 (334)		
(6) 図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		7,087.11㎡		1,613席		299,400冊			
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		5,715.34㎡		弓道場		テニスコート			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	朱書修正金額は5学科合計(H28)
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	477 44,000千円	87,750 32,000千円	16,000千円	
		共 同 研 究 費 等	1,500千円	3,000千円	設備購入費	153,900 373,480千円	900,000 450,800千円	18,500千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,550千円	1,450千円	1,450千円	1,450千円	— 千円	— 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資金運用収入 等						

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。

・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。

・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学 の 名 称	国 際 医 療 福 祉 大 学							備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又は 称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地
年	人	年次 人	人	人	倍			
《AC対象学部等》								
医学部						1.00		
医学科	6	140	-	840	学士 (医学)	1.00	平成29年度	千葉県成田市 公津の杜4丁目3番
保健医療学部						1.11		
看護学科	4	115	-	415	学士 (看護学)	1.12	平成7年度	栃木県大田原市北金丸 2600番1
理学療法学科	4	100	-	340	学士 (理学療法 学)	1.12	平成7年度	同上
作業療法学科	4	80	-	320	学士 (作業療法 学)	1.12	平成7年度	同上
言語聴覚学科	4	80	-	320	学士 (言語聴覚 学)	1.09	平成7年度	同上
視機能療法学科	4	50	-	170	学士 (視機能療法 学)	1.11	平成14年度	同上
放射線・情報科学	4	120	-	420	学士 (放射線・情報 科学)	1.11	平成7年度	同上
医療福祉学部						1.01		
医療福祉・マネジメント学科	4	160	-	640	学士 (医療福祉 学) 学士 (医療マニ ジメント学)	1.01	平成9年度	同上
薬学部						1.08		
薬学科	6	180	-	1,080	学士 (薬学)	1.08	平成18年度	同上
小田原保健医療学部						1.13		
看護学科	4	80	-	320	学士 (看護学)	1.09	平成18年度	神奈川県小田原市城山一 丁目2番25号
理学療法学科	4	80	-	200	学士 (理学療法 学)	1.15	平成18年度	同上
作業療法学科	4	40	-	160	学士 (作業療法 学)	1.16	平成18年度	同上
福岡看護学部						1.15		
看護学科	4	100	-	360	学士 (看護学)	1.15	平成20年度	福岡市早良区 百道浜1-7-4
福岡保健医療学部						1.12		
理学療法学科	4	80	-	320	学士 (理学療法 学)	1.15	平成17年度	同上
作業療法学科	4	40	-	160	学士 (作業療法 学)	1.10	平成17年度	同上

言語聴覚学科	4	40	-	160	学士 (言語聴覚学)	1.13	平成19年度	同上	
医学検査学科	4	80	-	320	学士 (医学検査学)	1.09	平成25年度	同上	
成田看護学部						1.07			
看護学科	4	100	-	400	学士 (看護学)	1.07	平成28年度	千葉県成田市 公津の杜4丁目3番	
成田保健医療学部						1.06			
理学療法学科	4	80	-	320	学士 (理学療法学)	1.10	平成28年度	同上	
作業療法学科	4	40	-	160	学士 (作業療法学)	1.06	平成28年度	同上	
言語聴覚学科	4	40	-	160	学士 (言語聴覚学)	1.03	平成28年度	同上	
医学検査学科	4	80	-	320	学士 (医学検査学)	1.06	平成28年度	同上	
医療福祉学研究科 修士課程						1.39			
保健医療学専攻	2	100	-	200	修士 (保健医療学)	1.68	平成11年度	栃木県大田原市北金丸 2600番1	
					修士 (看護学)				
					修士 (助産学)				
					修士 (言語聴覚学)				
					修士 (生殖補助医療学)				
					修士 (医療福祉教育・管理学)				
医療福祉経営専攻	2	50	-	100	修士 (臨床検査学)	1.02	平成13年度	同上	
					修士 (医療福祉学)				
					修士 (診療情報管理学)				
					修士 (医療ビジネス経営学)				
					修士 (医療福祉管理学)				
					修士 (介護福祉・ケアマネジメント学)				
臨床心理学専攻	2	25	-	50	修士 (医療福祉ジャーナリズム学)	1.00	平成19年度	同上	
					修士 (臨床心理学)				
医療福祉学研究科 博士課程						1.38			

保健医療学専攻	3	50	-	150	博士 (保健医療学)	1.38	平成13年度	同上	
					博士 (看護学)				
					博士 (助産学)				
					博士 (言語聴覚学)				
					博士 (生殖補助医療学)				
					博士 (臨床検査学)				
					博士 (医療福祉経営学)				
					博士 (医療福祉学)				
					博士 (診療情報管理学)				
					博士 (介護福祉・ケアマネジメント学)				
					博士 (臨床心理学)				
					博士 (医療福祉ジャーナリズム学)				
薬科学研究科 修士課程						0.20			
生命薬科学専攻	2	5	-	10	修士 (薬科学)	0.20	平成22年度	同上	
薬学研究科 博士課程						0.45			
医療・生命薬学 専攻	4	5	-	20	博士 (薬学)	0.45	平成24年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<成田保健医療学部 理学療法学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	学科長 教授	ニシタ マコト 西田 裕介 (40)	平成28年4月	関連職種連携論					関連職種連携論	負荷軽減の観点から担当科目の前移 (29)
				関連職種連携ワーク						
				関連職種連携実習						
				レクリエーション概論	兼任	准教授	堀田 英樹 (50)	平成29年4月	レクリエーション概論	負荷軽減を考慮し、担当教員の変更 (29)
					専	助教	竹内 真太 (31)	平成29年4月		
				運動生理学						
				理学療法概論	専	助教	竹内 真太 (31)	平成29年4月	理学療法概論	負荷軽減を考慮し、担当教員の変更 (29)
				理学療法評価学						
				先端トレーニング理論						
				海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	兼任	教授	城間 将江 (54)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
				基礎実習					基礎実習	負荷軽減を考慮し、担当科目の前移 (29)
				検査実習					検査実習	
				評価実習						
				総合臨床実習						
				卒業研究Ⅰ（研究計画の立案）						
				卒業研究Ⅱ（研究の実践）						
				運動学実習Ⅰ（基礎）	兼任	講師	中村 義雄 (38)	平成29年4月	運動学実習Ⅰ（基礎）	専門性を考慮し担当教員に変更（29）
				運動学実習Ⅱ（応用）						
				PTスキルⅠ演習（キャリアデザイン）					PTスキルⅠ演習（キャリアデザイン）	負荷軽減を考慮し、担当科目の前移 (29)
				PTスキルⅡ演習（検査・測定）						
				PTスキルⅢ演習（障害理解）						
				PTスキルⅣ演習（専門知識の確認）						
				理学療法特論Ⅰ（基礎）						
				理学療法特論Ⅱ（応用）						
専	教授	コベリ ヒロキ 小堀 浩幸 (51)	平成28年4月	生理学Ⅰ（植物性機能）				平成29年4月	クリニカルリブリングⅠ（基本的疾患）	人事異動に伴う担当科目の追加（29）
				生理学Ⅱ（動物性機能）	兼任	講師	林 真理子 (47)	平成28年4月	生理学Ⅱ（動物性機能）	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
				生理学実習					生理学実習	
専	教授	ハヤマ マコト 山本 祐佐 (41)	平成28年4月	薬理学	兼任	教授	岸 浩一郎 (54)	平成29年4月	薬理学	人事異動に伴う担当教員の変更 (29)
				リハビリテーション概論	兼任	准教授	吉田 浩彦 (64)	平成29年4月	リハビリテーション概論	負荷軽減を考慮し、担当教員の変更 (29)
				整形外科Ⅰ（基礎）	兼任	教授	杉原 素子 (74)	平成28年4月		教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
専	教授		平成28年4月	整形外科Ⅱ（臨床）						

設置時の計画					変更状況					備 考				
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名					
専	教授	ミヤ カヤ 三宅 克也 (52)	平成28年4月	解剖学Ⅰ（運動器系、内臓器系）	兼任	教授	松野 義晴 (51)	平成28年4月	解剖学Ⅰ（運動器系、内臓器系）	教育内容を考慮し、担当教員の追加 (29) 負荷軽減を考慮し、担当教員の変更 (28)				
					専任	教授	三宅 克也 (53)	平成29年4月						
					兼任	講師	吉岡 広陽 (42)	平成29年4月						
					兼任	教授	松野 義晴 (51)	平成28年4月	解剖学Ⅱ（内臓器系、神経系）					
					専任	教授	三宅 克也 (53)	平成29年4月						
					兼任	講師	吉岡 広陽 (42)	平成29年4月						
					専任	教授	三宅 克也 (53)	平成29年4月	解剖学実習Ⅰ（内眼）					
					兼任	教授	松野 義晴 (51)	平成28年4月						
					専任	教授	三宅 克也 (53)	平成29年4月	解剖学実習Ⅱ（組織）					
					兼任	教授	松野 義晴 (51)	平成28年4月						
				兼任	講師	イカサ マサミ 永敷 昌史 (38)	平成28年4月	予防保健学						
				専	准教授	イカサ マサミ 永敷 昌史 (38)	平成29年4月	予防保健学	兼任		助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	予防保健学
人間発達学														
理学療法治療学総論														
高次脳機能障害学														
小児理学療法学														
予防理学療法学														
ヘルスプロモーション論														
基礎実習									基礎実習	負荷軽減を考慮し、担当科目の前時 (29)				
検査実習									検査実習					
評価実習														
総合臨床実習														
卒業研究Ⅰ（研究計画の立案）														
卒業研究Ⅱ（研究の実践）														
運動学実習Ⅰ（基礎）	兼任	講師	中村 美緒 (38)					平成29年4月	運動学実習Ⅰ（基礎）	専門性を考慮し、担当教員の追加 (29)				
運動学実習Ⅱ（応用）									運動学実習Ⅱ（応用）	負荷軽減を考慮し、担当科目の前時 (29)				
PTスキルⅠ演習（キャリアデザイン）									PTスキルⅠ演習（キャリアデザイン）					
PTスキルⅡ演習（検査・測定）									PTスキルⅡ演習（検査・測定）					
PTスキルⅢ演習（障害理解）														
PTスキルⅣ演習（専門知識の確認）														
理学療法特論Ⅰ（基礎）														
理学療法特論Ⅱ（応用）														

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職 名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	カワイ リエ 河西 理恵 (49)	平成28年4月	運動学Ⅰ（基礎）	兼任	准教授	カワイ リエ 河西 理恵 (49)	平成29年4月	運動学Ⅰ（基礎）	グループ内での人事異動に伴う所属の変更。担当科目はいずれも専任教員に て分担して担当するため教育上問題なし。(29)
				動作分析学					動作分析学	
				メディカルイングリッシュボキャブラリー					メディカルイングリッシュボキャブラリー	
				運動系理学療法Ⅰ（評価）	専	助教	櫻井 陽子 (39)	平成29年4月	運動系理学療法Ⅰ（評価）	
				先端運動系理学療法	専	助教	山口 将希 (30)	平成29年4月	先端運動系理学療法	
				クリニカルリーズニングⅠ（基本的疾患）	専	教授	西田 祐介 (41)	平成29年4月	クリニカルリーズニングⅠ（基本的疾患）	
				基礎実習					基礎実習	
				検査実習					検査実習	
				評価実習					評価実習	
				総合臨床実習					総合臨床実習	
				卒業研究Ⅰ（研究計画の立案）					卒業研究Ⅰ（研究計画の立案）	
				卒業研究Ⅱ（研究の実践）					卒業研究Ⅱ（研究の実践）	
				運動学実習Ⅰ（基礎）					運動学実習Ⅰ（基礎）	
				運動学実習Ⅱ（応用）					運動学実習Ⅱ（応用）	
				PTスキルⅠ演習（キャリアデザイン）					PTスキルⅠ演習（キャリアデザイン）	
				PTスキルⅡ演習（検査・測定）					PTスキルⅡ演習（検査・測定）	
				PTスキルⅢ演習（障害理解）					PTスキルⅢ演習（障害理解）	
				PTスキルⅣ演習（専門知識の確認）					PTスキルⅣ演習（専門知識の確認）	
				理学療法特論Ⅰ（基礎）					理学療法特論Ⅰ（基礎）	
				理学療法特論Ⅱ（応用）					理学療法特論Ⅱ（応用）	
兼任	准教授	オモト コカリ 堀本 ゆかり (52)	平成28年4月	物理療法Ⅰ（理論）						
専	准教授	オモト コカリ 堀本 ゆかり (53)	平成29年4月	物理療法Ⅰ（理論）	専任	講師	宮森 隆行 (42)	平成29年4月	物理療法Ⅰ（理論）	グループ内での人事異動に伴う所属の変更。担当科目はいずれも専任教員に て分担して担当するため教育上問題なし。(29)
				物理療法Ⅱ（実践）					物理療法Ⅱ（実践）	
				神経系理学療法Ⅰ（評価）	専	講師	志村 圭太 (34)	平成29年4月	神経系理学療法Ⅰ（評価）	
				教育・管理系理学療法	専	講師	町田 和 (38)	平成29年4月	教育・管理系理学療法	
				基礎実習					基礎実習	
				検査実習					検査実習	
				評価実習					評価実習	
				総合臨床実習					総合臨床実習	
				卒業研究Ⅰ（研究計画の立案）					卒業研究Ⅰ（研究計画の立案）	
				卒業研究Ⅱ（研究の実践）					卒業研究Ⅱ（研究の実践）	
				運動学実習Ⅰ（基礎）					運動学実習Ⅰ（基礎）	
				運動学実習Ⅱ（応用）					運動学実習Ⅱ（応用）	
				PTスキルⅠ演習（キャリアデザイン）					PTスキルⅠ演習（キャリアデザイン）	
				PTスキルⅡ演習（検査・測定）					PTスキルⅡ演習（検査・測定）	
				PTスキルⅢ演習（障害理解）					PTスキルⅢ演習（障害理解）	
				PTスキルⅣ演習（専門知識の確認）					PTスキルⅣ演習（専門知識の確認）	
				理学療法特論Ⅰ（基礎）					理学療法特論Ⅰ（基礎）	
				理学療法特論Ⅱ（応用）					理学療法特論Ⅱ（応用）	

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職 名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	モイ カズエ 森井 和枝 (59)	平成29年4月	理学療法診断学Ⅴ(画像・臨床検査値)						
				運動療法学総論						
				接骨学						
				鍼灸学						
				産業理学療法学						
				基礎実習					基礎実習	専任軽減の観点から担当科目の削除 (29)
				検査実習					検査実習	
				評価実習						
				総合臨床実習						
				卒業研究Ⅰ(研究計画の立案)						
				卒業研究Ⅱ(研究の実践)						
				運動学実習Ⅰ(基礎)	兼任	講師	中村 美緒 (38)	平成29年4月	運動学実習Ⅰ(基礎)	専門性を考慮し、担当教員の追加 (29)
				運動学実習Ⅱ(応用)					運動学実習Ⅱ(応用)	専任軽減の観点から担当科目の削除 (29)
				PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン)					PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン)	
				PTスキルⅡ演習(検査・測定)					PTスキルⅡ演習(検査・測定)	
				PTスキルⅢ演習(障害理解)						
				PTスキルⅣ演習(専門知識の確認)						
				理学療法特論Ⅰ(基礎)						
				理学療法特論Ⅱ(応用)						

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職 名	アカデ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	講師	マカチ 河野 健一 (33)	平成28年4月	理学療法診断学Ⅰ(基礎)	専	講師	志村 圭太 (34)	平成29年4月	理学療法診断学Ⅰ(基礎)	教育効果を考慮し、担当教員の追加 (29)
					専	助教	澤 龍一 (29)			
					専	助教	竹内 真太 (31)			
					専	助教	山口 良孝 (47)			
					専	助教	櫻井 隆子 (39)			
				理学療法計測法						
				代謝系理学療法						
				呼吸理学療法						
				先端内部障害系理学療法						
				基礎実習						
				検査実習					検査実習	負担軽減の観点から担当科目の削除 (29)
				評価実習						
				総合臨床実習						
				卒業研究Ⅰ(研究計画の立案)						
				卒業研究Ⅱ(研究の実践)						
				運動学実習Ⅰ(基礎)	兼任	講師	中村 美緒 (38)	平成29年4月	運動学実習Ⅰ(基礎)	専門性を考慮し担当教員に変更 (29)
				運動学実習Ⅱ(応用)						
				PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン)					PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン)	負担軽減を考慮した担当科目の変更 (29)
				PTスキルⅡ演習(検査・測定)						
				PTスキルⅢ演習(障害理解)						
				PTスキルⅣ演習(専門知識の確認)						
				理学療法特論Ⅰ(基礎)						
				理学療法特論Ⅱ(応用)						

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼担 兼任 の別	職 名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼担 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	講師	シムラ ケイ 志村 圭太 (33)	平成29年4月	国際医療保健学	兼担	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	国際医療保健学	教育効果を考慮し、担当教員の追加 (29)
				国際医療保健学実習						
				理学療法治療学特論Ⅰ(神経系治療手技)						
				スポーツ理学療法学						
				クリニカルリーズニングⅡ(応用的疾患)						
				障害者スポーツ概論						
				基礎実習					基礎実習	教育軽減の観点から担当科目の削除 (29)
				検査実習						
				評価実習						
				総合臨床実習						
				卒業研究Ⅰ(研究計画の立案)						
				卒業研究Ⅱ(研究の実践)						
				運動学実習Ⅰ(基礎)	兼担	講師	中村 美緒 (38)	平成29年4月	運動学実習Ⅰ(基礎)	専門性を考慮し、担当教員の変更(29)
				運動学実習Ⅱ(応用)						
				PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン)					PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン)	教育軽減の観点から担当科目の削除 (29)
				PTスキルⅡ演習(検査・測定)						
				PTスキルⅢ演習(障害理解)						
				PTスキルⅣ演習(専門知識の確認)						
				理学療法特論Ⅰ(基礎)						
				理学療法特論Ⅱ(応用)						
								平成29年4月	運動解剖学	教育効果を考慮し、担当科目の追加 (29)
								平成29年4月	理学療法診断学Ⅰ(基礎)	

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職 名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	講師	マサハロ ユキコ 牧原 由紀子 (39)	平成28年4月	理学療法診断学Ⅳ(電気診断学)						
				グローバルメディカルコミュニケーションⅡ (応用)						
				神経系理学療法Ⅱ(治療)						
				先端神経系理学療法						
				運動心理学						
				基礎実習					基礎実習	肩関節の観点から担当科目の削除 (29)
				検査実習					検査実習	
				評価実習						
				総合臨床実習						
				卒業研究Ⅰ(研究計画の立案)						
				卒業研究Ⅱ(研究の実践)						
				運動学実習Ⅰ(基礎)	兼任	講師	中村 美緒 (38)	平成29年4月	運動学実習Ⅰ(基礎)	専門性を考慮し、担当教員の追加 (29)
				運動学実習Ⅱ(応用)						
				PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン)					PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン)	肩関節の観点から担当科目の削除 (29)
				PTスキルⅡ演習(検査・測定)						
				PTスキルⅢ演習(障害理解)						
				PTスキルⅣ演習(専門知識の確認)						
				理学療法特論Ⅰ(基礎)						
				理学療法特論Ⅱ(応用)						

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	ミウラ ハナ 三浦 和 (37)	平成28年4月	災害保健学						
専	講師	ミウラ ハナ 三浦 和 (37)	平成29年4月	災害保健学						
				国際医療保健学演習						
				運動解剖学	専	講師	志村 圭太 (34)	平成29年4月	運動解剖学	教育効果を考慮し、担当教員の追加 (29)
				理学療法診断学Ⅱ(神経診断学)						
				精神科学療法学						
				災害リハビリテーション学						
				基礎実習					基礎実習	負荷軽減の観点から担当科目の前移 (29)
				検査実習					検査実習	
				評価実習						
				総合臨床実習						
				卒業研究Ⅰ(研究計画の立案)						
				卒業研究Ⅱ(研究の実践)						
				運動学実習Ⅰ(基礎)	兼任	講師	中村 美緒 (38)	平成29年4月	運動学実習Ⅰ(基礎)	専門性を考慮し、担当教員の変更 (29)
				運動学実習Ⅱ(応用)						
				PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン)					PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン)	負荷軽減の観点から担当科目の前移 (29)
				PTスキルⅡ演習(検査・測定)					PTスキルⅡ演習(検査・測定)	
				PTスキルⅢ演習(障害理解)						
				PTスキルⅣ演習(専門知識の確認)						
				理学療法特論Ⅰ(基礎)						
				理学療法特論Ⅱ(応用)						

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	アガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	講師	ミヤエリ 加々子 宮森 隆行 (41)	平成28年4月	スポーツバイオメカニクス						
				グローバルメディカルコミュニケーションⅠ (基礎)						
				理学療法治療学特論Ⅱ(運動器系治療手技)						
				先端スポーツリハビリテーション						
				テーピング治療学						
				スポーツ傷害学						
				健康科学実践	専任	助教	中村 壮太 (33)	平成29年4月	健康科学実践	教育効果を考慮し、担当の追加(29)
					専任	助教	櫻井 陽子 (39)			
				基礎実習					基礎実習	負荷軽減の観点から担当科目の削減 (29)
				検査実習					検査実習	
				評価実習						
				総合臨床実習						
				卒業研究Ⅰ(研究計画の立案)						
				卒業研究Ⅱ(研究の実践)						
				運動学実習Ⅰ(基礎)	兼任	講師	中村 美緒 (38)	平成29年4月	運動学実習Ⅰ(基礎)	教育効果を考慮し、担当の追加(29)
				運動学実習Ⅱ(応用)					運動学実習Ⅱ(応用)	負荷軽減の観点から担当科目の削減 (29)
				PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン)					PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン)	
				PTスキルⅡ演習(検査・測定)						
				PTスキルⅢ演習(障害理解)						
				PTスキルⅣ演習(専門知識の確認)						
				理学療法特論Ⅰ(基礎)						
				理学療法特論Ⅱ(応用)						
								平成29年4月	物理療法Ⅰ(理論)	人事異動に伴う担当科目の追加(29)
									物理療法Ⅱ(実践)	

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	アガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	助教	サライ 303 櫻井 陽子 (38)	平成29年4月	運動系理学療法Ⅱ(治療)						
				生活技術学						
				基礎実習					基礎実習	負荷軽減の観点から担当科目の削除 (29)
				検査実習					検査実習	
				評価実習						
				総合臨床実習						
				卒業研究Ⅰ(研究計画の立案)						
				卒業研究Ⅱ(研究の実践)						
				運動学実習Ⅰ(基礎)	兼任	講師	中村 美穂 (38)	平成29年4月	運動学実習Ⅰ(基礎)	教育効果を考慮し、担当教員の追加 (29)
				運動学実習Ⅱ(応用)					運動学実習Ⅱ(応用)	負荷軽減の観点から担当科目の削除 (29)
				PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン)					PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン)	
				PTスキルⅡ演習(検査・測定)					PTスキルⅡ演習(検査・測定)	
				PTスキルⅢ演習(障害理解)						
				PTスキルⅣ演習(専門知識の確認)						
				理学療法特論Ⅰ(基礎)						
				理学療法特論Ⅱ(応用)						
								平成20年4月	理学療法診断学Ⅰ(基礎)	教育効果を考慮し、担当科目の追加 (29)
								平成29年4月	健康科学実践	
								平成29年4月	運動系理学療法Ⅰ(評価)	人事異動に伴う担当科目の追加 (29)

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	助教	カトリック 澤 龍一 (28)	平成28年4月	異文化体験実習	兼任	教授	小川 正子 (65)	平成29年4月	異文化体験実習	教育効果を考慮し、担当科目の追加 (29)
					兼任	准教授	森山 ますみ (54)			
					兼任	講師	園 純一郎 (48)			
					兼任	助教	二田水 彩 (34)			
					兼任	助教	河野 弥季 (34)			
					兼任	助教	大石 梨子 (34)			
				生活環境学						
				地域理学療法学演習(在宅・地域)						
				産科理学療法学						
				基礎実習					基礎実習	教育効果を考慮し、担当科目の削除 (29)
				検査実習					検査実習	
				評価実習						
				総合臨床実習						
				卒業研究Ⅰ(研究計画の立案)						
				卒業研究Ⅱ(研究の実践)						
				運動学実習Ⅰ(基礎)	兼任	講師	中村 美緒 (38)	平成29年4月	運動学実習Ⅰ(基礎)	教育効果を考慮し、担当の追加(29)
				運動学実習Ⅱ(応用)						
				PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン)					PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン)	教育効果を考慮し、担当科目の削除 (29)
				PTスキルⅡ演習(検査・測定)						
				PTスキルⅢ演習(障害理解)						
				PTスキルⅣ演習(専門知識の確認)						
				理学療法特論Ⅰ(基礎)						
				理学療法特論Ⅱ(応用)						
								平成29年4月	理学療法診断学Ⅰ(基礎)	教育効果を考慮し、担当科目の追加 (29)

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職 名	アカデ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	助教	タナシタ 竹内 真太 (30)	平成28年4月	理学療法診断学Ⅲ(疾患別評価)						
				循環理学療法学						
				ベッドサイド理学療法						
				癌のリハビリテーション						
				基礎実習					基礎実習	真高純蔵の観点から担当科目の削除 (29)
				検査実習					検査実習	
				評価実習						
				総合臨床実習						
				卒業研究Ⅰ(研究計画の立案)						
				卒業研究Ⅱ(研究の実践)						
				運動学実習Ⅰ(基礎)	兼任	講師	中村 美緒 (38)	平成29年4月	運動学実習Ⅰ(基礎)	専門性を考慮し、担当教員の変更 (29)
				運動学実習Ⅱ(応用)						
				PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン)						
				PTスキルⅡ演習(検査・測定)						
				PTスキルⅢ演習(障害理解)						
				PTスキルⅣ演習(専門知識の確認)						
				理学療法特論Ⅰ(基礎)						
				理学療法特論Ⅱ(応用)						
								平成29年4月	理学療法概論	教育効果を考慮し、担当教員の追加 (29)
								平成29年4月	理学療法診断学Ⅰ(基礎)	
								平成29年4月	レクリエーション概論	

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職 名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	助教	ヤマグチ ショウキ 山口 将希 (29)	平成28年4月	運動学Ⅱ（応用）						
				病態運動学						
				先端基礎理学療法学						
				基礎実習					基礎実習	教育効果の観点から担当科目の削除 (29)
				検査実習					検査実習	
				評価実習						
				総合臨床実習						
				卒業研究Ⅰ（研究計画の立案）						
				卒業研究Ⅱ（研究の実践）						
				運動学実習Ⅰ（基礎）	兼任	講師	中村 美緒 (38)	平成29年4月	運動学実習Ⅰ（基礎）	教育効果を考慮し、担当の追加(29)
				運動学実習Ⅱ（応用）					運動学実習Ⅱ（応用）	教育効果の観点から担当科目の削除 (29)
				PTスキルⅠ演習（キャリアデザイン）					PTスキルⅠ演習（キャリアデザイン）	
				PTスキルⅡ演習（検査・測定）					PTスキルⅡ演習（検査・測定）	
				PTスキルⅢ演習（障害理解）						
				PTスキルⅣ演習（専門知識の確認）						
				理学療法特論Ⅰ（基礎）						教育効果を考慮し、担当科目の追加 (29)
				理学療法特論Ⅱ（応用）						
								平成29年4月	理学療法特論Ⅰ（基礎）	
								平成29年4月	先端運動系理学療法学	人事異動に伴う担当教員の変更（29）
兼任	教授	ウチノ シノブ 内田 信也 (47)	平成29年4月	国際医療保健学実習						
兼任	教授	オホノ スズ 大澤 進 (68)	平成28年4月	関連職種連携論					関連職種連携論	教育効果の観点から担当科目の削除 (29)
				関連職種連携ワーク						
				関連職種連携実習						
				海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	兼任	教授	城間 行江 (64)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
兼任	教授	カクチ ケン 亀口 憲治 (68)	平成28年4月	コミュニケーション概論	兼任	助教	山川 誠司 (51)	平成28年4月	コミュニケーション概論	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
				雑談と傾聴-話す力と聴く力-	兼任	准教授	小野寺 敦志 (53)	平成29年4月	雑談と傾聴-話す力と聴く力-	教育内容を考慮し、担当教員の追加 (29)
					兼任	准教授	小島 秀吾 (40)	平成29年4月		
					兼任	准教授	波田野 凉幸 (50)	平成29年4月		
					兼任	准教授	日井 明美 (50)	平成29年4月		
					兼任	講師	矢口 大雄 (31)	平成29年4月		
					兼任	助教	山川 誠司 (52)	平成29年4月		
					兼任	助教	山川 誠司 (51)	平成28年4月	臨床心理学概論	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
				臨床医学概論	兼任	教授	北村 聖 (62)	平成29年4月	臨床医学概論	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
				内科学Ⅰ（基礎）						
兼任	教授	カキ 智子 川合 陽子 (68)	平成29年4月	内科学Ⅱ（臨床）	兼任	教授	北村 聖 (62)	平成29年4月	内科学Ⅱ（臨床）	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職 名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	カノ トオ 河野 寿夫 (69)	平成29年4月	小児科学	兼任	教授	門脇 弘子 (69)	平成29年4月	小児科学	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
兼任	教授	カワ テロウ 菊池 哲郎 (68)	平成28年4月	経済の仕組み	兼任	教授	堀岡 健一 (67)	平成28年4月	経済の仕組み	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
				経済の歴史	兼任	客員教 授	満田 敏彰 (62)	平成29年4月	経済の歴史	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
				世界の経済					世界の経済	
				世界遺産と国際文化政策	兼任	教授	佐藤 謙一 (74)	平成28年4月	世界遺産と国際文化政策	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
兼任	教授	カミ ヨシロ 北村 義浩 (56)	平成28年4月	国際医療福祉論						
				公衆衛生学	兼任	准教授	柳生 文彦 (46)	平成29年4月	公衆衛生学	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
					兼任	准教授	中川 俊夫 (63)	平成28年4月		教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
				感染と免疫	兼任	教授	長沢 光章 (59)	平成29年4月	感染と免疫	退職に伴い、教員の追加変更(29)
					兼任	准教授	梅宮 敬文 (62)			
					兼任	准教授	工藤 芳子 (54)			
					兼任	講師	木村 明彦子 (41)			
					兼任	教授	林 玲磨 (64)	平成28年4月		教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
兼任	教授	カノ マコト 河野 真 (49)	平成28年4月	国際医療保健学	兼任	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	国際医療保健学	教育効果を考慮し、担当教員の追加 (29)
				異文化体験実習	兼任	准教授	森山 ますみ (54)	平成29年4月	異文化体験実習	教育効果を考慮し、担当の追加変更 (29)
					兼任	教授	小川 正子 (65)			
					兼任	講師	國 純一郎 (48)			
					兼任	助教	二田水 彩 (34)			
					兼任	助教	河野 弥季 (34)			
					兼任	助教	大石 慧子 (34)			
				国際医療保健学演習						
				国際医療保健学実習						
				災害リハビリテーション学						
				海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	兼任	教授	城岡 行江 (54)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
兼任	教授	シマツ ナナ 島田 直樹 (52)	平成28年4月	数学	兼任	教授	稲垣 誠一 (60)	平成28年4月	数学	成田キャンパス所属の担当教員兼任に 伴う教員の変更（28）
兼任	教授	シロ マサヒ 城間将江 (63)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）						
				関連職種連携論						
				関連職種連携ワーク						
				関連職種連携実習						
				国際医療保健学演習						

設置時の計画					変更状況					備 考				
専任 兼任 兼任 の別	職 名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名					
兼任	教授	スギハラ モコ 杉原 素子 (73)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	兼任	教授	城間 将江 (64)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)				
				大学入門講座Ⅰ（基礎）	兼任	教授	松田 有希雄 (67)	平成29年4月	大学入門講座Ⅰ（基礎）	自高軽減の観点から、担当教員の追加 (29)				
					兼任	教授	川上 和久 (59)							
					兼任	教授	山下 香枝子 (72)							
					兼任	教授	西田 裕介 (41)							
					兼任	教授	木戸 久美子 (49)							
					兼任	教授	博井 正義 (69)							
					兼任	准教授	吉田 浩彦 (64)							
					兼任	助教	山川 誠司 (52)							
				大学入門講座Ⅱ（展開）	兼任	教授	川上 和久 (59)	平成29年4月	大学入門講座Ⅱ（展開）					
					兼任	教授	山下 香枝子 (72)							
					兼任	教授	西田 裕介 (41)							
					専任	教授	河野 真 (50)							
					兼任	教授	大澤 進 (69)							
					兼任	教授	城間 将江 (64)							
												関連職種連携論	自高軽減の観点から担当科目の削減 (29)	
				兼任	教授	スノウ エイ 須藤 英一 (55)	平成28年4月	老年学	兼任	教授	浦野 友彦 (49)	平成29年4月	老年学	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
兼任	教授	タケノ イタル 武原 格 (48)	平成28年4月	リハビリテーション医学	専	教授	栗松 祐佐 (41)	平成28年4月	リハビリテーション医学	成田キャンパス所属の担当教員着任に 伴う教員の変更 (28)				
兼任	教授	カサミ マチ 長沢 光章 (58)	平成28年4月	災害保健学					災害保健学	自高軽減の観点から担当科目の削減 (29)				
兼任	教授	ハヤシ タツ 林 玲磨 (51)	平成28年4月	生物学	兼任	講師	湯澤 聡 (46)	平成29年4月	生物学	退職に伴い、教員の変更(29)				
				国際医療通訳入門	兼任	准教授	坪井 貴之 (44)	平成29年4月	国際医療通訳入門					
				異文化体験実習	兼任	准教授	森山 ますみ (54)	平成29年4月	異文化体験実習					
					兼任	教授	小川 正子 (66)	平成29年4月						
					兼任	講師	園 純一郎 (48)	平成29年4月						
					兼任	助教	二田水 彩 (34)	平成29年4月						
					兼任	助教	河野 弥季 (34)	平成29年4月						
					兼任	助教	大石 慧子 (34)	平成29年4月						
兼任	教授	ハシガキ 浩二 原田 浩美 (52)	平成28年4月	災害保健学						教育効果を考慮し、担当の追加変更 (29)				
				予防保健学	兼任	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	予防保健学					
				国際医療保健学	兼任	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	国際医療保健学					
				異文化体験実習	兼任	准教授	森山 ますみ (54)	平成29年4月	異文化体験実習					
					兼任	教授	小川 正子 (66)	平成29年4月						
					兼任	講師	園 純一郎 (48)	平成29年4月						
					兼任	助教	二田水 彩 (34)	平成29年4月						
					兼任	助教	河野 弥季 (34)	平成29年4月						
					兼任	助教	大石 慧子 (34)	平成29年4月						

設置時の計画					変更状況					備 考	
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名		
兼任	教授	ミヤノ テロウ 宮田 哲郎 (62)	平成29年4月	救急医学	兼任	准教授	志賀 隆 (40)	平成29年4月	救急医学	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)	
				外科学	兼任	教授	神森 真 (54)	平成29年4月	外科学	教育効果を考慮し、担当の追加変更 (29)	
					兼任	教授	藤井 正一 (53)	平成29年4月			
兼任	教授	サトウ イチロウ 森 一郎 (65)	平成29年4月	病理学	兼任	教授	瀬見 隆之 (44)	平成29年4月	病理学	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)	
兼任	准教授	イシヤマ ヒロコ 石山 寿子 (54)	平成29年4月	国際医療保健学実習							
兼任	准教授	オホヤマ シズエ 小山田 静枝 (49)	平成28年4月	精神医学Ⅰ（総論・各論）	兼任	教授	鹿島 晴雄 (72)	平成29年4月	精神医学Ⅰ（総論・各論）	教育内容からより適切な教員に変更 (28)	
				精神医学Ⅱ（各論）	兼任	教授	古城 豊子 (56)	平成28年4月	精神医学Ⅱ（各論）		
					兼任	教授	鹿島 晴雄 (72)	平成29年4月			
					兼任	教授	古城 豊子 (56)	平成28年4月			
				神経心理学概論	兼任	教授	鹿島 晴雄 (72)	平成29年4月	神経心理学概論	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)	
				人間学	兼任	教授	鹿島 晴雄 (71)	平成28年4月	人間学	教育内容からより適切な教員に変更 (28)	
兼任	准教授	ウエダ ヨシコ 工藤 芳子 (53)	平成28年4月	予防保健学	兼任	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	予防保健学	教育効果を考慮し、担当の追加変更 (29)	
				国際医療保健学				平成29年4月	国際医療保健学		
兼任	講師	イノ シュンイチロウ 園 純一郎 (47)	平成28年4月	予防保健学	兼任	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	予防保健学	教育効果を考慮し、担当の追加変更 (29)	
兼任	講師	スズキ シュンコ 鈴木 純子 (47)	平成29年4月	神経学Ⅰ（基礎）	兼任	教授	佐藤 順 (61)	平成29年4月	神経学Ⅰ（基礎）	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)	
				神経学Ⅱ（臨床）					神経学Ⅱ（臨床）		
兼任	助教	アベカミ 相川 倫 (36)	平成29年4月	国際医療保健学実習							
兼任	助教	イシイ ケン 石井 清志 (35)	平成28年4月	災害保健学							

5教員組織の状況

<共通>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	アガノシロ 縣俊彦 (63)	平成28年4月	統計学 疫学・保健医療統計学	兼任	教授	稲垣 誠一 (60)	平成28年4月	統計学 疫学・保健医療統計学	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
兼任	教授	アマノヒロ 天野隆弘 (72)	平成28年4月	エビデンスベースドプラクティス(研究と文献) 医学/医療史	兼任	教授	稲垣 誠一 (61)	平成29年4月	エビデンスベースドプラクティス(研究と文献)	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
兼任	教授	カガキチ 小川正子 (64)	平成28年4月	スペイン語入門(会話含む) スペイン語応用(会話含む)	兼任	教授	黒澤 和生 (58)	平成28年4月	医学/医療史	就任辞退に伴う教員の変更 (28)
兼任	教授	カガキチ 小川正子 (64)	平成28年4月	スペイン語入門(会話含む) スペイン語応用(会話含む)	兼任	講師	Silvia Antonia (53)	平成28年4月	スペイン語入門(会話含む) スペイン語応用(会話含む)	専門性を考慮し、ネイティブスピーカーの非常勤教員に変更 (28)
兼任	教授	カガキチ 小川正子 (64)	平成28年4月	コミュニケーション概論 雑談と傾聴-話す力と聴く力- 臨床心理学概論	兼任	助教	山川 誠司 (51)	平成28年4月	コミュニケーション概論	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
兼任	教授	カガキチ 小川正子 (64)	平成28年4月	コミュニケーション概論 雑談と傾聴-話す力と聴く力- 臨床心理学概論	兼任	准教授	小野寺 智志 (53)	平成29年4月	雑談と傾聴-話す力と聴く力	負担軽減の観点から担当追加 (29)
兼任	教授	カガキチ 小川正子 (64)	平成28年4月	コミュニケーション概論 雑談と傾聴-話す力と聴く力- 臨床心理学概論	兼任	准教授	小島 秀吉 (46)	平成29年4月	雑談と傾聴-話す力と聴く力	負担軽減の観点から担当追加 (29)
兼任	教授	カガキチ 小川正子 (64)	平成28年4月	コミュニケーション概論 雑談と傾聴-話す力と聴く力- 臨床心理学概論	兼任	准教授	波田野 茂幸 (50)	平成29年4月	雑談と傾聴-話す力と聴く力	負担軽減の観点から担当追加 (29)
兼任	教授	カガキチ 小川正子 (64)	平成28年4月	コミュニケーション概論 雑談と傾聴-話す力と聴く力- 臨床心理学概論	兼任	准教授	白井 明美 (50)	平成29年4月	雑談と傾聴-話す力と聴く力	負担軽減の観点から担当追加 (29)
兼任	教授	カガキチ 小川正子 (64)	平成28年4月	コミュニケーション概論 雑談と傾聴-話す力と聴く力- 臨床心理学概論	兼任	講師	矢口 大雄 (31)	平成29年4月	雑談と傾聴-話す力と聴く力	負担軽減の観点から担当追加 (29)
兼任	教授	カガキチ 小川正子 (64)	平成28年4月	コミュニケーション概論 雑談と傾聴-話す力と聴く力- 臨床心理学概論	兼任	助教	山川 誠司 (52)	平成29年4月	雑談と傾聴-話す力と聴く力	負担軽減の観点から担当追加 (29)
兼任	教授	カガキチ 小川正子 (64)	平成28年4月	コミュニケーション概論 雑談と傾聴-話す力と聴く力- 臨床心理学概論	兼任	助教	山川 誠司 (51)	平成28年4月	臨床心理学概論	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
兼任	教授	カガキチ 小川正子 (64)	平成28年4月	経済の仕組み 経済の歴史 世界の経済 世界遺産と国際文化政策	兼任	教授	堀岡 健一 (57)	平成28年4月	経済の仕組み	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
兼任	教授	カガキチ 小川正子 (64)	平成28年4月	経済の仕組み 経済の歴史 世界の経済 世界遺産と国際文化政策	兼任	教授	濱田 肇彰 (62)	平成29年4月	経済の歴史 世界の経済	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
兼任	教授	カガキチ 小川正子 (64)	平成28年4月	経済の仕組み 経済の歴史 世界の経済 世界遺産と国際文化政策	兼任	教授	佐藤 領一 (74)	平成28年4月	世界遺産と国際文化政策	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
兼任	教授	カガキチ 小川正子 (64)	平成28年4月	国際医療福祉論 公衆衛生学 感染と免疫	兼任	准教授	柳生 文宏 (46)	平成28年4月	公衆衛生学	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
兼任	教授	カガキチ 小川正子 (64)	平成28年4月	国際医療福祉論 公衆衛生学 感染と免疫	兼任	准教授	中川 浩夫 (46)	平成28年4月	公衆衛生学	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
兼任	教授	カガキチ 小川正子 (64)	平成28年4月	国際医療福祉論 公衆衛生学 感染と免疫	兼任	教授	長沢 光章 (59)	平成29年4月	感染と免疫	道義による担当変更 (29)
兼任	教授	カガキチ 小川正子 (64)	平成28年4月	国際医療福祉論 公衆衛生学 感染と免疫	兼任	准教授	梅宮 敏文 (62)	平成29年4月	感染と免疫	道義による担当変更 (29)
兼任	教授	カガキチ 小川正子 (64)	平成28年4月	国際医療福祉論 公衆衛生学 感染と免疫	兼任	准教授	工藤 芳子 (54)	平成29年4月	感染と免疫	道義による担当変更 (29)
兼任	教授	カガキチ 小川正子 (64)	平成28年4月	国際医療福祉論 公衆衛生学 感染と免疫	兼任	講師	木村 明彦子 (41)	平成29年4月	感染と免疫	道義による担当変更 (29)
兼任	教授	カガキチ 小川正子 (64)	平成28年4月	国際医療福祉論 公衆衛生学 感染と免疫	兼任	教授	林一雄雄 (44)	平成28年4月	感染と免疫	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
兼任	教授	カガキチ 小川正子 (64)	平成28年4月	哲学 倫理学	兼任	教授				

設置時の計画					変更状況					備考
専任 兼任 兼任の別	職名	フリガナ 氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	チレン ミカ 茶園 美香 (66)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	兼任	教授	城間 将江 (64)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
				関連職種連携論					関連職種連携論	
				関連職種連携ワーク						
				関連職種連携実習						
兼任	教授	モウラ タコ 堀田 聡子 (39)	平成28年4月	ケアマネジメント論	兼任	准教授	林 和美 (57)	平成29年4月	ケアマネジメント論	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
				社会福祉学						
					兼任	准教授	井上 善行 (44)	平成29年4月	社会福祉学	就任辞退に伴う教員の変更（28）
兼任	教授	マキ マス'シ'	平成28年4月	社会保障制度論	兼任	教授	金野 充博 (59)	平成28年4月	社会保障制度論	就任辞退に伴う教員の変更（28）
				マスメディア論						
				新聞でみた日本と世界	兼任	教授	川上 和久 (58)	平成28年4月	マスメディア論	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更（28）
兼任	教授	マキマ ヒロシ 丸山 仁司 (85)	平成28年4月	医療福祉教養講義	兼任	教授	谷口 敬道 (51)	平成29年4月	医療福祉教養講義	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
兼任	教授	ミナモト タカ 宮崎 路子 (59)	平成28年4月	英語B-1（視聴覚英語基礎）	兼任	准教授	田中 泰郎 (57)	平成28年4月	英語B-1（視聴覚英語基礎）	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
				英語B-2（視聴覚英語応用）	兼任	講師	佐藤 寛子 (44)	平成28年4月	英語B-2（視聴覚英語応用）	成田キャンパス所属の担当教員着任および効果的な教育のための少人数教育実践のため、教員の追加変更（28）
				英語ライティング1（Primary）	兼任	准教授	田中 泰郎 (57)	平成28年4月	英語ライティング1（Primary）	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
				英語ライティング2（Basic）	兼任	講師	師岡ヒビアンルイズ (60)	平成29年4月	英語ライティング2（Basic）	成田キャンパス所属の担当教員着任および効果的な教育のための少人数教育実践のため、教員の追加変更（28）
				基礎英文法1（Primary）	兼任	准教授	田中 泰郎 (57)	平成28年4月	基礎英文法1（Primary）	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
				基礎英文法2（Basic）	兼任	講師	Gosari-Fiorescu (46)	平成28年4月	基礎英文法2（Basic）	成田キャンパス所属の担当教員着任および効果的な教育のための少人数教育実践のため、教員の追加変更（28）
兼任	教授	シラサキ 武蔵正樹 (67)	平成28年4月	経営の仕組み	兼任	准教授	羽田明浩 (53)	平成28年4月	経営の仕組み	教育内容からより適切な教員に変更 (28)
				組織運営管理論						
				リスクマネジメント論	兼任	准教授	金野 充博 (59)	平成28年4月	保健医療福祉制度論	教育内容からより適切な教員に変更 (28)
				保健医療福祉制度論						
兼任	教授	モウラ マリコ 梶井 真理子 (68)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅰ（講義）	兼任	教授	城間 将江 (64)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅰ（講義）	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)

設置時の計画					変更状況					備考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	ヤマシタ カコ 山下 香枝子 (71)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	兼任	教授	城間 将江 (64)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
				大学入門講座Ⅰ（基礎）	兼任	教授	松谷 貴寿雄 (67)	平成29年4月	大学入門講座Ⅰ（基礎）	負担軽減の観点から担当追加（29）
					兼任	教授	川上 和久 (59)	平成29年4月		
					専任	教授	西田 裕介 (41)	平成29年4月		
					兼任	教授	本戸 久美子 (48)	平成29年4月		
					兼任	教授	橋本 正義 (59)	平成29年4月		
					兼任	准教授	吉田 浩森 (64)	平成29年4月		
				大学入門講座Ⅱ（展開）	兼任	助教	山川 誠司 (52)	平成29年4月	大学入門講座Ⅱ（展開）	負担軽減の観点から担当追加（29）
					兼任	教授	杉原 素子 (74)	平成29年3月		
					兼任	教授	川上 和久 (59)	平成29年4月		
					専任	教授	西田 裕介 (41)	平成29年4月		
					兼任	教授	河野 真 (59)	平成29年4月		
					兼任	教授	太田 進 (69)	平成29年4月		
					兼任	教授	杉原 素子 (74)	平成29年3月		
					兼任	教授	城間 将江 (64)	平成29年4月		
兼任	教授	ヤマシタ カコ 山本 淳子 (64)	平成28年4月	人間工学	兼任	教授	宮嶋 宏行 (46)	平成28年4月	人間工学	教育内容からより適切な教員に変更 (28)
				福祉支援工学概論	兼任	講師	中村 美緒 (37)	平成28年4月	福祉支援工学概論	教育内容からより適切な教員に変更 (28)
兼任	准教授	イシヤマ ヒロコ 石山 寿子 (54)	平成29年4月	国際医療保健学実習						
兼任	准教授	イノエ ヨシタ 井上 善行 (41)	平成28年4月	ケースワーク論	兼任	准教授	林 和美 (57)	平成29年4月	ケースワーク論	退職による担当変更（29）
兼任	准教授	オオシタケ アキラ 大石 剛史 (40)	平成28年4月	ボランティア論						
				ボランティアコーディネート論	兼任	准教授	吉田 浩森 (64)	平成29年4月	ボランティアコーディネート論	退職に伴い教員の変更（29）
					兼任	准教授	井上 善行 (41)	平成28年4月		教育内容からより適切な教員に変更 (28)
兼任	准教授	オカベ リサ 岡村 世里奈 (45)	平成28年4月	医療管理学	兼任	教授	塩岡 健一 (57)	平成28年4月	医療管理学	教育内容からより適切な教員に変更 (28)
				医療関連法規						
兼任	准教授	カネコ ジュンイチロウ 金子 純一郎 (46)	平成28年4月	健康科学理論	専任	教授	西田 裕介 (40)	平成28年4月	健康科学理論	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更（28）
兼任	准教授	カネコ ショウゴ 金子 松五 (51)	平成28年4月	栄養学	兼任	教授	門脇 弘子 (68)	平成28年4月	栄養学	就任辞退に伴う教員の変更（28）
				食と人間					食と人間	
兼任	准教授	オトリ ケイチ 齋藤 恵一 (57)	平成28年4月	医療情報学概論	兼任	教授	宮嶋 宏行 (47)	平成28年4月	医療情報学概論	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴い、兼職の宮嶋宏行に変更（28）
				電子カルテによるチーム医療概論					電子カルテによるチーム医療概論	

設置時の計画					変更状況					
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	備考
兼任	准教授	サトウチ 賢裕智恵 (48)	平成28年4月	英語A-1(講義基礎)	兼任	准教授	田中 泰郎 (57)	平成28年4月	英語A-1(講義基礎)	成田キャンパス所属の担当教員兼任および効果的な教育のための少人数教育実践のため、教員の追加変更(28)
					兼任	講師	佐藤 寛子 (44)	平成28年4月		
				英語A-2(講義応用)	兼任	准教授	田中 泰郎 (57)	平成28年4月	英語A-2(講義応用)	成田キャンパス所属の担当教員兼任および効果的な教育のための少人数教育実践のため、教員の追加変更(28)
					兼任	講師	佐藤 寛子 (44)	平成28年4月		
				英語C-1(英会話初級)	兼任	講師	師岡ビビアンルイス (50)	平成29年4月	英語C-1(英会話初級)	教育内容からより適切な教員に変更(29)
				英語C-2(英会話中級)	兼任	講師	師岡ビビアンルイス (50)	平成29年4月	英語C-2(英会話中級)	教育内容からより適切な教員に変更(29)
				上級英語文献講読	兼任	講師	佐藤寛子 (44)	平成28年4月	上級英語文献講読	
					兼任	講師	Cosmin Florescu (35)	平成28年4月		
	兼任	講師	師岡ビビアンルイス (59)	平成28年4月	上級英語会話1(発展)	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更(28)				
			平成28年4月	上級英語会話2(総合)						
兼任	准教授	チカアツ 順裕亨 (59)	平成28年4月	中国語入門(会話含む)	兼任	講師	張 佳恵 (50)	平成28年4月	中国語入門(会話含む)	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更(28)
				中国語応用(会話含む)					中国語応用(会話含む)	
兼任	准教授	フカサノ 福井 謙 (44)	平成28年4月	歴史学	兼任	講師	町田 明広 (54)	平成28年4月	歴史学	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更(28)
					兼任	講師	崔 誠延 (50)	平成28年4月	韓国語入門(会話含む)	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更(28)
								韓国語応用(会話含む)		
兼任	准教授	モリヤマミ 森山ますみ (52)	平成28年4月	世界の中の和文						
兼任	講師	イノリウメイ 井尻 聡一郎 (38)	平成28年4月	化学	兼任	准教授	清宮 正徳 (52)	平成28年4月	化学	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(28)
兼任	講師	イノハネ 磯野真穂 (39)	平成28年4月	文化人類学	兼任	教授	加藤 尚子 (51)	平成28年4月	文化人類学	就任辞退に伴う教員の変更(28)
兼任	講師	オムラカハ 岡村重利 (45)	平成28年4月	物理学	兼任	教授	宮嶋 宏行 (46)	平成28年4月	物理学	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(28)
兼任	講師	サトウチ 佐藤 寛子 (44)	平成28年4月	英語A-3(講義中級1)	兼任	講師	Vivek Paul Pinto (55)	平成29年4月	英語A-3(講義中級1)	教育内容からより適切な教員に変更(29)
				英語A-4(講義中級2)					英語A-4(講義中級2)	
				資格英語1(Primary)						
				資格英語2(Basic)						
				フランス語入門(会話含む)						
				フランス語応用(会話含む)						
兼任	講師	イノハネ 江田哲也 (37)	平成28年4月	情報処理Ⅰ(初歩)	兼任	教授	稲垣 誠一 (60)	平成28年4月	情報処理Ⅰ(初歩)	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(28)
				情報処理Ⅱ(基礎)	兼任	教授	宮嶋 宏行 (46)	平成28年4月	情報処理Ⅱ(基礎)	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(28)
				情報処理Ⅲ(応用)					情報処理Ⅲ(応用)	
兼任	講師	テラノヨシタ 寺田佳孝 (33)	平成28年4月	教育学						
兼任	助教	オオハシ 大塚尚 (36)	平成28年4月	心理学	兼任	講師	矢口 大雄 (31)	平成28年4月	心理学	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更(28)

設置時の計画					変更状況					
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	備考
兼任	助教	キタノ リョウコ 木村 亮子 (34)	平成28年4月	日本語Ⅰ-A(作文)	兼任	講師	品川 なぎさ (40)	平成29年4月	日本語Ⅰ-A(作文)	産休に伴う担当教員の変更(29)
				兼任	講師	小川 美香 (40)	平成28年4月	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(29)		
				日本語Ⅱ-A(作文)	兼任	講師	稲田 朋章 (42)	平成29年4月	日本語Ⅱ-A(作文)	産休に伴う担当教員の変更(29)
				兼任	講師	小川 美香 (40)	平成28年4月	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(29)		
				日本語Ⅱ-C(発表・討論)	兼任	講師	品川 なぎさ (45)	平成29年4月	日本語Ⅱ-C(発表・討論)	産休に伴う担当教員の変更(29)
				兼任	講師	小川 美香 (40)	平成28年4月	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(29)		
				日本語Ⅲ-A(作文)	兼任	講師	山元 一晃 (32)	平成29年4月	日本語Ⅲ-A(作文)	産休に伴う担当教員の変更(29)
				兼任	講師	小川 美香 (40)	平成28年4月	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(29)		
				日本語Ⅲ-C(発表・討論)	兼任	講師	加藤 林太郎 (36)	平成29年4月	日本語Ⅲ-C(発表・討論)	産休に伴う担当教員の変更(29)
				兼任	講師	小川 美香 (40)	平成28年4月	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(29)		
				医療福祉専門漢字	兼任	講師	江頭 由美 (56)	平成29年4月	医療福祉専門漢字	産休に伴う担当教員の変更(29)
兼任	講師	小川 美香 (40)	平成28年4月	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(29)						
兼任	助教	サライ ヒロミ 櫻井 留美 (29)	平成28年4月	日本語Ⅰ-B(文法・語彙)	兼任	講師	品川 なぎさ (45)	平成29年4月	日本語Ⅰ-B(文法・語彙)	教育効果を考慮し、兼任品川なぎさに変更(29)
				兼任	講師	茅野 雅雄 (60)	平成28年4月	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(29)		
				日本語Ⅱ-B(文法・語彙)	兼任	講師	稲田 朋章 (42)	平成29年4月	日本語Ⅱ-B(文法・語彙)	教育効果を考慮し、兼任稲田朋章に変更(29)
				兼任	講師	茅野 雅雄 (60)	平成28年4月	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(29)		
				日本語Ⅱ-D(専門日本語)	兼任	講師	茅野雅雄 (60)	平成28年4月	日本語Ⅱ-D(専門日本語)	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(28)
				日本語Ⅲ-B(文法・語彙)	兼任	講師	山元 一晃 (32)	平成29年4月	日本語Ⅲ-B(文法・語彙)	教育効果を考慮し、兼任山元一晃に変更(29)
				兼任	講師	茅野 雅雄 (60)	平成28年4月	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(29)		
				日本語Ⅲ-D(専門日本語)	兼任	講師	加藤 林太郎 (36)	平成29年4月	日本語Ⅲ-D(専門日本語)	教育効果を考慮し、兼任加藤林太郎に変更(29)
				兼任	講師	茅野 雅雄 (60)	平成28年4月	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(29)		
				医療福祉専門語彙	兼任	講師	江頭 由美 (56)	平成28年4月	医療福祉専門語彙	教育効果を考慮し、兼任江頭由美に変更(29)
				兼任	講師	茅野 雅雄 (60)	平成28年4月	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(29)		
兼任	講師	アサキヨシ 青木清 (78)	平成28年4月	生命倫理	専任	教授	榎井 正義 (68)	平成28年4月	生命倫理	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(28)
兼任	講師	エビノ 澤老原邦雄 (63)	平成28年4月	防災と生活デザイン	兼任	講師	榎 秀樹 (75)	平成28年4月	防災と生活デザイン	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更(28)
兼任	講師	オノ トシキ 大野 敏明 (64)	平成28年4月	国際関係論	兼任	教授	村上 大介 (60)	平成29年4月	国際関係論	教育内容からより適切な教員に変更(29)
				兼任	教授	高橋 寛一 (67)	平成28年6月	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(28)		
				アジア諸国の経済・社会・文化	兼任	教授	村上 大介 (60)	平成29年4月	アジア諸国の経済・社会・文化	教育内容からより適切な教員に変更(29)
				兼任	教授	高橋 寛一 (67)	平成28年6月	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(28)		
兼任	講師	オホノケンジ 大場建治 (64)	平成28年4月	文学	兼任	講師	秋原 北風 (53)	平成28年4月	文学論	課程のため科目名修正、成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更(28)
兼任	講師	オノケンジ 岡野 賢二 (49)	平成28年4月	ビルマ語入門(会話含む)						
				ビルマ語応用(会話含む)	兼任	講師	大澤 幸子 (46)	平成29年4月	ビルマ語応用(会話含む)	教育内容からより適切な教員に変更(29)
兼任	講師	オノケンジ 押小路 忠昭 (55)	平成28年4月	社会学(人間と社会)	兼任	教授	川上 和久 (56)	平成28年4月	社会学(人間と社会)	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(28)

設置時の計画					変更状況					備考
専任 兼任 兼任の別	職名	フリガナ 氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	サウリノ 佐藤里野 (35)	平成28年4月	演劇論	兼任	講師	秋原 北風 (53)	平成28年4月	演劇論	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更 (28)
兼任	講師	シメス 清水 英里 (44)	平成28年4月	ベトナム語入門(会話含む) ベトナム語応用(会話含む)	兼任	講師	小川 有子 (46)	平成29年4月	ベトナム語入門(会話含む) ベトナム語応用(会話含む)	教育内容からより適切な教員に変更 (28)
兼任	講師	シノクサヒコ 須藤正彦 (73)	平成28年4月	法学 法と道徳・倫理	兼任	講師	伊東 達也 (52)	平成28年4月	法学 法と道徳・倫理	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更 (28)
兼任	講師	スニサ ウィットヤンヤン Sunisa Wittayapanyanon (46)	平成28年4月	タイ語入門(会話含む) タイ語応用(会話含む)						
兼任	講師	タカヤマノボ 高山昇 (52)	平成28年4月	パフォーマンス表現論						
兼任	講師	タニハシ 谷千春 (55)	平成28年4月	手話入門						
兼任	講師	トヤマ 時田 正樹 (64)	平成28年4月	郷土論	兼任	教授	川上 和久 (58)	平成28年4月	郷土論	就任辞退に伴う教員の変更と、専門性の深化を図り、地方自治体および地域と連携する科目としてオムニバス化 (28)
兼任	講師	トヤマノボ 戸松義晴 (62)	平成28年4月	宗教学 死生学-死を通して生を考える						
兼任	講師	ベッパ 別府 美知子 (55)	平成28年4月	メディカルマナー入門	兼任	教授	谷口 啓道 (51)	平成29年4月	メディカルマナー入門	負担軽減の観点から担当追加 (29)
兼任	講師	ハクハ フランク ウィルヘルム Bauer-Lars Frank Wilhelm Achim (27)	平成28年4月	ドイツ語入門(会話含む) ドイツ語応用(会話含む)	兼任	講師	東風谷 次一 (38)	平成29年4月	ドイツ語入門(会話含む) ドイツ語応用(会話含む)	教育内容からより適切な教員に変更 (28)

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、(〇〇学部 △△学科)の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
 ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における属年齢を、「変更状況」には平成28年5月1日現在の属年齢を記入してください。
 ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 ・ 認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
8 名	4 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
4	4	5	4	17	3	2	5	5	15	4	2	5	5	16
(4)	(1)	(4)	(3)	(12)						[0]	[△2]	[0]	[0]	[0]

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
- ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 - ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(A)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由							
1	准教授	堀本 ゆかり	必修	運動学実習Ⅰ（基礎）	①	グループ内の人事異動のための就任辞退（29）							
			必修	物理療法Ⅰ（理論）	①								
			必修	物理療法Ⅱ（実践）	①								
			必修	運動学実習Ⅱ（応用）	①								
			必修	基礎実習	①								
			必修	検査実習	①								
			必修	PTスキルⅠ 演習 （キャリアデザイン）	①								
			必修	PTスキルⅡ 演習 （検査・測定）	①								
			必修	神経系理学療法Ⅰ （評価）	②								
			選択	教育・管理系理学療法 学	②								
			必修	評価実習	②								
			必修	総合臨床実習	②								
			選択	卒業研究Ⅰ （研究計画の立案）	②								
			選択	卒業研究Ⅱ （研究の実践）	②								
			必修	PTスキルⅢ演習 （障害理解）	②								
			必修	PTスキルⅣ演習 （専門知識の確認）	②								
			必修	理学療法特論Ⅰ（基礎）	②								
			選択	理学療法特論Ⅱ（応用）	②								
合 計（A）			後任補充状況の集計（B）										
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
1	人	必修	14	科目	必修	8	科目	必修	6	科目	必修	0	科目
		選択	4	科目	選択	0	科目	選択	4	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	18	科目	計	8	科目	計	10	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	教授	小堀 浩幸	必修	生理学Ⅰ (植物性機能)	②	グループ内の人事異動のための辞任 (29)			
			必修	生理学Ⅱ (動物性機能)	②				
			必修	生理学実習	②				
			選択	薬理学	②				
2	准教授	河西 理恵	必修	運動学Ⅰ(基礎)	②	グループ内の人事異動のための辞任 (29)			
			必修	動作分析学	②				
			選択	メディカルイングリッシュ ポキャブラリー	②				
			必修	運動系理学療法学Ⅰ (評価)	②				
			選択	先端運動系理学療法学	②				
			選択	クリニカルリーズニング Ⅰ(基本的疾患)	②				
			必修	評価実習	②				
			必修	総合臨床実習	②				
			選択	卒業研究Ⅰ (研究計画の立案)	②				
			選択	卒業研究Ⅱ (研究の実践)	②				
			必修	PTスキルⅡ演習 (検査・測定)	②				
			必修	PTスキルⅢ演習 (障害理解)	②				
			必修	PTスキルⅣ演習 (専門知識の確認)	②				
			必修	理学療法特論Ⅰ (基礎)	②				
			選択	理学療法特論Ⅱ (応用)	②				
			必修	運動学実習Ⅰ (基礎)	①				
			必修	基礎実習	①				
			必修	検査実習	①				
			必修	運動学実習Ⅱ (応用)	①				
			必修	PTスキルⅠ演習 (キャリアデザイン)	①				
合 計 (C)				後任補充状況の集計 (D)					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
2	人	必修	17 科目	必修	5 科目	必修	12 科目	必修	0 科目
		選択	7 科目	選択	0 科目	選択	7 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	24 科目	計	5 科目	計	19 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (A) + (C)				後任補充状況の集計 (B) + (D)							
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
3	人	必修	31 科目	必修	13 科目	必修	18 科目	必修	0 科目		
		選択	11 科目	選択	0 科目	選択	11 科目	選択	0 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	42 科目	計	13 科目	計	29 科目	計	0 科目		

- (注) ・ 就任辞退 (未就任) 及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

未就任となった1名の教員については、他キャンパスでの想定外の離職者の発生などによりグループ内での人事異動が必要となったためやむを得ないと判断した。
着任予定時期前での未就任となるため、学生には周知していない。
就任後の辞任となった2名の教員についても、同様にグループ内での人事異動に伴うものであり、学生には授業の際に周知を行った。
所属が変更となった後も成田キャンパスにおける教育に協力を頂くことで調整済みであり、教育上問題はない(29)

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

成田看護学部 看護学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・人間をライフステージや発達課題からとらえ、その上で人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察能力、判断能力を強化する「人間理解（こころとからだ）系」科目群は、学部配置科目となっており、他学科の共通の内容となっているが、看護学の修得に非常に重要な科目群であると思われる。そのため、他学科と共通の内容とするのではなく、看護学の修得を前提とした適切な内容に改めることを検討すること。	留意事項 成田看護学部は単科の学部であり、学部設置科目＝看護学科だけの開設科目である。したがって左記指摘のように看護学部の専門基礎科目を他 学部学生が履修することはない。 また、この科目は看護学部学生のための科目とし、看護学の視点で内容を構成をしている。 さらに、入学する学生が上記について理解できるように学生便覧および履修の手引き、担当アドバイザーからの履修指導や教務委員会からのカリキュラム説明などを通して周知も徹底している。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・養成する人材の「6つの能力」の⑥に「基礎的研究力を修得する」とあるが、教育課程には研究力を培う授業科目が見受けられない。そのため、研究力を培う授業科目を配置するか、プロジェクト科目の内容を研究力を培う内容に改めるなどの検討をすること。	留意事項 「基礎的研究力を修得する」ため、「エビデンス・ベーストプラクティス（研究と文献）」「読む技術・伝える技術」「行動科学とモチベーション」「問題解決とアイディアノベーション」「プレゼンテーション技法」などの科学的思考、問題解決力、研究の基礎的な能力を高めるための科目を複数設けている。 これらの科目は、それぞれ、アクティブラーニングを取り入れ、学生が思考しながら学ぶ方法を用いる。 また、2年次から「プロジェクト」科目を設けて、テーマを決めて取り組むことにより、研究の基礎力を育成する計画である。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・本学部の特徴として「国際性」を挙げているが、教育研究上の到達目標にそれらが反映されていないように思われる。そのため、グローバルな活動ができる看護専門職の育成にふさわしい教育内容であることが明確になるよう、授業科目や講義内容を追加することなどの検討をすること。(成田看護学部)	留意事項 本学部の特長の一つとしてグローバルに活躍する人材を育成することを挙げている。本学部の考えるグローバルとは、日本を含む、多様な国の人々を地球市民としてとらえ、一人ひとりのもっている文化や地域性、価値観を理解した上で必要な支援のできる能力を育成することである。そのために、異文化理解のためのカリキュラムと国際的な視野を養う実践的カリキュラムを用意している。 科目として、「世界の中の和文文化」、「新聞で見た日本と世界」「海外保健福祉事情Ⅰ・Ⅱ（講義・実習）」「国際医療通訳入門」「異文化体験実習」、「国際医療保健学」「外国語（英・独・西・仏・中・韓・タイ・ビルマ・ベトナム）」の他、「国際看護学Ⅰ・Ⅱ」「海外看護研修」「国際看護研修」等の科目では、国際看護学分野の専任教員、実務家が中心となり、本学部の教員が連携して学習を支援していくものであり、特にJICAや国際協力機関などと連携して学ぶ、実践・体験型プログラムで学ぶように計画している点は、グローバルな活動ができる看護専門職の育成にふさわしい教育内容であるといえる。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・保健師課程の選抜方法や人数制限等の詳細が不明確であることから、学生に対しては、選抜方法等を具体的に周知すること。(成田看護学部)	留意事項 学生便覧、履修の手引き等の中に保健師課程に関するページを設け、選抜方法、人数制限等について学生に周知徹底する。 また、履修オリエンテーションなどの際に時間を設け、左記指摘事項に関し遺漏のないよう周知する。	

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・遠隔地での実習施設が多いように見受けられることから、実習施設内での学習環境の整備が重要であると考えられる。そのため、実習施設内での学修環境の整備が十分な計画となっているか検討し、必要に応じて充実させること。(成田看護学部)	留意事項	成田看護学部の開設にあたっては、その目的の一つとして千葉県内の看護師の不足を補うことが成田看護学部の開設目的の一つとして挙げている。 この目的を達成するためにも、臨床実習は、原則、県内の近隣の医療施設等を中心に行う。 また実習や科目の特性においては、学生の同意のもと、県外にある本学の附属病院、関連病院で実習を行う。この場合、宿泊先や学修スペースなど十分に確保しており、学生に負担を強いることはない。 (28)	
設 置 時 (27年7月)	・実習助手の採用基準と決定方法、実習助手に対するFDIに関する記載がないため、これらが計画されていないのであれば、具体的な計画を定めること。(成田看護学部)	留意事項	実習助手の採用基準は、看護師免許を有し、大学を卒業後、3年以上当該専門領域の臨床経験を有する者とする。また専門学校および短期大学卒業で優れた臨床実践能力をもつ者については、5年以上臨床経験を有する場合に限り、実習助手として採用する。またリプロダクティブヘルス看護学領域(母性看護学)の実習助手については、上記の条件を満たし、看護師および助産師免許を有している者、まちづくり・公衆衛生看護学領域(公衆衛生看護学)の実習助手については、上記の条件を満たし、看護師および保健師免許を有している者とする。 実習助手は、大学における実習指導を行った経験を有することが望ましいが、指導経験がない場合は、実習指導に関する基礎的な知識、技術について学内にて下記のような研修を行う。 1) 教育目的、目標、実習の位置づけ、展開方法、学生のレディネスなどを説明する。 2) 実習助手として、学生を指導する目的、方法について 3) 学習への取り組みと動機付けについての指導者の役割 4) 実習の評価の目的と方法について 加えて担当する実習場所での実地研修を行い指導にあたることとする。なお、具体的な職務内容は、当該科目の担当教員の指導の下、グループを担当して学生の指導を行う。実習助手が行う実習指導の責任は、その指導を担う教員とする。(28)	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・大学設置基準第10条第1項では、主要な授業科目については原則として専任の教授又は准教授に担当させることを原則としているが、本学の教育課程を見ると、看護学の体系性や学科設置の趣旨から主要と思われる授業科目に専任の教授又は准教授が配置されていない例が散見される。そのため、以下の指摘を踏まえ、担当教員の充実に努めること。 (成田看護学部) (1)「まちづくり・公衆衛生看護学」に関する5科目、「在宅・生活デザイン看護学」に関する6科目については、いずれも1名の講師・助教が担当することとなっている。設置の趣旨には、「高齢社会の到来に伴う医療やケアニーズの高まりに対応して、…地域・在宅における訪問看護、介護老人保健施設、老人福祉施設における看護師の需要が高まっている」とうたわれており、これらの科目は、人材養成の中核的な科目であると思われるが、担当教員は講師・助教であることから、設置の趣旨に即した十分な教育が行われるか懸念がある。そのため、中核的な科目については、担当教員の充実に努めること。 (2)精神看護学及び公衆衛生看護学を担当する教授と准教授が不在である。これらは主要な看護専門科目であることから、専任の教授又は准教授を配置すること。 (3)「こども・子育て看護学」の科目区分(5科目)については、准教授は配置されているものの、科目区分全体で教授が配置されていない。そのため、教授を配置しない体制で適切な教育が行えるか検討し、必要に応じて教授を配置するなど、教育体制のさらなる充実に努めることが望ましい。	留意事項	(1)について 「まちづくり・公衆衛生看護学」を担当する教授の採用を決めており、2017年4月から着任予定。また准教授、講師、助教についても2017年4月の着任を目指して教員の選定を行っている。 (2)について 「在宅・生活デザイン看護学」を担当する教授、准教授については2017年4月からの着任を目指して教員の選定を行っている。また、「精神看護学」を担当する教授、准教授についても2017年4月の着任を目指して教員の選定を行っている。 (3)について 「こども・子育て看護学」を担当する教授、講師については、2017年4月の着任を目指して教員の選定を行っている。(28)
設 置 時 (27年7月)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。(言語聴覚学科、医学検査学科、成田看護学部)	留意事項	今回の採用では、カリキュラム等の特性上、定年年齢の教員を採用した。今後、採用する教員については、学部の継続的な発展を踏まえ、原則、完成年度において退職年齢を超えることのない50歳代以下の教員を中心に選考を行っている。(28)

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期（1、2年次）に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一覧の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部）	改善意見 科目の順序性が担保できるよう履修モデルおよび履修系統図の再検討を行い、年度開始時のオリエンテーションにおいての履修モデル、履修系統図の提示や、配当年次が複数設定されている科目については履修推奨年次を設定するなど体系的な学修が可能となるよう履修指導を実施した（29）	
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・担当科目が著しく多い専任教員がいることから、教員の専門性と科目内容の整合性に留意しつつ、負担が偏らないように適切な教員組織編制となるよう改善すること。また、オムニバス科目は各担当教員の専門性を踏まえた上で、各専門領域を十分に教授できるように検証し、充実することが望ましい。	改善意見 負荷軽減を考慮し、科目担当の再編成を実施した。オムニバス科目についても、各教員の専門性を考慮した分担を検討し、より充実した科目運営の実現を図った（29）	
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・保健師課程を履修できる学生の選抜方法や選抜基準が曖昧であり、必要な情報が適切に周知されていないため、学生に不利益が生じる可能性がある。選抜方法や前提科目の履修など要件を周知するとともに、適切な履修指導を行うこと。	改善意見 学生便覧中にある保健師課程の履修についての説明文章を再度見直し、学生が正確に情報を取得できるよう修正した。また、年度開示のオリエンテーションでも1年生、2年生それぞれに内容説明を実施し、履修指導とした。（29）	
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・届出時においては、1年次の実習科目から実習助手を配置する計画が示されているが、調査時点においては、実習助手が配置されていない状況である。学年進行に応じて臨地実習の対象学生数や対象期間が増えることを踏まえ、実習助手の確保は重要となる。報告書に示された要件を満たした実習助手の確保を図るとともに、担当教員との連携やFDへの参加等により実習助手の能力向上に努め、当初計画に基づく実習指導体制を担保すること。	改善意見 平成29年度においては5月1日時点で既に1名の実習助手の採用が決定しており、同年度中にさらに追加で2～3名の実習助手を採用する計画を進めている。採用された実習助手に対しては、定期的の実習運営のための打合せを実施する他、看護学部にて実施する勉強会への参加を促すことで能力向上を図る。（29）	
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・成田看護学部看護学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。	改善意見 設置申請以降、教授3名、准教授1名、講師1名、助教1名が新たに採用となっており、このうち教授1名を除く5名が完成年次に退職年齢を超えない構成となっている。学年進行に合わせ継続的に教員組織の拡充を図るとともに、学部内でのFD活動に若手教員の育成を推進する。（29）	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

6 留意事項等に対する履行状況等

成田保健医療学部 理学療法学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・卒業要件単位数が124単位であるにもかかわらず、全ての履修モデルが124単位を超える単位数で作成されていることから、学生に誤解を生じさせるおそれがある。そのため、人材養成の方針に整合しつつ124単位で卒業する形の履修モデルを新たに作成すること。(理学療法学科)	留意事項	各学科124単位で卒業する形の履修モデルを作成し、学生に周知する。(28)
設 置 時 (27年7月)	・専門基礎科目における選択科目の一部科目において、1から4年次のいずれでも履修を可能としているような、配当年次に幅を持たせた科目があるが、体系的な学修の前提となる学修の順序性が配慮されていない懸念がある。そのため、体系的な学修の観点から選択科目の配当年次の設定について再度検討を行い、必要に応じて配当年次を見直すこと。(理学療法学科)	留意事項	「2 授業科目の概要」に記載したとおり、変更対応。(28)
設 置 時 (27年7月)	・臨床実習の参加要件が「4年次の実習への学生の参加要件は、3年次までの必修科目を全て修得していることを条件としている。」とあるのみであるが、実習参加の水準が確保されるよう、客観的臨床能力試験の実施等について検討すること。(理学療法学科)	留意事項	OSCE、CBTの導入を視野に入れた対応を行う。(28)
設 置 時 (27年7月)	・主として専門科目を教授する教員において、多数の授業科目を担当する教員がいるなど、一部の教員に負担が偏っているように思われることから、教員の負担について検討し、必要に応じて負担が偏らないよう教員組織編制を適切に改めること。なお、教員の負担の検討に当たっては、職位のレベルに応じた負担ともなるよう考慮すること。(理学療法学科)	留意事項	講師以上の教員採用を準備中。(28)

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期（１、２年次）に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一覧の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部）	改善意見	科目の順序性が担保できるよう履修モデルおよび履修系統図の再検討を行い、年度開始時のオリエンテーションにおいての履修モデル、履修系統図の提示や、配当年次が複数設定されている科目については履修推奨年次を設定するなど体系的な学修が可能となるよう履修指導を実施した（29）
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・担当科目が著しく多い専任教員がいることから、教員の専門性と科目内容の整合性に留意しつつ、負担が偏らないように適切な教員組織編制となるよう改善すること。また、オムニバス科目は各担当教員の専門性を踏まえた上で、各専門領域を十分に教授できるように検証し、充実することが望ましい。（理学療法学科、成田看護学部）	改善意見	負荷軽減を考慮し、科目担当の再編成を実施した。オムニバス科目についても、各教員の専門性を考慮した分担を検討し、より充実した科目運営の実現を図った（29）

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常２月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

6 留意事項等に対する履行状況等

成田保健医療学部 作業療法学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・卒業要件単位数が124単位であるにもかかわらず、全ての履修モデルが124単位を超える単位数で作成されていることから、学生に誤解を生じさせるおそれがある。そのため、人材養成の方針に整合しつつ124単位で卒業する形の履修モデルを新たに作成すること。(作業療法学科)	留意事項	各学科124単位で卒業する形の履修モデルを作成し、学生に周知する。(28)
設 置 時 (27年7月)	・専門基礎科目における選択科目の一部科目において、1から4年次のいずれでも履修を可能としているような、配当年次に幅を持たせた科目があるが、体系的な学修の前提となる学修の順序性が配慮されていない懸念がある。そのため、体系的な学修の観点から選択科目の配当年次の設定について再度検討を行い、必要に応じて配当年次を見直すこと。(作業療法学科)	留意事項	「2 授業科目の概要」に記載したとおり、変更対応。(28)
設 置 時 (27年7月)	・臨床実習の参加要件が「4年次の実習への学生の参加要件は、3年次までの必修科目を全て修得していることを条件としている。」とあるのみであるが、実習参加の水準が確保されるよう、客観的臨床能力試験の実施等について検討すること。(作業療法学科)	留意事項	OSCE、CBTの導入を視野に入れた対応を行う。(28)
設 置 時 (27年7月)	・主として専門科目を教授する教員において、多数の授業科目を担当する教員がいるなど、一部の教員に負担が偏っているように思われることから、教員の負担について検討し、必要に応じて負担が偏らないよう教員組織編制を適切に改めること。(作業療法学科)	留意事項	准教授1名を採用済、教員の負担軽減に対応。(28)
設 置 時 (27年7月)	・養成すべき人材像で強調されている地域・地域包括ケアに関する授業内容について、関連する授業科目名からはその全体像が学生に伝わりにくいと思われることから、教授内容が学生に具体的に伝わるよう、科目名称等の工夫を検討すること。また、必修科目である「地域ケアシステム実習」に対応する講義科目が不明確であるので、演習科目に対応する講義科目があることが明確になるよう、該当する科目名称を変更するか講義科目を追加するなどの修正をすること。(作業療法学科)	留意事項	科目名称の変更にて対応。 「地域ケアシステム実習」⇒「地域生活支援システム実習」 なお、同科目に対応する講義科目としては、「地域生活支援論」という科目を配置している。(28)

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期（1、2年次）に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一覧の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部）	改善意見	科目の順序性が担保できるよう履修モデルおよび履修系統図の再検討を行い、年度開始時のオリエンテーションにおいての履修モデル、履修系統図の提示や、配当年次が複数設定されている科目については履修推奨年次を設定するなど体系的な学修が可能となるよう履修指導を実施した（29）
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・成田保健医療学部作業療法学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編製の将来構想について検討すること。	改善意見	設置申請時より追加で准教授の1名を採用している。今後も継続して若手教員の採用を検討するとともに、学科内での教員指導体制の充実を図る（29）

- （注）・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

6 留意事項等に対する履行状況等

成田保健医療学部 言語聴覚学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・卒業要件単位数が124単位であるにもかかわらず、全ての履修モデルが124単位を超える単位数で作成されていることから、学生に誤解を生じさせるおそれがある。そのため、人材養成の方針に整合しつつ124単位で卒業する形の履修モデルを新たに作成すること。(言語聴覚学科)	留意事項 各学科124単位で卒業する形の履修モデルを作成し、学生に周知する。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・専門基礎科目における選択科目の一部科目において、1から4年次のいずれでも履修を可能としているような、配当年次に幅を持たせた科目があるが、体系的な学修の前提となる学修の順序性が配慮されていない懸念がある。そのため、体系的な学修の観点から選択科目の配当年次の設定について再度検討を行い、必要に応じて配当年次を見直すこと。(言語聴覚学科)	留意事項 「2 授業科目の概要」に記載したとおり、変更対応。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。(言語聴覚学科)	留意事項 今回の採用では、カリキュラム等の特性上、定年年齢の教員を採用した。今後、採用する教員については、学部の継続的な発展を踏まえ、原則、完成年度において退職年齢を超えることのない50歳代以下の教員を中心に選考を行っている。(28)	
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期(1、2年次)に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一覧の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。(理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部)	改善意見 科目の順序性が担保できるよう履修モデルおよび履修系統図の再検討を行い、年度開始時のオリエンテーションにおける履修モデル、履修系統図の提示や、配当年次が複数設定されている科目については履修推奨年次を設定するなど体系的な学修が可能となるよう履修指導を実施した(29)	

(注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

6 留意事項等に対する履行状況等

成田保健医療学部 医学検査学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・卒業要件単位数が124単位であるにもかかわらず、全ての履修モデルが124単位を超える単位数で作成されていることから、学生に誤解を生じさせるおそれがある。そのため、人材養成の方針に整合しつつ124単位で卒業する形の履修モデルを新たに作成すること。（医学検査学科）	留意事項 各学科124単位で卒業する形の履修モデルを作成し、学生に周知する。（28）	
設 置 時 (27年7月)	・履修モデルによると、1年次前期に38～39単位の修得することになっている。CAP制は導入されているものの、半期に38～39単位の履修では実質的な学修時間が確保されない懸念がある。そのため、このような科目履修をしても学生に適切な学修時間を確保させることができるか検討し、必要に応じて履修モデルまたは授業科目の配当年次を修正すること。なお、導入されるCAP制は年間上限を「50単位未満」としているが、履修モデルでは1年次の合計単位数がCAP制への算入除外科目（海外保健福祉事情Ⅰ及びⅡ）を考慮しても50～51単位になりCAP制の定めと整合しないと思われることから、学生に示す際に整合するよう修正すること。（医学検査学科）	留意事項 「2 授業科目の概要」に記載したとおり、1年前期の数科目を1年後期に廻し、前期と後期とのバランスをとるように変更した。（28）	
設 置 時 (27年7月)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。（医学検査学科）	留意事項 今回の採用では、カリキュラム等の特性上、定年年齢の教員を採用した。今後、採用する教員については、学部の継続的な発展を踏まえ、原則、完成年度において退職年齢を超えることのない50歳代以下の教員を中心に選考を行っている。（28）	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期（1、2年次）に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一覧の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部）	改善意見 科目の順序性が担保できるよう履修モデルおよび履修系統図の再検討を行い、年度開始時のオリエンテーションにおいての履修モデル、履修系統図の提示や、配当年次が複数設定されている科目については履修推奨年次を設定するなど体系的な学修が可能となるよう履修指導を実施した（29）	
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・成田保健医療学部医学検査学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。	改善意見 設置計画時点から追加で3名の教員採用（准教授2名、助教1名）が済んでいる。さらに現在講師、助教の公募を行っており、教員組織の充実を図っている。完成年次以降の学科運営に支障がないよう教員組織編制を構想している。（29）	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

6 留意事項等に対する履行状況等

医学部医学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (H29年 4 月)	「臨床実習Ⅳ」の国内での実習については、学生の希望に応じた診療科への配属がなされるよう可能な限り配慮すること。また、海外での実習については、実習先が提供するプログラムの内容や指導体制について、実習調整ディレクターが中心となってあらかじめ調整し、教育の質を確保した上で実施すること。なお、海外での実習先はアジア諸国を中心に調整が進められているが、欧米諸国をはじめとしたより多様な実習先を確保するよう引き続き調整し、学生により多くの選択肢を提供することが望ましい。	留意事項 選択制の臨床実習となる「臨床実習Ⅳ」については、学生の希望に応じた配属ができるよう、学生が提出した希望順位に応じて割り付けを行う予定である。受け入れ先としては、平成32年に成田市に開院予定の附属病院も含めた5つの本学附属病院、および臨床実習の受け入れ意思を既に表明している本学の臨床医学研究センター・グループ外の医療機関等だけでなく、さらに受け入れ先の拡大に努め、十分な枠を確保したいと考えている。このうち附属病院等については、平成29年度から臨床実習受け入れについて打ち合わせを始めることについて、平成29年4月末に開催した第1回医学部教授連絡会議で附属病院等で勤務する教授に伝えたところである。今後の予定としては、平成29年度中に各附属病院等との打ち合わせを開始し、平成31年度中に、平成32年度から始まる臨床実習のプログラムを決定する計画である。 平成34年度に始まる「臨床実習Ⅳ」の海外臨床実習については、申請時に受け入れの意思表示済みの一部の大学医学部等について、平成29年度留学生特別選抜のため現地を訪問した際、先方の連絡担当者を選定した。欧米諸国については、麻酔科に日本の大学医学部から6年生の臨床実習の受け入れ実績があるドイツの医学部において、担当の准教授に受け入れ意思があることを確認した。さらに米国の複数の医学部において、臨床実習への学生受け入れについて調査を行った。今後の予定として、申請時に受け入れの意思表示済みの大学医学部等については、平成29年度の「海外医療体験」の引率を兼ねた現地訪問の際に打ち合わせを開始し、プログラムについて検討を開始するとともに、実習調整ディレクター等の人員配置を行う。今後、新たに開拓する海外臨床実習の受け入れ先については、平成30年度には調査を終了、先方の担当者との打ち合わせを開始し、平成31年度にはMOUを締結した上で実習プログラムの検討を開始し、平成32年度中に実習プログラムを決定、平成33年度に学生の希望調査を行う計画である。(29)	

	人体の生理機能を理解するためにシミュレータを利用すると説明しているが、生物実験を体験したことのない学生であっても基礎医学に関する知識や技能を十分に修得できるように、生理学、生化学及び分子生物学など、基礎医学に関する実習を充実すること。	留意事項	すでに1年次1学期における生物学において、生物学未履修者を中心とした学生に対して、顕微鏡を用いた鶏胚の発生の観察を行った。また、1年次2学期には必修の基礎医学総論の5科目で様々な実習を導入予定である。例えば、生化学では生細胞から溶解液を調整し、比色法を用いてタンパク質の定量とさらに酵素活性の定量をおこなう。この過程を通じ、生化学の基本的な手技を習得するとともに、標準曲線の作成、酵素の誘導や特異的発現の観察を通じて対照実験について学ぶ。分子生物学では生体組織からの核酸の抽出、増幅、同定という一連の作業を体験する。この過程でピペットの使い方から核酸の調整法、酵素の取り扱い方、PCR法、ゲル電気泳動など分子生物学の基礎的な手技を習得する。免疫学ではEnzyme-Linked ImmunoSorbent Assay (ELISA) を用いてサイトカイン濃度を測定すると共に抗体の抗原特異性を観察する。(29)	
--	--	-------------	--	--

(次頁へ)

(次頁より)	全ての留学生が将来母国のリーダーとして活躍できるよう、母国の政府機関等の推薦を受けていない私費留学生も含め、卒後の進路についての支援体制を充実すること。	留意事項	母国の政府機関等の推薦を踏まえ本学が奨学金を支給する留学生(平成29年度はベトナム、モンゴル、インドネシア、ミャンマー、カンボジアの5か国計13人)及び私費の留学生(平成29年度は韓国、中国、台湾、ミャンマー、米国の5か国・地域計7人)の全ての留学生が本学医学部を卒業後、将来的に母国において医療貢献を行い、ひいては指導者として活躍することができるよう組織的な支援を行っていく。例として、在学中6年次に必修として全員が履修・参加する「海外臨床実習」を通じた本学留学生と母国等の医療機関との橋渡しや、本学が有する海外大学・医療機関等のネットワークを用いて、卒業後に医師としてのキャリア形成ができるようキャリア学習や帰国支援など本学から協力を要請していく、等の活動が含まれる。 また、奨学金を支給する留学生については、医師免許取得後、奨学金支給期間の1.5倍程度の期間(以下、義務年限)、本学が指定する日本及び母国の医療機関において医師として勤務することとしているが、義務年限修了後の進路については、留学生と推薦元が相談の上決定することになる。本学は、各国の人的、組織的なネットワークによる支援及び交流を継続的に行う。 全ての外国人卒業生が母国において保健医療の各分野でのリーダーとして活躍しながら、我が国の医学や医療制度を学び続けられるよう継続的に支援していく中で、こうした卒業生が本学の留学生の開拓、卒業後のキャリア形成における各国の人的拠点となり、本学の留学生に対する医学教育、卒後支援に持続可能なサイクルを生み出す体制を構築していく。(29)	
(次頁へ)				

(次頁より)	医学教育統括センターは、本学の教育目標を達成するために重要な位置付けであると考えられることから、以下の点に留意し、その役割を十分に果たせるよう適切に運営すること。 (1) 同センターに係る規程等を整備し、コース・ディレクター等センターに配置される職員の役割、責任体制、指揮命令系統等を明確にすること。 (2) 専任教員25名及び兼任教員15名に加え、事務職員や技術職員等を十分に配置し、多岐にわたる業務を円滑に実施する体制を整えること。	留意事項	(1) 「国際医療福祉大学医学教育統括センター規程」を別紙1の通り整備し、同センターが学長直属の組織であることを明記した。その業務を統括する医学教育統括センター長の役割を明記したほか、コース・ディレクター等の役割、責任体制等を明確にした。 15のコースのコース・ディレクターは担当教員から授業計画の提示を受け、指導・助言をする。授業ごとに行われる担当科目の授業アンケートに目を通し、評価に問題があった場合は担当教員と具体的な改善策を話し合うほか、次回の授業を見学して授業評価が向上するまで細やかな支援を行う。 (2) 医学教育統括センターに専従の3人の事務職員を配置したほか、学務課の教務係・学生係および国際交流センターの事務職員が日常的に業務を支援する体制をとっている。ICT活用など技術面では、本学の情報システム部長であり教育システムの責任者を務めている准教授がe-learningの整備・運用を担当し、講義資料のオンライン提供や出欠管理、授業アンケート等を管理している。さらに、医療情報学が専門の医学教育統括センターの教授が学生などに関して得られたデータの集計・分析を担当している。 (29)	
	運動場が別地にあることから、教育に支障のないようにすることはもとより、学生の課外活動等に配慮すること。	留意事項	校地から1,400mのところにある5,600㎡余りの運動場に平成29年4月、テニスコート3面と駐車場、トイレ、シャワー室、ロッカールームが完成し、成田看護学部・成田保健医療学部と共用で利用を開始した。医学部のカリキュラムに体育の科目はないが、今後課外活動などの際に必要なに応じマイクロバスなど大学の公用車により学生の利用の便を図る。クラブ活動は成田キャンパスの3学部一体で行うこととし、顧問の教員の活動や外部の施設を利用する場合の補助などを通じ、引き続き大学として課外活動を支援していく。 (29)	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

国際医療福祉大学医学教育統括センター規程

(目的)

第1条 医学教育統括センターは、学長直属の組織として医学部に設置し、医学教育について企画・指導及び必要な調整を行うと同時に、学生の情報収集・分析、そして医学教育の研究・情報発信を行い、医学教育の統括と向上を図ることを目的とする。

(医学教育統括センター長)

第2条 医学教育統括センターに、医学教育統括センター長を置く。

2 医学教育統括センター長は、医学教育統括センターを代表し業務を統括する。業務にあたっては医学部長、副医学部長及び学務部長と協議し、業務を遂行するものとする。

3 医学教育統括センター長は、専任の教授のうちから学長の推薦に基づき理事長が任命する。

4 医学教育統括センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(組織・運営)

第3条 センターの行う業務は、別表第1のとおりとする。

第4条 センターに、学長の指名する教員を置く。

2 前項の教員の数、理事長が別に定める。

第5条 センター長は、前条の教員のうちからコース・ディレクター及び実習調整ディレクターを指名する。

第6条 コース・ディレクターは、別表第1の教育・カリキュラム部門の第1欄、第2欄及び第6欄の業務を主として担当する。

2 コース・ディレクターの数は、別表第1の教育・カリキュラム部門の第2欄に掲げるコースの数とする。

第7条 実習調整ディレクターは、別表第1の教育・カリキュラム部門の第3欄の業務を主として担当する。

2 実習調整ディレクターの数は10人以上とし、そのうち附属病院・関連教育病院担当を6人以上、海外実習病院担当を4人以上とする。

第8条 センター長は、第3条の教員のうちから別表第1のシミュレーション教育部門の業務を担当する者を3人指名する。

第9条 センターにカリキュラム委員会、臨床実習運営連絡協議会及び成績管理・卒業判定委員会を置く。

2 前項の委員会の役割、委員及び開催頻度は、別表第2のとおりとする。

第10条 この規程に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

(改廃)

第11条 この規程の改廃は、常任理事会の承認事項とする。

附則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

別表第1 センターの行う業務(第3条関係)

教育・カリキュラム部門																	
1	カリキュラムの策定・評価・改定に関すること。 各学生の各授業における日々の成績や授業評価、医師国家試験の結果、その他に関する情報を収集し、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに照らして問題の発見、評価、改定の立案を行い、カリキュラム委員会で報告・審議し、PDCA サイクルを推進する。																
2	コースの運営に関すること。 各授業が連携を取り合い効率的・効果的に進めるため、類似の授業をまとめて、次に掲げるコースとし、各コースの企画・実施管理・成績集計とその一次判定を行う。 【コース】 <table border="0"> <tr> <td>① リベラルアーツ（文系）コース</td><td>⑨ 基礎医学（機能系）コース</td></tr> <tr> <td>② リベラルアーツ（理系）コース</td><td>⑩ 産婦人科コース</td></tr> <tr> <td>③ 外国語系コース</td><td>⑪ 基礎臨床総合コース</td></tr> <tr> <td>④ 日本語系コース</td><td>⑫ 専門臨床コース</td></tr> <tr> <td>⑤ 医療プロフェッショナリズムコース</td><td>⑬ 多職種連携教育（IPE）コース</td></tr> <tr> <td>⑥ 国際医療保健コース</td><td>⑭ 社会医学コース</td></tr> <tr> <td>⑦ 医療面接・身体診察コース</td><td>⑮ 応用臨床コース</td></tr> <tr> <td>⑧ 基礎医学（構造系）コース</td><td></td></tr> </table>	① リベラルアーツ（文系）コース	⑨ 基礎医学（機能系）コース	② リベラルアーツ（理系）コース	⑩ 産婦人科コース	③ 外国語系コース	⑪ 基礎臨床総合コース	④ 日本語系コース	⑫ 専門臨床コース	⑤ 医療プロフェッショナリズムコース	⑬ 多職種連携教育（IPE）コース	⑥ 国際医療保健コース	⑭ 社会医学コース	⑦ 医療面接・身体診察コース	⑮ 応用臨床コース	⑧ 基礎医学（構造系）コース	
① リベラルアーツ（文系）コース	⑨ 基礎医学（機能系）コース																
② リベラルアーツ（理系）コース	⑩ 産婦人科コース																
③ 外国語系コース	⑪ 基礎臨床総合コース																
④ 日本語系コース	⑫ 専門臨床コース																
⑤ 医療プロフェッショナリズムコース	⑬ 多職種連携教育（IPE）コース																
⑥ 国際医療保健コース	⑭ 社会医学コース																
⑦ 医療面接・身体診察コース	⑮ 応用臨床コース																
⑧ 基礎医学（構造系）コース																	
3	臨床実習の運営に関すること。 学生に対し臨床実習のオリエンテーションを行う。 実習日程や配属先など全般的な事項を企画、臨床実習運営連絡協議会で報告・審議し、実習ディレクター（各附属病院・関連教育病院・海外実習病院の各診療科に所属する臨床実習の責任者をいう。別表第2において同じ。）とともに、屋根瓦方式の教育体制を含む実習計画の立案、準備、実施中の連絡、情報収集、事後の評価、再立案を行い、PDCA サイクルを推進する。																
4	教材の企画・開発及び ICT 活用教育に関すること。 共通教材及び教材を配布・閲覧する ICT システム等について、直接企画・開発する。その他、個別の授業教材について、各授業の担当教員や学生による企画・開発を支援する。																
5	臨床実習前の CBT、OSCE、卒業時 OSCE に関すること。 医学教育モデル・コア・カリキュラムをもとに、臨床実習前に修得しておくことが必要とされる知識・技能・態度を評価する CBT (computer-based testing)																

	及び OSCE (objective structured clinical examination)、さらには卒業時 OSCE について、シミュレーション教育部門とともに、立案、準備、実施、事後の評価、再立案を行い、試験の質に関する PDCA サイクルを推進する。
6	成績管理及び卒業判定に関すること。 各学生の各授業における日々の出欠状況及び成績に関する情報を収集し、成績管理・卒業判定委員会で報告・審議し、その結果を代表者会議で報告する。
7	学生相談に関すること。 学生に対し、主に心療内科、精神科等の医師、臨床心理士との連携の下、生活・健康・修学に関する相談窓口を設けるほか、学生の生活・健康・修学に関するパンフレットやウェブサイトを作成し、学生への周知を行う。さらに、各学生の各授業における出欠状況及び成績の情報、生活・健康・修学に関する情報収集を行い、問題の早期発見・早期介入を行う。
8	FD・SD の企画・運営に関すること。 教職員のニーズや授業評価等、学生の授業に対するニーズに関する情報収集を行い、教職員研修の立案、教材作成、準備、実施、事後の評価、再立案を行い、PDCA サイクルを推進する。
9	入学者選抜の管理に関すること。 学外の情報収集、アドミッション・ポリシーに則った入学者選抜に関する企画立案を行い、入学試験システム委員会に提案する。また、学生の入学後の修学・成績状況、卒業後の進路等の情報を収集し、選抜制度の見直しを行う。
10	多職種連携教育に関すること。 学内の他学部・学科の教職員との連携の下、他学部・学科の授業に関する情報や関連学術会議等の情報を収集し、本学の多職種連携教育に関する授業等の立案、準備、実施、事後の評価、再立案を行い、PDCA サイクルを推進する。
11	学外の医学教育の情報収集に関すること。 各業務及び大学の方針への反映に資するため、国内外の他の医科大学、他の医療専門職の教育機関等による発信情報、及び学術会議、全国医学部長病院長会議、医師会等の非政府機関による医学教育に関する方針、さらには文部科学省、厚生労働省、内閣府等の政府・行政機関、WHO、WFME 等の国際機関による医学教育に関する政策等の情報を収集し管理する。
12	医学教育の IR に関すること。 将来的に各ポリシーをはじめとする医学教育全般及び大学全体の運営方針の改善に資するため、各学生の入学から在学中、卒業後の進路等に関する情報を収集、分析し管理する。
13	医学教育の研究に関すること。 本学の医学教育に関する種々の試みを実証し、国内外の医学教育の質向上に資するため、センターの全教員及び一部の職員は、担当する業務に応じた研究課

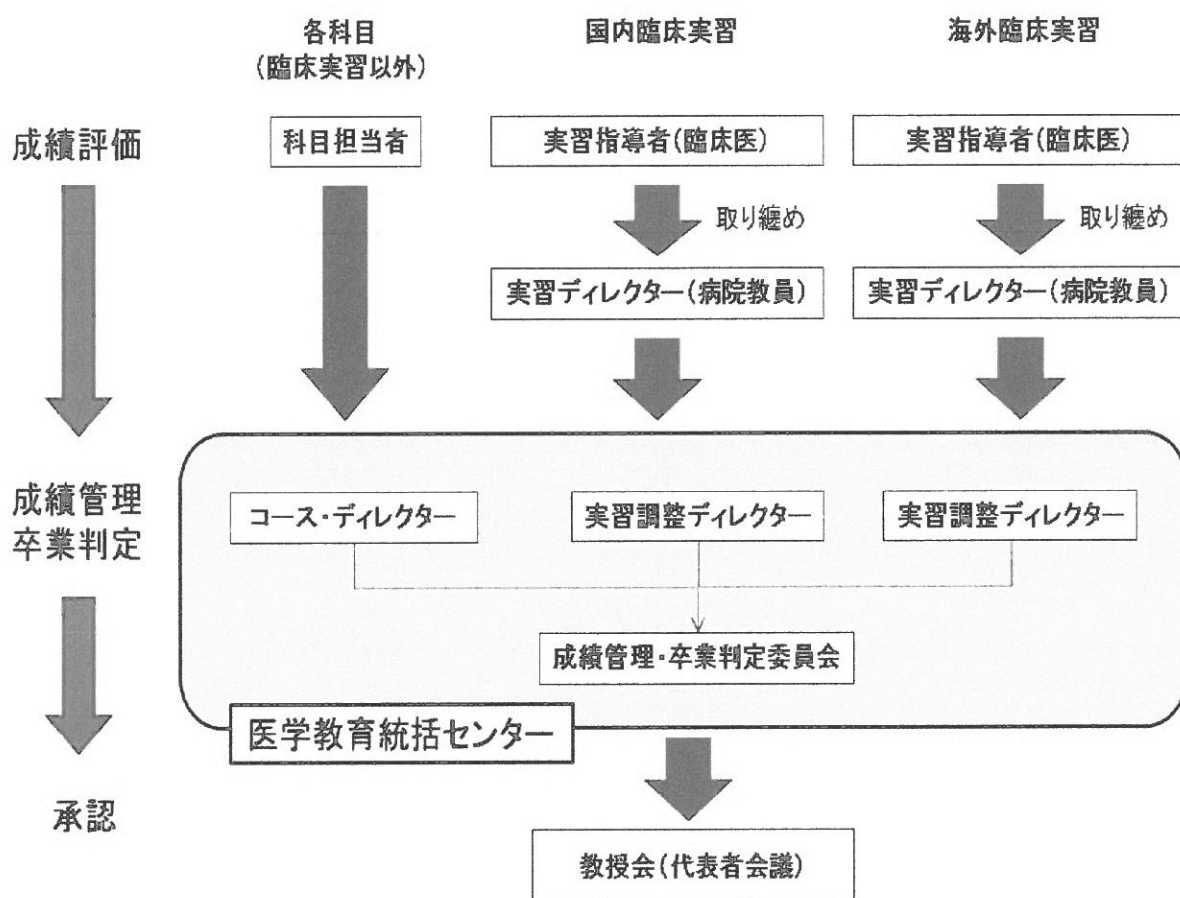
	題を設定し、研究の進捗状況を共有する。一方、次に掲げる国内外の医学教育に関する学術団体に所属し情報収集に努め、これらの学術集会、学術雑誌等に研究成果を発信する。 日本医学教育学会、日本シミュレーション医療教育学会、日本医学英語教育学会、日本保険医療福祉連携教育学会、医療系全国eラーニング交流会、AMEE（欧州医学教育学会）、AAMC（米国医科大学協会）、APMEC（アジア太平洋医学教育学会）等
14	医学教育の情報発信に関すること。 医学教育の質向上及び説明責任を果たすため、学内の学生、教職員、及び国内外の社会を対象として、ウェブサイト、SNS、その他の手段により、センターの業務に関する情報を発信する。
15	その他、医学教育・カリキュラムに関すること。
シミュレーション教育部門	
1	シミュレーション教育に係るカリキュラムの策定・評価・改定に関すること。 シミュレータや模擬患者等を活用する総合教育、専門教育の授業等の策定・評価及び改定を行う。
2	シミュレータの選定・管理に関すること。 国内外の医療系教育機関及び学術集会等でシミュレーション教育やシミュレータの情報を収集し、シミュレータの選定及び故障時や消耗品等の管理を行う。
3	模擬患者（SP）の養成に関すること。 学外の地域住民等と連携し、模擬患者の養成、登録、研修、及び模擬患者参加型授業やOSCE等の試験を担当する教職員へのFD・SDを実施した上で、各授業への派遣を行う。
4	その他、シミュレーション教育に関すること。

別表第2 委員会の役割、委員及び開催頻度(第9条関係)

カリキュラム委員会	
役割	カリキュラムの策定・実施・評価・改定に関する重要事項を審議
委員	センター長（委員長） コース・ディレクター 実習調整ディレクター シミュレーション教育部門の担当教員 その他センター長が指名する教職員
開催頻度	年3回以上
臨床実習運営連絡協議会	
役割	臨床実習の運営に関する重要事項の審議、連絡調整等
委員	センター長（委員長） 実習調整ディレクター 実習ディレクター 附属病院長 その他センター長が指名する教職員
開催頻度	年3回以上
成績管理・卒業判定委員会	
役割	成績管理・卒業判定に関する重要事項を審議 同委員会で、別紙のフローに従い、各学生の成績や卒業の判定について協議を行い、教授会の承認を得る。
委員	センター長（委員長） コース・ディレクター 実習調整ディレクター その他センター長が指名する教職員
開催頻度	年3回以上

成績管理・卒業判定のフロー（別表第2 関係）

医学教育統括センター 成績管理のフロー



7 その他全般的事項

<成田保健医療学部 理学療法学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 修了要件単位数 124単位 必修科目93単位、選択科目31単位 ② 施設・設備 a 講義室4室 (575.76㎡) 理学療法学科専用 b 自習室6室 (1,665.78㎡) 成田看護学部・成田保健医療学部共通 c 図書 設置時6,400冊、完成時予定16,000冊 成田看護学部・成田保健医療学部共通	① 当初の予定から変更なし ② 当初の予定から変更なし

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

学則に基づき大学としてFD委員会を置き、成田キャンパスには「成田キャンパスFD委員会」を設置している。（別紙2「国際医療福祉大学FD委員会規程」）

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

平成28年度は成田キャンパスのFD委員会を11回開催した。29年度は医学部、成田看護学部、成田保健医療学部の3学部合同で11人の委員によるFD委員会を既に1回開催している。
委員会は原則として月1回、毎月第3木曜日に開催される。

c 委員会の審議事項等

成田キャンパスFD委員会は、FD研修会の開催などによる教員の資質向上、授業アンケートの実施などを審議する。

② 実施状況

a 実施内容

①大学全体でのFD研修会（年2回、9月、3月）

②成田キャンパスにおけるFD研修会（年1回）

b 実施方法

①大学全体でのFD研修会（年2回、9月、3月）

各キャンパスが持ち回りで担当。外部講師を招聘し、ポートフォリオ、IPEなどのテーマで講演会を実施。

②成田キャンパスにおけるFD研修会（年1回）

年1回の開催に向け、FD委員会にて企画運営。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

①大学全体でのFD研修会（年2回、9月、3月）

＜2016年9月の実施テーマ＞

高等教育における21世紀型スキルの育成について（小田原キャンパスの企画運営にて実施）

参加状況：352 / 441 名 出席（出席率 79.8 %）

＜2017年3月の実施テーマ＞

平成28年度 学生が選ぶグッドティーチング賞表彰式・報告会／各キャンパスFD活動報告会

参加状況：337 / 436 名 出席（出席率 77.3 %）

②成田キャンパスにおけるFD研修会（年1回）

＜2016年度の実施テーマ＞

2年次からスタートする関連職種連携教育の準備として、「国際医療福祉大学における関連職種連携教育（IPE）」テーマとして2017年2月に開催した。

本学の特色あるカリキュラムとなる関連職種連携教育について、各教員が理解を深める機会となった。

参加状況：成田キャンパスに着任済の教員計51名が参加

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

実施後にアンケート等から各教員へフィードバックを実施した。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

大学全体の方針として、半期の場合は15回目、半期の半分の場合は8回目に授業アンケートを実施。さらに、成田看護学部、成田保健医療学部独自の方針として、半期で実施される科目の一部について中間アンケートを実施し、後半の授業運営改善の一助とした。

b 教員や学生への公開状況、方法等

各教員へは集計結果をフィードバック。学生はホームページなどで集計結果を公開している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

昨年4月に開設した、成田看護学部及び成田保健医療学部は、千葉県をはじめ南関東地域の保健・医療・福祉に関わる専門職の需要にこたえとともに、国際都市である成田の特徴を生かし、地域・国際社会でグローバルに活躍できる人材の育成を図るために、設置したものである。

本年4月入学の第2期生の募集に当たっては、成田看護学部が入学定員100人に対し、914人の志願者(志願倍率9.14倍)が、また、成田保健医療学部が入学定員240人に対し、1,615人の志願者(志願倍率6.72倍)があり、昨年を越える志願倍率(成田看護学部7.15倍、成田保健医療学部5.14倍)となった。最終的には、成田看護学部で107人、成田保健医療学部で254人の入学者を迎えることができ、昨年に引き続き順調な学生募集の実施と、優秀な人材の確保ができていていると考える。

また、本学教員による定期的な公開講座の実施や、地元産業および自治体と連携した講義の実施などにより、地域貢献を果たすとともに本学の理念の一つでもある「社会に開かれた大学」の体現を行っている。

開設2年目となり、設置時留意事項や昨年度の履行状況調査にて附された留意事項等、改善意見を踏まえ、可能な範囲で見直しを行い、大学運営の改善を行っているところである。今後も継続して改善を図り、学生に最適な学修環境の整備を進めていく。

本年4月に隣接する敷地に医学部が開設されたことにより、より実際の臨床現場に近い環境での職種間連携教育の実践や教育施設の相互利用による教育効果の向上が可能となる。

学部学科の連携を強固にすることで、これまで以上に保健・医療・福祉分野における優れた人材を養成していききたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

大学全体として平成29年度に、27～28年度を対象期間として3つのポリシー点検とPDCAサイクルの構築を中心に自己点検・評価を行う。29年度末までに点検を終え、報告書を公表することを目指している。

b 公表方法

大学ホームページに掲載するほか、関係する自治体・図書館・他大学などに報告書を配付し、本学への外部からの意見の収集に努める。

③ 認証評価を受ける計画

平成33年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受ける予定。

(注)・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 ・ 無)

b 公表時期(未公表の場合は予定時期)

(平成29年 5月 31日 頃)

国際医療福祉大学 FD 委員会規程

(設置)

第 1 条 国際医療福祉大学学則第 11 条に基づき、本学に FD 統括委員会（以下「統括委員会」という。）を置く。

2 各キャンパス及び医学部にキャンパス FD 委員会及び医学部 FD 委員会（以下「FD 委員会」という。）を置き、統括委員会がこれを統括する。

3 この規定において「委員会」とは、統括委員会及び FD 委員会を指す。

(目的及び責務)

第 2 条 委員会は、本学の定める教学の基本方針にしたがい、教育法の改善及び教員の資質の向上など FD（ファカルティ・ディベロプメント）に関して討議を行い、より質の高い教育方法の推進を図るものとする。

2 委員会で協議された内容については、常任理事会、経営会議及び管理運営委員会に適宜報告するものとする。

(統括委員会の構成)

第 3 条 統括委員会は、次の各号の委員をもって構成する。

- 一 学務部長
- 二 各 FD 委員会の委員長
- 三 事務局長
- 四 人事にかかる事務責任者
- 五 教務にかかる事務責任者

2 委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(FD 委員会の構成)

第 4 条 FD 委員会は、次の各号の委員をもって構成する。

- 一 学長が指名する専任教員
- 二 学長が指名する者
- 三 理事長が指名する者

2 委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置く。

2 FD 委員会においては、委員の中から学長が推薦し、理事長が指名する。

3 統括委員会においては、学務部長をもって委員長とする。

4 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

5 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代行する。

(委員会の成立)

第6条 委員会は、過半数の委員の出席により成立する。

(委員以外の出席)

第7条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(事務処理)

第8条 統括委員会の事務は東京事務部教務企画部が取り扱う。

2 FD 委員会の事務は、各キャンパス及び医学部の教務事務担当部署が取り扱う。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、常任理事会の承認事項とする。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人国際医療福祉大学

(2) 大学名

国際医療福祉大学

(3) 大学の位置

〒286-8686

千葉県成田市公津の杜4丁目3番

(本部：〒324-8501 栃木県大田原市北金丸2600番1)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(タカギ クニノリ) 高木 邦格 (平成7年4月)		
学 長	(キタジマ マサキ) 北島 政樹 (平成21年7月)	(オオトモ クニ) 大友 邦 (平成28年4月)	任期満了に伴う変更(28)
学 部 長	(スギハラ モトコ) 杉原 素子 (平成28年4月)		
学科長等	(コウノ マコト) 河野 眞 (平成28年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが、開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
成田保健医療学部 作業療法学科	保健衛生学 関係	4	40	—	160	
学士(作業療法 学)	(リハビリテー ション関係)					

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	40 (-) [-]		40 (-) [-]						1.06倍	
志願者数	106 (-) [0]	- (-) [-]	134 (-) [1]	- (-) [-]						
受験者数	105 (-) [0]	- (-) [-]	131 (-) [1]	- (-) [-]						
合格者数	65 (-) [0]	- (-) [-]	68 (-) [1]	- (-) [-]						
B 入学者数	43 (-) [0]	- (-) [-]	42 (-) [1]	- (-) [-]						
入学定員超過率 B/A	1.07		1.05							

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	43 [0] ()	[] ()	42 [1] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2 年次			42 [0] (0)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3 年次					[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
4 年次							[] ()	[] ()	
計	43 [0] ()		84 [1] (0)		[] ()		[] ()		

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成28年度 入学者	43 人	1 人	平成28年度	1 人	人	学生個人の心身に関する事情	2.32 %
			平成29年度	人	人		
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
平成29年度 入学者	42 人	0 人	平成29年度	人	人		0.00 %
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	0 人	平成30年度	人	人		#DIV/0! %
			平成31年度	人	人		
平成31年度 入学者	人	0 人	平成31年度	人	人		#DIV/0! %
合 計	85 人	1 人					1.17 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(1) 授業科目表

73 / 248

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					
			必修	選択	教員	准 教授	講 師	助 手	助 手	
総合教育（しき）	外国語系	英語A-1(聴読基礎)	1	前	1					兼1 教育効果を考慮し、兼任Christopher Thompson Littenを追加(29)
		英語A-2(聴読応用)	1	後	1					兼1 教育効果を考慮し、兼任Vivek Paul Pintoを追加(29)
		英語B-1(視聴覚英語基礎)	1	前	1					兼1
		英語B-2(視聴覚英語応用)	1	後	1					兼1
		英語A-3(聴読中級1)	2	3	4	前	1			兼1 教育効果を考慮し、兼任Vivek Paul Pintoを追加(29)
		英語A-4(聴読中級2)	2	3	4	後	1			兼1
		英語C-1(英会話初級)	2	3	4	前	1			兼1 教育効果を考慮し、兼任師岡ビビアンルイスに変更(29)
		英語C-2(英会話中級)	2	3	4	後	1			兼1
		英語ライティング1(Primary)	1	2	3	4	前	1		兼1 教育効果を考慮し、兼任師岡ビビアンルイスに変更(29)
		英語ライティング2(Basic)	1	2	3	4	後	1		兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任田中泰郎に変更(28)
		国際医療通訳入門	1	2	3	4	前	1		兼1 退職に伴い、兼任押味真之に変更(29)
		資格英語1(Primary)	1	2	3	4	前	1		兼1
		資格英語2(Basic)	1	2	3	4	後	1		兼1
		基礎英文法1(Primary)	1	2	3	4	前	1		兼1
		基礎英文法2(Basic)	1	2	3	4	後	1		兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任および効果的な教育のための少人数教育実践のため、担当教員の追加変更(28)
		上級英語文法読解	1	2	3	4	前	1		兼1
		上級英語会話1(発展)	1	2	3	4	前	1		兼1 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任師岡ビビアンルイスに変更(28)
		上級英語会話2(総合)	1	2	3	4	後	1		兼1
		ドイツ語入門(会話含む)	1	2	3	4	前	1		兼1 辞任に伴い、兼任栗風谷太一に変更(29)
		ドイツ語応用(会話含む)	1	2	3	4	後	1		兼1
		中国語入門(会話含む)	1	2	3	4	前	1		兼1 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任張佳恵に変更(28)
		中国語応用(会話含む)	1	2	3	4	後	1		兼1
		韓国語入門(会話含む)	1	2	3	4	前	1		兼1 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任崔誠姫に変更(28)
		韓国語応用(会話含む)	1	2	3	4	後	1		兼1
		フランス語入門(会話含む)	1	2	3	4	前	1		兼1
		フランス語応用(会話含む)	1	2	3	4	後	1		兼1
		スペイン語入門(会話含む)	1	2	3	4	前	1		兼1 教育効果を考慮しネイティブスピーカーである兼任Silvia Antoniaに変更(28)
		スペイン語応用(会話含む)	1	2	3	4	後	1		兼1
		タイ語入門(会話含む)	1	2	3	4	前	1		兼1
		タイ語応用(会話含む)	1	2	3	4	後	1		兼1
		ベトナム語入門(会話含む)	1	2	3	4	前	1		兼1
		ベトナム語応用(会話含む)	1	2	3	4	後	1		兼1 辞任に伴い、兼任小川有子に変更(29)
		ビルマ語入門(会話含む)	1	2	3	4	前	1		兼1
		ビルマ語応用(会話含む)	1	2	3	4	後	1		兼1 辞任に伴い、兼任水澤幸子に変更(29)
	留学生の日本語科目	日本語Ⅰ-A(作文)	1	2	3	4	前	1		兼1
		日本語Ⅰ-B(文法・語彙)	1	2	3	4	前	1		兼1
		日本語Ⅱ-A(作文)	1	2	3	4	後	1		兼1
		日本語Ⅱ-B(文法・語彙)	1	2	3	4	後	1		兼1
		日本語Ⅱ-C(発表討論)	1	2	3	4	前	1		兼2
		日本語Ⅱ-D(専門日本語)	1	2	3	4	前	1		兼1 新規教員の就任に伴い、兼任福田朋彰、品川なつき、山元一幸、加藤材太郎および兼任江頭由希を追加(29)
		日本語Ⅲ-A(作文)	1	2	3	4	後	1		兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任茅野正雄、小川美香に変更(28)
		日本語Ⅲ-B(文法・語彙)	1	2	3	4	後	1		兼1
		日本語Ⅲ-C(発表・討論)	1	2	3	4	前	1		兼1
		日本語Ⅲ-D(専門日本語)	1	2	3	4	前	1		兼1
	保健体育系	医療福祉専門漢字	1	2	3	4	後	1		兼2
		医療福祉専門語彙	1	2	3	4	後	1		兼1
		健康科学理論	1	2	3	4	前	1		兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任西田裕介に変更(28)
		健康科学実践	1	2	3	4	前	1		兼3 教育効果を考慮し、兼任志村圭大、澤藤一を追加(29)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					
			必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門教育	公衆衛生学	1 後	2								兼1 担当の専任教員着任に伴い、兼担衛生学に変更 (29) 就任辞退に伴い兼担小川俊夫に変更、教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	救急医学	2 3 4 前	1			1					教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	感染と免疫	1 2 3 4 後	2								兼4 退職に伴い、兼担長沢光章、梅宮敏文、工藤孝子、木村明彦子に追加変更 (29) 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼担林琢磨に変更、教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	リハビリテーション概論	1 前	2			1					兼1 教育効果を考慮し、兼担杉原素子に変更 (28)
	関連職種連携論	2 後	2			+					兼1 教育効果を考慮し、兼担城間将江に変更 (29)
	ケアマネジメント論	2 3 4 前	1								兼1 退職に伴い、兼担林和義に変更 (29) 就任辞退に伴い兼担井上善行に変更、教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	ケースワーク論	1 2 3 4 後	1								兼1 就任辞退に伴い、兼担樋口健一に変更 (29) 履修希望者がいなかったため (28)
	医療管理学	未開講 1 2 3 4 後	2								兼1 教育効果を考慮し兼担金野充博に変更、教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	保健医療福祉制度論	1 2 3 4 後	2								兼1 退職に伴い、兼担小林雅彦に変更 (29) 教育効果を考慮し兼担井上善行に変更、教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	社会福祉学	1 2 3 4 前	2								兼1 就任辞退に伴い兼担山川誠司に変更 (28)
	臨床心理学概論	2 前	2								兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼担宮崎宏行に変更 (29) 教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	医療情報学概論	2 3 4 後	2								兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い兼任中村美緒に変更 (28)
	福祉支援工学概論	1 2 3 4 前	2								兼1
	関連職種連携ワーク	3 前	1			1					兼4
	関連職種連携実習	4 前	1			1					兼4
	リスクマネジメント論	3 4 後	2								兼1
	電子カルテによるチーム医療概論	2 3 4 後	2								兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼担宮崎宏行に変更 (29) 教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	エビデンスベースドプラクティス（研究と文献）	2 3 4 前	1								兼1 教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	レクリエーション概論	3 4 後	1								兼2 教育効果を考慮し、兼担竹内真太を追加 (29)
	災害保健学	1 2 3 4 前	1						1		兼2 教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	予防保健学	1 2 3 4 前	1					+	1		兼1 教育効果を考慮し、専任石井清志に変更 (29) 兼3 教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	国際医療保健学	1 2 3 4 前後	1			1			1		兼1 教育効果を考慮し、専任石井清志を追加 (29) 兼3 教育効果を考慮し配当年次、開講期を変更 (28)
	異文化体験実習	1 2 3 4 後	1			+		1			兼6 教育効果を考慮し、専任園純一郎に変更 (29) 兼3 教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	解剖学Ⅰ（運動器系、循環器系）	1 前	1								兼3 教育効果を考慮し、担当の追加変更 (29)
	解剖学Ⅱ（内臓系、神経系、感覚器系）	1 後	1								兼3 教育効果を考慮し、担当の追加変更 (29)
	解剖学実習	1 後	1								兼2 教育効果を考慮し、担当の追加変更 (29)
	生理学Ⅰ（植物性機能）	1 前	1								兼4
	生理学Ⅱ（動物性機能）	1 後	1								兼1
	生理学実習	1 後	1								兼1
	運動学Ⅰ（基礎）	1 前	1					1			
	運動学Ⅱ（応用）	1 後	1					1			
	運動学実習	2 前	1					1			
	運動生理学	2 前	1					1			
	病理学	2 前	1			+					兼1 教育効果を考慮し、兼担扇見隆之に変更 (29)
	内科学	2 前	1								兼1
	神経学Ⅰ（基礎）	2 前	1								兼1
	神経学Ⅱ（臨床）	2 後	1								兼1
	整形外科Ⅰ（基礎）	2 前	1								兼1
	整形外科Ⅱ（臨床）	2 後	1								兼1
	精神医学Ⅰ（基礎）	2 後	1								兼1
	精神医学Ⅱ（臨床）	3 前	1								兼1
	小児科学	2 前	1								兼1
	老年学	3 前	1								兼1
	リハビリテーション医学	3 前	1								兼1
	人間発達学	1 後	1			1					
	病態生理学	2 3 4 後	1								兼1 教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	薬理学	2 3 4 前	1								兼1 教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	栄養学	2 3 4 前	1								兼1 教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	外科学	2 3 4 前	1			+					兼2 教育効果を考慮し、担当の追加変更 (29) 教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	脳神経外科学	2 3 4 後	1								兼1 教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	神経心理学概論	2 3 4 後	1								兼1 教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	対人援助論	1 2 3 4 後	1			1					教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
	国際医療保健学演習	2 3 4 後	1			1					兼3
	国際医療保健学実習	2 3 4 後	1			1					兼3

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				
			必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手
専門教育	作業療法概論	1 前	1			1				
	作業学概論	1 前	1			1				
	作業工程技術学・基礎論	1 前	1					1		
	作業工程技術学・応用論	3 後	1							
	作業分析学Ⅰ（基礎）	1 後	1					1		
	作業分析学Ⅱ（応用）	2 前	1					1		
	作業応用論	2 3 4 後	1			1	2 +	1		
	研究法概論	3 前	1					1		
	研究法演習	3 後	1			1		6	3	
	卒業研究	4 後	1			1		6	3	
	作業療法倫理・管理	4 後	1			1				
	作業療法総論	4 後	1			1				
	作業療法評価学概論	2 前	1			1				
	作業療法評価学各論	2 後	1					1		
	作業療法評価学演習	2 後	1					2 +		
	基礎運動機能評価法	2 前	1					4 +	1	
	生活機能論	2 前	1			1		1		
	基礎精神機能評価法	2 3 4 前	1					1		
	上肢機能評価法	2 3 4 後	1					1		
	日常生活活動評価法	2 3 4 後	1					1		
	高次脳機能評価法	2 3 4 後	1					1		
	作業療法適用学概論	2 後	1			1				
	内科系疾患作業療法学	3 前	1					1		
	運動器疾患作業療法学	3 前	1					1		
	中枢神経疾患作業療法学Ⅰ（総論）	3 前	1					1		
	中枢神経疾患作業療法学Ⅱ（各論）	3 後	1					1		
	精神疾患作業療法学Ⅰ（総論）	3 前	1			1				
	精神疾患作業療法学Ⅱ（各論）	3 後	1			1				
	小児作業療法学Ⅰ（総論）	3 前	1					1		
	小児作業療法学Ⅱ（各論）	3 後	1					1		
	老年作業療法学	3 前	1					1		
	認知障害作業療法学	3 前	1					1		
	作業療法諸理論	4 後	1						1	
	作業療法応用学概論	3 前	1			1				
	就学・就労支援論	3 前	1					1		
	生活技術学Ⅰ（総論）	2 後	1					1		
	生活技術学Ⅱ（各論）	3 前	1					1		
	コミュニケーション技術論	2 後	1					1		
	職業関連技術学	3 後	1			1				
	地域生活作業療法論	3 後	1					1		
	リハビリテーション英語Ⅰ（基礎）	2 3 4 前	1					2 +		
	リハビリテーション英語Ⅱ（応用）	2 3 4 後	1					2 +		
	災害リハビリテーション学	3 4 後	1			1				
	認知症作業療法特論	3 4 後	1					1		
	先端作業療法特論	1 2 3 4 後	1			1	+	1		
	地域生活支援論	3 4 後	1					1		
	障害代償学概論	3 前	1					1		
	住環境整備論	3 前	1					1		
	福祉適用論	3 後	1					1		
	装具・副具適用論	3 後	1					1		
	自助具・福祉機器適用論	3 後	1					1		
	バリアフリー論	2 3 4 前	1					1		
	臨床実習Ⅰ（早期臨床見学）	1 前	1			1	1	6	3	
	臨床実習Ⅱ（早期臨床体験）	2 後	1			1	1	6	3	
	臨床実習Ⅲ（臨床評価）	3 前	3			1		6	3	
	臨床実習Ⅳ（臨床推論）	3 後	5			1		6	3	
	総合実習Ⅰ（作業療法実践）	4 前	6			1		6	3	
	総合実習Ⅱ（作業療法実践）	4 前	6			1		6	3	
	地域生活支援システム実習	4 後	1			1		6	3	
	臨床実習ゼミⅠ（作業療法総論）	1 2 3 4 後	1			1	1	6	3	
	臨床実習ゼミⅡ（作業療法実践過程）	2 3 4 後	1			1	1	6	3	
	臨床実習ゼミⅢ（作業療法計画立案）	3 4 後	1			1		6	3	
	臨床実習ゼミⅣ（作業療法実践）	4 後	1			1		6	3	
	臨床実習特論	4 前	1			1		6	3	

- （注）・ 認可申請書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時（平成28年度に認可（届出）された大学等は設置認可（届出）時より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
- ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
- ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。（今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。）
- ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等（平成19年度認可以前）についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設 置 時 の 計 画				変 更 状 況				備 考
必 修	選 択	自 由	計 (A)	必 修	選 択	自 由	計	
科目 80	科目 127	科目 0	科目 207	科目 80 [0]	科目 127 [0]	科目 0 [0]	科目 207 [0]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は，「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり，何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は，「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{207} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て，小数点以下第2位までを記入してください。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が，「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	※大学全体			
	校 舎 敷 地	262,852㎡ 194,962㎡	0㎡	0㎡	262,852㎡ 194,962㎡	成田キャンパス（医学部）校地を無償借用のため増加（28） 小田原保健医療学部と小田原市とで土地の等価交換を行い、18㎡減少（H28）			
		運動場用地	88,807㎡ 83,147㎡	0㎡	0㎡		88,807㎡ 83,147㎡		
	小 計	351,659㎡ 283,796㎡	0㎡	0㎡	351,659㎡ 283,796㎡				
	そ の 他	372,772㎡ 372,790㎡	0㎡	0㎡	372,772㎡ 372,790㎡				
	合 計	724,431㎡ 656,559㎡	0㎡	0㎡	724,431㎡ 656,559㎡				
(2)校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
	143,615㎡ (143,615㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	143,615㎡ (143,615㎡)					
(3)教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	176室	60室	216室	18室 (補助職員 4人)	6室 (補助職員 0人)				
(4)専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	成田保健医療学部 作業療法学科			10 室					
(5)図書・設備	新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	成田保健医療学部共通 図書、視聴覚資料、機械・器具の増加分は新規購入による。学術雑誌の減少分は、H28報告時に誤って冊数をカウントしていたものを種数にて再カウントしたため（29）	
		〔うち外国書〕	〔うち外国書〕	電子ジャーナル					
		冊	種	〔うち外国書〕					点
	成田保健医療 学部	11,000 [1,540] 9,268 [604] 6,501 [264] (4,400 [616])	64 [20] 77 [13] 156 [0] (52 [16])	3,336 [2,205] 5,267 [4,004] 4,115 [2,892] (3,176 [2,086])	196 317 136 (44)	6,500 3,746 2,478 (6200)	590 175 113 (334)		
計	11,000 [1,540] 9,268 [604] 6,501 [264] (4,400 [616])	64 [20] 77 [13] 156 [0] (52 [16])	3,336 [2,205] 5,267 [4,004] 4,115 [2,892] (3,176 [2,086])	196 317 136 (44)	6,500 3,746 2,478 (6200)	590 175 113 (334)			
(6)図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	7,087.11㎡		1,613席		299,400冊				
(7)体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	5,715.34㎡		弓道場		テニスコート				
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	朱書修正金額は5学科 合計（H28）
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	477 44,000千円	87,750 32,000千円	16,000千円	
		共 同 研 究 費 等	1,500千円	3,000千円	設備購入費	153,900 373,480千円	900,000 459,800千円	18,500千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,550千円	1,450千円	1,450千円	1,450千円	一 千円	一 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資金運用収入 等						

- （注）・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - 「（5）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（29）」を「備考」に赤字で記入してください。
- なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - 国立大学については「（8）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学 の 名 称	国 際 医 療 福 祉 大 学							備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又は 称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地
年	人	年次 人	人	人	倍			
《AC対象学部等》								
医学部						1.00		
医学科	6	140	-	840	学士 (医学)	1.00	平成29年度	千葉県成田市 公津の杜4丁目3番
保健医療学部						1.11		
看護学科	4	115	-	415	学士 (看護学)	1.12	平成7年度	栃木県大田原市北金丸 2600番1
理学療法学科	4	100	-	340	学士 (理学療法 学)	1.12	平成7年度	同上
作業療法学科	4	80	-	320	学士 (作業療法 学)	1.12	平成7年度	同上
言語聴覚学科	4	80	-	320	学士 (言語聴覚 学)	1.09	平成7年度	同上
視機能療法学科	4	50	-	170	学士 (視機能療法 学)	1.11	平成14年度	同上
放射線・情報科学	4	120	-	420	学士 (放射線・情報 科学)	1.11	平成7年度	同上
医療福祉学部						1.01		
医療福祉・マシ ン学科	4	160	-	640	学士 (医療福祉 学) 学士 (医療マシ ン学)	1.01	平成9年度	同上
薬学部						1.08		
薬学科	6	180	-	1,080	学士 (薬学)	1.08	平成18年度	同上
小田原保健医療学部						1.13		
看護学科	4	80	-	320	学士 (看護学)	1.09	平成18年度	神奈川県小田原市城山一 丁目2番25号
理学療法学科	4	80	-	200	学士 (理学療法 学)	1.15	平成18年度	同上
作業療法学科	4	40	-	160	学士 (作業療法 学)	1.16	平成18年度	同上
福岡看護学部						1.15		
看護学科	4	100	-	360	学士 (看護学)	1.15	平成20年度	福岡市早良区 百道浜1-7-4
福岡保健医療学部						1.12		
理学療法学科	4	80	-	320	学士 (理学療法 学)	1.15	平成17年度	同上
作業療法学科	4	40	-	160	学士 (作業療法 学)	1.10	平成17年度	同上

言語聴覚学科	4	40	-	160	学士 (言語聴覚学)	1.13	平成19年度	同上	
医学検査学科	4	80	-	320	学士 (医学検査学)	1.09	平成25年度	同上	
成田看護学部						1.07			
看護学科	4	100	-	400	学士 (看護学)	1.07	平成28年度	千葉県成田市 公津の杜4丁目3番	
成田保健医療学部						1.06			
理学療法学科	4	80	-	320	学士 (理学療法学)	1.10	平成28年度	同上	
作業療法学科	4	40	-	160	学士 (作業療法学)	1.06	平成28年度	同上	
言語聴覚学科	4	40	-	160	学士 (言語聴覚学)	1.03	平成28年度	同上	
医学検査学科	4	80	-	320	学士 (医学検査学)	1.06	平成28年度	同上	
医療福祉学研究科 修士課程						1.39			
保健医療学専攻	2	100	-	200	修士 (保健医療学)	1.68	平成11年度	栃木県大田原市北金丸 2600番1	
					修士 (看護学)				
					修士 (助産学)				
					修士 (言語聴覚学)				
					修士 (生殖補助医療学)				
					修士 (医療福祉教育・管理学)				
					修士 (臨床検査学)				
医療福祉経営専攻	2	50	-	100	修士 (医療福祉学)	1.02	平成13年度	同上	
					修士 (診療情報管理学)				
					修士 (医療ビジネス経営学)				
					修士 (医療福祉管理学)				
					修士 (介護福祉・ケアマネジメント学)				
					修士 (医療福祉ジャーナリズム学)				
臨床心理学専攻	2	25	-	50	修士 (臨床心理学)	1.00	平成19年度	同上	
医療福祉学研究科 博士課程						1.38			

保健医療学専攻	3	50	-	150	博士 (保健医療学)	1.38	平成13年度	同上
					博士 (看護学)			
					博士 (助産学)			
					博士 (言語聴覚学)			
					博士 (生殖補助医療学)			
					博士 (臨床検査学)			
					博士 (医療福祉経営学)			
					博士 (医療福祉学)			
					博士 (診療情報管理学)			
					博士 (介護福祉・ケアマネジメント学)			
					博士 (臨床心理学)			
					博士 (医療福祉ジャーナリズム学)			
薬科学研究科 修士課程						0.20		
生命薬科学専攻	2	5	-	10	修士 (薬科学)	0.20	平成22年度	同上
薬学研究科 博士課程						0.45		
医療・生命薬学 専攻	4	5	-	20	博士 (薬学)	0.45	平成24年度	同上

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「一」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

(1) 担当教員表

33 / 248

設置時の計画					変更状況					備 考			
専任 兼担 兼任 の別	職 名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼担 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名				
専任	学科長 教授	コノ マコト 河野 真 (49)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	兼担	教授	城間 将江 (54)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	負担軽減の観点から、担当教員の追加（29）			
				国際医療保健学	専任	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	国際医療保健学	負担軽減の観点から、担当教員の追加（29）			
				異文化体験実習	兼担	准教授	森山 ますみ (54)	平成29年4月	異文化体験実習	負担軽減の観点から、担当教員の変更（29）			
					兼担	教授	小川 正子 (65)	平成29年4月					
					専任	講師	齋 純一郎 (48)	平成29年4月					
					兼担	助教	二田水 彩 (34)	平成29年4月					
					兼担	助教	河野 弥季 (34)	平成29年4月					
					兼担	助教	大石 慧子 (34)	平成29年4月					
				人間発達学									
				対人援助論									
				国際医療保健学演習									
				国際医療保健学実習									
				職業発達技術学									
				災害リハビリテーション学									
				作業療法概論									
				精神疾患作業療法Ⅰ（総論）									
				精神疾患作業療法Ⅱ（各論）									
				研究法演習									
				卒業研究									
				臨床実習Ⅰ（早期臨床見学）	専任	准教授	堀田 英樹 (49)	平成28年4月	臨床実習Ⅰ（早期臨床見学）	負担軽減の観点から担当追加（28）			
				臨床実習Ⅱ（早期臨床体験）	専任	准教授	堀田 英樹 (50)	平成29年4月	臨床実習Ⅱ（早期臨床体験）	負担軽減の観点から、担当教員の追加（29）			
				臨床実習Ⅲ（臨床評価）									
				臨床実習Ⅳ（臨床推論）									
				総合実習Ⅰ（作業療法実践）									
				総合実習Ⅱ（作業療法実践）									
				地域ケアシステム実習									
				臨床実習ゼミⅠ（作業療法総論）	専任	准教授	堀田 英樹 (49)	平成28年4月	臨床実習ゼミⅠ（作業療法総論）	負担軽減の観点から担当追加（28）			
				臨床実習ゼミⅡ（作業療法実践過程）									
				臨床実習ゼミⅢ（作業療法計画立案）									
				臨床実習ゼミⅣ（作業療法実践）									
				臨床実習特論									
												作業療法評価学概論	教育内容を考慮し、担当科目の追加（29）
											平成29年4月	作業療法応用学概論	
												大学入門講座Ⅱ（展開）	
専任	教授	ミヤ 哲郎 宮田 哲郎 (62)	平成28年4月	救急医学	兼担	准教授	志賀 隆 (40)	平成29年4月	救急医学	グループ内の人事異動に伴う所属の変更および、 教育内容を考慮し、担当教員の変更（29）			
				外科学	兼担	教授	藤井 正一 (53)	平成29年4月	外科学				
					兼担	教授	神森 直 (54)	平成29年4月					
専任	教授	ミイ 伊の 森 一郎 (64)	平成28年4月	病理学	兼担	教授	瀬見 隆之 (44)	平成29年4月	病理学	グループ内の人事異動に伴う所属の変更および、 教育内容を考慮し、担当教員の変更（29）			

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼担 兼任 の別	職 名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼担 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	講師	イン ジュンイ和の 園 純一郎 (47)	平成28年4月	予防保健学	専任	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	予防保健学	負担軽減の観点から、担当教員の変更 (29)
				作業療法評価学演習	専任	講師	中村 美穂 (38)	平成29年4月	作業療法評価学演習	負担軽減の観点から、担当教員の変更 (29)
				生活機能論	専任	教授	杉原 素子 (74)	平成29年4月	生活機能論	負担軽減の観点から、担当教員の変更 (30)
					専任	講師	小野 和美 (41)	平成29年4月		
				運動器疾患作業療法学						
				コミュニケーション技術論						
				研究法演習						
				卒業研究						
				臨床実習Ⅰ（早期臨床見学）	専任	准教授	堀田 英樹 (49)	平成28年4月	臨床実習Ⅰ（早期臨床見学）	負担軽減の観点から担当追加 (28)
				臨床実習Ⅱ（早期臨床体験）	専任	准教授	堀田 英樹 (50)	平成29年4月	臨床実習Ⅱ（早期臨床体験）	負担軽減の観点から、担当教員の変更 (29)
				臨床実習Ⅲ（臨床評価）						
				臨床実習Ⅳ（臨床推論）						
				総合実習Ⅰ（作業療法実践）						
				総合実習Ⅱ（作業療法実践）						
				地域ケアシステム実習						
				臨床実習ゼミⅠ（作業療法総論）	専任	准教授	堀田 英樹 (49)	平成28年4月	臨床実習ゼミⅠ（作業療法総論）	負担軽減の観点から担当追加 (28)
				臨床実習ゼミⅡ（作業療法実践過程）	専任	学科長 教授	河野 真 (50)	平成29年4月	臨床実習ゼミⅡ（作業療法実践過程）	負担軽減の観点から、担当教員の変更 (32)
				臨床実習ゼミⅢ（作業療法計画立案）						
				臨床実習ゼミⅣ（作業療法実践）						
				臨床実習特論						
								平成29年4月	異文化体験実習	教育内容を考慮し、担当科目の追加 (29)
								平成29年4月	上肢機能評価法	
								平成29年4月	基礎運動機能評価法	

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職 名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	講師	オノ カスミ 小野 和美 (40)	平成29年4月	作業工程技術学・応用論						
				作業療法評価学各論						
				基礎運動機能評価法	専任	講師	五味 常寛 (35)	平成29年4月	基礎運動機能評価法	負担軽減の観点から、担当教員の追加 (29)
					専任	講師	高 純一郎 (40)	平成29年4月		
					専任	講師	中村 美緒 (35)	平成29年4月		
					専任	助教	石井 大典 (32)	平成29年4月		
				上肢機能評価法	専任	講師	高 純一郎 (40)	平成29年4月	上肢機能評価法	負担軽減の観点から、担当教員の変更 (29)
				内科系疾患作業療法学						
				老年作業療法学						
				認知症作業療法特論						
				研究法演習						
				卒業研究						
				臨床実習Ⅰ（早期臨床見学）	専任	准教授	堀田 英樹 (49)	平成28年4月	臨床実習Ⅰ（早期臨床見学）	負担軽減の観点から担当追加 (28)
				臨床実習Ⅱ（早期臨床体験）	専任	准教授	堀田 英樹 (50)	平成29年4月	臨床実習Ⅱ（早期臨床体験）	負担軽減の観点から、担当教員の追加 (29)
				臨床実習Ⅲ（臨床評価）						
				臨床実習Ⅳ（臨床推論）						
				総合実習Ⅰ（作業療法実践）						
				総合実習Ⅱ（作業療法実践）						
				地域ケアシステム実習						
				臨床実習ゼミⅠ（作業療法総論）	専任	准教授	堀田 英樹 (49)	平成28年4月	臨床実習ゼミⅠ（作業療法総論）	負担軽減の観点から担当追加 (28)
				臨床実習ゼミⅡ（作業療法実践過程）	専任	学科長 教授	河野 真 (50)	平成29年4月	臨床実習ゼミⅡ（作業療法実践過程）	負担軽減の観点から、担当教員の変更 (29)
				臨床実習ゼミⅢ（作業療法計画立案）						
				臨床実習ゼミⅣ（作業療法実践）						
				臨床実習特論						
								平成29年4月	作業学概論	教育内容を考慮し、担当科目の追加 (29)
								平成29年4月	生活機能論	
								平成29年4月	基礎運動機能評価法	

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	講師	コシノ 幸寛 五味 幸寛 (34)	平成28年4月	運動学Ⅰ（基礎）						
				運動学Ⅱ（応用）						
				運動学実習						
				運動生理学						
				基礎精神機能評価法	専任	准教授	堀田 英樹 (50)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ（早期臨床見学）	負担軽減の観点から、担当教員の変更（29）
				高次脳機能評価法						
				中枢神経疾患治療法学Ⅰ（総論）						
				中枢神経疾患治療法学Ⅱ（各論）						
				認知障害治療法学						
				研究法演習						
				卒業研究						
				臨床実習Ⅰ（早期臨床見学）	専任	准教授	堀田 英樹 (49)	平成28年4月	臨床実習Ⅰ（早期臨床見学）	負担軽減の観点から担当追加（28）
				臨床実習Ⅱ（早期臨床体験）	専任	准教授	堀田 英樹 (50)	平成29年4月	臨床実習Ⅱ（早期臨床体験）	負担軽減の観点から、担当教員を追加（29）
				臨床実習Ⅲ（臨床評価）						
				臨床実習Ⅳ（臨床推論）						
				総合実習Ⅰ（作業療法実践）						
				総合実習Ⅱ（作業療法実践）						
				地域ケアシステム実習						
				臨床実習ゼミⅠ（作業療法総論）	専任	准教授	堀田 英樹 (49)	平成28年4月	臨床実習ゼミⅠ（作業療法総論）	負担軽減の観点から担当追加（28）
				臨床実習ゼミⅡ（作業療法実践過程）	専任	学科長 教授	河野 真 (50)	平成29年4月	臨床実習ゼミⅡ（作業療法実践過程）	負担軽減の観点から、担当教員の変更（29）
				臨床実習ゼミⅢ（作業療法計画立案）						
				臨床実習ゼミⅣ（作業療法実践）						
				臨床実習特論						
								平成29年4月	基礎運動機能評価法	教育内容を考慮し、担当科目の追加（29）

設 備 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任 兼担 兼任 の別	職 名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼担 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	講師	なかむら み 中村 美緒 (37)	平成28年4月	障害代償学概論						
				住環境整備論						
				義肢適用論						
				器具・副子適用論						
				自具・福祉機器適用論						
				バリアフリー論						
				研究法演習						
				卒業研究						
				臨床実習Ⅰ（早期臨床見学）	専任	准教授	堀田 英樹 (49)	平成28年4月	臨床実習Ⅰ（早期臨床見学）	負担軽減の観点から担当追加（28）
				臨床実習Ⅱ（早期臨床体験）	専任	准教授	堀田 英樹 (50)	平成29年4月	臨床実習Ⅱ（早期臨床体験）	負担軽減の観点から担当追加（29）
				臨床実習Ⅲ（臨床評価）						
				臨床実習Ⅳ（臨床推論）						
				総合実習Ⅰ（作業療法実践）						
				総合実習Ⅱ（作業療法実践）						
				地域ケアシステム実習						
				臨床実習ゼミⅠ（作業療法総論）	専任	准教授	堀田 英樹 (49)	平成28年4月	臨床実習ゼミⅠ（作業療法総論）	負担軽減の観点から担当追加（28）
				臨床実習ゼミⅡ（作業療法実践過程）	専任	学科長 教授	河野 直 (50)	平成29年4月	臨床実習ゼミⅡ（作業療法実践過程）	負担軽減を考慮し、担当教員の変更（29）
				臨床実習ゼミⅢ（作業療法計画立案）						
				臨床実習ゼミⅣ（作業療法実践）						
				臨床実習特論						
								平成29年4月	作業療法評価学演習	教育内容を考慮し、担当科目の追加（29）
								平成29年4月	基礎運動機能評価法	
								平成28年4月	福祉支援工学概論	教育内容からより適切な教員に変更（28）

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	講師	ヒラノ タケイ 平野 大輔 (34)	平成28年4月	作業工程技術学・基礎論						
				作業応用論	専任	准教授	堀田 英樹 (50)	平成29年4月	作業応用論	教育内容を考慮し、担当教員の追加 (29)
				研究法概論	専任	講師	山口 浩小聖 (35)			
				小児作業療法Ⅰ (総論)	兼任	講師	Sheffer Joshua (35)			
				小児作業療法Ⅱ (各論)						
				就学・就労支援論						
				先端作業療法特論	専任	准教授	堀田 英樹 (50)	平成29年4月	先端作業療法特論	教育内容を考慮し、担当教員の追加 (29)
				作業分析Ⅰ (基礎)						
				作業分析Ⅱ (応用)						
				研究法演習						
				卒業研究						
				臨床実習Ⅰ (早期臨床見学)	専任	准教授	堀田 英樹 (49)	平成28年4月	臨床実習Ⅰ (早期臨床見学)	負担軽減の観点から担当追加 (28)
				臨床実習Ⅱ (早期臨床体験)	専任	准教授	堀田 英樹 (50)	平成29年4月	臨床実習Ⅱ (早期臨床体験)	教育内容を考慮し、担当教員の追加 (29)
				臨床実習Ⅲ (臨床評価)						
				臨床実習Ⅳ (臨床推論)						
				総合実習Ⅰ (作業療法実践)						
				総合実習Ⅱ (作業療法実践)						
				地域ケアシステム実習						
				臨床実習ゼミⅠ (作業療法総論)	専任	准教授	堀田 英樹 (49)	平成28年4月	臨床実習ゼミⅠ (作業療法総論)	負担軽減の観点から担当追加 (28)
				臨床実習ゼミⅡ (作業療法実践過程)	専任	学部長 教授	河野 真 (50)	平成29年4月	臨床実習ゼミⅡ (作業療法実践過程)	負担軽減を考慮し、担当教員の変更 (29)
				臨床実習ゼミⅢ (作業療法計画立案)						
				臨床実習ゼミⅣ (作業療法実践)						
				臨床実習特論						

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	講師	ヤマウチ ガリ 山口 佳小里 (34)	平成28年4月	日常生活活動評価法						
				生活技術学Ⅰ（総論）						
				生活技術学Ⅱ（各論）						
				地域生活作業療法論						
				地域生活支援論						
				研究法演習						
				卒業研究						
				臨床実習Ⅰ（早期臨床見学）	専任	准教授	堀田 英樹 (49)	平成28年4月	臨床実習Ⅰ（早期臨床見学）	負担軽減の観点から担当追加（28）
				臨床実習Ⅱ（早期臨床体験）	専任	准教授	堀田 英樹 (50)	平成29年4月	臨床実習Ⅱ（早期臨床体験）	負担軽減の観点から、担当教員の変更（29）
				臨床実習Ⅲ（臨床評価）						
				臨床実習Ⅳ（臨床推論）						
				総合実習Ⅰ（作業療法実践）						
				総合実習Ⅱ（作業療法実践）						
				地域ケアシステム実習						
				臨床実習ゼミⅠ（作業療法総論）	専任	准教授	堀田 英樹 (49)	平成28年4月	臨床実習ゼミⅠ（作業療法総論）	負担軽減の観点から担当追加（28）
				臨床実習ゼミⅡ（作業療法実践過程）	専任	学科長 教授	河野 真 (50)	平成29年4月	臨床実習ゼミⅡ（作業療法実践過程）	負担軽減の観点から、担当教員の変更（29）
				臨床実習ゼミⅢ（作業療法計画立案）						
				臨床実習ゼミⅣ（作業療法実践）						
				臨床実習特論						
								平成29年4月	作業応用論	教育内容を考慮し、担当科目の追加（29）
専任	助教	イシイ ケン 石井 清志 (35)	平成28年4月	災害保健学						
				リハビリテーション英語Ⅱ（応用）	専任	助教	田中 幹和子 (34)	平成29年4月	リハビリテーション英語Ⅱ（応用）	教育内容を考慮し、担当教員の変更（29）
				研究法演習						
				卒業研究						
				臨床実習Ⅰ（早期臨床見学）	専任	准教授	堀田 英樹 (49)	平成28年4月	臨床実習Ⅰ（早期臨床見学）	負担軽減の観点から担当追加（28）
				臨床実習Ⅱ（早期臨床体験）	専任	准教授	堀田 英樹 (50)	平成29年4月	臨床実習Ⅱ（早期臨床体験）	負担軽減の観点から担当追加（29）
				臨床実習Ⅲ（臨床評価）						
				臨床実習Ⅳ（臨床推論）						
				総合実習Ⅰ（作業療法実践）						
				総合実習Ⅱ（作業療法実践）						
				地域ケアシステム実習						
				臨床実習ゼミⅠ（作業療法総論）	専任	准教授	堀田 英樹 (49)	平成28年4月	臨床実習ゼミⅠ（作業療法総論）	負担軽減の観点から担当追加（28）
				臨床実習ゼミⅡ（作業療法実践過程）	専任	学科長 教授	河野 真 (50)	平成29年4月	臨床実習ゼミⅡ（作業療法実践過程）	負担軽減の観点から、担当科目の変更（29）
				臨床実習ゼミⅢ（作業療法計画立案）						
				臨床実習ゼミⅣ（作業療法実践）						
				臨床実習特論						
								平成29年4月	リハビリテーション英語Ⅰ（基礎）	教育内容を考慮し、担当科目の追加（29）
								平成29年4月	予防保健学	

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼担 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼担 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	助教	イシイ タロウ 石井 大典 (31)	平成29年4月	作業療法論						
				研究法演習						
				卒業研究						
				臨床実習Ⅰ（早期臨床見学）	専任	准教授	堀田 英樹 (49)	平成28年4月	臨床実習Ⅰ（早期臨床見学）	負担軽減の観点から担当追加（28）
				臨床実習Ⅱ（早期臨床体験）	専任	准教授	堀田 英樹 (50)	平成29年4月	臨床実習Ⅱ（早期臨床体験）	負担軽減の観点から、担当教員を追加（29）
				臨床実習Ⅲ（臨床評価）						
				臨床実習Ⅳ（臨床推論）						
				総合実習Ⅰ（作業療法実践）						
				総合実習Ⅱ（作業療法実践）						
				地域ケアシステム実習						
				臨床実習ゼミⅠ（作業療法総論）	専任	准教授	堀田 英樹 (49)	平成28年4月	臨床実習ゼミⅠ（作業療法総論）	負担軽減の観点から担当追加（28）
				臨床実習ゼミⅡ（作業療法実践過程）	専任	学科長 教授	河野 真 (50)	平成29年4月	臨床実習ゼミⅡ（作業療法実践過程）	負担軽減の観点から、担当教員の変更（29）
				臨床実習ゼミⅢ（作業療法計画立案）						
				臨床実習ゼミⅣ（作業療法実践）						
				臨床実習特論						
								平成29年4月	基礎運動機能評価法	教育内容を考慮し、担当科目の追加（29）
専任	助教	タナカ サカ子 田中 紗和子 (33)	平成29年4月	リハビリテーション英語Ⅰ（基礎）	専任	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	リハビリテーション英語Ⅰ（基礎）	教育内容を考慮し、担当教員を追加（29）
				研究法演習						
				卒業研究						
				臨床実習Ⅰ（早期臨床見学）	専任	准教授	堀田 英樹 (49)	平成28年4月	臨床実習Ⅰ（早期臨床見学）	負担軽減の観点から担当追加（28）
				臨床実習Ⅱ（早期臨床体験）	専任	准教授	堀田 英樹 (50)	平成29年4月	臨床実習Ⅱ（早期臨床体験）	負担軽減の観点から、担当教員を追加（29）
				臨床実習Ⅲ（臨床評価）						
				臨床実習Ⅳ（臨床推論）						
				総合実習Ⅰ（作業療法実践）						
				総合実習Ⅱ（作業療法実践）						
				地域ケアシステム実習						
				臨床実習ゼミⅠ（作業療法総論）	専任	准教授	堀田 英樹 (49)	平成28年4月	臨床実習ゼミⅠ（作業療法総論）	負担軽減の観点から担当追加（28）
				臨床実習ゼミⅡ（作業療法実践過程）	専任	学科長 教授	河野 真 (50)	平成29年4月	臨床実習ゼミⅡ（作業療法実践過程）	負担軽減の観点から、担当教員の変更（29）
				臨床実習ゼミⅢ（作業療法計画立案）						
				臨床実習ゼミⅣ（作業療法実践）						
				臨床実習特論						
								平成28年4月	リハビリテーション英語Ⅱ（応用）	教育内容を考慮し、担当科目の追加（29）
兼担	教授	ウエノ トシキ 上野 俊昭 (52)	平成29年4月	脳神経外科学						
兼担	教授	ウチノ シンヤ 内田 信也 (47)	平成29年4月	国際医療保健学実習						
兼担	教授	オオカワ ススム 大川 遼 (68)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	兼担	教授	堀田 将江 (64)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	教育内容からより適切な教員へ変更（29）
				関連職種連携論					関連職種連携論	
				関連職種連携ワーク						
				関連職種連携実習						

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	カメグチ ケン 亀口 憲治 (68)	平成28年4月	臨床心理学概論 コミュニケーション概論 雑談と傾聴-話す力と聴く力-	兼任 助教		山川 誠司 (51)	平成28年4月	臨床心理学概論 コミュニケーション概論	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
					兼任 准教授		小野寺 敦志 (53)	平成28年4月		
					兼任 准教授		小島 秀吾 (46)	平成28年4月		
					兼任 准教授		渡辺野 茂幸 (50)	平成28年4月		
					兼任 准教授		白井 明美 (50)	平成28年4月		
					兼任 講師		矢口 大雄 (31)	平成28年4月		
					兼任 助教		山川 誠司 (52)	平成28年4月		
兼任	教授	カイ ヨコ 川合 陽子 (68)	平成28年4月	内科学						
兼任	教授	カノ トシ 河野 寿夫 (68)	平成28年4月	小児科学	兼任 教授		門脇 弘子 (69)	平成28年4月	小児科学	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
兼任	教授	コメリ ヒロシ 小堀 浩幸 (51)	平成28年4月	生理学Ⅰ（植物性機能） 生理学Ⅱ（動物性機能） 生理学実習 病理生理学 薬理学	兼任 講師		林 真理子 (47)	平成28年4月	生理学Ⅰ（植物性機能） 生理学Ⅱ（動物性機能） 生理学実習	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
					兼任 教授		岸 浩一郎 (64)	平成28年4月	薬理学	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
兼任	教授	シロノ マチ 城間 将江 (63)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習） 関連職種連携論 関連職種連携ワーク 関連職種連携実習 国際医療保健学演習						
兼任	教授	スエノ イチ 須藤 英一 (56)	平成30年4月	老年学	兼任 教授		瀧野 友彦 (48)	平成28年4月	老年学	就任経途に伴う教員の変更 (28)
兼任	教授	タケノ イサ 武原 格 (48)	平成30年4月	リハビリテーション医学	兼任 教授		栗松 祐佐 (41)	平成28年4月	リハビリテーション医学	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
兼任	教授	タカシ マサ 長沢 光章 (58)	平成28年4月	災害保健学	兼任 講師		三浦 和 (36)	平成28年4月	災害保健学	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
兼任	教授	ニシタ マサ 西田 裕介 (40)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習） レクリエーション概論 関連職種連携論 関連職種連携ワーク 関連職種連携実習	兼任 教授		城間 将江 (64)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
					兼任 准教授		堀田 英樹 (50)	平成28年4月		
					兼任 助教		竹内 真木 (31)	平成28年4月		
					兼任 教授		城間 将江 (64)	平成28年4月		
兼任	教授	ハシマツ マサ 栗松 祐佐 (42)	平成28年4月	整形外科Ⅰ（基礎） 整形外科Ⅱ（臨床）						

設置時の計画					変更状況					備 考		
専任 兼任 兼任 の別	職 名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名			
兼任	教授	ハヤシ タツヲ 林 琢磨 (51)	平成28年4月	生物学	兼任	講師	湯澤 聡 (46)	平成29年4月	生物学	退職により担当変更 (29)		
				国際医療通訳入門	兼任	准教授	神崎 真之 (44)	平成29年4月	国際医療通訳入門			
				異文化体験実習	兼任	准教授	森山 ますみ (54)	平成29年4月	異文化体験実習			
					兼任	教授	小川 正子 (65)	平成29年4月				
					専任	講師	園 純一郎 (48)	平成29年4月				
					兼任	助教	二田水 彩 (34)	平成29年4月				
					兼任	助教	河野 弥季 (34)	平成29年4月				
					兼任	助教	大石 斐子 (34)	平成29年4月				
兼任	教授	ハラタ ヒロミ 原田 浩美 (52)	平成28年4月	災害保健学						負担軽減の観点から担当変更 (29)		
				予防保健学	専任	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	予防保健学			
				国際医療保健学	専任	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	国際医療保健学		教育内容からより適切な教員へ変更 (29)	
				異文化体験実習	兼任	准教授	森山 ますみ (54)	平成29年4月	異文化体験実習		教育内容からより適切な教員へ変更 (29)	
					兼任	教授	小川 正子 (65)	平成29年4月				
					専任	講師	園 純一郎 (48)	平成29年4月				
					兼任	助教	二田水 彩 (34)	平成29年4月				
					兼任	助教	河野 弥季 (34)	平成29年4月				
					兼任	助教	大石 斐子 (34)	平成29年4月				
				災害リハビリテーション学								
兼任	教授	ミヤカ カケ 三宅 克也 (52)	平成28年4月	解剖学Ⅰ（運動器系、循環器系）	兼任	教授	松野 義晴 (51)	平成29年4月	解剖学Ⅰ（運動器系、循環器系）	効果的な実習実施のため、担当教員を追加 (29)		
					兼任	講師	吉岡 広陽 (42)	平成29年4月				
				解剖学Ⅱ（内臓学、神経系、感覚器系）	兼任	教授	松野 義晴 (51)	平成29年4月	解剖学Ⅱ（内臓学、神経系、感覚器系）	効果的な実習実施のため、担当教員を追加 (29)		
					兼任	講師	吉岡 広陽 (42)	平成29年4月				
					兼任	教授	松野 義晴 (51)	平成29年4月			解剖学Ⅲ（内臓学、神経系、感覚器系）	効果的な実習実施のため、担当教員を追加 (29)
					兼任	教授	松野 義晴 (51)	平成29年4月				
				解剖学実習	兼任	教授	松野 義晴 (51)	平成29年4月	解剖学実習	効果的な実習実施のため、担当教員を追加 (28)		
				兼任	教授	ヤマシタ カコ 山下 香枝子 (71)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	兼任	教授	城間 将江 (64)	平成29年4月
大学入門講座Ⅰ（基礎）	兼任	教授	松谷 有希雄 (67)					平成29年4月	大学入門講座Ⅰ（基礎）	負担軽減の観点から担当追加 (29)		
	兼任	教授	川上 和久 (58)					平成29年4月				
	兼任	教授	西田 裕介 (41)					平成29年4月				
	兼任	教授	木戸 久美子 (49)					平成29年4月				
	兼任	教授	梅井 正義 (89)					平成29年4月				
	兼任	准教授	吉田 浩吉 (64)					平成29年4月				
大学入門講座Ⅱ（展開）	兼任	助教	山川 諒司 (52)					平成29年4月	大学入門講座Ⅱ（展開）	負担軽減の観点から担当追加 (29)		
	兼任	教授	川上 和久 (58)					平成29年4月				
	兼任	教授	西田 裕介 (41)					平成29年4月				
	兼任	教授	河野 真 (50)					平成29年4月				
	兼任	教授	大澤 進 (68)					平成29年4月				
	兼任	教授	城間 将江 (64)					平成29年4月				
兼任	教授	ヤマモト シズコ 山本直子 (64)	平成28年4月	福祉支援工学概論	専任	講師	中村 美緒 (35)	平成28年4月	福祉支援工学概論	教育内容からより適切な教員に変更 (28)		
				人間工学	兼任	教授	宮嶋 宏行 (46)		人間工学			
兼任	准教授	イシヤマ ヒサコ 石山 寿子 (54)	平成29年4月	国際医療保健学実習								
兼任	准教授	シバタ マサミ 糸数 昌史 (38)	平成28年4月	予防保健学	専任	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	予防保健学	負担軽減の観点から担当追加 (29)		

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	准教授	オヤマキ シズエ 小山田 静枝 (49)	平成28年4月	精神医学Ⅰ（基礎）	兼任	教授	古城 康子 (66)	平成28年4月	精神医学Ⅰ（基礎）	教育内容からより適切な教員に変更（28）
				精神医学Ⅱ（臨床）					精神医学Ⅱ（臨床）	
				神経心理学概論	兼任	教授	鹿島 晴雄 (72)	平成29年4月	神経心理学概論	教育内容からより適切な教員に変更（28）
				人間学	兼任	教授	鹿島 晴雄 (71)	平成28年4月	人間学	教育内容からより適切な教員に変更（28）
兼任	准教授	カネコ ショウコ 金子 松五 (51)	平成28年4月	栄養学	兼任	教授	門脇 弘子 (68)	平成28年4月	栄養学	就任辞退に伴う教員の変更（28）
				食と人間					食と人間	
兼任	准教授	ウヰノウ ショウ 工藤 芳子 (53)	平成28年4月	予防保健学	専任	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	予防保健学	負担軽減の観点から担当変更（29）
				国際医療保健学	専任	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	国際医療保健学	教育内容からより適切な教員へ変更（29）
兼任	講師	シムラ タケタ 志村 圭太 (33)	平成28年4月	国際医療保健学	専任	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	国際医療保健学	負担軽減の観点から担当追加（29）
				国際医療保健学実習						
兼任	講師	スズキ シンコ 鈴木 純子 (47)	平成29年4月	神経学Ⅰ（基礎）	兼任	教授	後藤 朋 (61)	平成29年4月	神経学Ⅰ（基礎）	教育内容からより適切な教員へ変更（29）
				神経学Ⅱ（臨床）					神経学Ⅱ（臨床）	
兼任	講師	ミウラ ハナカ 三浦 和 (36)	平成28年4月	災害保健学						
				国際医療保健学演習	専任	教授	河野 真 (50)	平成29年4月	国際医療保健学演習	教育内容からより適切な教員へ変更（29）
				災害リハビリテーション学						
兼任	講師	ミヤベリ タカキ 宮森 隆行 (41)	平成28年4月	健康科学実践	兼任	講師	志村 圭太 (34)	平成29年4月	健康科学実践	負担軽減の観点から担当追加（29）
					兼任	助教	津 龍一 (29)	平成29年4月		
兼任	助教	アイカ ミチ 相川 倫 (36)	平成29年4月	国際医療保健学演習	専任	教授	河野 真 (50)	平成29年4月	国際医療保健学演習	教育内容からより適切な教員へ変更（29）
兼任	助教	サウ リョウイチ 澤 龍一 (28)	平成28年4月	異文化体験実習	兼任	准教授	森山 ますみ (54)	平成29年4月	異文化体験実習	負担軽減の観点から担当追加（29）
					兼任	教授	小川 正平 (85)	平成29年4月		
					兼任	講師	藤 純一郎 (48)	平成29年4月		
					兼任	助教	二田水 彩 (34)	平成29年4月		
					兼任	助教	河野 純孝 (24)	平成29年4月		
					兼任	助教	大石 雙子 (34)	平成29年4月		

5 教員組織の状況

<共通>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	アガタ トシコ 鞍 俊彦 (63)	平成28年4月	統計学 疫学・保健医療統計学	兼任	教授	稲垣 誠一 (60)	平成28年4月	統計学 疫学・保健医療統計学	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の 変更 (28)
兼任	教授	アマノ タカロ 天野 隆弘 (72)	平成28年4月	医学/医療史 エビデンスベースドプラクティス (研究と文 献)	兼任	教授	黒澤 和生 (56)	平成28年4月	医学/医療史	就任辞退に伴う教員の変更 (28)
兼任	教授	カサノ マサコ 小川 正子 (64)	平成28年4月	スペイン語入門(会話含む) スペイン語応用(会話含む)	兼任	講師	Silvia Antonia (53)	平成28年4月	スペイン語入門(会話含む) スペイン語応用(会話含む)	専門性を考慮し、ネイティブスピーカーの非常勤 教員に変更 (28)
兼任	教授	カメグチ カンジ 亀口 寛治 (68)	平成28年4月	臨床心理学概論 コミュニケーション概論 雑談と傾聴-話す力と聴く力-	兼任	助教	山川 誠司 (51)	平成28年4月	臨床心理学概論	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
					兼任	助教	山川 誠司 (51)	平成28年4月	コミュニケーション概論	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
					兼任	准教授	小野寺 敦志 (53)	平成29年4月		負担軽減の観点から担当追加 (29)
					兼任	准教授	小島 秀吾 (46)	平成29年4月		
					兼任	准教授	渡田野 茂幸 (50)	平成29年4月		
					兼任	准教授	白井 明美 (50)	平成29年4月		
					兼任	講師	矢口 大雄 (31)	平成29年4月		
					兼任	助教	山川 誠司 (52)	平成29年4月		
兼任	教授	カサノ マサコ 堀池 哲郎 (68)	平成28年4月	経済の仕組み 経済の歴史 世界の経済 世界遺産と国際文化政策	兼任	教授	堀岡 健一 (57)	平成28年4月	経済の仕組み	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
					兼任	教授	濱田 敏彰 (62)	平成29年4月	経済の歴史 世界の経済	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
					兼任	教授	佐藤 誠一 (74)	平成28年4月	世界遺産と国際文化政策	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
兼任	教授	キタムラ ヨシヒロ 北村 義浩 (55)	平成28年4月	国際医療福祉論 公衆衛生学 感染と免疫	兼任	准教授	榎本 文宏 (46)	平成29年4月	公衆衛生学	担当の教員の成田キャンパス着任に伴う。変更 (29)
					兼任	准教授	中山 悦夫 (50)	平成29年4月	公衆衛生学	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
					兼任	教授	長沢 光章 (59)	平成29年4月		退職による担当変更 (29)
					兼任	准教授	梅宮 敏文 (62)	平成29年4月		
					兼任	准教授	工藤 芳子 (54)	平成29年4月	感染と免疫	
					兼任	講師	木村 明佐子 (41)	平成29年4月		
					兼任	教授	林一穂穂 (51)	平成29年4月		教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
兼任	教授	シマダ ナオキ 島田 直樹 (52)	平成28年4月	数学	兼任	教授	稲垣 誠一 (60)	平成28年4月	数学	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の 変更 (28)
兼任	教授	スドウ イイイ 須藤 英一 (56)	平成30年4月	老年学	兼任	教授	清野 次郎 (48)	平成29年4月	老年学	就任辞退に伴う教員の変更 (28)
兼任	教授	タカハラ イサム 武原 格 (48)	平成30年4月	リハビリテーション医学	兼任	教授	栗松 祐佐 (41)	平成28年4月	リハビリテーション医学	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の 変更 (28)

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	タカハシ 正徳 (66)	平成28年4月	哲学 倫理学						
兼任	教授	チノシロ ミカ 茶園 美香 (66)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習） 関連職種連携論 関連職種連携ワーク 関連職種連携実習	兼任	教授	城間 将江 (64)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習） 関連職種連携論	教育内容からより適切な教員へ変更（29）
兼任	教授	ニシタ コウジ 西田 裕介 (40)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習） レクリエーション概論 関連職種連携論 関連職種連携ワーク 関連職種連携実習	兼任	教授	城間 将江 (64)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習） レクリエーション概論 関連職種連携論	教育内容からより適切な教員へ変更（29） 負担軽減の観点から担当変更（29） 教育内容からより適切な教員へ変更（29）
兼任	教授	エダ 聡子 堀田 聡子 (39)	平成28年4月	ケアマネジメント論 社会福祉学	兼任	准教授	林 和実 (57)	平成29年4月	ケアマネジメント論	教育内容からより適切な教員へ変更（29）
					兼任	准教授	井上 善行 (44)	平成29年4月		就任辞退に伴う教員の変更（29）
					兼任	教授	小林 雅彦 (59)	平成29年4月	社会福祉学	教育内容からより適切な教員へ変更（29）
					兼任	准教授	井上 善行 (44)	平成29年4月		就任辞退に伴う教員の変更（29）
兼任	教授	マキ カズシ 丸木 一成 (67)	平成28年4月	社会保障制度論 マスメディア論 新聞でみた日本と世界	兼任	教授	金野 充博 (59)	平成28年4月	社会保障制度論 マスメディア論 新聞でみた日本と世界	就任辞退に伴う教員の変更（28） 成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更（28）
兼任	教授	マサキ ヒロシ 丸山 仁司 (65)	平成28年4月	医療福祉教養講義	兼任	教授	谷口 敦通 (51)	平成29年4月	医療福祉教養講義	教育内容からより適切な教員へ変更（29）
兼任	教授	ミヤギ ミチ 宮崎 路子 (58)	平成28年4月	英語Ⅰ-1（視聴覚英語基礎） 英語Ⅰ-2（視聴覚英語応用） 英語ライティングⅠ（Primary） 英語ライティングⅡ（Basic） 基礎英文法Ⅰ（Primary） 基礎英文法Ⅱ（Basic）	兼任	講師	佐藤 寛子 (44)	平成29年4月	英語Ⅰ-1（視聴覚英語基礎）	教育内容からより適切な教員へ変更（29） 成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更（28）
					兼任	准教授	田中 孝郎 (67)	平成29年4月		教育内容からより適切な教員へ変更（29） 成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更（28）
					兼任	講師	佐藤 寛子 (44)	平成29年4月	英語Ⅰ-2（視聴覚英語応用）	教育内容からより適切な教員へ変更（29）
					兼任	准教授	田中 孝郎 (67)	平成29年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更（28）
					兼任	講師	師岡ビビアンル イーズ (60)	平成29年4月	英語ライティングⅠ（Primary）	教育内容からより適切な教員へ変更（29）
					兼任	准教授	田中 孝郎 (67)	平成29年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更（28）
					兼任	講師	師岡ビビアンル イーズ (60)	平成29年4月	英語ライティングⅡ（Basic）	教育内容からより適切な教員へ変更（29）
					兼任	准教授	田中 孝郎 (67)	平成29年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更（28）
					兼任	准教授	田中 孝郎 (58)	平成29年4月	基礎英文法Ⅰ（Primary）	負担軽減のため担当変更（29）
					兼任	講師	Gosmin-Florescu (38)	平成28年4月	基礎英文法Ⅰ（Primary）	成田キャンパス所属の担当教員兼任および効果的な教育のための少人数教育実践のため一教員の追加実施（28）
					兼任	准教授	田中 孝郎 (58)	平成29年4月	基礎英文法Ⅱ（Basic）	負担軽減のため担当変更（29）
					兼任	講師	Gosmin-Florescu (38)	平成28年4月	基礎英文法Ⅱ（Basic）	成田キャンパス所属の担当教員兼任および効果的な教育のための少人数教育実践のため一教員の追加実施（28）

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	ムロ マサキ 武藤 正樹 (67)	平成28年4月	リスクマネジメント論						
				経営の仕組み	兼任	准教授	羽田 明浩 (53)	平成28年4月	経営の仕組み	教育内容からより適切な教員に変更 (28)
				組織運営管理論					組織運営管理論	
				保健医療福祉制度論	兼任	教授	金野 充博 (59)	平成28年4月	保健医療福祉制度論	教育内容からより適切な教員に変更 (28)
兼任	教授	モモイ マリコ 桃井 真理子 (68)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅰ（講義）	兼任	教授	城間 将江 (64)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅰ（講義）	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
兼任	教授	ヤマシタ カコ 山下 香枝子 (71)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	兼任	教授	城間 将江 (64)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
				大学入門講座Ⅰ（基礎）	兼任	教授	松谷 有希雄 (67)	平成29年4月	大学入門講座Ⅰ（基礎）	負担軽減の観点から担当追加 (29)
					兼任	教授	川上 和久 (59)	平成29年4月		
					兼任	教授	西田 裕介 (41)	平成29年4月		
					兼任	教授	木戸 久美子 (48)	平成29年4月		
					兼任	教授	橋井 正義 (69)	平成29年4月		
					兼任	准教授	吉田 浩吉 (64)	平成29年4月		
					兼任	助教	山川 誠司 (52)	平成29年4月		
					兼任	教授	杉原 素子 (74)	平成29年3月		
				大学入門講座Ⅱ（展開）	兼任	教授	川上 和久 (59)	平成29年4月	大学入門講座Ⅱ（展開）	負担軽減の観点から担当追加 (29)
					兼任	教授	西田 裕介 (41)	平成29年4月		
					専任	教授	河野 真 (50)	平成29年4月		
					兼任	教授	大澤 進 (69)	平成29年4月		
					兼任	教授	杉原 素子 (74)	平成29年3月		
					兼任	教授	城間 将江 (64)	平成29年4月		
				福祉支援工学概論	兼任	講師	中村 美緒 (35)	平成28年4月	福祉支援工学概論	教育内容からより適切な教員に変更 (28)
				人間工学	兼任	教授	宮嶋 宏行 (46)	平成28年4月	人間工学	教育内容からより適切な教員に変更 (28)
兼任	准教授	イシヤマ ヒサコ 石山 寿子 (54)	平成29年4月	国際医療保健学実習						
兼任	准教授	イノエ ヨシタ 井上 善行 (41)	平成28年4月	ケースワーク論	兼任	准教授	林 和恵 (57)	平成29年4月	ケースワーク論	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
兼任	准教授	オオishi タカシ 大石 剛史 (40)	平成28年4月	ボランティア論						
				ボランティアコーディネート論	兼任	准教授	吉田 浩吉 (64)	平成29年4月	ボランティアコーディネート論	退職に伴い教員の変更 (29)
					兼任	准教授	井上 善行 (41)	平成28年4月		教育内容からより適切な教員に変更 (28)
兼任	准教授	オカムラ セリナ 岡村 世里奈 (45)	平成28年4月	医療管理学	兼任	教授	埴岡 健一 (57)	平成28年4月	医療管理学	教育内容からより適切な教員に変更 (28)
				医療関連法規						
兼任	准教授	カネコ シュンイロ 金子 純一朗 (46)	平成28年4月	健康科学理論	兼任	教授	西田 裕介 (40)	平成28年4月	健康科学理論	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (28)
兼任	准教授	カネコ ショウコ 金子 松五 (51)	平成28年4月	栄養学	兼任	教授	門脇 弘子 (68)	平成28年4月	栄養学	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (28)
				食と人間					食と人間	
兼任	准教授	サカイ ケイ 齋藤 恵一 (58)	平成29年4月	医療情報学概論	兼任	教授	宮嶋 宏行 (47)	平成28年4月	医療情報学概論	教育内容からより適切な教員に変更 (28)
				電子カルテによるチーム医療概論					電子カルテによるチーム医療概論	

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	准教授	サトウ チ 齋藤 智恵 (46)	平成28年4月	英語A-1(講義基礎)	兼任	講師	Christopher Thomson Litten (33)	平成28年4月	英語A-1(講義基礎)	教育内容からより適切な教員に変更(29)
				英語A-2(講義応用)	兼任	講師	佐藤一寛子 (44)	平成28年4月	英語A-2(講義基礎)	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(28)
				英語C-1(英会話初級)	兼任	講師	Vivek Paul Pinto (65)	平成28年4月	英語A-2(講義基礎)	教育内容からより適切な教員に変更(29)
				英語C-2(英会話中級)	兼任	講師	佐藤一寛子 (44)	平成28年4月	英語A-2(講義基礎)	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(28)
				上級英語文獻講義	兼任	講師	師岡ビビアンル イーズ (60)	平成28年4月	英語C-1(英会話初級)	教育内容からより適切な教員に変更(29)
				上級英語会話1(発展)	兼任	講師	師岡ビビアンル イーズ (60)	平成28年4月	英語C-2(英会話中級)	教育内容からより適切な教員に変更(29)
				上級英語会話2(総合)	兼任	講師	師岡ビビアンル イーズ (60)	平成28年4月	英語C-2(英会話中級)	教育内容からより適切な教員に変更(29)
					兼任	講師	佐藤一寛子 (44)	平成28年4月	上級英語文獻講義	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(28)
					兼任	講師	Gemma Florescu (36)	平成28年4月	上級英語文獻講義	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(28)
					兼任	講師	師岡ビビアンル イーズ (59)	平成28年4月	上級英語会話1(発展)	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(28)
兼任	准教授	チン カツ 陳 麗琴 (59)	平成28年4月	中国語入門(会話含む)	兼任	講師	張 佳恵 (50)	平成28年4月	中国語入門(会話含む)	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更(28)
				中国語応用(会話含む)					中国語応用(会話含む)	
兼任	准教授	フカイ ユヰ 福井 隼 (44)	平成28年4月	歴史学	兼任	講師	町田 明広 (54)	平成28年4月	歴史学	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更(28)
			平成28年4月	日本近現代史						
			平成28年4月	韓国語入門(会話含む)	兼任	講師	崔 誠姫 (50)	平成28年4月	韓国語入門(会話含む)	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更(28)
			平成28年4月	韓国語応用(会話含む)					韓国語応用(会話含む)	
兼任	准教授	ミヤマ マチ 森山 ますみ (52)	平成28年4月	世界の中の文化						
兼任	講師	イシノリ ソウイチ 井尻 総一郎 (38)	平成28年4月	化学	兼任	准教授	清宮 正徳 (52)	平成28年4月	化学	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(28)
兼任	講師	イノノ マキ 磯野 真穂 (38)	平成28年4月	文化人類学	兼任	教授	加藤 尚子 (52)	平成28年4月	文化人類学	就任辞退に伴う教員の変更(28)
兼任	講師	おかう オトシ 岡村 直利 (45)	平成28年4月	物理学	兼任	教授	宮嶋 宏行 (46)	平成28年4月	物理学	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(28)
兼任	講師	サトウ カツ 佐藤 寛子 (44)	平成28年4月	英語A-3(講義中級1)	兼任	講師	Vivek Paul Pinto (65)	平成28年4月	英語A-3(講義中級1)	教育内容からより適切な教員に変更(29)
				英語A-4(講義中級2)					英語A-4(講義中級2)	
				資格英語1(Primary)						
				資格英語2(Basic)						
				フランス語入門(会話含む)						
				フランス語応用(会話含む)						
兼任	講師	イサノ フミヤ 江田 晋也 (37)	平成28年4月	情報処理Ⅰ(初歩)	兼任	教授	稲垣 誠一 (60)	平成28年4月	情報処理Ⅰ(初歩)	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(28)
				情報処理Ⅱ(基礎)	兼任	教授	宮嶋 宏行 (46)	平成28年4月	情報処理Ⅱ(基礎)	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更(28)
				情報処理Ⅲ(応用)					情報処理Ⅲ(応用)	
兼任	講師	テラシ ヨシタカ 寺田 佳孝 (33)	平成28年4月	教育学						
兼任	助教	オホカ ヒサシ 大塚 尚 (36)	平成28年4月	心理学	兼任	講師	矢口 大雄 (31)	平成28年4月	心理学	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更(28)

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	助教	キタノ リサヲ 木村 亮子 (34)	平成28年4月	日本語Ⅰ-A(作文)	兼任	講師	品川 なぎさ (40)	平成29年4月	日本語Ⅰ-A(作文)	産休に伴う担当教員の変更 (29)
					兼任	講師	小川 美香 (40)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (29)
				日本語Ⅱ-A(作文)	兼任	講師	稲田 朋章 (42)	平成29年4月	日本語Ⅱ-A(作文)	産休に伴う担当教員の変更 (29)
					兼任	講師	小川 美香 (40)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (29)
				日本語Ⅱ-C(発表討論)	兼任	講師	品川 なぎさ (45)	平成29年4月	日本語Ⅱ-C(発表討論)	産休に伴う担当教員の変更 (29)
					兼任	講師	小川 美香 (40)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (29)
				日本語Ⅲ-A(作文)	兼任	講師	山元 一見 (32)	平成28年4月	日本語Ⅲ-A(作文)	産休に伴う担当教員の変更 (29)
					兼任	講師	小川 美香 (40)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (29)
				日本語Ⅲ-C(発表・討論)	兼任	講師	加藤 林太郎 (36)	平成29年4月	日本語Ⅲ-C(発表・討論)	産休に伴う担当教員の変更 (29)
					兼任	講師	小川 美香 (40)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (29)
				医療福祉専門漢字	兼任	講師	江頭 由美 (56)	平成29年4月	医療福祉専門漢字	産休に伴う担当教員の変更 (29)
					兼任	講師	小川 美香 (40)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (29)
兼任	助教	サライ あみ 櫻井 留美 (29)	平成28年4月	日本語Ⅰ-B(文法・語彙)	兼任	講師	品川 なぎさ (45)	平成29年4月	日本語Ⅰ-B(文法・語彙)	教育効果を考慮し、兼任品川なぎさに変更 (29)
					兼任	講師	茅野 雅雄 (60)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (29)
				日本語Ⅱ-B(文法・語彙)	兼任	講師	稲田 朋章 (42)	平成29年4月	日本語Ⅱ-B(文法・語彙)	教育効果を考慮し、兼任稲田朋章に変更 (29)
					兼任	講師	茅野 雅雄 (60)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (29)
				日本語Ⅱ-D(専門日本語)	兼任	講師	茅野 雅雄 (60)	平成28年4月	日本語Ⅱ-D(専門日本語)	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (28)
				日本語Ⅲ-B(文法・語彙)	兼任	講師	山元 一見 (32)	平成29年4月	日本語Ⅲ-B(文法・語彙)	教育効果を考慮し、兼任山元一見に変更 (29)
					兼任	講師	茅野 雅雄 (60)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (29)
				日本語Ⅲ-D(専門日本語)	兼任	講師	加藤 林太郎 (36)	平成29年4月	日本語Ⅲ-D(専門日本語)	教育効果を考慮し、兼任加藤林太郎に変更 (29)
					兼任	講師	茅野 雅雄 (60)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (29)
				医療福祉専門語彙	兼任	講師	江頭 由美 (56)	平成29年4月	医療福祉専門語彙	教育効果を考慮し、兼任江頭由美に変更 (29)
					兼任	講師	茅野 雅雄 (60)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (29)
兼任	講師	アサキ キョウ 青木 清 (78)	平成28年4月	生命倫理	専任	教授	橋井 正義 (68)	平成28年4月	生命倫理	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (28)
兼任	講師	エビハラ クニオ 海老原 邦雄 (63)	平成28年4月	防災と生活デザイン	兼任	講師	橋 秀樹 (75)	平成28年4月	防災と生活デザイン	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更 (28)
兼任	講師	オオノ トシキ 大野 聡明 (64)	平成28年4月	国際関係論	兼任	教授	村上 大介 (60)	平成29年4月	国際関係論	教育内容からより適切な教員に変更 (28)
					兼任	教授	高須賀一茂文 (46・2)	平成28年6月		成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (28)
				アジア諸国の経済・社会・文化	兼任	教授	村上 大介 (60)	平成29年4月	アジア諸国の経済・社会・文化	教育内容からより適切な教員に変更 (28)
					兼任	教授	高須賀一茂文 (46・2)	平成28年6月		成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (28)
兼任	講師	オオハシ ケンジ 大場 建治 (84)	平成28年4月	文学	兼任	講師	秋原 北風 (53)	平成28年4月	文学論	講義のため科目名修正。成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更 (28)
兼任	講師	オノ ケンジ 岡野 賢二 (49)	平成28年4月	ビルマ語入門(会話含む)						
				ビルマ語応用(会話含む)	兼任	講師	大澤 幸子 (46)	平成29年4月	ビルマ語応用(会話含む)	教育内容からより適切な教員に変更 (29)
兼任	講師	オコカウチ ケン 押小路 忠昭 (55)	平成28年4月	社会学 (人間と社会)	兼任	教授	川上 和久 (58)	平成28年4月	社会学 (人間と社会)	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (28)

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	サトウ リノ 佐藤 里野 (35)	平成28年4月	演劇論	兼任	講師	秋原 北風 (53)	平成28年4月	演劇論	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更 (28)
兼任	講師	ウミス エリ 清水 英里 (44)	平成28年4月	ベトナム語入門(会話含む) ベトナム語応用(会話含む)	兼任	講師	小川 有子 (46)	平成29年4月	ベトナム語入門(会話含む) ベトナム語応用(会話含む)	教育内容からより適切な教員に変更 (28)
兼任	講師	ストウ マサヒコ 須藤 正彦 (73)	平成28年4月	法学 法と道徳・倫理	兼任	講師	伊東 達也 (52)	平成28年4月	法学 法と道徳・倫理	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更 (28)
兼任	講師	スニサ ウィッタヤパニヤノン Sunisa Wittayapanyanon (46)	平成28年4月	タイ語入門(会話含む) タイ語応用(会話含む)						
兼任	講師	タカヤマ ノボル 高山 昇 (52)	平成28年4月	パフォーマンス表現論						
兼任	講師	タニ チカ 谷 千春 (55)	平成28年4月	手話入門						
兼任	講師	トキヲ マサキ 時田 正樹 (64)	平成28年4月	郷土論	兼任	教授	川上和久 (58)	平成28年4月	郷土論	就任辞退に伴う教員の変更と、専門性の深化を図り、地方自治体および地域と連携する科目としてオムニバス化 (28)
兼任	講師	トマツ ヨシハル 戸松 義晴 (62)	平成28年4月	宗教学 死生学-死を通して生を考える						
兼任	講師	ベッポウ ミチコ 別府 美知子 (55)	平成28年4月	メディカルマナー入門	兼任	教授	谷口 敬道 (51)	平成29年4月	メディカルマナー入門	負担軽減の観点から担当追加 (29)
兼任	講師	ハッガーラース フラウク ウィルヘルム フランク Beuer-Lars Frank Wilhelm Achim (27)	平成28年4月	ドイツ語入門(会話含む) ドイツ語応用(会話含む)	兼任	講師	東風谷 太一 (38)	平成29年4月	ドイツ語入門(会話含む) ドイツ語応用(会話含む)	教育内容からより適切な教員に変更 (29)

- (注)・申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- ・後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における属年齢を、「変更状況」には平成28年5月1日現在の属年齢を記入してください。
 - ・教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。
 - ・「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
8	4
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十条別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
4	0	6	3	13	2	1	6	3	12	4	1	6	3	14
(4)	(0)	(5)	(1)	(10)						[0]	[1]	[0]	[0]	[1]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。

・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(A)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	1	1
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
合計（A）					後任補充状況の集計（B）				
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
1	教授	宮田 哲郎	選択	救急医学	②	グループ内での人事異動のための辞任（29）				
			選択	外科学	②					
2	教授	森 一郎	必修	病理学	②	グループ内での人事異動のための辞任（29）				
合 計（C）					後任補充状況の集計（D）					
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
2	人		必修	1 科目	必修	0 科目	必修	1 科目	必修	0 科目
			選択	2 科目	選択	0 科目	選択	2 科目	選択	0 科目
			自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
			計	3 科目	計	0 科目	計	3 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（A）+（C）					後任補充状況の集計（B）+（D）				
辞任等した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）		
2	人		必修	1 科目	必修	0 科目	必修	1 科目	必修
			選択	2 科目	選択	0 科目	選択	2 科目	選択
			自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由
			計	3 科目	計	0 科目	計	3 科目	計

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

就任後の辞任となった2名の教員については、新規学部の開設などに関係するグループ内での人事異動に伴うものである。2名の担当する科目は2年次以降の開講科目であり、学生には周知していない（29）

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

成田看護学部 看護学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・人間をライフステージや発達課題からとらえ、その上で人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察能力、判断能力を強化する「人間理解（こころとからだ）系」科目群は、学部配置科目となっており、他学科の共通の内容となっているが、看護学の修得に非常に重要な科目群であると思われる。そのため、他学科と共通の内容とするのではなく、看護学の修得を前提とした適切な内容に改めることを検討すること。	留意事項 成田看護学部は単科の学部であり、学部設置科目＝看護学科だけの開設科目である。したがって左記指摘のように看護学部の専門基礎科目を他 学部学生が履修することはない。 また、この科目は看護学部学生のための科目とし、看護学の視点で内容を構成している。 さらに、入学する学生が上記について理解できるように学生便覧および履修の手引き、担当アドバイザーからの履修指導や教務委員会からのカリキュラム説明などを通して周知も徹底している。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・養成する人材の「6つの能力」の⑥に「基礎的研究力を修得する」とあるが、教育課程には研究力を培う授業科目が見受けられない。そのため、研究力を培う授業科目を配置するか、プロジェクト科目の内容を研究力を培う内容に改めるなどの検討をすること。	留意事項 「基礎的研究力を修得する」ため、「エビデンス・ベーストプラクティス（研究と文献）」「読む技術・伝える技術」「行動科学とモチベーション」「問題解決とアイディアイノベーション」「プレゼンテーション技法」などの科学的思考、問題解決力、研究の基礎的な能力を高めるための科目を複数設けている。 これらの科目は、それぞれ、アクティブラーニングを取り入れ、学生が思考しながら学ぶ方法を用いる。 また、2年次から「プロジェクト」科目を設けて、テーマを決めて取り組むことにより、研究の基礎力を育成する計画である。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・本学部の特徴として「国際性」を挙げているが、教育研究上の到達目標にそれらが反映されていないように思われる。そのため、グローバルな活動ができる看護専門職の育成にふさわしい教育内容であることが明確になるよう、授業科目や講義内容を追加することなどの検討をすること。(成田看護学部)	留意事項 本学部の特長の一つとしてグローバルに活躍する人材を育成することを挙げている。本学部の考えるグローバルとは、日本を含む、多様な国の人々を地球市民としてとらえ、一人ひとりのもっている文化や地域性、価値観を理解した上で必要な支援のできる能力を育成することである。そのために、異文化理解のためのカリキュラムと国際的な視野を養う実践的カリキュラムを用意している。 科目として、「世界の中の和文文化」、「新聞で見た日本と世界」「海外保健福祉事情Ⅰ・Ⅱ（講義・実習）」「国際医療通訳入門」「異文化体験実習」、「国際医療保健学」「外国語（英・独・西・仏・中・韓・タイ・ビルマ・ベトナム）」の他、「国際看護学Ⅰ・Ⅱ」「海外看護研修」「国際看護研修」等の科目では、国際看護学分野の専任教員、実務家が中心となり、本学部の教員が連携して学習を支援していくものであり、特にJICAや国際協力機関などと連携して学ぶ、実践・体験型プログラムで学ぶように計画している点は、グローバルな活動ができる看護専門職の育成にふさわしい教育内容であるといえる。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・保健師課程の選抜方法や人数制限等の詳細が不明確であることから、学生に対しては、選抜方法等を具体的に周知すること。(成田看護学部)	留意事項 学生便覧、履修の手引き等の中に保健師課程に関するページを設け、選抜方法、人数制限等について学生に周知徹底する。 また、履修オリエンテーションなどの際に時間を設け、左記指摘事項に関し遺漏のないよう周知する。	

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・遠隔地での実習施設が多いように見受けられることから、実習施設内での学習環境の整備が重要であると考えられる。そのため、実習施設内での学修環境の整備が十分な計画となっているか検討し、必要に応じて充実させること。(成田看護学部)	留意事項	成田看護学部の開設にあたっては、その目的の一つとして千葉県内の看護師の不足を補うことが成田看護学部の開設目的の一つとして挙げている。 この目的を達成するためにも、臨床実習は、原則、県内の近隣の医療施設等を中心に行う。 また実習や科目の特性においては、学生の同意のもと、県外にある本学の附属病院、関連病院で実習を行う。この場合、宿泊先や学修スペースなど十分に確保しており、学生に負担を強いることはない。 (28)	
設 置 時 (27年7月)	・実習助手の採用基準と決定方法、実習助手に対するFDIに関する記載がないため、これらが計画されていないのであれば、具体的な計画を定めること。(成田看護学部)	留意事項	実習助手の採用基準は、看護師免許を有し、大学を卒業後、3年以上当該専門領域の臨床経験を有する者とする。また専門学校および短期大学卒業で優れた臨床実践能力をもつ者については、5年以上臨床経験を有する場合に限り、実習助手として採用する。またリプロダクティブヘルス看護学領域(母性看護学)の実習助手については、上記の条件を満たし、看護師および助産師免許を有している者、まちづくり・公衆衛生看護学領域(公衆衛生看護学)の実習助手については、上記の条件を満たし、看護師および保健師免許を有している者とする。 実習助手は、大学における実習指導を行った経験を有することが望ましいが、指導経験がない場合は、実習指導に関する基礎的な知識、技術について学内にて下記のような研修を行う。 1) 教育目的、目標、実習の位置づけ、展開方法、学生のレディネスなどを説明する。 2) 実習助手として、学生を指導する目的、方法について 3) 学習への取り組みと動機付けについての指導者の役割 4) 実習の評価の目的と方法について 加えて担当する実習場所での実地研修を行い指導にあたることとする。なお、具体的な職務内容は、当該科目の担当教員の指導の下、グループを担当して学生の指導を行う。実習助手が行う実習指導の責任は、その指導を担う教員とする。(28)	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・大学設置基準第10条第1項では、主要な授業科目については原則として専任の教授又は准教授に担当させることを原則としているが、本学の実務課程を見ると、看護学の体系性や学科設置の趣旨から主要と思われる授業科目に専任の教授又は准教授が配置されていない例が散見される。そのため、以下の指摘を踏まえ、担当教員の充実に努めること。 (成田看護学部) (1)「まちづくり・公衆衛生看護学」に関する5科目、「在宅・生活デザイン看護学」に関する6科目については、いずれも1名の講師・助教が担当することとなっている。設置の趣旨には、「高齢社会の到来に伴う医療やケアニーズの高まりに対応して、…地域・在宅における訪問看護、介護老人保健施設、老人福祉施設における看護師の需要が高まっている」とうたわれており、これらの科目は、人材養成の中核的な科目であると思われるが、担当教員は講師・助教であることから、設置の趣旨に即した十分な教育が行われるか懸念がある。そのため、中核的な科目については、担当教員の充実に努めること。 (2)精神看護学及び公衆衛生看護学を担当する教授と准教授が不在である。これらは主要な看護専門科目であることから、専任の教授又は准教授を配置すること。 (3)「こども・子育て看護学」の科目区分(5科目)については、准教授は配置されているものの、科目区分全体で教授が配置されていない。そのため、教授を配置しない体制で適切な教育が行えるか検討し、必要に応じて教授を配置するなど、教育体制のさらなる充実に努めることが望ましい。	留意事項	(1)について 「まちづくり・公衆衛生看護学」を担当する教授の採用を決めており、2017年4月から着任予定。また准教授、講師、助教についても2017年4月の着任を目指して教員の選定を行っている。 (2)について 「在宅・生活デザイン看護学」を担当する教授、准教授については2017年4月からの着任を目指して教員の選定を行っている。また、「精神看護学」を担当する教授、准教授についても2017年4月の着任を目指して教員の選定を行っている。 (3)について 「こども・子育て看護学」を担当する教授、講師については、2017年4月の着任を目指して教員の選定を行っている。(28)
設 置 時 (27年7月)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。(言語聴覚学科、医学検査学科、成田看護学部)	留意事項	今回の採用では、カリキュラム等の特性上、定年年齢の教員を採用した。今後、採用する教員については、学部の継続的な発展を踏まえ、原則、完成年度において退職年齢を超えることのない50歳以下の教員を中心に選考を行っている。(28)

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期（1、2年次）に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一覧の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部）	改善意見 科目の順序性が担保できるよう履修モデルおよび履修系統図の再検討を行い、年度開始時のオリエンテーションにおいての履修モデル、履修系統図の提示や、配当年次が複数設定されている科目については履修推奨年次を設定するなど体系的な学修が可能となるよう履修指導を実施した（29）	
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・担当科目が著しく多い専任教員がいることから、教員の専門性と科目内容の整合性に留意しつつ、負担が偏らないように適切な教員組織編制となるよう改善すること。また、オムニバス科目は各担当教員の専門性を踏まえた上で、各専門領域を十分に教授できるように検証し、充実することが望ましい。	改善意見 負担軽減を考慮し、科目担当の再編成を実施した。オムニバス科目についても、各教員の専門性を考慮した分担を検討し、より充実した科目運営の実現を図った（29）	
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・保健師課程を履修できる学生の選抜方法や選抜基準が曖昧であり、必要な情報が適切に周知されていないため、学生に不利益が生じる可能性がある。選抜方法や前提科目の履修など要件を周知するとともに、適切な履修指導を行うこと。	改善意見 学生便覧中にある保健師課程の履修についての説明文を再度見直し、学生が正確に情報を取得できるよう修正した。また、年度開示のオリエンテーションでも1年生、2年生それぞれに内容説明を実施し、履修指導とした。（29）	
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・届出時においては、1年次の実習科目から実習助手を配置する計画が示されているが、調査時点においては、実習助手が配置されていない状況である。学年進行に応じて臨地実習の対象学生数や対象期間が増えることを踏まえ、実習助手の確保は重要となる。報告書に示された要件を満たした実習助手の確保を図るとともに、担当教員との連携やFDへの参加等により実習助手の能力向上に努め、当初計画に基づく実習指導体制を担保すること。	改善意見 平成29年度においては5月1日時点で既に1名の実習助手の採用が決定しており、同年度中にさらに追加で2～3名の実習助手を採用する計画を進めている。 採用された実習助手に対しては、定期的の実習運営のための打合せを実施する他、看護学部にて実施する勉強会への参加を促すことで能力向上を図る。（29）	
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・成田看護学部看護学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。	改善意見 設置申請以降、教授3名、准教授1名、講師1名、助教1名が新たに採用となっており、このうち教授1名を除く5名が完成年次に退職年齢を超えない構成となっている。学年進行に合わせ継続的に教員組織の拡充を図るとともに、学部内でのFD活動に若手教員の育成を推進する。（29）	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の査附行為又は査附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

6 留意事項等に対する履行状況等

成田保健医療学部 理学療法学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・卒業要件単位数が124単位であるにもかかわらず、全ての履修モデルが124単位を超える単位数で作成されていることから、学生に誤解を生じさせるおそれがある。そのため、人材養成の方針に整合しつつ124単位で卒業する形の履修モデルを新たに作成すること。(理学療法学科)	留意事項	各学科124単位で卒業する形の履修モデルを作成し、学生に周知する。(28)
設 置 時 (27年7月)	・専門基礎科目における選択科目の一部科目において、1から4年次のいずれでも履修を可能としているような、配当年次に幅を持たせた科目があるが、体系的な学修の前提となる学修の順序性が配慮されていない懸念がある。そのため、体系的な学修の観点から選択科目の配当年次の設定について再度検討を行い、必要に応じて配当年次を見直すこと。(理学療法学科)	留意事項	「2 授業科目の概要」に記載したとおり、変更対応。(28)
設 置 時 (27年7月)	・臨床実習の参加要件が「4年次の実習への学生の参加要件は、3年次までの必修科目を全て修得していることを条件としている。」とあるのみであるが、実習参加の水準が確保されるよう、客観的臨床能力試験の実施等について検討すること。(理学療法学科)	留意事項	OSCE、CBTの導入を視野に入れた対応を行う。(28)
設 置 時 (27年7月)	・主として専門科目を教授する教員において、多数の授業科目を担当する教員がいるなど、一部の教員に負担が偏っているように思われることから、教員の負担について検討し、必要に応じて負担が偏らないよう教員組織編制を適切に改めること。なお、教員の負担の検討に当たっては、職位のレベルに応じた負担ともなるよう考慮すること。(理学療法学科)	留意事項	講師以上の教員採用を準備中。(28)

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期（1、2年次）に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一覧の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部）	改善意見	科目の順序性が担保できるよう履修モデルおよび履修系統図の再検討を行い、年度開始時のオリエンテーションにおける履修モデル、履修系統図の提示や、配当年次が複数設定されている科目については履修推奨年次を設定するなど体系的な学修が可能となるよう履修指導を実施した（29）
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・担当科目が著しく多い専任教員がいることから、教員の専門性と科目内容の整合性に留意しつつ、負担が偏らないように適切な教員組織編制となるよう改善すること。また、オムニバス科目は各担当教員の専門性を踏まえた上で、各専門領域を十分に教授できるように検証し、充実することが望ましい。（理学療法学科、成田看護学部）	改善意見	負荷軽減を考慮し、科目担当の再編成を実施した。オムニバス科目についても、各教員の専門性を考慮した分担を検討し、より充実した科目運営の実現を図った（29）

- （注）・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

6 留意事項等に対する履行状況等

成田保健医療学部 作業療法学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・卒業要件単位数が124単位であるにもかかわらず、全ての履修モデルが124単位を超える単位数で作成されていることから、学生に誤解を生じさせるおそれがある。そのため、人材養成の方針に整合しつつ124単位で卒業する形の履修モデルを新たに作成すること。(作業療法学科)	留意事項	各学科124単位で卒業する形の履修モデルを作成し、学生に周知する。(28)
設 置 時 (27年7月)	・専門基礎科目における選択科目の一部科目において、1から4年次のいずれでも履修を可能としているような、配当年次に幅を持たせた科目があるが、体系的な学修の前提となる学修の順序性が配慮されていない懸念がある。そのため、体系的な学修の観点から選択科目の配当年次の設定について再度検討を行い、必要に応じて配当年次を見直すこと。(作業療法学科)	留意事項	「2 授業科目の概要」に記載したとおり、変更対応。(28)
設 置 時 (27年7月)	・臨床実習の参加要件が「4年次の実習への学生の参加要件は、3年次までの必修科目を全て修得していることを条件としている。」とあるのみであるが、実習参加の水準が確保されるよう、客観的臨床能力試験の実施等について検討すること。(作業療法学科)	留意事項	OSCE、CBTの導入を視野に入れた対応を行う。(28)
設 置 時 (27年7月)	・主として専門科目を教授する教員において、多数の授業科目を担当する教員がいるなど、一部の教員に負担が偏っているように思われることから、教員の負担について検討し、必要に応じて負担が偏らないよう教員組織編制を適切に改めること。(作業療法学科)	留意事項	准教授1名を採用済、教員の負担軽減に対応。(28)
設 置 時 (27年7月)	・養成すべき人材像で強調されている地域・地域包括ケアに関する教授内容について、関連する授業科目名からはその全体像が学生に伝わりにくいと思われることから、教授内容が学生に具体的に伝わるよう、科目名称等の工夫を検討すること。また、必修科目である「地域ケアシステム実習」に対応する講義科目が不明確であるので、演習科目に対応する講義科目があることが明確になるよう、該当する科目名称を変更するか講義科目を追加するなどの修正をすること。(作業療法学科)	留意事項	科目名称の変更にて対応。 「地域ケアシステム実習」⇒「地域生活支援システム実習」 なお、同科目に対応する講義科目としては、「地域生活支援論」という科目を配置している。(28)

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期（1、2年次）に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一覧の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部）	改善意見	科目の順序性が担保できるよう履修モデルおよび履修系統図の再検討を行い、年度開始時のオリエンテーションにおいての履修モデル、履修系統図の提示や、配当年次が複数設定されている科目については履修推奨年次を設定するなど体系的な学修が可能となるよう履修指導を実施した（29）
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・成田保健医療学部作業療法学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。	改善意見	設置申請時より追加で准教授の1名を採用している。今後も継続して若手教員の採用を検討するとともに、学科内での教員指導体制の充実を図る（29）

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

6 留意事項等に対する履行状況等

成田保健医療学部 言語聴覚学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・卒業要件単位数が124単位であるにもかかわらず、全ての履修モデルが124単位を超える単位数で作成されていることから、学生に誤解を生じさせるおそれがある。そのため、人材養成の方針に整合しつつ124単位で卒業する形の履修モデルを新たに作成すること。(言語聴覚学科)	留意事項 各学科124単位で卒業する形の履修モデルを作成し、学生に周知する。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・専門基礎科目における選択科目の一部科目において、1から4年次のいずれでも履修を可能としているような、配当年次に幅を持たせた科目があるが、体系的な学修の前提となる学修の順序性が配慮されていない懸念がある。そのため、体系的な学修の観点から選択科目の配当年次の設定について再度検討を行い、必要に応じて配当年次を見直すこと。(言語聴覚学科)	留意事項 「2 授業科目の概要」に記載したとおり、変更対応。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。(言語聴覚学科)	留意事項 今回の採用では、カリキュラム等の特性上、定年年齢の教員を採用した。今後、採用する教員については、学部の継続的な発展を踏まえ、原則、完成年度において退職年齢を超えることのない50歳代以下の教員を中心に選考を行っている。(28)	
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期(1、2年次)に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一覧の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。(理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部)	改善意見 科目の順序性が担保できるよう履修モデルおよび履修系統図の再検討を行い、年度開始時のオリエンテーションにおいての履修モデル、履修系統図の提示や、配当年次が複数設定されている科目については履修推奨年次を設定するなど体系的な学修が可能となるよう履修指導を実施した(29)	

(注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

6 留意事項等に対する履行状況等

成田保健医療学部 医学検査学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・卒業要件単位数が124単位であるにもかかわらず、全ての履修モデルが124単位を超える単位数で作成されていることから、学生に誤解を生じさせるおそれがある。そのため、人材養成の方針に整合しつつ124単位で卒業する形の履修モデルを新たに作成すること。（医学検査学科）	留意事項 各学科124単位で卒業する形の履修モデルを作成し、学生に周知する。（28）	
設 置 時 (27年7月)	・履修モデルによると、1年次前期に38～39単位の修得することになっている。CAP制は導入されているものの、半期に38～39単位の履修では実質的な学修時間が確保されない懸念がある。そのため、このような科目履修をしても学生に適切な学修時間を確保させることができるか検討し、必要に応じて履修モデルまたは授業科目の配当年次を修正すること。なお、導入されるCAP制は年間の上限を「50単位未満」としているが、履修モデルでは1年次の合計単位数がCAP制への算入除外科目（海外保健福祉事情Ⅰ及びⅡ）を考慮しても50～51単位になりCAP制の定めと整合しないと思われることから、学生に示す際に整合するよう修正すること。（医学検査学科）	留意事項 「2 授業科目の概要」に記載したとおり、1年前期の数科目を1年後期に廻し、前期と後期とのバランスをとるように変更した。（28）	
設 置 時 (27年7月)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。（医学検査学科）	留意事項 今回の採用では、カリキュラム等の特性上、定年年齢の教員を採用した。今後、採用する教員については、学部の継続的な発展を踏まえ、原則、完成年度において退職年齢を超えることのない50歳代以下の教員を中心に選考を行っている。（28）	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期（1、2年次）に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一覧の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部）	改善意見 科目の順序性が担保できるよう履修モデルおよび履修系統図の再検討を行い、年度開始時のオリエンテーションにおいての履修モデル、履修系統図の提示や、配当年次が複数年設定されている科目については履修推奨年次を設定するなど体系的な学修が可能となるよう履修指導を実施した（29）	
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・成田保健医療学部医学検査学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編製の将来構想について検討すること。	改善意見 設置計画時点から追加で3名の教員採用（准教授2名、助教1名）が済んでいる。さらに現在講師、助教の公募を行っており、教員組織の充実を図っている。完成年次以降の学科運営に支障がないよう教員組織編制を構想している。（29）	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

6 留意事項等に対する履行状況等

医学部医学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (H29年 4 月)	「臨床実習Ⅳ」の国内での実習については、学生の希望に応じた診療科への配属がなされるよう可能な限り配慮すること。また、海外での実習については、実習先が提供するプログラムの内容や指導体制について、実習調整ディレクターが中心となってあらかじめ調整し、教育の質を確保した上で実施すること。なお、海外での実習先はアジア諸国を中心に調整が進められているが、欧米諸国をはじめとしたより多様な実習先を確保するよう引き続き調整し、学生により多くの選択肢を提供することが望ましい。	留意事項 選択制の臨床実習となる「臨床実習Ⅳ」については、学生の希望に応じた配属ができるよう、学生が提出した希望順位に応じて割り付けを行う予定である。受け入れ先としては、平成32年に成田市に開院予定の附属病院も含めた5つの本学附属病院、および臨床実習の受け入れ意思を既に表明している本学の臨床医学研究センター・グループ外の医療機関等だけでなく、さらに受け入れ先の拡大に努め、十分な枠を確保したいと考えている。このうち附属病院等については、平成29年度から臨床実習受け入れについて打ち合わせを始めることについて、平成29年4月末に開催した第1回医学部教授連絡会議で附属病院等で勤務する教授に伝えたところである。今後の予定としては、平成29年度中に各附属病院等との打ち合わせを開始し、平成31年度中に、平成32年度から始まる臨床実習のプログラムを決定する計画である。 平成34年度に始まる「臨床実習Ⅳ」の海外臨床実習については、申請時に受け入れの意思表示済みの一部の大学医学部等について、平成29年度留学生特別選抜のため現地を訪問した際、先方の連絡担当者を決めた。欧米諸国については、麻酔科に日本の大学医学部から6年生の臨床実習の受け入れ実績があるドイツの医学部において、担当の准教授に受け入れ意思があることを確認した。さらに米国の複数の医学部において、臨床実習への学生受け入れについて調査を行った。今後の予定として、申請時に受け入れの意思表示済みの大学医学部等については、平成29年度の「海外医療体験」の引率を兼ねた現地訪問の際に打ち合わせを開始し、プログラムについて検討を開始するとともに、実習調整ディレクター等の人員配置を行う。今後、新たに開拓する海外臨床実習の受け入れ先については、平成30年度には調査を終了、先方の担当者との打ち合わせを開始し、平成31年度にはMOUを締結した上で実習プログラムの検討を開始し、平成32年度中に実習プログラムを決定、平成33年度に学生の希望調査を行う計画である。(29)	

(次頁へ)	人体の生理機能を理解するためにシミュレータを利用すると説明しているが、生物実験を体験したことのない学生であつても基礎医学に関する知識や技能を十分に修得できるように、生理学、生化学及び分子生物学など、基礎医学に関する実習を充実すること。	留意事項	すでに1年次1学期における生物学において、生物学未履修者を中心とした学生に対して、顕微鏡を用いた鶏胚の発生の観察を行った。また、1年次2学期には必修の基礎医学総論の5科目で様々な実習を導入予定である。例えば、生化学では生細胞から溶解液を調整し、比色法を用いてタンパク質の定量とさらに酵素活性の定量をおこなう。この過程を通じ、生化学の基本的な手技を習得するとともに、標準曲線の作成、酵素の誘導や特異的発現の観察を通じて対照実験について学ぶ。分子生物学では生体組織からの核酸の抽出、増幅、同定という一連の作業を体験する。この過程でピペットの使い方から核酸の調整法、酵素の取り扱い方、PCR法、ゲル電気泳動など分子生物学の基礎的な手技を習得する。免疫学ではEnzyme-Linked ImmunoSorbent Assay (ELISA) を用いてサイトカイン濃度を測定すると共に抗体の抗原特異性を観察する。(29)	
--------------	--	-------------	--	--

(次頁より) 全ての留学生が将来母国のリーダーとして活躍できるよう、母国の政府機関等の推薦を受けていない私費留学生も含め、卒後の進路についての支援体制を充実すること。 (次頁へ)		留意事項	母国の政府機関等の推薦を踏まえ本学が奨学金を支給する留学生(平成29年度はベトナム、モンゴル、インドネシア、ミャンマー、カンボジアの5か国計13人)及び私費の留学生(平成29年度は韓国、中国、台湾、ミャンマー、米国の5か国・地域計7人)の全ての留学生が本学医学部を卒業後、将来的に母国において医療貢献を行い、ひいては指導者として活躍することができるよう組織的な支援を行っていく。例として、在学中6年次に必修として全員が履修・参加する「海外臨床実習」を通じた本学留学生と母国等の医療機関との橋渡しや、本学が有する海外大学・医療機関等のネットワークを用いて、卒業後に医師としてのキャリア形成ができるようキャリア学習や帰国支援など本学から協力を要請していく、等の活動が含まれる。 また、奨学金を支給する留学生については、医師免許取得後、奨学金支給期間の1.5倍程度の期間(以下、義務年限)、本学が指定する日本及び母国の医療機関において医師として勤務することとしているが、義務年限修了後の進路については、留学生と推薦元が相談の上決定することになる。本学は、各国の人的、組織的なネットワークによる支援及び交流を継続的に行う。 全ての外国人卒業生が母国において保健医療の各分野でのリーダーとして活躍しながら、我が国の医学や医療制度を学び続けられるよう継続的に支援していく中で、こうした卒業生が本学の留学生の開拓、卒業後のキャリア形成における各国の人的拠点となり、本学の留学生に対する医学教育、卒後支援に持続可能なサイクルを生み出す体制を構築していく。(29)	
--	--	-------------	--	--

(次頁より)	医学教育統括センターは、本学の教育目標を達成するために重要な位置付けであると考えられることから、以下の点に留意し、その役割を十分に果たせるよう適切に運営すること。 (1)同センターに係る規程等を整備し、コース・ディレクター等センターに配置される職員の役割、責任体制、指揮命令系統等を明確にすること。 (2)専任教員25名及び兼任教員15名に加え、事務職員や技術職員等を十分に配置し、多岐にわたる業務を円滑に実施する体制を整えること。	留意事項	(1)「国際医療福祉大学医学教育統括センター規程」を別紙1の通り整備し、同センターが学長直属の組織であることを明記した。その業務を統括する医学教育統括センター長の役割を明記したほか、コース・ディレクター等の役割、責任体制等を明確にした。 15のコースのコース・ディレクターは担当教員から授業計画の提示を受け、指導・助言をする。授業ごとに行われる担当科目の授業アンケートに目を通し、評価に問題があった場合は担当教員と具体的な改善策を話し合うほか、次回の授業を見学して授業評価が向上するまで細やかな支援を行う。 (2)医学教育統括センターに専従の3人の事務職員を配置したほか、学務課の教務係・学生係および国際交流センターの事務職員が日常的に業務を支援する体制をとっている。ICT活用など技術面では、本学の情報システム部長であり教育システムの責任者を務めている准教授がe-learningの整備・運用を担当し、講義資料のオンライン提供や出欠管理、授業アンケート等を管理している。さらに、医療情報学が専門の医学教育統括センターの教授が学生などに関して得られたデータの集計・分析を担当している。 (29)	
	運動場が別地にあることから、教育に支障のないようにすることはもとより、学生の課外活動等に配慮すること。	留意事項	校地から1,400mのところにある5,600㎡余りの運動場に平成29年4月、テニスコート3面と駐車場、トイレ、シャワー室、ロッカールームが完成し、成田看護学部・成田保健医療学部と共用で利用を開始した。医学部のカリキュラムに体育の科目はないが、今後課外活動などの際に必要な応じマイクロバスなど大学の公用車により学生の利用の便を図る。クラブ活動は成田キャンパスの3学部一体で行うこととし、顧問の教員の活動や外部の施設を利用する場合の補助などを通じ、引き続き大学として課外活動を支援していく。 (29)	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

国際医療福祉大学医学教育統括センター規程

(目的)

第1条 医学教育統括センターは、学長直属の組織として医学部に設置し、医学教育について企画・指導及び必要な調整を行うと同時に、学生の情報収集・分析、そして医学教育の研究・情報発信を行い、医学教育の統括と向上を図ることを目的とする。

(医学教育統括センター長)

第2条 医学教育統括センターに、医学教育統括センター長を置く。

2 医学教育統括センター長は、医学教育統括センターを代表し業務を統括する。業務にあたっては医学部長、副医学部長及び学務部長と協議し、業務を遂行するものとする。

3 医学教育統括センター長は、専任の教授のうちから学長の推薦に基づき理事長が任命する。

4 医学教育統括センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(組織・運営)

第3条 センターの行う業務は、別表第1のとおりとする。

第4条 センターに、学長の指名する教員を置く。

2 前項の教員の数は、理事長が別に定める。

第5条 センター長は、前条の教員のうちからコース・ディレクター及び実習調整ディレクターを指名する。

第6条 コース・ディレクターは、別表第1の教育・カリキュラム部門の第1欄、第2欄及び第6欄の業務を主として担当する。

2 コース・ディレクターの数は、別表第1の教育・カリキュラム部門の第2欄に掲げるコースの数とする。

第7条 実習調整ディレクターは、別表第1の教育・カリキュラム部門の第3欄の業務を主として担当する。

2 実習調整ディレクターの数は10人以上とし、そのうち附属病院・関連教育病院担当を6人以上、海外実習病院担当を4人以上とする。

第8条 センター長は、第3条の教員のうちから別表第1のシミュレーション教育部門の業務を担当する者を3人指名する。

第9条 センターにカリキュラム委員会、臨床実習運営連絡協議会及び成績管理・卒業判定委員会を置く。

2 前項の委員会の役割、委員及び開催頻度は、別表第2のとおりとする。

第10条 この規程に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

(改廃)

第11条 この規程の改廃は、常任理事会の承認事項とする。

附則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

別表第1 センターの行う業務(第3条関係)

教育・カリキュラム部門																	
1	カリキュラムの策定・評価・改定に関すること。 各学生の各授業における日々の成績や授業評価、医師国家試験の結果、その他に関する情報を収集し、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに照らして問題の発見、評価、改定の立案を行い、カリキュラム委員会で報告・審議し、PDCA サイクルを推進する。																
2	コースの運営に関すること。 各授業が連携を取り合い効率的・効果的に進めるため、類似の授業をまとめて、次に掲げるコースとし、各コースの企画・実施管理・成績集計とその一次判定を行う。 【コース】 <table border="0"> <tr> <td>① リベラルアーツ（文系）コース</td><td>⑨ 基礎医学（機能系）コース</td></tr> <tr> <td>② リベラルアーツ（理系）コース</td><td>⑩ 産婦人科コース</td></tr> <tr> <td>③ 外国語系コース</td><td>⑪ 基礎臨床総合コース</td></tr> <tr> <td>④ 日本語系コース</td><td>⑫ 専門臨床コース</td></tr> <tr> <td>⑤ 医療プロフェッショナルリズムコース</td><td>⑬ 多職種連携教育（IPE）コース</td></tr> <tr> <td>⑥ 国際医療保健コース</td><td>⑭ 社会医学コース</td></tr> <tr> <td>⑦ 医療面接・身体診察コース</td><td>⑮ 応用臨床コース</td></tr> <tr> <td>⑧ 基礎医学（構造系）コース</td><td></td></tr> </table>	① リベラルアーツ（文系）コース	⑨ 基礎医学（機能系）コース	② リベラルアーツ（理系）コース	⑩ 産婦人科コース	③ 外国語系コース	⑪ 基礎臨床総合コース	④ 日本語系コース	⑫ 専門臨床コース	⑤ 医療プロフェッショナルリズムコース	⑬ 多職種連携教育（IPE）コース	⑥ 国際医療保健コース	⑭ 社会医学コース	⑦ 医療面接・身体診察コース	⑮ 応用臨床コース	⑧ 基礎医学（構造系）コース	
① リベラルアーツ（文系）コース	⑨ 基礎医学（機能系）コース																
② リベラルアーツ（理系）コース	⑩ 産婦人科コース																
③ 外国語系コース	⑪ 基礎臨床総合コース																
④ 日本語系コース	⑫ 専門臨床コース																
⑤ 医療プロフェッショナルリズムコース	⑬ 多職種連携教育（IPE）コース																
⑥ 国際医療保健コース	⑭ 社会医学コース																
⑦ 医療面接・身体診察コース	⑮ 応用臨床コース																
⑧ 基礎医学（構造系）コース																	
3	臨床実習の運営に関すること。 学生に対し臨床実習のオリエンテーションを行う。 実習日程や配属先など全般的な事項を企画、臨床実習運営連絡協議会で報告・審議し、実習ディレクター（各附属病院・関連教育病院・海外実習病院の各診療科に所属する臨床実習の責任者をいう。別表第2において同じ。）とともに、屋根瓦方式の教育体制を含む実習計画の立案、準備、実施中の連絡、情報収集、事後の評価、再立案を行い、PDCA サイクルを推進する。																
4	教材の企画・開発及び ICT 活用教育に関すること。 共通教材及び教材を配布・閲覧する ICT システム等について、直接企画・開発する。その他、個別の授業教材について、各授業の担当教員や学生による企画・開発を支援する。																
5	臨床実習前の CBT、OSCE、卒業時 OSCE に関すること。 医学教育モデル・コア・カリキュラムをもとに、臨床実習前に修得しておくことが必要とされる知識・技能・態度を評価する CBT (computer-based testing)																

	及び OSCE (objective structured clinical examination)、さらには卒業時 OSCE について、シミュレーション教育部門とともに、立案、準備、実施、事後の評価、再立案を行い、試験の質に関する PDCA サイクルを推進する。
6	成績管理及び卒業判定に関すること。 各学生の各授業における日々の出欠状況及び成績に関する情報を収集し、成績管理・卒業判定委員会で報告・審議し、その結果を代表者会議で報告する。
7	学生相談に関すること。 学生に対し、主に心療内科、精神科等の医師、臨床心理士との連携の下、生活・健康・修学に関する相談窓口を設けるほか、学生の生活・健康・修学に関するパンフレットやウェブサイトを作成し、学生への周知を行う。さらに、各学生の各授業における出欠状況及び成績の情報、生活・健康・修学に関する情報収集を行い、問題の早期発見・早期介入を行う。
8	FD・SD の企画・運営に関すること。 教職員のニーズや授業評価等、学生の授業に対するニーズに関する情報収集を行い、教職員研修の立案、教材作成、準備、実施、事後の評価、再立案を行い、PDCA サイクルを推進する。
9	入学者選抜の管理に関すること。 学外の情報収集、アドミッション・ポリシーに則った入学者選抜に関する企画立案を行い、入学試験システム委員会に提案する。また、学生の入学後の修学・成績状況、卒業後の進路等の情報を収集し、選抜制度の見直しを行う。
10	多職種連携教育に関すること。 学内の他学部・学科の教職員との連携の下、他学部・学科の授業に関する情報や関連学術会議等の情報を収集し、本学の多職種連携教育に関する授業等の立案、準備、実施、事後の評価、再立案を行い、PDCA サイクルを推進する。
11	学外の医学教育の情報収集に関すること。 各業務及び大学の方針への反映に資するため、国内外の他の医科大学、他の医療専門職の教育機関等による発信情報、及び学術会議、全国医学部長病院長会議、医師会等の非政府機関による医学教育に関する方針、さらには文部科学省、厚生労働省、内閣府等の政府・行政機関、WHO、WFME 等の国際機関による医学教育に関する政策等の情報を収集し管理する。
12	医学教育の IR に関すること。 将来的に各ポリシーをはじめとする医学教育全般及び大学全体の運営方針の改善に資するため、各学生の入学から在学中、卒業後の進路等に関する情報を収集、分析し管理する。
13	医学教育の研究に関すること。 本学の医学教育に関する種々の試みを実証し、国内外の医学教育の質向上に資するため、センターの全教員及び一部の職員は、担当する業務に応じた研究課

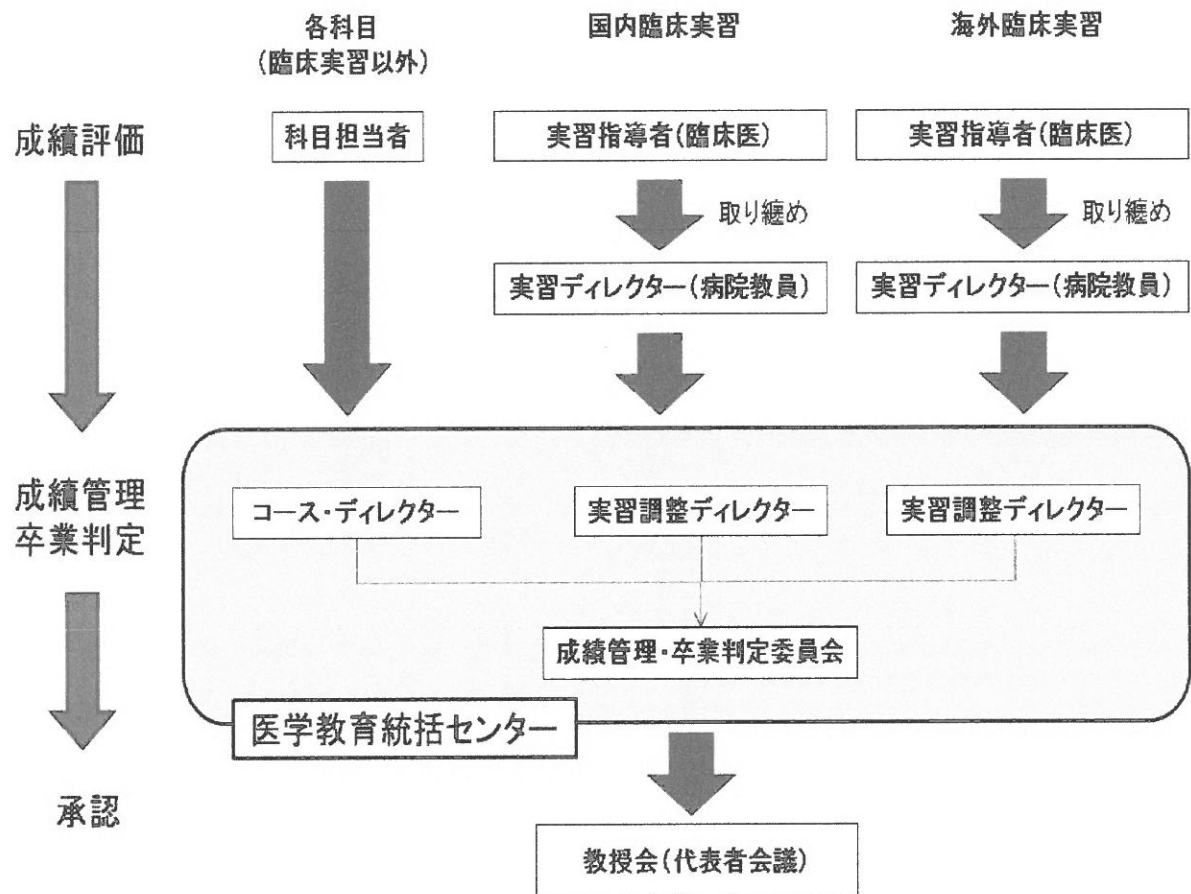
	題を設定し、研究の進捗状況を共有する。一方、次に掲げる国内外の医学教育に関する学術団体に所属し情報収集に努め、これらの学術集会、学術雑誌等に研究成果を発信する。 日本医学教育学会、日本シミュレーション医療教育学会、日本医学英語教育学会、日本保険医療福祉連携教育学会、医療系全国eラーニング交流会、AMEE（欧州医学教育学会）、AAMC（米国医科大学協会）、APMEC（アジア太平洋医学教育学会）等
14	医学教育の情報発信に関すること。 医学教育の質向上及び説明責任を果たすため、学内の学生、教職員、及び国内外の社会を対象として、ウェブサイト、SNS、その他の手段により、センターの業務に関する情報を発信する。
15	その他、医学教育・カリキュラムに関すること。
シミュレーション教育部門	
1	シミュレーション教育に係るカリキュラムの策定・評価・改定に関すること。 シミュレータや模擬患者等を活用する総合教育、専門教育の授業等の策定・評価及び改定を行う。
2	シミュレータの選定・管理に関すること。 国内外の医療系教育機関及び学術集会等でシミュレーション教育やシミュレータの情報を収集し、シミュレータの選定及び故障時や消耗品等の管理を行う。
3	模擬患者（SP）の養成に関すること。 学外の地域住民等と連携し、模擬患者の養成、登録、研修、及び模擬患者参加型授業やOSCE等の試験を担当する教職員へのFD・SDを実施した上で、各授業への派遣を行う。
4	その他、シミュレーション教育に関すること。

別表第2 委員会の役割、委員及び開催頻度(第9条関係)

カリキュラム委員会	
役割	カリキュラムの策定・実施・評価・改定に関する重要事項を審議
委員	センター長（委員長） コース・ディレクター 実習調整ディレクター シミュレーション教育部門の担当教員 その他センター長が指名する教職員
開催頻度	年3回以上
臨床実習運営連絡協議会	
役割	臨床実習の運営に関する重要事項の審議、連絡調整等
委員	センター長（委員長） 実習調整ディレクター 実習ディレクター 附属病院長 その他センター長が指名する教職員
開催頻度	年3回以上
成績管理・卒業判定委員会	
役割	成績管理・卒業判定に関する重要事項を審議 同委員会で、別紙のフローに従い、各学生の成績や卒業の判定について協議を行い、教授会の承認を得る。
委員	センター長（委員長） コース・ディレクター 実習調整ディレクター その他センター長が指名する教職員
開催頻度	年3回以上

成績管理・卒業判定のフロー(別表第2 関係)

医学教育統括センター 成績管理のフロー



7 その他全般的事項

＜成田保健医療学部 作業療法学科＞

（１）設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 修了要件単位数 124単位 必修科目99単位、選択科目25単位 ② 施設・設備 a 講義室4室（429.90㎡）作業療法学科専用 b 自習室6室（1,665.78㎡）成田看護学部・成田保健医療学部共通 c 図書 設置時6,400冊、完成時予定16,000冊 成田看護学部・成田保健医療学部共通	① 当初の予定から変更なし ② 当初の予定から変更なし

- （注）・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

学則に基づき大学としてFD委員会を置き、成田キャンパスには「成田キャンパスFD委員会」を設置している。（別紙2「国際医療福祉大学FD委員会規程」）

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

平成28年度は成田キャンパスのFD委員会を11回開催した。29年度は医学部、成田看護学部、成田保健医療学部の3学部合同で11人の委員によるFD委員会を既に1回開催している。

委員会は原則として月1回、毎月第3木曜日に開催される。

c 委員会の審議事項等

成田キャンパスFD委員会は、FD研修会の開催などによる教員の資質向上、授業アンケートの実施などを審議する。

② 実施状況

a 実施内容

①大学全体でのFD研修会（年2回、9月、3月）

②成田キャンパスにおけるFD研修会（年1回）

b 実施方法

①大学全体でのFD研修会（年2回、9月、3月）

各キャンパスが持ち回りで担当。外部講師を招聘し、ポートフォリオ、IPEなどのテーマで講演会を実施。

②成田キャンパスにおけるFD研修会（年1回）

年1回の開催に向け、FD委員会にて企画運営。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

①大学全体でのFD研修会（年2回、9月、3月）

＜2016年9月の実施テーマ＞

高等教育における21世紀型スキルの育成について（小田原キャンパスの企画運営にて実施）

参加状況：352 / 441 名 出席（出席率 79.8 %）

＜2017年3月の実施テーマ＞

平成28年度 学生が選ぶグッドティーチング賞表彰式・報告会／各キャンパスFD活動報告会

参加状況：337 / 436 名 出席（出席率 77.3 %）

②成田キャンパスにおけるFD研修会（年1回）

＜2016年度の実施テーマ＞

2年次からスタートする関連職種連携教育の準備として、「国際医療福祉大学における関連職種連携教育（IPE）」テーマとして2017年2月に開催した。

本学の特色あるカリキュラムとなる関連職種連携教育について、各教員が理解を深める機会となった。

参加状況：成田キャンパスに着任済の教員計51名が参加

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

実施後にアンケート等から各教員へフィードバックを実施した。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

大学全体の方針として、半期の場合は15回目、半期の半分の場合は8回目に授業アンケートを実施。

さらに、成田看護学部、成田保健医療学部独自の方針として、半期で実施される科目の一部について中間アンケートを実施し、後半の授業運営改善の一助とした。

b 教員や学生への公開状況、方法等

各教員へは集計結果をフィードバック。学生はホームページなどで集計結果を公開している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

昨年4月に開設した、成田看護学部及び成田保健医療学部は、千葉県をはじめ南関東地域の保健・医療・福祉に関わる専門職の需要にこたえとともに、国際都市である成田の特徴を生かし、地域・国際社会でグローバルに活躍できる人材の育成を図るために、設置したものである。

本年4月入学の第2期生の募集に当たっては、成田看護学部が入学定員100人に対し、914人の志願者（志願倍率9.14倍）が、また、成田保健医療学部が入学定員240人に対し、1,615人の志願者（志願倍率6.72倍）があり、昨年を越える志願倍率（成田看護学部7.15倍、成田保健医療学部5.14倍）となった。最終的には、成田看護学部で107人、成田保健医療学部で254人の入学者を迎えることができ、昨年に引き続き順調な学生募集の実施と、優秀な人材の確保ができていていると考える。

また、本学教員による定期的な公開講座の実施や、地元産業および自治体と連携した講義の実施などにより、地域貢献を果たすとともに本学の理念の一つでもある「社会に開かれた大学」の体現を行っている。

開設2年目となり、設置時留意事項や昨年度の履行状況調査にて附された留意事項等、改善意見を踏まえ、可能な範囲で見直しを行い、大学運営の改善を行っているところである。今後も継続して改善を図り、学生に最適な学修環境の整備を進めていく。

本年4月に隣接する敷地に医学部が開設されたことにより、より実際の臨床現場に近い環境での職種間連携教育の実践や教育施設の相互利用による教育効果の向上が可能となる。

学部学科の連携を強固にすることで、これまで以上に保健・医療・福祉分野における優れた人材を養成していきたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

大学全体として平成29年度に、27～28年度を対象期間として3つのポリシー点検とPDCAサイクルの構築を中心に自己点検・評価を行う。29年度末までに点検を終え、報告書を公表することを目指している。

b 公表方法

大学ホームページに掲載するほか、関係する自治体・図書館・他大学などに報告書を配付し、本学への外部からの意見の収集に努める。

③ 認証評価を受ける計画

平成33年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受ける予定。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 ・ 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(平成29年 5月 31日 頃)

国際医療福祉大学 FD 委員会規程

(設置)

第 1 条 国際医療福祉大学学則第 11 条に基づき、本学に FD 統括委員会（以下「統括委員会」という。）を置く。

2 各キャンパス及び医学部にキャンパス FD 委員会及び医学部 FD 委員会（以下「FD 委員会」という。）を置き、統括委員会がこれを統括する。

3 この規定において「委員会」とは、統括委員会及び FD 委員会を指す。

(目的及び責務)

第 2 条 委員会は、本学の定める教学の基本方針にしたがい、教育法の改善及び教員の資質の向上など FD（ファカルティ・ディベロプメント）に関して討議を行い、より質の高い教育方法の推進を図るものとする。

2 委員会で協議された内容については、常任理事会、経営会議及び管理運営委員会に適宜報告するものとする。

(統括委員会の構成)

第 3 条 統括委員会は、次の各号の委員をもって構成する。

- 一 学務部長
- 二 各 FD 委員会の委員長
- 三 事務局長
- 四 人事にかかる事務責任者
- 五 教務にかかる事務責任者

2 委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(FD 委員会の構成)

第 4 条 FD 委員会は、次の各号の委員をもって構成する。

- 一 学長が指名する専任教員
- 二 学長が指名する者
- 三 理事長が指名する者

2 委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置く。

2 FD 委員会においては、委員の中から学長が推薦し、理事長が指名する。

3 統括委員会においては、学務部長をもって委員長とする。

4 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

5 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代行する。

(委員会の成立)

第6条 委員会は、過半数の委員の出席により成立する。

(委員以外の出席)

第7条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(事務処理)

第8条 統括委員会の事務は東京事務部教務企画部が取り扱う。

2 FD 委員会の事務は、各キャンパス及び医学部の教務事務担当部署が取り扱う。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、常任理事会の承認事項とする。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人国際医療福祉大学

(2) 大 学 名

国際医療福祉大学

(3) 大学の位置

〒286-8686

千葉県成田市公津の杜4丁目3番

(本部：〒324-8501 栃木県大田原市北金丸2600番1)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(タカギ クニノリ) 高木 邦格 (平成7年4月)		
学 長	(キタジマ マサキ) 北島 政樹 (平成21年7月)	(オオトモ クニ) 大友 邦 (平成28年4月)	任期満了に伴う変更(28)
学 部 長	(スギハラ モトコ) 杉原 素子 (平成28年4月)		
学科長等	(シロマ マサエ) 城間 将江 (平成28年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は、平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが、開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
成田保健医療学部 言語聴覚学科 学士(言語聴覚学)	保健衛生学 関係 (リハビリテーション関係)	4年	40人	— 年次人	160人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	40 (-) [-]	人	40 (-) [-]	人	() []	人	() []	人	1.04倍	
志願者数	125 (-) [1]	— (-) [-]	185 (-) [-]	— (-) [-]	() []	() []	() []	() []		
受験者数	125 (-) [1]	— (-) [-]	185 (-) [-]	— (-) [-]	() []	() []	() []	() []		
合格者数	71 (-) [1]	— (-) [-]	62 (-) [-]	— (-) [-]	() []	() []	() []	() []		
B 入学者数	40 (-) [1]	— (-) [-]	43 (-) [-]	— (-) [-]	() []	() []	() []	() []		
入学定員超過率 B/A	1.00		1.07							

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	対象年度	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		備 考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次		40 [1] ()		43 [0] ()						
2 年次				40 [1] (0)						
3 年次										
4 年次										
計								40 [1] ()		83 [1] (0)

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
- ・ () 内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成28年度 入学者	40 人	0 人	平成28年度	人	人		0.00 %
			平成29年度	人	人		
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
平成29年度 入学者	43 人	0 人	平成29年度	人	人		0.00 %
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	0 人	平成30年度	人	人		#DIV/0! %
			平成31年度	人	人		
平成31年度 入学者	人	0 人	平成31年度	人	人		#DIV/0! %
合 計	83 人	0 人					0.00 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)」により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<成田保健医療学部 言語聴覚学科>

(1) 授業科目表

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					備考
			必修	選択	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
人間系	文学論	1 2 3 4 前	2							兼1 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任秋原北風に変更(28)
	演劇論	1 2 3 4 前	1							兼1
	パフォーマンス表現論	1 2 3 4 前	2							兼1
	心理学	1 2 3 4 前	2							兼1 就任辞退に伴い兼任矢口大雄に変更(28)
	哲学	1 2 3 4 前	2							兼1
	コミュニケーション概論	1 2 3 4 後	2							兼1 就任辞退に伴い兼任山川誠司に変更(28)
	雑談と傾聴～話す力と聴く力～	1 2 3 4 前 未開講	2							兼7 履修希望者がいなかったため(28)
	人間学	1 2 3 4 後	2							兼1 就任辞退に伴い兼任鹿島晴雄に変更(28)
	歴史学	1 2 3 4 後	2							兼1 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任町田明弘に変更(28)
	倫理学	1 2 3 4 後	2							兼1
	宗教学	1 2 3 4 後	2							兼1
	日本近現代史	1 2 3 4 後	2							兼1
	文化人類学	1 2 3 4 前	2							兼1 就任辞退に伴い兼任加藤尚子に変更(28)
	教育学	1 2 3 4 後	2							兼1
	死生学-死を通して生を考える	1 2 3 4 前	2							兼1
社会系	法学	1 2 3 4 後	2							兼1 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任伊東達也に変更(28)
	法と道徳・倫理	1 2 3 4 後	2							兼1
	医療関連法規	1 2 3 4 前	2							兼1
	社会保障制度論	1 2 3 4 前	2							兼1 就任辞退に伴い兼任金野充博に変更(28)
	経済の仕組み	1 2 3 4 前	2							兼1 就任辞退に伴い兼任堀岡健一に変更(28)
	経済の歴史	1 2 3 4 後	2							兼1 就任辞退に伴い、兼任濱田敏彰に変更(29)
	世界の経済	1 2 3 4 前後	2							兼1 教育効果を考慮し、開講期を変更(28)
	アジア諸国の経済・社会・文化	1 2 3 4 後	2							兼1 教育効果を考慮し、兼任村上大介に変更(29)
	世界の中の和文	1 2 3 4 前	1							兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任高須賀茂文に変更(28)
	世界遺産と国際文化政策	1 2 3 4 前	2							兼1 専門性の深化を図り、各回の講義テーマに基づき専門化によるオムニバス化(28)
	経営の仕組み	1 2 3 4 前	2							兼1 就任辞退に伴い兼任佐藤祐一に変更(28)
	組織運営管理論	1 2 3 4 前	2							兼1 教育効果を考慮し兼任 羽田明浩に変更(28)
	社会学(人間と社会)	1 2 3 4 前	2							兼1
	マスメディア論	1 2 3 4 後	2							兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任川上和久に変更(28)
	新聞でみた日本と世界	1 2 3 4 前	2							兼1
	国際関係論	1 2 3 4 前後	2							兼1 教育効果を考慮し、兼任村上大介に変更(29)
	国際医療福祉論	1 2 3 4 前	2							兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任高須賀茂文に変更、教育効果に配慮し開講学期を変更(28)
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	1 2 3 4 前 未開講	1							兼1
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	1 2 3 4 前 未開講	1		1					兼6 履修希望者がいなかったため(28)
	ボランティア論	1 2 3 4 後	2							兼1
自然・情報系	ボランティアコーディネート論	1 2 3 4 前 未開講	2							兼1 退職に伴い兼任吉田浩治に変更(29)
	手話入門	1 2 3 4 後 未開講	2							兼1 就任辞退に伴い兼任井上善行に変更(28)
	防災と生活デザイン	1 2 3 4 前	2							兼1 履修希望者がいなかったため(28)
	統計学	1 2 3 4 後	2							兼1 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任榎秀樹に変更(28)
	疫学・保健医療統計学	1 2 3 4 後	2							兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任堀垣誠一に変更(28)
	数学	1 2 3 4 前	2							兼1
	物理学	1 2 3 4 前	2							兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任宮崎宏行に変更(28)
	化学	1 2 3 4 前	2							兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任清宮正徳に変更(28)
	生物学	1 2 3 4 前	2							兼1 退職に伴い、兼任湯澤聡に変更(29)
	情報処理Ⅰ(初歩)	1 2 3 4 前	1							兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任堀垣誠一に変更(28)
	情報処理Ⅱ(基礎)	1 2 3 4 前	1							兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任宮崎宏行に変更(28)
	情報処理Ⅲ(応用)	1 2 3 4 後	1							兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任堀垣誠一に変更(28)
	生命倫理	1 2 3 4 前	2							兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任梅井正典に変更(28)
	医学/医療史	1 2 3 4 後	2							兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任宮崎宏行に変更(28)
総合系	人間工学	1 2 3 4 後	2							兼1
	大学入門講座Ⅰ(基礎)	1 前	1			1				兼8 教育効果を考慮し、担当の追加変更(29)
	大学入門講座Ⅱ(展開)	1 2 3 4 前	1		1					兼6 教育効果を考慮し、担当の追加変更(29)
	郷土論	1 2 3 4 前	1							兼8 専門性の深化を図り、地方自治体および地域と連携しオムニバス化(28)
	医療福祉教養論	1 2 3 4 後	1							兼1
	メディカルマナー入門	1 2 3 4 後	2							兼1
総合系	食と人間	1 2 3 4 後	1							兼1 就任辞退に伴い兼任門脇弘子に変更(28)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置						備考
			必修	選択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
総合教育（しき）	外国語系	英語A-1（読読基礎）	1	前	1						兼1 担当教員を兼任田中泰郎に変更（29）
		英語A-2（読読応用）	1	後	1						兼1
		英語B-1（視聴覚英語基礎）	1	前	1						兼1 教育効果を考慮し、兼任師岡ビビアンルーズに変更（29）
		英語B-2（視聴覚英語応用）	1	後	1						兼1
		英語A-3（読読中級1）	2 3 4	前	1						兼1
		英語A-4（読読中級2）	2 3 4	後	1						兼1 教育効果を考慮し、兼任Vivek Paul Pintoに変更（29）
		英語C-1（英会話初級）	2 3 4	前	1						兼1
		英語C-2（英会話中級）	2 3 4	後	1						兼1 教育効果を考慮し、兼任師岡ビビアンルーズに変更（29）
		英語ライティング1（Primary）	1 2 3 4	前	1						兼1
		英語ライティング2（Basic）	1 2 3 4	後	1						兼1 教育効果を考慮し、兼任師岡ビビアンルーズに変更（29）
		国際医療通訳入門	1 2 3 4	前	1						兼1
		資格英語1（Primary）	1 2 3 4	前	1						兼1
		資格英語2（Basic）	1 2 3 4	後	1						兼1
		基礎英文法1（Primary）	1 2 3 4	前	1						兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任および効果的な教育のための少人数教育実践のため、担当教員の追加変更（28）
		基礎英文法2（Basic）	1 2 3 4	後	1						兼1
		上級英語文法読解	1 2 3 4	前	1						兼1 教育効果を考慮し、兼任師岡ビビアンルーズに変更（29）
		上級英語会話1（発展）	1 2 3 4	前	1						兼1 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任師岡ビビアンルーズに変更（28）
		上級英語会話2（総合）	1 2 3 4	後	1						兼1
		ドイツ語入門（会話含む）	1 2 3 4	前	1						兼1
		ドイツ語応用（会話含む）	1 2 3 4	後	1						兼1
		中国語入門（会話含む）	1 2 3 4	前	1						兼1 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任張佳恵に変更（28）
		中国語応用（会話含む）	1 2 3 4	後	1						兼1
		韓国語入門（会話含む）	1 2 3 4	前	1						兼1 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任崔誠姫に変更（28）
		韓国語応用（会話含む）	1 2 3 4	後	1						兼1
		フランス語入門（会話含む）	1 2 3 4	前	1						兼1
		フランス語応用（会話含む）	1 2 3 4	後	1						兼1
		スペイン語入門（会話含む）	1 2 3 4	前	1						兼1 教育効果を考慮しネイティブスピーカーである兼任Silvia Antoniaに変更（28）
		スペイン語応用（会話含む）	1 2 3 4	後	1						兼1
		タイ語入門（会話含む）	1 2 3 4	前	1						兼1
		タイ語応用（会話含む）	1 2 3 4	後	1						兼1
		ベトナム語入門（会話含む）	1 2 3 4	前	1						兼1
		ベトナム語応用（会話含む）	1 2 3 4	後	1						兼1
		ビルマ語入門（会話含む）	1 2 3 4	前	1						兼1
		ビルマ語応用（会話含む）	1 2 3 4	後	1						兼1
	留学生の日本語科目	日本語Ⅰ-A（作文）	1 2 3 4	前	1						兼1
		日本語Ⅰ-B（文法・語彙）	1 2 3 4	前	1						兼1
		日本語Ⅱ-A（作文）	1 2 3 4	後	1						兼1
		日本語Ⅱ-B（文法・語彙）	1 2 3 4	後	1						兼1
		日本語Ⅱ-C（発表討論）	1 2 3 4	前	1						兼1 新規教員の就任に伴い、兼任梅田朋樹、品川なつき、山元一馬、加藤林太郎および兼任江頭由美を追加（29）
		日本語Ⅱ-D（専門日本語）	1 2 3 4	前	1						兼1
		日本語Ⅲ-A（作文）	1 2 3 4	後	1						兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任茅野正雄、小川美香に変更（28）
		日本語Ⅲ-B（文法・語彙）	1 2 3 4	後	1						兼1
		日本語Ⅲ-C（発表・討論）	1 2 3 4	前	1						兼1
		日本語Ⅲ-D（専門日本語）	1 2 3 4	前	1						兼1
		医療福祉専門漢字	1 2 3 4	後	1						兼1
		医療福祉専門語彙	1 2 3 4	後	1						兼1
専門教育	保健系	健康科学理論	1 2 3 4	前	1						兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任西田裕介に変更（28）
		健康科学実践	1 2 3 4	前	1						兼1 教育効果を考慮し、兼任中村桂太、櫻井陽子を追加（29）
	専門基礎	公衆衛生学	1・2・3・4	後	2						兼1 担当の教員の成田キャンパス着任に伴い、兼任柳主文志に変更（29）
		救急医学	1・2・3・4	前	1						兼1 就任辞退に伴い兼任小川俊夫に変更、教育効果を考慮し配当年次を変更（28）
		感染と免疫	1・2・3・4	後	2						兼4 教育効果を考慮し配当年次を変更（28）
		リハビリテーション概論	1	前	2		1				兼4 退職に伴い、兼任長沢光章、梅宮敬文、工藤芳子、木村明彦子に追加変更（29）
		関連職種連携論	2	後	2		1				兼4 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任林琢磨に変更、教育効果を考慮し配当年次を変更（28）
		ケアマネジメント論	1・2・3・4	前	1						兼1 教育効果を考慮し、兼任吉田清彦を追加（29）
		ケースワーク論	1・2・3・4	後	1						兼1 教育効果を考慮し、兼任杉原素子に変更（28）
		医療管理学	1・2・3・4	前	2						兼1 退職に伴い、兼任林和美に変更（29）
		保健医療福祉制度論	1	後	2						兼1 就任辞退に伴い兼任井上善行に変更（28）
		社会福祉学	1・2・3・4	前	2						兼1 教育効果を考慮し兼任堀岡健一に変更、教育効果を考慮し配当年次を変更（28）
		臨床心理学概論	1・2・3・4	前	2						兼1 教育効果を考慮し兼任金野充博に変更（28）
		医療情報学概論	1・2・3・4	後	2						兼1 退職に伴い、兼任小林雅彦に変更（29）
		福祉支援工学概論	1・2・3・4	前	2						兼1 就任辞退に伴い兼任井上善行に変更（28）
		関連職種連携ワーク	3	前	1		1				兼4 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任宮崎宏行に変更（29）
		関連職種連携実習	4	前	1		1				兼4 教育効果を考慮し配当年次を変更（28）
		リスクマネジメント論	1・2・3・4	後	2						兼4 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任宮崎宏行に変更（29）
		電子カルテによるチーム医療概論	1・2・3・4	後	2						兼1 教育効果を考慮し配当年次を変更（28）
		エビデンスベースドプラクティス（研究と文献）	1・2・3・4	前	1						兼1 教育効果を考慮し配当年次を変更（28）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教 手	
専門教育	専門基礎	レクリエーション概論	1・2・3・4	前	1					兼1 教育効果を考慮し、兼担堀田英樹、竹内真大に変更 (29) 教育効果を考慮し配当年次を変更 (28)
		災害保健学	1・2・3・4	前	1	1				兼3
		予防保健学	1・2・3・4	前	1	1				兼3
		国際医療保健学	1・2・3・4	前	1	1				兼3 教育効果を考慮し配当年次、開講期を変更 (28)
		異文化体験実習	1・2・3・4	後	1	1		1		兼6 兼3 教育効果を考慮し、各学科教員による担当制を施行 (29)
		解剖学	1	前	2					兼1 担当教員を兼担松野義晴に変更 (29)
		生理学	1	後	2					兼1
		病理学	1	後	1					兼1
		医学概論	1	前	1					兼1 教育効果を考慮し、兼担北村聖に変更 (29)
		内科学	1	後	1					兼1
		精神医学	2	前	1					兼1 教育効果を考慮し、兼担藤島晴雄に変更 (29)
		リハビリテーション医学	2	後	1					兼1
		小児科学	2	前	1					兼1
		耳鼻咽喉科学	2	前	1					兼1
		臨床神経学	2	後	1					兼1 教育効果を考慮し、兼担内山真一郎に変更 (29)
		形成外科学	2	前	1					兼1 教育効果を考慮し、兼担松崎亮一郎に変更 (29)
		臨床歯科医学	2	前	1					兼1
		口腔外科学	2	前	1					兼1
		音声言語医学	1	後	1	1				
		中枢神経機能学	1	後	1					兼1 教育効果を考慮し、兼担内山真一郎に変更 (29)
		聴覚医学	1	後	1					
		小児神経学	1・2	後	1					兼1
		老年学	1・2	前	1					兼1 教育効果を考慮し、兼担浦野友彦に変更 (29)
		遺伝学	1・2	前	1					兼1
		脳神経外科学	1・2	後	1					兼1
		臨床心理学	2	後	1					兼1
		生涯発達心理学	1	前	1					兼1 教育効果を考慮し、兼担山川誠司に変更 (29)
		学習心理学	2	前	1					兼1 教育効果を考慮し、兼任関口勝夫に変更 (29)
		神経心理学	2	前	1	1	1	1		兼1 教育効果を考慮し、兼任内田信也、菅野倫子、大石慧子、兼担阿部晶子に変更 (29)
		認知心理学	1	後	1					兼1 教育効果を考慮し、兼任野添健太に変更 (29)
		心理測定法	2	前	1					兼1 教育効果を考慮し、兼任坂井剛に変更 (29)
		心理測定法演習	3	前	1	1				
		言語学	1	前	1					退職に伴い、兼任田端敏幸に変更 (29)
		言語心理学	3	前	1		1			
		言語発達学	1	後	1		1	1		教育効果を考慮し、専任佐々木香織里を追加 (29)
		基礎音声学	1	後	1					
		音声学	2	前	1					
		音声音響学	2	後	1					
		聴覚心理学	3	前	1	1				
		国際医療保健学演習	2・3・4	後	1			1		兼2
		国際医療保健学実習	2・3・4	後	1	1	1			兼2
専門教育	専門	言語聴覚障害学概論	1	前	1	3	3	1	4	兼1 教育効果を考慮し、学科教員などによるオムニバス化 (29)
		コミュニケーション技能演習	1	後	1		2		4	教育効果を考慮し、学科教員などによるオムニバス化 (29)
		コミュニケーション障害演習	2	後	1		3	3	4	兼2 教育効果を考慮し、学科教員などによるオムニバス化 (29)
		言語聴覚障害学診断学	3	前	1	1			1	
		言語聴覚障害学基礎演習	3	前	1				1	
		失語症・高次脳機能障害学総論Ⅰ (基礎)	2	前	1	1	1	1		教育効果を考慮し、専任菅野倫子、大石慧子を追加 (29)
		失語症・高次脳機能障害学総論Ⅱ (発展)	2	後	1	1	1	1		教育効果を考慮し、専任菅野倫子、大石慧子を追加 (29)
		失語症Ⅰ (評価・診断)	3	前	1		1			
		失語症Ⅱ (治療)	3	後	1		1			
		失語症・高次脳機能障害学演習	3	後	1		1			
		高次脳機能障害学	3	前	1	1				
		言語発達障害学総論	2	前	1			1		
		言語発達障害学各論	2	後	1			1		
		言語発達障害学Ⅰ (評価・診断)	2	後	1			1		
		言語発達障害学Ⅰ演習 (評価・診断)	3	前	1			1		
		言語発達障害学Ⅱ (指導)	3	後	1			1		
		言語発達障害学Ⅱ演習 (指導)	3	後	1			1		
		聴覚障害学総論	2	前	1	2		1		兼1 教育効果を考慮し、専任内田信也、原田浩美、塚原恵、兼担睦上孝彦を追加 (29)
		聴覚機能評価学	2	後	2	2		1		兼1 教育効果を考慮し、専任城間将江、塚原恵、兼担小淵千絵を追加 (29)
		聴覚補償論 (補聴器・人工内耳など)	2	後	1	2		1		教育効果を考慮し、専任城間将江、塚原恵を追加 (29)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門教育 (つづき)	小児聴覚障害学Ⅰ(評価・診断)	3 前	1			1					
	小児聴覚障害学Ⅱ(指導)	3 後	1			1					
	成人聴覚障害学(二重障害を含む)	2 後	1			2 +			1		教育効果を考慮し、専任城間利江、塚原恵を追加(29)
	発声発語障害学総論	2 前	2			2 +			1		教育効果を考慮し、専任石山寿子、相川倫を追加(29)
	構音障害学Ⅰ(理論)	2 後	1			2 +			1		教育効果を考慮し、専任宮田浩哉、相川倫を追加(29)
	構音障害学Ⅱ(評価・診断)	3 前	1			1					
	構音障害学演習(治療)	3 後	1			1			1		
	流暢性障害学	3 前	1			1					
	音声障害学	3 前	1						1		
	摂食・嚥下障害学Ⅰ(理論・評価診断)	2 後	1			2 +			1		教育効果を考慮し、専任宮田浩哉、相川倫を追加(29)
	摂食・嚥下障害学Ⅱ(治療)	3 後	1			1					
	言語聴覚障害学研究法	3 前		2		1					
	英語で学ぶ言語聴覚療法の基礎	1・2 前		1		1					
	言語聴覚療法英語論文抄読	3・4 後		1		1					
	教職教養	3・4 前		1			1				
	特別支援教育	3・4 前		1			1				
	日本語教授法	1・2 前		1			1				
	言語聴覚療法総合演習	4 前		1		1					
	言語聴覚障害学特論Ⅰ(基礎)	4 前	1			1					
	言語聴覚障害学特論Ⅱ(発展)	4 後	1			1					
	卒業研究	4 後		4		3	3	1	2		
	臨床実習Ⅰ(基礎)	3 後		2		3	3	1	2		
	臨床実習Ⅱ(総合)	4 前		10		3	3	1	2		
	災害リハビリテーション学	3・4 後		1		1					兼2

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
- なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼○」と記入してください。
- ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成○年○月 提出予定」と記入してください。)
- ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設 置 時 の 計 画				変 更 状 況				備 考
必 修	選 択	自 由	計 (A)	必 修	選 択	自 由	計	
科目 79	科目 143	科目 0	科目 222	科目 79 [0]	科目 143 [0]	科目 0 [0]	科目 222 [0]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{222} = \boxed{} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	※大学全体			
	校 舎 敷 地	262,852㎡ 194,962㎡	0㎡	0㎡	262,852㎡ 194,962㎡	成田キャンパス（医学部）校地を無償借用のため増加（28） 小田原保健医療学部と小田原市とで土地の等価交換を行い、18㎡減少（H28）			
	運動場用地	88,807㎡ 83,147㎡	0㎡	0㎡	88,807㎡ 83,147㎡				
	小 計	351,659㎡ 283,796㎡	0㎡	0㎡	351,659㎡ 283,796㎡				
	そ の 他	372,772㎡ 372,790㎡	0㎡	0㎡	372,772㎡ 372,790㎡				
	合 計	724,431㎡ 656,559㎡	0㎡	0㎡	724,431㎡ 656,559㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
	143,615㎡ (143,615㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	143,615㎡ (143,615㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	176室	60室	216室	18室 (補助職員 4人)	6室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	成田保健医療学部 言語聴覚学科			7 8 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	成田保健医療学部共通 図書、視聴覚資料、機械・器具の増加分は新規購入による。学術雑誌の減少分は、H28報告時に誤って冊数をカウントしていたものを種数にて再カウントしたため（29）	
	成田保健医療 学部	11,000 [1,540] 9,268 [604] 6,501 [264] (4,400 [616])	64 [20] 77 [13] 156 [0] (52 [16])	3,336 [2,205] 5,267 [4,004] 4,115 [2,892] (3,176 [2,085])	196 317 136 (44)	6,500 3,746 2,478 (5200)	590 175 113 (334)		
	計	11,000 [1,540] 9,268 [604] 6,501 [264] (4,400 [616])	64 [20] 77 [13] 156 [0] (52 [16])	3,336 [2,205] 5,267 [4,004] 4,115 [2,892] (3,176 [2,085])	196 317 136 (44)	6,500 3,746 2,478 (5200)	590 175 113 (334)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	7,087.11㎡		1,613席		299,400冊				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	5,715.34㎡		弓道場		テニスコート				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	朱書修正金額は5学科 合計（H28）
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	477 44,000千円	87,750 32,000千円	16,000千円	
		共同研究費等	1,500千円	3,000千円	設備購入費	153,900 273,480千円	900,000 459,800千円	18,500千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,550千円	1,450千円	1,450千円	1,450千円	一 千円	一 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資金運用収入 等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「（5）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（29）」を「備考」に赤字で記入してください。
- なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「（8）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学 の 名 称	国 際 医 療 福 祉 大 学							備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地
《 A C 対象学部等 》	年	人	年次 人	人		倍		
医学部						1.00		
医学科	6	140	-	840	学士 (医学)	1.00	平成29年度	千葉県成田市 公津の杜4丁目3番
保健医療学部						1.11		
看護学科	4	115	-	415	学士 (看護学)	1.12	平成7年度	栃木県大田原市北金丸 2600番1
理学療法学科	4	100	-	340	学士 (理学療法 学)	1.12	平成7年度	同上
作業療法学科	4	80	-	320	学士 (作業療法 学)	1.12	平成7年度	同上
言語聴覚学科	4	80	-	320	学士 (言語聴覚 学)	1.09	平成7年度	同上
視機能療法学科	4	50	-	170	学士 (視機能療法 学)	1.11	平成14年度	同上
放射線・情報科学	4	120	-	420	学士 (放射線・情報 科学)	1.11	平成7年度	同上
医療福祉学部						1.01		
医療福祉・マシ ン学科	4	160	-	640	学士 (医療福祉 学) 学士 (医療マシ ン学)	1.01	平成9年度	同上
薬学部						1.08		
薬学科	6	180	-	1,080	学士 (薬学)	1.08	平成18年度	同上
小田原保健医療学部						1.13		
看護学科	4	80	-	320	学士 (看護学)	1.09	平成18年度	神奈川県小田原市城山一 丁目2番25号
理学療法学科	4	80	-	200	学士 (理学療法 学)	1.15	平成18年度	同上
作業療法学科	4	40	-	160	学士 (作業療法 学)	1.16	平成18年度	同上
福岡看護学部						1.15		
看護学科	4	100	-	360	学士 (看護学)	1.15	平成20年度	福岡市早良区 百道浜1-7-4
福岡保健医療学部						1.12		
理学療法学科	4	80	-	320	学士 (理学療法 学)	1.15	平成17年度	同上
作業療法学科	4	40	-	160	学士 (作業療法 学)	1.10	平成17年度	同上

言語聴覚学科	4	40	-	160	学士 (言語聴覚学)	1.13	平成19年度	同上	
医学検査学科	4	80	-	320	学士 (医学検査学)	1.09	平成25年度	同上	
成田看護学部						1.07			
看護学科	4	100	-	400	学士 (看護学)	1.07	平成28年度	千葉県成田市 公津の杜4丁目3番	
成田保健医療学部						1.06			
理学療法学科	4	80	-	320	学士 (理学療法学)	1.10	平成28年度	同上	
作業療法学科	4	40	-	160	学士 (作業療法学)	1.06	平成28年度	同上	
言語聴覚学科	4	40	-	160	学士 (言語聴覚学)	1.03	平成28年度	同上	
医学検査学科	4	80	-	320	学士 (医学検査学)	1.06	平成28年度	同上	
医療福祉学研究科 修士課程						1.39			
保健医療学専攻	2	100	-	200	修士 (保健医療学)	1.68	平成11年度	栃木県大田原市北金丸 2600番1	
					修士 (看護学)				
					修士 (助産学)				
					修士 (言語聴覚学)				
					修士 (生殖補助医療学)				
					修士 (医療福祉教育・管理学)				
					修士 (臨床検査学)				
医療福祉経営専攻	2	50	-	100	修士 (医療福祉学)	1.02	平成13年度	同上	
					修士 (診療情報管理学)				
					修士 (医療ビジネス経営学)				
					修士 (医療福祉管理学)				
					修士 (介護福祉・ケアマネジメント学)				
					修士 (医療福祉ジャーナリズム学)				
臨床心理学専攻	2	25	-	50	修士 (臨床心理学)	1.00	平成19年度	同上	
医療福祉学研究科 博士課程						1.38			

保健医療学専攻	3	50	-	150	博士 (保健医療学)	1.38	平成13年度	同上
					博士 (看護学)			
					博士 (助産学)			
					博士 (言語聴覚学)			
					博士 (生殖補助医療学)			
					博士 (臨床検査学)			
					博士 (医療福祉経営学)			
					博士 (医療福祉学)			
					博士 (診療情報管理学)			
					博士 (介護福祉・ケアマネジメント学)			
					博士 (臨床心理学)			
					博士 (医療福祉ジャーナリズム学)			
薬科学研究科 修士課程						0.20		
生命薬科学専攻	2	5	-	10	修士 (薬科学)	0.20	平成22年度	同上
薬学研究科 博士課程						0.45		
医療・生命薬学 専攻	4	5	-	20	博士 (薬学)	0.45	平成24年度	同上

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず、履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<成田保健医療学部 言語聴覚学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職 名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	学科長 教授	シロノ マリ 城間 将江 (63)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）						
				関連職種連携論						
				関連職種連携ワーク						
				関連職種連携実習						
				国際医療保健学演習	兼任	教授	河野 真 (50)	平成29年4月	国際医療保健学演習	教育内容からより適切な教員へ変更（29）
				言語聴覚障害学概論	専任	教授	内田 信也 (47)	平成29年4月	言語聴覚障害学概論	負担軽減の観点から担当追加（29）
					専任	教授	原田 浩美 (52)	平成29年4月		
					専任	准教授	吉田 浩森 (64)	平成29年4月		
					専任	准教授	菅野 倫子 (43)	平成29年4月		
					専任	准教授	石山 寿子 (54)	平成29年4月		
					専任	講師	堀崎 淳也 (43)	平成29年4月		
					専任	助教	相川 倫 (37)	平成29年4月		
					専任	助教	佐々木 香緒里 (32)	平成29年4月		
					専任	助教	塚原 恵 (27)	平成29年4月		
					専任	助教	太石 斐子 (34)	平成29年4月		
					兼任	教授	藤田 郁代 (71)	平成29年4月		
				言語聴覚障害学診断学						
				聴覚障害学総論	専任	教授	原田 浩美 (52)	平成29年4月	聴覚障害学総論	負担軽減の観点から担当追加（29）
					専任	助教	塚原 恵 (27)	平成29年4月		
					専任	教授	内田 信也 (47)	平成29年4月		
					兼任	教授	畦上 恭彦 (58)	平成29年4月		
				英語で学ぶ言語聴覚療法の基礎						
				言語聴覚療法英語論文抄読						
				言語聴覚障害学特論Ⅰ（基礎）						
				言語聴覚障害学特論Ⅱ（発展）						
				臨床実習Ⅰ（基礎）						
				臨床実習Ⅱ（総合）						
				卒業研究						
								平成29年4月	聴覚機能評価学	負担軽減の観点から担当追加（29）
								平成29年4月	聴覚補償論（補聴器・人工内耳など）	
								平成29年4月	視覚聴覚障害学（二重障害を含む）	
								平成29年4月	コミュニケーション障害演習	
								平成29年4月	大学入門講座Ⅱ（展開）	

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職 名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授	イワサキ シン 岩崎 聡 (55)	平成28年4月	耳鼻咽喉科学						
				音声言語医学						
				聴覚医学	兼任	教授	加茂 孝孝 (72)	平成29年4月	聴覚医学	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
専任	教授	ウチノ シンヤ 内田 信也 (46)	平成28年4月	心理測定法演習						
				失語症・高次脳機能障害学総論Ⅰ（基礎）	専任	准教授	菅野 倫子 (43)	平成29年4月	失語症・高次脳機能障害学総論Ⅰ（基礎）	負担軽減の観点から担当追加 (29)
				失語症・高次脳機能障害学総論Ⅱ（発展）	専任	助教	太石 慧子 (34)	平成29年4月		
				失語症・高次脳機能障害学総論Ⅱ（発展）	専任	准教授	菅野 倫子 (43)	平成29年4月	失語症・高次脳機能障害学総論Ⅱ（発展）	負担軽減の観点から担当追加 (29)
				失語症・高次脳機能障害学総論Ⅱ（発展）	専任	助教	太石 慧子 (34)	平成29年4月		
				高次脳機能障害学						
				言語聴覚障害学研究法						
				言語聴覚療法総合演習						
				国際医療保健学実習						
				臨床実習Ⅰ（基礎）						
				臨床実習Ⅱ（総合）						
				卒業研究						
								平成29年4月	言語聴覚障害学概論	負担軽減の観点から担当追加 (29)
								平成29年4月	コミュニケーション障害演習	
								平成29年4月	情緒心理学	

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授	ハラダ ヒロミ 原田 浩美 (52)	平成28年4月	災害保健学						
				予防保健学	兼任	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	予防保健学	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
				国際医療保健学	兼任	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	国際医療保健学	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
				異文化体験実習	兼任	教授	小川 正子 (65)	平成29年4月	異文化体験実習	教育内容からより適切な教員へ変更・負担軽減の観点から担当追加 (29)
					兼任	准教授	森山 ますみ (54)	平成29年4月		
					兼任	講師	園 純一郎 (48)	平成29年4月		
					兼任	助教	二田水 彩 (34)	平成29年4月		
					兼任	助教	河野 悠季 (34)	平成29年4月		
					専任	助教	大石 斐子 (34)	平成29年4月		
				聴覚心理学						
				聴覚機能評価学	専任	教授	城間 将江 (64)	平成29年4月	聴覚機能評価学	負担軽減の観点から担当追加 (29)
					専任	助教	塚原 恵 (27)	平成29年4月		
					兼任	准教授	小淵 千絵 (42)	平成29年4月		
				聴覚補償論（補聴器・人工内耳など）	専任	教授	城間 将江 (64)	平成29年4月	聴覚補償論（補聴器・人工内耳など）	負担軽減の観点から担当追加 (29)
					専任	助教	塚原 恵 (27)	平成29年4月		
				小児聴覚障害学Ⅰ（評価・診断）						
				小児聴覚障害学Ⅱ（指導）						
				成人聴覚障害学（二重障害を含む）	専任	教授	城間 将江 (64)	平成29年4月	成人聴覚障害学（二重障害を含む）	負担軽減の観点から担当追加 (29)
					専任	助教	塚原 恵 (27)	平成29年4月		
				災害リハビリテーション学						
				臨床実習Ⅰ（基礎）						
				臨床実習Ⅱ（総合）						
				卒業研究						
								平成29年4月	言語聴覚障害学概論	負担軽減の観点から担当追加 (29)
								平成29年4月	言語障害学総論	
								平成29年4月	コミュニケーション障害演習	

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	准教授	イシヤマ ヒサ子 石山 寿子 (54)	平成29年4月	音声学	専任 講師	今泉 敬 (66)	平成29年4月	音声学	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)	
				摂食・嚥下障害学Ⅰ（理論・評価診断）	専任 准教授	吉田 浩森 (64)	平成29年4月	摂食・嚥下障害学Ⅰ（理論・評価診断）	負担軽減の観点から担当追加 (29)	
				摂食・嚥下障害学Ⅱ（治療）	専任 助教	相川 倫 (37)	平成29年4月			
					兼任 教授	角田 直 (50)	平成29年4月			
				構音障害学Ⅰ（理論）	専任 准教授	吉田 浩森 (64)	平成29年4月	構音障害学Ⅰ（理論）	負担軽減の観点から担当追加 (29)	
				構音障害学Ⅱ（評価・診断）	専任 助教	相川 倫 (37)	平成29年4月			
				国際医療保健学実習						
				構音障害学演習（治療）						
				臨床実習Ⅰ（基礎）						
				臨床実習Ⅱ（総合）						
				卒業研究						
							平成29年4月	言語聴覚障害学概論	負担軽減の観点から担当追加 (29)	負担軽減の観点から担当追加 (29)
							平成29年4月	コミュニケーション技能演習		
							平成29年4月	聴覚言語障害学総論		
			平成29年4月	コミュニケーション障害演習						
専任	准教授	カノ ミホ 菅野 倫子 (43)	平成29年4月	言語心理学						
				失語症Ⅰ（評価・診断）						
				失語症Ⅱ（治療）						
				失語症・高次脳機能障害学演習						
				臨床実習Ⅰ（基礎）						
				臨床実習Ⅱ（総合）						
				卒業研究						
							平成29年4月	言語聴覚障害学概論	負担軽減の観点から担当追加 (29)	負担軽減の観点から担当追加 (29)
							平成29年4月	失語症・高次脳機能障害学総論Ⅰ（基礎）		
							平成29年4月	失語症・高次脳機能障害学総論Ⅱ（発展）		
							平成29年4月	コミュニケーション技能演習		
							平成29年4月	コミュニケーション障害演習		
							平成29年4月	神経心理学		

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	准教授	ヨシタ フミコ 吉田 浩恵 (63)	平成28年4月	言語学	専任	講師	田端 敏幸 (65)	平成29年4月	言語学	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
				言語発達学	専任	助教	佐々木 香緒里 (32)	平成29年4月	言語発達学	負担軽減の観点から担当追加 (29)
				発声発語障害学総論	専任	准教授	石山 寿子 (54)	平成29年4月	発声発語障害学総論	負担軽減の観点から担当追加 (29)
					専任	助教	相川 倫 (37)	平成29年4月		
				流暢性障害学						
				教職教養						
				特別支援教育						
				日本語教授法	兼任	講師	茅野 正雄 (61)	平成29年4月	日本語教授法	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
				臨床実習Ⅰ（基礎）						
				臨床実習Ⅱ（総合）						
				卒業研究						
								平成29年4月	言語聴覚障害学概論	負担軽減の観点から担当追加 (29)
								平成29年4月	聴覚・聴下障害学Ⅰ（理論・評価・診断）	
								平成29年4月	構音障害学Ⅰ（理論）	
								平成29年4月	コミュニケーション障害演習	
								平成29年4月	大学入門講座Ⅰ（基礎）	
専任	講師	イワサキ シュンタ 岩崎 淳也 (43)	平成29年4月	言語発達障害学総論	専任	助教	佐々木 香緒里 (32)	平成29年4月	言語発達障害学総論	負担軽減の観点から担当追加 (29)
				言語発達障害学各論	専任	助教	佐々木 香緒里 (32)	平成29年4月	言語発達障害学各論	負担軽減の観点から担当追加 (29)
					兼任	教授	畦上 恭彦 (58)	平成29年4月		
				言語発達障害学Ⅰ（評価・診断）	専任	助教	佐々木 香緒里 (32)	平成29年4月	言語発達障害学Ⅰ（評価・診断）	負担軽減の観点から担当追加 (29)
				言語発達障害学Ⅰ演習（評価・診断）	兼任	教授	畦上 恭彦 (58)	平成29年4月		
				言語発達障害学Ⅱ（指導）						
				言語発達障害学Ⅱ演習（指導）						
				臨床実習Ⅰ（基礎）						
				臨床実習Ⅱ（総合）						
				卒業研究						
								平成29年4月	言語聴覚障害学概論	負担軽減の観点から担当追加 (29)
								平成29年4月	コミュニケーション障害演習	

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	アカミ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	助教	アカミ 相川 倫 (35)	平成28年4月	基礎音声学	専任	講師	今泉 敏 (66)	平成29年4月	基礎音声学	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
				音声学					音声学	
				コミュニケーション技能演習	専任	准教授	菅野 倫子 (43)	平成29年4月	コミュニケーション技能演習	負担軽減の観点から担当追加 (29)
					専任	准教授	石山 寿子 (54)	平成29年4月		
					専任	助教	佐々木 香緒里 (32)	平成29年4月		
					専任	助教	塚原 恵 (27)	平成29年4月		
					専任	助教	大石 雙子 (34)	平成29年4月		
				言語聴覚障害基礎演習						
				音声障害学						
				国際医療保健学演習	兼任	教授	河野 真 (50)	平成29年4月	国際医療保健学演習	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
				構音障害学演習 (治療)						
				臨床実習Ⅰ (基礎)						
				臨床実習Ⅱ (総合)						
				卒業研究						
								平成29年4月	言語聴覚障害学概論	負担軽減の観点から担当追加 (29)
								平成29年4月	聴覚・聴下障害学Ⅰ (理論・評価 基礎)	
								平成29年4月	構音障害学Ⅰ (理論)	
								平成29年4月	音声聴覚障害学総論	
								平成29年4月	コミュニケーション障害演習	
専任	助教	アカミ 塚原 恵 (27)	平成29年4月	コミュニケーション障害演習	専任	教授	城間 将江 (64)	平成29年4月	コミュニケーション障害演習	負担軽減の観点から担当追加 (29)
					専任	教授	内田 信也 (47)	平成29年4月		
					専任	教授	藤田 浩美 (52)	平成29年4月		
					専任	准教授	吉田 浩盛 (64)	平成29年4月		
					専任	准教授	菅野 倫子 (43)	平成29年4月		
					専任	准教授	石山 寿子 (54)	平成29年4月		
					専任	講師	岩崎 淳也 (43)	平成29年4月		
					専任	助教	相川 倫 (37)	平成29年4月		
					専任	助教	佐々木 香緒里 (32)	平成29年4月		
					専任	助教	大石 雙子 (34)	平成29年4月		
					兼任	准教授	真吉 佐知子 (56)	平成29年4月		
					兼任	助教	葛城 達史 (42)	平成29年4月		
				臨床実習Ⅰ (基礎)						
				臨床実習Ⅱ (総合)						
				卒業研究						
								平成29年4月	言語聴覚障害学概論	負担軽減の観点から担当追加 (29)
								平成29年4月	言語障害学総論	
								平成29年4月	聴覚聴覚評価学	
								平成29年4月	聴覚補償論 (補聴器・人工内耳など)	
								平成29年4月	成人聴覚障害学 (二重障害を含む)	

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職 名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	ウキノ トシキ 上野 俊昭 (51)	平成28年4月	脳神経科学						
兼任	教授	マサノ スミ 大澤 進 (68)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	専任	教授	城間 将江 (64)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	教育内容からより適切な教員へ変更（29）
				関連職種連携論					関連職種連携論	
				関連職種連携ワーク						
				関連職種連携実習						
兼任	教授	カクチ ケン 亀口 憲治 (68)	平成28年4月	コミュニケーション概論	兼任	助教	山川 誠司 (51)	平成28年4月	コミュニケーション概論	教育内容からより適切な教員へ変更（28）
				雑談と傾聴-話す力と聴く力-	兼任	准教授	小野寺 毅志 (53)	平成29年4月	雑談と傾聴-話す力と聴く力-	負担軽減の観点から担当追加（29）
					兼任	准教授	小島 秀吾 (46)	平成29年4月		
					兼任	准教授	渡田野 茂幸 (50)	平成29年4月		
					兼任	准教授	白井 明美 (50)	平成29年4月		
					兼任	助教	山川 誠司 (52)	平成29年4月		
					兼任	講師	矢口 大雄 (31)	平成29年4月		
					兼任	助教	山川 誠司 (51)	平成28年4月	臨床心理学概論	教育内容からより適切な教員へ変更（28）
				臨床心理学	兼任	助教	山川 誠司 (52)	平成29年4月	臨床心理学	教育内容からより適切な教員へ変更（29）
				生涯発達心理学	兼任	講師	矢口 大雄 (31)	平成28年4月	生涯発達心理学	教育内容からより適切な教員へ変更（28）
				学習心理学	兼任	講師	関口 勝夫 (33)	平成29年4月	学習心理学	教育内容からより適切な教員へ変更（29）
				認知心理学	兼任	講師	野添 健太 (31)	平成29年4月	認知心理学	教育内容からより適切な教員へ変更（29）
				心理測定法	兼任	講師	喜代一（さきいち） （28歳）	平成29年4月	心理測定法	教育内容からより適切な教員へ変更（28）
					兼任	講師	坂井 剛 (33)	平成29年4月	心理測定法	教育内容からより適切な教員へ変更（29）
兼任	教授	カイ ココ 川合 陽子 (67)	平成28年4月	医学概論	兼任	教授	北村 聖 (62)	平成29年4月	医学概論	教育内容からより適切な教員へ変更（29）
				内科学	兼任	教授	北村 聖 (62)	平成29年4月	内科学	負担軽減の観点から担当追加（29）
兼任	教授	カノ トシオ 河野 秀夫 (69)	平成29年4月	小児科学	兼任	教授	門脇 弘子 (69)	平成29年4月	小児科学	教育内容からより適切な教員へ変更（29）
兼任	教授	カノ マコト 河野 真 (49)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	専任	教授	城間 将江 (64)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	教育内容からより適切な教員へ変更（29）
兼任	教授	カノ マコト 河野 真 (49)	平成28年4月	国際医療保健学	兼任	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	国際医療保健学	負担軽減の観点から担当追加（29）
				異文化体験実習	兼任	教授	小川 正子 (65)	平成29年4月	異文化体験実習	教育内容からより適切な教員へ変更・負担軽減の観点から担当追加（29）
					兼任	准教授	森山 ますみ (54)	平成29年4月		
					兼任	講師	園 純一郎 (48)	平成29年4月		
					兼任	助教	二田水 彩 (34)	平成29年4月		
					兼任	助教	河野 弥季 (34)	平成29年4月		
					兼任	助教	大石 慧子 (34)	平成29年4月		
				国際医療保健学演習						
				国際医療保健学実習						
				災害リハビリテーション学						

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	コサキ マサキ 小坂 正明 (58)	平成29年4月	形成外科学	兼任	教授	松崎 恭一 (54)	平成29年4月	形成外科学	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
兼任	教授	コサキ ヒロシ 小坂 浩幸 (51)	平成28年4月	生理学	兼任	講師	林 真理子 (47)	平成28年4月	生理学	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
兼任	教授	シハラ ミチコ 杉原 崇子 (73)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	専任	教授	城間 得江 (64)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
				大学入門講座Ⅰ（基礎）	専任	准教授	吉田 浩哉 (64)	平成29年4月	大学入門講座Ⅰ（基礎）	負担軽減の観点から担当追加 (29)
					兼任	教授	松谷 有希雄 (57)	平成29年4月		
					兼任	教授	川上 和久 (59)	平成29年4月		
					兼任	教授	西田 裕介 (41)	平成29年4月		
					兼任	教授	木戸 久美子 (49)	平成29年4月		
					兼任	教授	橋井 正義 (69)	平成29年4月		
					兼任	助教	山川 誠司 (52)	平成29年4月		
					専任	教授	城間 得江 (64)	平成29年4月	大学入門講座Ⅱ（展開）	負担軽減の観点から担当追加 (29)
				大学入門講座Ⅱ（展開）	兼任	教授	川上 和久 (59)	平成29年4月		
					兼任	教授	西田 裕介 (41)	平成29年4月		
					兼任	教授	河野 眞 (50)	平成29年4月		
					兼任	教授	大澤 進 (69)	平成29年4月		
				関連職種連携論	専任	教授	城間 得江 (64)	平成29年4月	関連職種連携論	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
				関連職種連携ワーク						
				関連職種連携実習						
兼任	教授	シハラ イイ 須藤 英一 (54)	平成28年4月	老年学	兼任	教授	滝野 友彦 (48)	平成29年4月	老年学	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
兼任	教授	ナカノ ミツヲ 長沢 光章 (58)	平成28年4月	災害保健学						教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
兼任	教授	ニシタ コスウ 西田 祐介 (40)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	専任	教授	城間 得江 (64)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
				レクリエーション概論	兼任	准教授	堀田 英樹 (50)	平成29年4月	レクリエーション概論	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
				関連職種連携論	兼任	助教	竹内 真太 (31)	平成29年4月	関連職種連携論	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
				関連職種連携ワーク						
				関連職種連携実習						
兼任	教授	ノリタ コスウ 栗松 祐佐 (41)	平成28年4月	リハビリテーション概論	専任	准教授	吉田 浩哉 (64)	平成29年4月	リハビリテーション概論	負担軽減の観点から担当追加 (29)
					兼任	教授	お原 孝子 (73)	平成28年4月		教育内容からより適切な教員へ変更 (28)

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼担 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼担 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼担	教授	ハヤシ タツミ 林 琢磨 (51)	平成28年4月	生物学	兼担	講師	湯澤 聡 (46)	平成29年4月	生物学	退職による教員変更
				国際医療通訳入門	兼担	准教授	押味 貴之 (44)	平成29年4月	国際医療通訳入門	退職による教員変更
				異文化体験実習	兼担	教授	小川 正子 (65)	平成28年4月	異文化体験実習	退職による教員変更・教育内容からより適切な教員へ変更・負担軽減の観点から担当追加 (29)
					兼担	准教授	森山 ますみ (54)	平成28年4月		
					兼担	講師	園 純一郎 (40)	平成28年4月		
					兼担	助教	二田水 彩 (34)	平成28年4月		
					兼担	助教	河野 弥季 (34)	平成28年4月		
					専任	助教	太石 雙子 (34)	平成29年4月		
兼担	教授	ミナミ カキ 三宅 克也 (52)	平成28年4月	解剖学	兼担	教授	松野 義晴 (51)	平成29年4月	解剖学	教育内容からより適切な教員に変更 (29)
兼担	教授	ミヤタ テヨウ 宮田 哲郎 (61)	平成28年4月	救急医学	兼担	准教授	志賀 隆 (40)	平成29年4月	救急医学	教育内容からより適切な教員に変更 (29)
兼担	教授	モリ イサヲ 森 一郎 (64)	平成28年4月	病理学						
兼担	准教授	ヒカサ マサミ 糸数 昌史 (38)	平成28年4月	予防保健学	兼担	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	予防保健学	負担軽減の観点から担当追加 (29)
兼担	准教授	オヤマチ シズエ 小山田 静枝 (49)	平成28年4月	人間学	兼担	教授	鹿島 晴雄 (71)	平成28年4月	人間学	教育内容からより適切な教員に変更 (28)
				精神医学	兼担	教授	鹿島 晴雄 (72)	平成29年4月	精神医学	教育内容からより適切な教員に変更 (29)
				神経心理学	兼担	教授	古堀一摩子 (45-46)	平成28年4月	神経心理学	教育内容からより適切な教員に変更(28)→
					専任	教授	内田 信也 (47)	平成29年4月		教育内容からより適切な教員に変更 (29)
					専任	准教授	菅野 倫子 (43)	平成29年4月		
					専任	助教	太石 雙子 (34)	平成29年4月		
					兼担	教授	阿部 晶子 (53)	平成29年4月		
兼担	准教授	クニタニ ショウ 工藤 芳子 (53)	平成28年4月	予防保健学	兼担	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	予防保健学	教育内容からより適切な教員に変更 (29)
				国際医療保健学					国際医療保健学	
兼担	講師	エノ シュンゾウ 園 純一郎 (47)	平成28年4月	予防保健学	兼担	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	予防保健学	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
兼担	講師	シムラ ケイタ 志村 圭太 (33)	平成28年4月	国際医療保健学実習						
				国際医療保健学	兼担	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	国際医療保健学	負担軽減の観点から担当追加 (29)
兼担	講師	スズキ シュンゾウ 鈴木 純子 (46)	平成28年4月	臨床神経学	兼担	教授	内山 真一郎 (68)	平成29年4月	臨床神経学	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
				中枢神経機能学					中枢神経機能学	
				遺伝学	兼担	講師	山口 良孝 (47)	平成29年4月	遺伝学	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
兼担	講師	ミウラ トモカ 三浦 和 (36)	平成28年4月	災害保健学						
				国際医療保健学演習	兼担	教授	河野 真 (50)	平成29年4月	国際医療保健学演習	教育内容からより適切な教員へ変更 (29)
				災害リハビリテーション学						
兼担	講師	ミヤタテ カズキ 宮森 隆行 (41)	平成28年4月	健康科学実践	兼担	講師	志村 圭太 (34)	平成29年4月	健康科学実践	負担軽減の観点から担当追加 (29)
					兼担	助教	湯 駿一 (29)	平成29年4月		

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	助教	イシイ 梓シ 石井 清志 (35)	平成28年4月	災害保健学						
兼任	助教	ワタ リョウイチ 澤 龍一 (28)	平成28年4月	異文化体験実習	兼任	教授	小川 正子 (65)	平成28年4月	異文化体験実習	教育内容からより適切な教員へ変更・負担軽減の観点から担当追加（28）
					兼任	准教授	森山 ますみ (54)	平成28年4月		
					兼任	講師	廣 真一郎 (40)	平成28年4月		
					兼任	助教	二田水 彩 (34)	平成28年4月		
					兼任	助教	河野 弥季 (34)	平成28年4月		
					専任	助教	大石 慧子 (34)	平成28年4月		

5 教員組織の状況

<共通>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	アカハ トシロ 縣 俊彦 (63)	平成28年4月	統計学 疫学・保健医療統計学	兼任	教授	稲垣 誠一 (60)	平成28年4月	統計学 疫学・保健医療統計学	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
兼任	教授	アマノ タカロ 天野 隆弘 (72)	平成28年4月	医学/医療史 エビデンスベースドプラクティス (研究と文献)	兼任	教授	黒澤 和生 (56)	平成28年4月	医学/医療史	就任辞退に伴う教員の変更 (28)
					兼任	教授	稲垣 誠一 (60)	平成29年4月	エビデンスベースドプラクティス (研究と文献)	教育効果を考慮し担当教員の変更 (29)
兼任	教授	オカウ マチコ 小川 正子 (64)	平成28年4月	スペイン語入門(会話含む) スペイン語応用(会話含む)	兼任	講師	Silvia Antonia (53)	平成28年4月	スペイン語入門(会話含む) スペイン語応用(会話含む)	専門性を考慮し、ネイティブスピーカーの非常勤教員に変更 (28)
兼任	教授	キタチ テアウ 菊池 哲郎 (68)	平成28年4月	経済の仕組み 経済の歴史 世界の経済 世界遺産と国際文化政策	兼任	教授	堀岡 健一 (57)	平成28年4月	経済の仕組み	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
					兼任	講師	濱田 敏重 (62)	平成29年4月 平成29年4月	経済の歴史 世界の経済	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
					兼任	教授	佐藤 領一 (74)	平成28年4月	世界遺産と国際文化政策	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
兼任	教授	キタムヨシロ 北村 義浩 (55)	平成28年4月	国際医療福祉論 公衆衛生学 感染と免疫						
					兼任	准教授	横生 文恵 (46)	平成29年4月	公衆衛生学	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
					兼任	准教授	小川一博 (60)	平成28年4月		教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
					兼任	教授	長沢 光章 (59)	平成29年4月		
					兼任	准教授	梅宮 敬文 (62)	平成29年4月		
					兼任	准教授	工藤 芳子 (54)	平成29年4月		担当教員の退職に伴う教員変更・負担軽減の観点から担当追加 (29)
					兼任	講師	木村 明佳子 (41)	平成29年4月		
					兼任	教授	林一寿郎 (64)	平成28年4月		教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
兼任	教授	シマタ サキ 島田 直樹 (52)	平成28年4月	数学	兼任	教授	稲垣 誠一 (60)	平成28年4月	数学	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
兼任	教授	タカハシ イサオ 武原 格 (48)	平成28年4月	リハビリテーション医学	兼任	教授	栗松 祐佐 (41)	平成28年4月	リハビリテーション医学	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
兼任	教授	タカハシ マチコ 梅井 正義 (68)	平成28年4月	哲学 倫理学						
兼任	教授	チバイン ミカ 茶園 美香 (66)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 関連職種連携論 関連職種連携ワーク 関連職種連携実習	兼任	教授	堀岡 将江 (64)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅱ (実習) 関連職種連携論	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任の別	職 名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	カッ サコ 堀田 聡子 (38)	平成28年4月	ケアマネジメント論	兼任	准教授	林 和美 (57)	平成28年4月	ケアマネジメント論	担当教員の退職に伴う教員の変更 (29)
					兼任	准教授	井上 善行 (44)	平成28年4月		兼任辞退に伴う教員の変更 (28)
				社会福祉学	兼任	教授	小林 雅彦 (59)	平成28年4月	社会福祉学	担当教員の退職に伴う教員の変更 (29)
					兼任	准教授	井上 善行 (44)	平成28年4月		兼任辞退に伴う教員の変更 (28)
兼任	教授	マルキ カズシ 丸木 一成 (67)	平成28年4月	社会保障制度論	兼任	教授	金野 充博 (69)	平成28年4月	社会保障制度論	就任辞退に伴う教員の変更 (28)
				マスメディア論	兼任	教授	川上 和久 (58)	平成28年4月	マスメディア論	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (28)
				新聞でみた日本と世界	兼任	教授	川上 和久 (58)	平成28年4月	新聞でみた日本と世界	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (28)
兼任	教授	マルキ ヒトシ 丸山 仁司 (65)	平成28年4月	医療福祉教養講義	兼任	教授	谷口 敬道	平成28年4月	医療福祉教養講義	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
兼任	教授	ミヤギ ミコ 宮崎 路子 (59)	平成28年4月	英語B-1 (視聴覚英語基礎)	兼任	講師	師岡ヒビアンル イーズ (80)	平成28年4月	英語B-1 (視聴覚英語基礎)	負担軽減の観点から担当変更 (29)
					兼任	准教授	田中 泰郎 (57)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (28)
				英語B-2 (視聴覚英語応用)	兼任	講師	師岡ヒビアンル イーズ (80)	平成28年4月	英語B-2 (視聴覚英語応用)	負担軽減の観点から担当変更 (29)
					兼任	准教授	田中 泰郎 (57)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (28)
				英語ライティング1 (Primary)	兼任	講師	師岡ヒビアンル イーズ (80)	平成28年4月	英語ライティング1 (Primary)	負担軽減の観点から担当変更 (29)
					兼任	准教授	田中 泰郎 (57)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (28)
				英語ライティング2 (Basic)	兼任	講師	師岡ヒビアンル イーズ (80)	平成28年4月	英語ライティング2 (Basic)	負担軽減の観点から担当変更 (29)
					兼任	准教授	田中 泰郎 (57)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (28)
				基礎英文法1 (Primary)	兼任	准教授	田中 泰郎 (57)	平成28年4月	基礎英文法1 (Primary)	成田キャンパス所属の担当教員着任および効果的な教育のための少人数教育実践のため、担当教員の追加変更 (28)
					兼任	講師	Goem-H-Florescu (36)	平成28年4月	基礎英文法1 (Primary)	所属異動に伴う担当変更 (29)
				基礎英文法2 (Basic)	兼任	准教授	田中 泰郎 (57)	平成28年4月	基礎英文法2 (Basic)	成田キャンパス所属の担当教員着任および効果的な教育のための少人数教育実践のため、担当教員の追加変更 (28)
					兼任	講師	Goem-H-Florescu (36)	平成28年4月	基礎英文法2 (Basic)	所属異動に伴う担当変更 (29)
兼任	教授	タウ マチ 武藤 正樹 (67)	平成28年4月	リスクマネジメント論						
兼任	教授	タウ マチ 武藤 正樹 (67)	平成28年4月	経営の仕組み	兼任	准教授	羽田 明浩 (53)	平成28年4月	経営の仕組み	教育内容からより適切な教員に変更 (28)
				組織運営管理論					組織運営管理論	
兼任	教授	タウ マチ 武藤 正樹 (67)	平成28年4月	保健医療福祉制度論	兼任	教授	金野 充博 (59)	平成28年4月	保健医療福祉制度論	教育内容からより適切な教員に変更 (28)
兼任	教授	モイ マリコ 桃井 真理子 (68)	平成28年4月	海外保健福祉事情 I (講義)	兼任	教授	城間 将江 (64)	平成28年4月	海外保健福祉事情 I (講義)	教育内容からより適切な教員に変更 (29)
				小児神経学						

設置時の計画					変更状況					備 考			
専任 兼任 兼任の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名				
兼任	教授	ヤマシタ カコ 山下 香枝子 (71)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	専任	教授	城間 得江 (84)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	教育内容からより適切な教員へ変更（28）			
				大学入門講座Ⅰ（基礎）	兼任	准教授	吉田 浩彦 (64)	平成28年4月	大学入門講座Ⅰ（基礎）	負担軽減の観点から担当追加（29）			
					兼任	教授	松谷 有希雄 (67)	平成28年4月					
					兼任	教授	川上 和久 (59)	平成28年4月					
					兼任	教授	西田 裕介 (41)	平成28年4月					
					兼任	教授	木戸 久美子 (49)	平成28年4月					
					兼任	教授	橋井 正義 (69)	平成28年4月					
					兼任	助教	山川 誠司 (52)	平成28年4月					
					専任	教授	城間 得江 (84)	平成28年4月			大学入門講座Ⅱ（展開）	負担軽減の観点から担当追加（29）	
					兼任	教授	川上 和久 (59)	平成28年4月					
					兼任	教授	西田 裕介 (41)	平成28年4月					
				兼任	教授	河野 真 (50)	平成28年4月						
				兼任	教授	大澤 進 (69)	平成28年4月						
				兼任	教授	ヤマモト ミコ 山本 暁子 (64)	平成28年4月	人間工学	兼任	教授	宮嶋 宏行 (46)	平成28年4月	人間工学
福祉支援工学概論	兼任	講師	中村 美緒 (35)					平成28年4月	福祉支援工学概論	教育内容からより適切な教員に変更（28）			
兼任	准教授	イノウエ ミナト 井上 善行 (41)	平成28年4月	ケースワーク論	兼任	准教授	林 和美 (57)	平成28年4月	ケースワーク論	担当教員の退職に伴う教員の変更（29）			
兼任	准教授	オオイシ タカシ 大石 剛史 (40)	平成28年4月	ボランティア論									
				ボランティアコーディネート論	兼任	准教授	吉田 浩彦 (64)	平成28年4月	ボランティアコーディネート論	退職に伴う教員変更（28）			
					兼任	准教授	井上 善行 (41)	平成28年4月		教育内容からより適切な教員に変更（28）			
兼任	准教授	オカムラ セツ 岡村 世里奈 (45)	平成28年4月	医療関連法規									
				医療管理学	兼任	教授	塩岡 健一 (57)	平成28年4月	医療管理学	教育内容からより適切な教員に変更（28）			
兼任	准教授	オカコ ジュンイチロウ 金子 純一郎 (48)	平成28年4月	健康科学理論	兼任	教授	西田 裕介 (40)	平成28年4月	健康科学理論	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更（28）			
兼任	准教授	オカコ ショウコ 金子 松五 (51)	平成28年4月	食と人間	兼任	教授	門脇 弘子 (66)	平成28年4月	食と人間	科目名は誤植による修正と就任辞退に伴う教員の変更（28）			
兼任	准教授	サトウ ケイイチ 齋藤 恵一 (57)	平成28年4月	医療情報学概論	兼任	教授	宮嶋 宏行 (47)	平成28年4月	医療情報学概論	教育内容からより適切な教員に変更（28）			
				電子カルテによるチーム医療概論					電子カルテによるチーム医療概論				

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	准教授	サトウ チ 齋藤 智恵 (46)	平成28年4月	英語A-1(講読基礎)	兼任	准教授	田中 泰郎 (58)	平成28年4月	英語A-1(講読基礎)	所属異動に伴う教員の変更(29)
					兼任	講師	Cosmin Florescu (36)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員 の変更(28)
				英語A-2(講読応用)	兼任	准教授	田中 泰郎 (58)	平成28年4月	英語A-2(講読応用)	所属異動に伴う教員の変更(29)
					兼任	講師	Cosmin Florescu (36)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員 の変更(28)
				英語C-1(英会話初級)	兼任	講師	新岡ビビアンル イーズ (80)	平成29年4月	英語C-1(英会話初級)	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員 の変更(28)
				英語C-2(英会話中級)					英語C-2(英会話中級)	
				上級英語文献講読	兼任	講師	新岡ビビアンル イーズ (80)	平成28年4月	上級英語文献講読	教育内容からより適切な教員に変更(29)
					兼任	講師	佐藤一寛子 (44)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員 の変更(28)
					兼任	講師	Cosmin Florescu (36)	平成28年4月		
				上級英語会話1(発展)	兼任	講師	新岡ビビアンルイーズ (59)	平成28年4月	上級英語会話1(発展)	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員 の変更(28)
				上級英語会話2(総合)					上級英語会話2(総合)	
兼任	准教授	チン カツ 陳 龍琴 (58)	平成28年4月	中国語入門(会話含む)	兼任	講師	張 佳恵 (60)	平成28年4月	中国語入門(会話含む)	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員 の変更(28)
				中国語応用(会話含む)					中国語応用(会話含む)	
兼任	准教授	フカイ ヌツム 福井 譲 (44)	平成28年4月	歴史学	兼任	講師	町田 明広 (54)	平成28年4月	歴史学	教育内容からより適切な教員に変更(28)
				日本近現代史						
				韓国語入門(会話含む)	兼任	講師	崔 誠姫 (50)	平成28年4月	韓国語入門(会話含む)	教育内容からより適切な教員に変更(28)
				韓国語応用(会話含む)					韓国語応用(会話含む)	
兼任	准教授	モリヤマ マサミ 森山 ますみ (52)	平成28年4月	世界の中の和文						
兼任	准教授	ヤコウ カリ 矢野 香 (55)	平成29年4月	臨床歯科学						
				口腔外科学						
兼任	講師	イシノリ ノブヒサ 井尻 純一郎 (38)	平成28年4月	化学	兼任	准教授	清宮 正徳 (52)	平成28年4月	化学	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員 の変更(28)
兼任	講師	イノノ マキ 磯野 真穂 (39)	平成28年4月	文化人類学	兼任	教授	加藤 尚子 (52)	平成28年4月	文化人類学	就任辞退に伴う教員の変更(28)
兼任	講師	オカムラ マチコ 岡村 直利 (45)	平成28年4月	物理学	兼任	教授	宮嶋 宏行 (46)	平成28年4月	物理学	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員 の変更(28)
兼任	講師	サトウ カサ 佐藤 寛子 (44)	平成28年4月	英語A-3(講読中級1)	兼任	講師	Vivek Paul Pinto (85)	平成28年4月	英語A-3(講読中級1)	教育内容からより適切な教員に変更(29)
				英語A-4(講読中級2)					英語A-4(講読中級2)	
				資格英語1(Primary)						
				資格英語2(Basic)						
				フランス語入門(会話含む)						
				フランス語応用(会話含む)						
兼任	講師	イノノ マチコ 江田 哲也 (37)	平成28年4月	情報処理Ⅰ(初歩)	兼任	教授	稲垣 誠一 (60)	平成28年4月	情報処理Ⅰ(初歩)	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員 の変更(28)
				情報処理Ⅱ(基礎)	兼任	教授	宮嶋 宏行 (46)	平成28年4月	情報処理Ⅱ(基礎)	
				情報処理Ⅲ(応用)					情報処理Ⅲ(応用)	
兼任	講師	テラタ ケンカ 寺田 佳孝 (33)	平成28年4月	教育学						

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	助教	オカカ ヒサシ 大塚 尚 (36)	平成28年4月	心理学	兼任	講師	矢口 大雄 (31)	平成28年4月	心理学	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更 (28)
兼任	助教	キムラ リョウコ 木村 亮子 (34)	平成28年4月	日本語Ⅰ-A(作文)	兼任	講師	品川 なきさ (45)	平成29年4月	日本語Ⅰ-A(作文)	産休に伴う担当教員の変更 (29)
					兼任	講師	小川—美香 (39)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
				日本語Ⅱ-A(作文)	兼任	講師	稲田 朋華 (42)	平成29年4月	日本語Ⅱ-A(作文)	産休に伴う担当教員の変更 (29)
					兼任	講師	小川—美香 (39)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
				日本語Ⅱ-C(発表・討論)	兼任	助教	山元 一晃 (32)	平成29年4月	日本語Ⅱ-C(発表・討論)	担当者の産休に伴う教員の変更・負担軽減の観点から担当追加 (29)
					兼任	講師	江藤 由美 (58)	平成29年4月		
					兼任	講師	小川—美香 (39)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
				日本語Ⅲ-A(作文)	兼任	講師	江藤 由美 (56)	平成29年4月	日本語Ⅲ-A(作文)	担当者の産休に伴う教員の変更 (29)
					兼任	講師	小川—美香 (39)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
				日本語Ⅲ-C(発表・討論)	兼任	講師	加藤 林太郎 (36)	平成29年4月	日本語Ⅲ-C(発表・討論)	担当者の産休に伴う教員の変更 (29)
					兼任	講師	小川—美香 (39)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
				医療福祉専門漢字	兼任	准教授	茅野 正雄 (60)	平成29年4月	医療福祉専門漢字	担当者の産休に伴う教員の変更・負担軽減の観点から担当追加 (29)
					兼任	助教	加藤 林太郎 (36)	平成29年4月		
					兼任	講師	小川—美香 (39)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
兼任	助教	ウケライ ミミ 櫻井 留美 (29)	平成28年4月	日本語Ⅰ-B(文法・語彙)	兼任	講師	品川 なきさ (45)	平成29年4月	日本語Ⅰ-B(文法・語彙)	教育内容からより適切な教員に変更 (29)
					兼任	講師	茅野—正雄 (60)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
				日本語Ⅱ-B(文法・語彙)	兼任	講師	稲田 朋華 (42)	平成29年4月	日本語Ⅱ-B(文法・語彙)	教育内容からより適切な教員に変更 (29)
					兼任	講師	茅野—正雄 (60)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
				日本語Ⅱ-D(専門日本語)	兼任	講師	茅野 正雄 (60)	平成28年4月	日本語Ⅱ-D(専門日本語)	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
				日本語Ⅲ-B(文法・語彙)	兼任	助教	加藤 林太郎 (36)	平成29年4月	日本語Ⅲ-B(文法・語彙)	教育内容からより適切な教員に変更 (29)
					兼任	講師	茅野—正雄 (60)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
				日本語Ⅲ-D(専門日本語)	兼任	助教	山元 一晃 (32)	平成29年4月		教育内容からより適切な教員に変更 (29)
					兼任	講師	茅野—正雄 (60)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
				医療福祉専門語彙	兼任	講師	江藤 由美 (56)	平成29年4月	医療福祉専門語彙	教育内容からより適切な教員に変更 (29)
					兼任	講師	茅野—正雄 (60)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
					兼任	講師	茅野—正雄 (60)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
兼任	講師	アキモト キヨシ 青木 清 (78)	平成28年4月	生命倫理	兼任	教授	梶井 正典 (68)	平成28年4月	生命倫理	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
兼任	講師	ヒノハラ クニオ 海老原 邦雄 (63)	平成28年4月	防災と生活デザイン	兼任	講師	横 秀樹 (75)	平成28年4月	防災と生活デザイン	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更 (28)

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職 名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	オノ トシヲ 大野 敏明 (64)	平成28年4月	アジア諸国の経済・社会・文化	兼任	教授	村上 大介	平成29年4月	アジア諸国の経済・社会・文化	教育内容からより適切な教員に変更 (29)
					兼任	教授	高橋 隆一 茂文 (67)	平成28年5月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (29)
				国際関係論	兼任	教授	村上 大介	平成29年4月	国際関係論	教育内容からより適切な教員に変更 (29)
					兼任	教授	高橋 隆一 茂文 (67)	平成28年5月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (29)
兼任	講師	オハハ' ケン' 大場 達治 (84)	平成28年4月	文学	兼任	講師	秋原 北風 (53)	平成28年4月	文学論	講義のため科目名修正。成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更 (28)
兼任	講師	オノ ケン' 岡野 賢二 (49)	平成28年4月	ビルマ語入門(会話含む)						
				ビルマ語応用(会話含む)	兼任	講師	大澤 幸子 (48)	平成29年4月	ビルマ語応用(会話含む)	担当者の退職に伴う教員の変更 (29)
兼任	講師	オノコウ' タ' アキ 押小路 忠昭 (55)	平成28年4月	社会学 (人間と社会)	兼任	教授	川上 和久 (58)	平成28年4月	社会学 (人間と社会)	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
兼任	講師	オノ リノ 佐藤 里野 (35)	平成28年4月	演劇論	兼任	講師	秋原 北風 (53)	平成28年4月	演劇論	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更 (28)
兼任	講師	ベトナム' エリ 清水 英里 (44)	平成28年4月	ベトナム語入門(会話含む)	兼任	講師	小川 有子 (46)	平成29年4月	ベトナム語入門(会話含む)	担当者の退職に伴う教員の変更 (29)
				ベトナム語応用(会話含む)					ベトナム語応用(会話含む)	
兼任	講師	スドウ マサヒコ 須藤 正彦 (75)	平成28年4月	法学	兼任	講師	伊東 達也 (52)	平成28年4月	法学	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更 (28)
				法と道徳・倫理					法と道徳・倫理	
兼任	講師	スニサ' ウッタヤン' Sunisa Wittayasanyanon (46)	平成28年4月	タイ語入門(会話含む)						
				タイ語応用(会話含む)						
兼任	講師	タカマ' 高山 昇 (52)	平成28年4月	パフォーマンス表現論						
兼任	講師	タニ タロウ 谷 千春 (55)	平成28年4月	手話入門						
兼任	講師	トキタ マサキ 時田 正樹 (64)	平成28年4月	郷土論	兼任	教授	川上和久 (58)	平成28年4月	郷土論	就任辞退に伴う教員の変更と、専門性の深化を図り、地方自治体および地域と連携する科目としてオムニバス化 (28)
兼任	講師	トヤマ ヨシノブ 戸松 義晴 (62)	平成28年4月	宗教学						
				死生学-死を通して生を考える						
兼任	講師	ベッ' 別府 美知子 (55)	平成28年4月	メディカルマナー入門						
兼任	講師	ハ' ア' フランク ウィルヘルム アヒム Bauer-Lars Frank Wilhelm Achim (27)	平成28年4月	ドイツ語入門(会話含む)	兼任	講師	東風谷 太一 (38)	平成29年4月	ドイツ語入門(会話含む)	担当者の退職に伴う教員の変更 (29)
				ドイツ語応用(会話含む)					ドイツ語応用(会話含む)	

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
 ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における属年齢を、「変更状況」には平成28年5月1日現在の属年齢を記入してください。
 ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 ・ 認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。
 ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
8 名	4 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十条別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
4	3	1	2	10	3	3	1	4	7	4	3	1	4	12
(4)	(1)	(0)	(2)	(7)						[0]	[0]	[0]	[2]	[0]

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
- ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
- ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記（A））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	1 名	1 名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由				
合 計（A）					後任補充状況の集計（B）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0	人	必修		科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択		科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由		科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計		科目	計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
1	教授	岩崎 聡	必修	耳鼻咽喉科学	②	グループ内での人事異動のための辞任（29）				
			必修	聴覚医学	②					
			必修	音声言語医学	②					
合計（C）			後任補充状況の集計（D）							
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
1	人		必修	3 科目	必修	0 科目	必修	3 科目	必修	0 科目
			選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
			自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
			計	3 科目	計	0 科目	計	3 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合 計（A）+（C）				後任補充状況の集計（B）+（D）			
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
1	人	必修	3 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	3 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

辞任となった教員については、新規学部の開設などに関係するグループ内での人事異動に伴うものであり、学生には授業の際に周知を行った。所属変更後も、担当予定であった科目の一部は兼任教員として引き続き担当する予定であり、教育上の問題はない(29)

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

成田看護学部 看護学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・人間をライフステージや発達課題からとらえ、その上で人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察能力、判断能力を強化する「人間理解（こころとからだ）系」科目群は、学部配置科目となっており、他学科の共通の内容となっているが、看護学の修得に非常に重要な科目群であると思われる。そのため、他学科と共通の内容とするのではなく、看護学の修得を前提とした適切な内容に改めることを検討すること。	留意事項 成田看護学部は単科の学部であり、学部設置科目＝看護学科だけの開設科目である。したがって左記指摘のように看護学部の専門基礎科目を他 学部学生が履修することはない。 また、この科目は看護学部学生のための科目とし、看護学の視点で内容を構成をしている。 さらに、入学する学生が上記について理解できるように学生便覧および履修の手引き、担当アドバイザーからの履修指導や教務委員会からのカリキュラム説明などを通して周知も徹底している。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・養成する人材の「6つの能力」の⑥に「基礎的研究力を修得する」とあるが、教育課程には研究力を培う授業科目が見受けられない。そのため、研究力を培う授業科目を配置するか、プロジェクト科目の内容を研究力を培う内容に改めるなどの検討をすること。	留意事項 「基礎的研究力を修得する」ため、「エビデンス・ベストプラクティス（研究と文献）」「読む技術・伝える技術」「行動科学とモチベーション」「問題解決とアイディアノベーション」「プレゼンテーション技法」などの科学的思考、問題解決力、研究の基礎的な能力を高めるための科目を複数設けている。 これらの科目は、それぞれ、アクティブラーニングを取り入れ、学生が思考しながら学ぶ方法を用いる。 また、2年次から「プロジェクト」科目を設けて、テーマを決めて取り組むことにより、研究的基礎力を育成する計画である。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・本学部の特徴として「国際性」を挙げているが、教育研究上の到達目標にそれらが反映されていないように思われる。そのため、グローバルな活動ができる看護専門職の育成にふさわしい教育内容であることが明確になるよう、授業科目や講義内容を追加することなどの検討をすること。(成田看護学部)	留意事項 本学部の特長の一つとしてグローバルに活躍する人材を育成することを挙げている。本学部の考えるグローバルとは、日本を含む、多様な国の人々を地球市民としてとらえ、一人ひとりのもっている文化や地域性、価値観を理解した上で必要な支援のできる能力を育成することである。そのために、異文化理解のためのカリキュラムと国際的な視野を養う実践的カリキュラムを用意している。 科目として、「世界の中の和文文化」、「新聞で見た日本と世界」、「海外保健福祉事情Ⅰ・Ⅱ（講義・実習）」、「国際医療通訳入門」、「異文化体験実習」、「国際医療保健学」、「外国語（英・独・西・仏・中・韓・タイ・ビルマ・ベトナム）」の他、「国際看護学Ⅰ・Ⅱ」、「海外看護研修」、「国際看護研修」等の科目では、国際看護学分野の専任教員、実務家を中心となり、本学部の教員が連携して学習を支援していくものであり、特にJICAや国際協力機関などと連携して学ぶ、実践・体験型プログラムで学ぶように計画している点は、グローバルな活動ができる看護専門職の育成にふさわしい教育内容であるといえる。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・保健師課程の選抜方法や人数制限等の詳細が不明確であることから、学生に対しては、選抜方法等を具体的に周知すること。(成田看護学部)	留意事項 学生便覧、履修の手引き等の中に保健師課程に関するページを設け、選抜方法、人数制限等について学生に周知徹底する。 また、履修オリエンテーションなどの際に時間を設け、左記指摘事項に関し遺漏のないよう周知する。	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・遠隔地での実習施設が多いように見受けられることから、実習施設内での学習環境の整備が重要であると考えられる。そのため、実習施設内での学修環境の整備が十分な計画となっているか検討し、必要に応じて充実させること。(成田看護学部)	留意事項 成田看護学部の開設にあたっては、その目的の一つとして千葉県内の看護師の不足を補うことが成田看護学部の開設目的の一つとして挙げている。 この目的を達成するためにも、臨床実習は、原則、県内の近隣の医療施設等を中心に行う。 また実習や科目の特性においては、学生の同意のもと、県外にある本学の附属病院、関連病院で実習を行う。この場合、宿泊先や学修スペースなど十分に確保しており、学生に負担を強いることはない。 (28)	
設 置 時 (27年7月)	・実習助手の採用基準と決定方法、実習助手に対するFDに関する記載がないため、これらが計画されていないのであれば、具体的な計画を定めること。(成田看護学部)	留意事項 実習助手の採用基準は、看護師免許を有し、大学を卒業後、3年以上当該専門領域の臨床経験を有する者とする。また専門学校および短期大学卒業で優れた臨床実践能力をもつ者については、5年以上臨床経験を有する場合に限り、実習助手として採用する。またリプロダクティブヘルス看護学領域(母性看護学)の実習助手については、上記の条件を満たし、看護師および助産師免許を有している者、まちづくり・公衆衛生看護学領域(公衆衛生看護学)の実習助手については、上記の条件を満たし、看護師および保健師免許を有している者とする。 実習助手は、大学における実習指導を行った経験を有することが望ましいが、指導経験がない場合は、実習指導に関する基礎的な知識、技術について学内にて下記のような研修を行う。 1) 教育目的、目標、実習の位置づけ、展開方法、学生のレディネスなどを説明する。 2) 実習助手として、学生を指導する目的、方法について 3) 学習への取り組みと動機付けについての指導者の役割 4) 実習の評価の目的と方法について 加えて担当する実習場所での実地研修を行い指導にあたることとする。なお、具体的な職務内容は、当該科目の担当教員の指導の下、グループを担当して学生の指導を行う。実習助手が行う実習指導の責任は、その指導を担う教員とする。(28)	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・大学設置基準第10条第1項では、主要な授業科目については原則として専任の教授又は准教授に担当させることを原則としているが、本学のエデュケーション課程を見ると、看護学の体系的な学科設置の趣旨から主要と思われる授業科目に専任の教授又は准教授が配置されていない例が散見される。そのため、以下の指摘を踏まえ、担当教員の充実に努めること。 (成田看護学部) (1)「まちづくり・公衆衛生看護学」に関する5科目、「在宅・生活デザイン看護学」に関する6科目については、いずれも1名の講師・助教が担当することとなっている。設置の趣旨には、「高齢社会の到来に伴う医療やケアニーズの高まりに対応して、…地域・在宅における訪問看護、介護老人保健施設、老人福祉施設における看護師の需要が高まっている」とうたわれており、これらの科目は、人材養成の中核的な科目であると思われるが、担当教員は講師・助教であることから、設置の趣旨に即した十分な教育が行われるか懸念がある。そのため、中核的な科目については、担当教員の充実に努めること。 (2)精神看護学及び公衆衛生看護学を担当する教授と准教授が不在である。これらは主要な看護専門科目であることから、専任の教授又は准教授を配置すること。 (3)「こども・子育て看護学」の科目区分(5科目)については、准教授は配置されているものの、科目区分全体で教授が配置されていない。そのため、教授を配置しない体制で適切な教育が行えるか検討し、必要に応じて教授を配置するなど、教育体制のさらなる充実に努めることが望ましい。	留意事項	(1)について 「まちづくり・公衆衛生看護学」を担当する教授の採用を決めており、2017年4月から着任予定。また准教授、講師、助教についても2017年4月の着任を目指して教員の選定を行っている。 (2)について 「在宅・生活デザイン看護学」を担当する教授、准教授については2017年4月からの着任を目指して教員の選定を行っている。また、「精神看護学」を担当する教授、准教授についても2017年4月の着任を目指して教員の選定を行っている。 (3)について 「こども・子育て看護学」を担当する教授、講師については、2017年4月の着任を目指して教員の選定を行っている。(28)
設 置 時 (27年7月)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。(言語聴覚学科、医学検査学科、成田看護学部)	留意事項	今回の採用では、カリキュラム等の特性上、定年年齢の教員を採用した。今後、採用する教員については、学部の継続的な発展を踏まえ、原則、完成年度において退職年齢を超えることのない50歳以下の教員を中心に選考を行っている。(28)

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期（1、2年次）に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一覧の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部）	改善意見 科目の順序性が担保できるよう履修モデルおよび履修系統図の再検討を行い、年度開始時のオリエンテーションにおいての履修モデル、履修系統図の提示や、配当年次が複数設定されている科目については履修推奨年次を設定するなど体系的な学修が可能となるよう履修指導を実施した（29）	
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・担当科目が著しく多い専任教員がいることから、教員の専門性と科目内容の整合性に留意しつつ、負担が偏らないように適切な教員組織編制となるよう改善すること。また、オムニバス科目は各担当教員の専門性を踏まえた上で、各専門領域を十分に教授できるように検証し、充実することが望ましい。	改善意見 負荷軽減を考慮し、科目担当の再編成を実施した。オムニバス科目についても、各教員の専門性を考慮した分担を検討し、より充実した科目運営の実現を図った（29）	
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・保健師課程を履修できる学生の選抜方法や選抜基準が曖昧であり、必要な情報が適切に周知されていないため、学生に不利益が生じる可能性がある。選抜方法や前提科目の履修など要件を周知するとともに、適切な履修指導を行うこと。	改善意見 学生便覧中にある保健師課程の履修についての説明文章を再度見直し、学生が正確に情報を取得できるよう修正した。また、年度開示のオリエンテーションでも1年生、2年生それぞれに内容説明を実施し、履修指導とした。（29）	
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・届出時においては、1年次の実習科目から実習助手を配置する計画が示されているが、調査時点においては、実習助手が配置されていない状況である。学年進行に応じて臨地実習の対象学生数や対象期間が増えることを踏まえ、実習助手の確保は重要となる。報告書に示された要件を満たした実習助手の確保を図るとともに、担当教員との連携やFDへの参加等により実習助手の能力向上に努め、当初計画に基づく実習指導体制を担保すること。	改善意見 平成29年度においては5月1日時点で既に1名の実習助手の採用が決定しており、同年度中にさらに追加で2～3名の実習助手を採用する計画を進めている。 採用された実習助手に対しては、定期的の実習運営のための打合せを実施する他、看護学部にて実施する勉強会への参加を促すことで能力向上を図る。（29）	
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・成田看護学部看護学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。	改善意見 設置申請以降、教授3名、准教授1名、講師1名、助教1名が新たに採用となっており、このうち教授1名を除く5名が完成年次に退職年齢を超えない構成となっている。 学年進行に合わせ継続的に教員組織の拡充を図るとともに、学部内でのFD活動に若手教員の育成を推進する。（29）	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

6 留意事項等に対する履行状況等

成田保健医療学部 理学療法学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・卒業要件単位数が124単位であるにもかかわらず、全ての履修モデルが124単位を超える単位数で作成されていることから、学生に誤解を生じさせるおそれがある。そのため、人材養成の方針に整合しつつ124単位で卒業する形の履修モデルを新たに作成すること。(理学療法学科)	留意事項	各学科124単位で卒業する形の履修モデルを作成し、学生に周知する。(28)
設 置 時 (27年7月)	・専門基礎科目における選択科目の一部科目において、1から4年次のいずれでも履修を可能としているような、配当年次に幅を持たせた科目があるが、体系的な学修の前提となる学修の順序性が配慮されていない懸念がある。そのため、体系的な学修の観点から選択科目の配当年次の設定について再度検討を行い、必要に応じて配当年次を見直すこと。(理学療法学科)	留意事項	「2 授業科目の概要」に記載したとおり、変更対応。(28)
設 置 時 (27年7月)	・臨床実習の参加要件が「4年次の実習への学生の参加要件は、3年次までの必修科目を全て修得していることを条件としている。」とあるのみであるが、実習参加の水準が確保されるよう、客観的臨床能力試験の実施等について検討すること。(理学療法学科)	留意事項	OSCE、CBTの導入を視野に入れた対応を行う。(28)
設 置 時 (27年7月)	・主として専門科目を教授する教員において、多数の授業科目を担当する教員がいるなど、一部の教員に負担が偏っているように思われることから、教員の負担について検討し、必要に応じて負担が偏らないよう教員組織編制を適切に改めること。なお、教員の負担の検討に当たっては、職位のレベルに応じた負担ともなるよう考慮すること。(理学療法学科)	留意事項	講師以上の教員採用を準備中。(28)

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期（1、2年次）に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一覧の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部）	改善意見	科目の順序性が担保できるよう履修モデルおよび履修系統図の再検討を行い、年度開始時のオリエンテーションにおける履修モデル、履修系統図の提示や、配当年次が複数設定されている科目については履修推奨年次を設定するなど体系的な学修が可能となるよう履修指導を実施した（29）
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・担当科目が著しく多い専任教員がいることから、教員の専門性と科目内容の整合性に留意しつつ、負担が偏らないように適切な教員組織編制となるよう改善すること。また、オムニバス科目は各担当教員の専門性を踏まえた上で、各専門領域を十分に教授できるように検証し、充実することが望ましい。（理学療法学科、成田看護学部）	改善意見	負荷軽減を考慮し、科目担当の再編成を実施した。オムニバス科目についても、各教員の専門性を考慮した分担を検討し、より充実した科目運営の実現を図った（29）

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

6 留意事項等に対する履行状況等

成田保健医療学部 作業療法学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・卒業要件単位数が124単位であるにもかかわらず、全ての履修モデルが124単位を超える単位数で作成されていることから、学生に誤解を生じさせるおそれがある。そのため、人材養成の方針に整合しつつ124単位で卒業する形の履修モデルを新たに作成すること。(作業療法学科)	留意事項	各学科124単位で卒業する形の履修モデルを作成し、学生に周知する。(28)
設 置 時 (27年7月)	・専門基礎科目における選択科目の一部科目において、1から4年次のいずれでも履修を可能としているような、配当年次に幅を持たせた科目があるが、体系的な学修の前提となる学修の順序性が配慮されていない懸念がある。そのため、体系的な学修の観点から選択科目の配当年次の設定について再度検討を行い、必要に応じて配当年次を見直すこと。(作業療法学科)	留意事項	「2 授業科目の概要」に記載したとおり、変更対応。(28)
設 置 時 (27年7月)	・臨床実習の参加要件が「4年次の実習への学生の参加要件は、3年次までの必修科目を全て修得していることを条件としている。」とあるのみであるが、実習参加の水準が確保されるよう、客観的臨床能力試験の実施等について検討すること。(作業療法学科)	留意事項	OSCE、CBTの導入を視野に入れた対応を行う。(28)
設 置 時 (27年7月)	・主として専門科目を教授する教員において、多数の授業科目を担当する教員がいるなど、一部の教員に負担が偏っているように思われることから、教員の負担について検討し、必要に応じて負担が偏らないよう教員組織編制を適切に改めること。(作業療法学科)	留意事項	准教授1名を採用済、教員の負担軽減に対応。(28)
設 置 時 (27年7月)	・養成すべき人材像で強調されている地域・地域包括ケアに関する授業内容について、関連する授業科目名からはその全体像が学生に伝わりにくいと思われることから、教授内容が学生に具体的に伝わるよう、科目名称等の工夫を検討すること。また、必修科目である「地域ケアシステム実習」に対応する講義科目が不明確であるので、演習科目に対応する講義科目があることが明確になるよう、該当する科目名称を変更するか講義科目を追加するなどの修正すること。(作業療法学科)	留意事項	科目名称の変更にて対応。 「地域ケアシステム実習」⇒「地域生活支援システム実習」 なお、同科目に対応する講義科目としては、「地域生活支援論」という科目を配置している。(28)

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期（1、2年次）に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一覧の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部）	改善意見	科目の順序性が担保できるよう履修モデルおよび履修系統図の再検討を行い、年度開始時のオリエンテーションにおいての履修モデル、履修系統図の提示や、配当年次が複数設定されている科目については履修推奨年次を設定するなど体系的な学修が可能となるよう履修指導を実施した（29）
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・成田保健医療学部作業療法学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。	改善意見	設置申請時より追加で准教授の1名を採用している。今後も継続して若手教員の採用を検討するとともに、学科内での教員指導体制の充実を図る（29）

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

6 留意事項等に対する履行状況等

成田保健医療学部 言語聴覚学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・卒業要件単位数が124単位であるにもかかわらず、全ての履修モデルが124単位を超える単位数で作成されていることから、学生に誤解を生じさせるおそれがある。そのため、人材養成の方針に整合しつつ124単位で卒業する形の履修モデルを新たに作成すること。(言語聴覚学科)	留意事項 各学科124単位で卒業する形の履修モデルを作成し、学生に周知する。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・専門基礎科目における選択科目の一部科目において、1から4年次のいずれでも履修を可能としているような、配当年次に幅を持たせた科目があるが、体系的な学修の前提となる学修の順序性が配慮されていない懸念がある。そのため、体系的な学修の観点から選択科目の配当年次の設定について再度検討を行い、必要に応じて配当年次を見直すこと。(言語聴覚学科)	留意事項 「2 授業科目の概要」に記載したとおり、変更対応。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。(言語聴覚学科)	留意事項 今回の採用では、カリキュラム等の特性上、定年年齢の教員を採用した。今後、採用する教員については、学部の継続的な発展を踏まえ、原則、完成年度において退職年齢を超えることのない50歳代以下の教員を中心に選考を行っている。(28)	
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期(1、2年次)に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一覧の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。(理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部)	改善意見 科目の順序性が担保できるよう履修モデルおよび履修系統図の再検討を行い、年度開始時のオリエンテーションにおける履修モデル、履修系統図の提示や、配当年次が複数設定されている科目については履修推奨年次を設定するなど体系的な学修が可能となるよう履修指導を実施した(29)	

(注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

6 留意事項等に対する履行状況等

成田保健医療学部 医学検査学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・卒業要件単位数が124単位であるにもかかわらず、全ての履修モデルが124単位を超える単位数で作成されていることから、学生に誤解を生じさせるおそれがある。そのため、人材養成の方針に整合しつつ124単位で卒業する形の履修モデルを新たに作成すること。（医学検査学科）	留意事項 各学科124単位で卒業する形の履修モデルを作成し、学生に周知する。（28）	
設 置 時 (27年7月)	・履修モデルによると、1年次前期に38～39単位の修得することになっている。CAP制は導入されているものの、半期に38～39単位の履修では実質的な学修時間が確保されない懸念がある。そのため、このような科目履修をしても学生に適切な学修時間を確保させることができるか検討し、必要に応じて履修モデルまたは授業科目の配当年次を修正すること。なお、導入されるCAP制は年間の上限を「50単位未満」としているが、履修モデルでは1年次の合計単位数がCAP制への算入除外科目（海外保健福祉事情Ⅰ及びⅡ）を考慮しても50～51単位になりCAP制の定めと整合しないと思われることから、学生に示す際に整合するよう修正すること。（医学検査学科）	留意事項 「2 授業科目の概要」に記載したとおり、1年前期の数科目を1年後期に廻し、前期と後期とのバランスをとるように変更した。（28）	
設 置 時 (27年7月)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。（医学検査学科）	留意事項 今回の採用では、カリキュラム等の特性上、定年年齢の教員を採用した。今後、採用する教員については、学部の継続的な発展を踏まえ、原則、完成年度において退職年齢を超えることのない50歳代以下の教員を中心に選考を行っている。（28）	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期（1、2年次）に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一覧の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部）	改善意見	科目の順序性が担保できるよう履修モデルおよび履修系統図の再検討を行い、年度開始時のオリエンテーションにおいての履修モデル、履修系統図の提示や、配当年次が複数設定されている科目については履修推奨年次を設定するなど体系的な学修が可能となるよう履修指導を実施した（29）
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・成田保健医療学部医学検査学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。	改善意見	設置計画時点から追加で3名の教員採用（准教授2名、助教1名）が済んでいる。さらに現在講師、助教の公募を行っており、教員組織の充実を図っている。完成年次以降の学科運営に支障がないよう教員組織編制を構想している。（29）

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

6 留意事項等に対する履行状況等

医学部医学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (H29年 4 月)	「臨床実習Ⅳ」の国内での実習については、学生の希望に応じた診療科への配属がなされるよう可能な限り配慮すること。また、海外での実習については、実習先が提供するプログラムの内容や指導体制について、実習調整ディレクターが中心となってあらかじめ調整し、教育の質を確保した上で実施すること。なお、海外での実習先はアジア諸国を中心に調整が進められているが、欧米諸国をはじめとしたより多様な実習先を確保するよう引き続き調整し、学生により多くの選択肢を提供することが望ましい。	留意事項 選択制の臨床実習となる「臨床実習Ⅳ」については、学生の希望に応じた配属ができるよう、学生が提出した希望順位に応じて割り付けを行う予定である。受け入れ先としては、平成32年に成田市に開院予定の附属病院も含めた5つの本学附属病院、および臨床実習の受け入れ意思を既に表明している本学の臨床医学研究センター・グループ外の医療機関等だけでなく、さらに受け入れ先の拡大に努め、十分な枠を確保したいと考えている。このうち附属病院等については、平成29年度から臨床実習受け入れについて打ち合わせを始めることについて、平成29年4月末に開催した第1回医学部教授連絡会議で附属病院等で勤務する教授に伝えたところである。今後の予定としては、平成29年度中に各附属病院等との打ち合わせを開始し、平成31年度中に、平成32年度から始まる臨床実習のプログラムを決定する計画である。 平成34年度に始まる「臨床実習Ⅳ」の海外臨床実習については、申請時に受け入れの意思表示済みの一部の大学医学部等について、平成29年度留学生特別選抜のため現地を訪問した際、先方の連絡担当者を選定した。欧米諸国については、麻酔科に日本の大学医学部から6年生の臨床実習の受け入れ実績があるドイツの医学部において、担当の准教授に受け入れ意思があることを確認した。さらに米国の複数の医学部において、臨床実習への学生受け入れについて調査を行った。今後の予定として、申請時に受け入れの意思表示済みの大学医学部等については、平成29年度の「海外医療体験」の引率を兼ねた現地訪問の際に打ち合わせを開始し、プログラムについて検討を開始するとともに、実習調整ディレクター等の人員配置を行う。今後、新たに開拓する海外臨床実習の受け入れ先については、平成30年度には調査を終了、先方の担当者との打ち合わせを開始し、平成31年度にはMOUを締結した上で実習プログラムの検討を開始し、平成32年度中に実習プログラムを決定、平成33年度に学生の希望調査を行う計画である。(29)	

人体の生理機能を理解するためにシミュレータを利用すると説明しているが、生物実験を体験したことのない学生であっても基礎医学に関する知識や技能を十分に修得できるように、生理学、生化学及び分子生物学など、基礎医学に関する実習を充実すること。

留意事項

すでに1年次1学期における生物学において、生物学未履修者を中心とした学生に対して、顕微鏡を用いた鶏胚の発生の観察を行った。また、1年次2学期には必修の基礎医学総論の5科目で様々な実習を導入予定である。例えば、生化学では生細胞から溶解液を調整し、比色法を用いてタンパク質の定量とさらに酵素活性の定量をおこなう。この過程を通じ、生化学の基本的手技を習得するとともに、標準曲線の作成、酵素の誘導や特異的発現の観察を通じて対照実験について学ぶ。分子生物学では生体組織からの核酸の抽出、増幅、同定という一連の作業を体験する。この過程でピペットの使い方から核酸の調整法、酵素の取り扱い方、PCR法、ゲル電気泳動など分子生物学の基礎的手技を習得する。免疫学ではEnzyme-Linked ImmunoSorbent Assay (ELISA) を用いてサイトカイン濃度を測定すると共に抗体の抗原特異性を観察する。(29)

(次頁より)	全ての留学生が将来母国のリーダーとして活躍できるよう、母国の政府機関等の推薦を受けていない私費留学生も含め、卒後の進路についての支援体制を充実すること。	留意事項	母国の政府機関等の推薦を踏まえ本学が奨学金を支給する留学生(平成29年度はベトナム、モンゴル、インドネシア、ミャンマー、カンボジアの5か国計13人)及び私費の留学生(平成29年度は韓国、中国、台湾、ミャンマー、米国の5か国・地域計7人)の全ての留学生が本学医学部を卒業後、将来的に母国において医療貢献を行い、ひいては指導者として活躍することができるよう組織的な支援を行っていく。例として、在学中6年次に必修として全員が履修・参加する「海外臨床実習」を通じた本学留学生と母国等の医療機関との橋渡しや、本学が有する海外大学・医療機関等のネットワークを用いて、卒業後に医師としてのキャリア形成ができるようキャリア学習や帰国支援など本学から協力を要請していく、等の活動が含まれる。 また、奨学金を支給する留学生については、医師免許取得後、奨学金支給期間の1.5倍程度の期間(以下、義務年限)、本学が指定する日本及び母国の医療機関において医師として勤務することとしているが、義務年限修了後の進路については、留学生と推薦元が相談の上決定することになる。本学は、各国の人的、組織的なネットワークによる支援及び交流を継続的に行う。 全ての外国人卒業生が母国において保健医療の各分野でのリーダーとして活躍しながら、我が国の医学や医療制度を学び続けられるよう継続的に支援していく中で、こうした卒業生が本学の留学生の開拓、卒業後のキャリア形成における各国の人的拠点となり、本学の留学生に対する医学教育、卒後支援に持続可能なサイクルを生み出す体制を構築していく。(29)	(次頁へ)
---------------	---	-------------	--	--------------

(次頁より)	医学教育統括センターは、本学の教育目標を達成するために重要な位置付けであると考えられることから、以下の点に留意し、その役割を十分に果たせるよう適切に運営すること。 (1) 同センターに係る規程等を整備し、コース・ディレクター等センターに配置される職員の役割、責任体制、指揮命令系統等を明確にすること。 (2) 専任教員25名及び兼任教員15名に加え、事務職員や技術職員等を十分に配置し、多岐にわたる業務を円滑に実施する体制を整えること。	留意事項	(1) 「国際医療福祉大学医学教育統括センター規程」を別紙1の通り整備し、同センターが学長直属の組織であることを明記した。その業務を統括する医学教育統括センター長の役割を明記したほか、コース・ディレクター等の役割、責任体制等を明確にした。 15のコースのコース・ディレクターは担当教員から授業計画の提示を受け、指導・助言をする。授業ごとに行われる担当科目の授業アンケートに目を通し、評価に問題があった場合は担当教員と具体的な改善策を話し合うほか、次の授業を見学して授業評価が向上するまで細やかな支援を行う。 (2) 医学教育統括センターに専従の3人の事務職員を配置したほか、学務課の教務係・学生係および国際交流センターの事務職員が日常的に業務を支援する体制をとっている。ICT活用など技術面では、本学の情報システム部長であり教育システムの責任者を務めている准教授がe-learningの整備・運用を担当し、講義資料のオンライン提供や出欠管理、授業アンケート等を管理している。さらに、医療情報学が専門の医学教育統括センターの教授が学生などに関して得られたデータの集計・分析を担当している。 (29)	
	運動場が別地にあることから、教育に支障のないようにすることはもとより、学生の課外活動等に配慮すること。	留意事項	校地から1,400mのところにある5,600㎡余りの運動場に平成29年4月、テニスコート3面と駐車場、トイレ、シャワー室、ロッカールームが完成し、成田看護学部・成田保健医療学部と共用で利用を開始した。医学部のカリキュラムに体育の科目はないが、今後課外活動などの際に必要な応じマイクロバスなど大学の公用車により学生の利用の便を図る。クラブ活動は成田キャンパスの3学部一体で行うこととし、顧問の教員の活動や外部の施設を利用する場合の補助などを通じ、引き続き大学として課外活動を支援していく。 (29)	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

国際医療福祉大学医学教育統括センター規程

(目的)

第1条 医学教育統括センターは、学長直属の組織として医学部に設置し、医学教育について企画・指導及び必要な調整を行うと同時に、学生の情報収集・分析、そして医学教育の研究・情報発信を行い、医学教育の統括と向上を図ることを目的とする。

(医学教育統括センター長)

第2条 医学教育統括センターに、医学教育統括センター長を置く。

2 医学教育統括センター長は、医学教育統括センターを代表し業務を統括する。業務にあたっては医学部長、副医学部長及び学務部長と協議し、業務を遂行するものとする。

3 医学教育統括センター長は、専任の教授のうちから学長の推薦に基づき理事長が任命する。

4 医学教育統括センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(組織・運営)

第3条 センターの行う業務は、別表第1のとおりとする。

第4条 センターに、学長の指名する教員を置く。

2 前項の教員の数、理事長が別に定める。

第5条 センター長は、前条の教員のうちからコース・ディレクター及び実習調整ディレクターを指名する。

第6条 コース・ディレクターは、別表第1の教育・カリキュラム部門の第1欄、第2欄及び第6欄の業務を主として担当する。

2 コース・ディレクターの数は、別表第1の教育・カリキュラム部門の第2欄に掲げるコースの数とする。

第7条 実習調整ディレクターは、別表第1の教育・カリキュラム部門の第3欄の業務を主として担当する。

2 実習調整ディレクターの数は10人以上とし、そのうち附属病院・関連教育病院担当を6人以上、海外実習病院担当を4人以上とする。

第8条 センター長は、第3条の教員のうちから別表第1のシミュレーション教育部門の業務を担当する者を3人指名する。

第9条 センターにカリキュラム委員会、臨床実習運営連絡協議会及び成績管理・卒業判定委員会を置く。

2 前項の委員会の役割、委員及び開催頻度は、別表第2のとおりとする。

第10条 この規程に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

(改廃)

第11条 この規程の改廃は、常任理事会の承認事項とする。

附則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

別表第1 センターの行う業務(第3条関係)

教育・カリキュラム部門																	
1	カリキュラムの策定・評価・改定に関すること。 各学生の各授業における日々の成績や授業評価、医師国家試験の結果、その他に関する情報を収集し、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに照らして問題の発見、評価、改定の立案を行い、カリキュラム委員会で報告・審議し、PDCA サイクルを推進する。																
2	コースの運営に関すること。 各授業が連携を取り合い効率的・効果的に進めるため、類似の授業をまとめて、次に掲げるコースとし、各コースの企画・実施管理・成績集計とその一次判定を行う。 【コース】 <table border="0"> <tr> <td>① リベラルアーツ（文系）コース</td><td>⑨ 基礎医学（機能系）コース</td></tr> <tr> <td>② リベラルアーツ（理系）コース</td><td>⑩ 産婦人科コース</td></tr> <tr> <td>③ 外国語系コース</td><td>⑪ 基礎臨床総合コース</td></tr> <tr> <td>④ 日本語系コース</td><td>⑫ 専門臨床コース</td></tr> <tr> <td>⑤ 医療プロフェッショナルリズムコース</td><td>⑬ 多職種連携教育（IPE）コース</td></tr> <tr> <td>⑥ 国際医療保健コース</td><td>⑭ 社会医学コース</td></tr> <tr> <td>⑦ 医療面接・身体診察コース</td><td>⑮ 応用臨床コース</td></tr> <tr> <td>⑧ 基礎医学（構造系）コース</td><td></td></tr> </table>	① リベラルアーツ（文系）コース	⑨ 基礎医学（機能系）コース	② リベラルアーツ（理系）コース	⑩ 産婦人科コース	③ 外国語系コース	⑪ 基礎臨床総合コース	④ 日本語系コース	⑫ 専門臨床コース	⑤ 医療プロフェッショナルリズムコース	⑬ 多職種連携教育（IPE）コース	⑥ 国際医療保健コース	⑭ 社会医学コース	⑦ 医療面接・身体診察コース	⑮ 応用臨床コース	⑧ 基礎医学（構造系）コース	
① リベラルアーツ（文系）コース	⑨ 基礎医学（機能系）コース																
② リベラルアーツ（理系）コース	⑩ 産婦人科コース																
③ 外国語系コース	⑪ 基礎臨床総合コース																
④ 日本語系コース	⑫ 専門臨床コース																
⑤ 医療プロフェッショナルリズムコース	⑬ 多職種連携教育（IPE）コース																
⑥ 国際医療保健コース	⑭ 社会医学コース																
⑦ 医療面接・身体診察コース	⑮ 応用臨床コース																
⑧ 基礎医学（構造系）コース																	
3	臨床実習の運営に関すること。 学生に対し臨床実習のオリエンテーションを行う。 実習日程や配属先など全般的な事項を企画、臨床実習運営連絡協議会で報告・審議し、実習ディレクター（各附属病院・関連教育病院・海外実習病院の各診療科に所属する臨床実習の責任者をいう。別表第2において同じ。）とともに、屋根瓦方式の教育体制を含む実習計画の立案、準備、実施中の連絡、情報収集、事後の評価、再立案を行い、PDCA サイクルを推進する。																
4	教材の企画・開発及び ICT 活用教育に関すること。 共通教材及び教材を配布・閲覧する ICT システム等について、直接企画・開発する。その他、個別の授業教材について、各授業の担当教員や学生による企画・開発を支援する。																
5	臨床実習前の CBT、OSCE、卒業時 OSCE に関すること。 医学教育モデル・コア・カリキュラムをもとに、臨床実習前に修得しておくことが必要とされる知識・技能・態度を評価する CBT (computer-based testing)																

	及び OSCE (objective structured clinical examination)、さらには卒業時 OSCE について、シミュレーション教育部門とともに、立案、準備、実施、事後の評価、再立案を行い、試験の質に関する PDCA サイクルを推進する。
6	成績管理及び卒業判定に関すること。 各学生の各授業における日々の出欠状況及び成績に関する情報を収集し、成績管理・卒業判定委員会で報告・審議し、その結果を代表者会議で報告する。
7	学生相談に関すること。 学生に対し、主に心療内科、精神科等の医師、臨床心理士との連携の下、生活・健康・修学に関する相談窓口を設けるほか、学生の生活・健康・修学に関するパンフレットやウェブサイトを作成し、学生への周知を行う。さらに、各学生の各授業における出欠状況及び成績の情報、生活・健康・修学に関する情報収集を行い、問題の早期発見・早期介入を行う。
8	FD・SD の企画・運営に関すること。 教職員のニーズや授業評価等、学生の授業に対するニーズに関する情報収集を行い、教職員研修の立案、教材作成、準備、実施、事後の評価、再立案を行い、PDCA サイクルを推進する。
9	入学者選抜の管理に関すること。 学外の情報収集、アドミッション・ポリシーに則った入学者選抜に関する企画立案を行い、入学試験システム委員会に提案する。また、学生の入学後の修学・成績状況、卒業後の進路等の情報を収集し、選抜制度の見直しを行う。
10	多職種連携教育に関すること。 学内の他学部・学科の教職員との連携の下、他学部・学科の授業に関する情報や関連学術会議等の情報を収集し、本学の多職種連携教育に関する授業等の立案、準備、実施、事後の評価、再立案を行い、PDCA サイクルを推進する。
11	学外の医学教育の情報収集に関すること。 各業務及び大学の方針への反映に資するため、国内外の他の医科大学、他の医療専門職の教育機関等による発信情報、及び学術会議、全国医学部長病院長会議、医師会等の非政府機関による医学教育に関する方針、さらには文部科学省、厚生労働省、内閣府等の政府・行政機関、WHO、WFME 等の国際機関による医学教育に関する政策等の情報を収集し管理する。
12	医学教育の IR に関すること。 将来的に各ポリシーをはじめとする医学教育全般及び大学全体の運営方針の改善に資するため、各学生の入学から在学中、卒業後の進路等に関する情報を収集、分析し管理する。
13	医学教育の研究に関すること。 本学の医学教育に関する種々の試みを実証し、国内外の医学教育の質向上に資するため、センターの全教員及び一部の職員は、担当する業務に応じた研究課

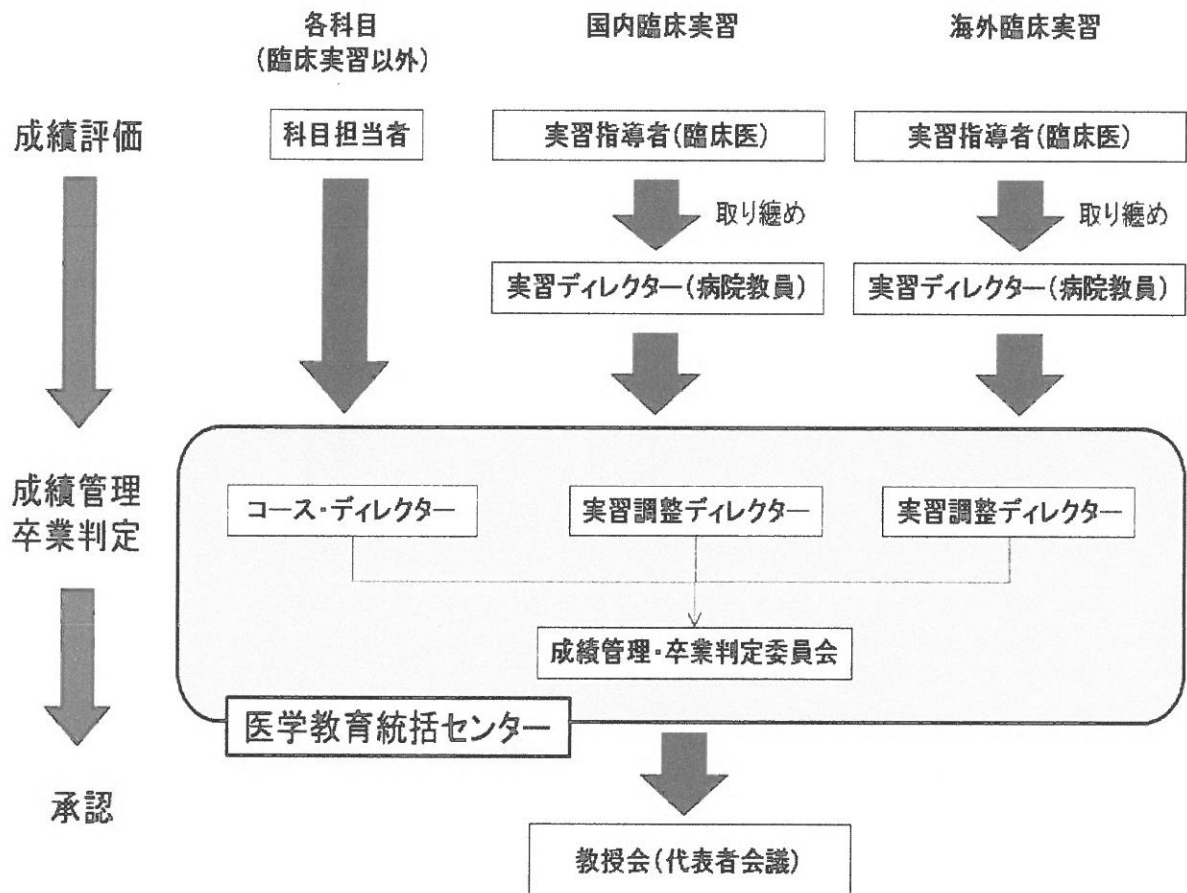
	題を設定し、研究の進捗状況を共有する。一方、次に掲げる国内外の医学教育に関する学術団体に所属し情報収集に努め、これらの学術集会、学術雑誌等に研究成果を発信する。 日本医学教育学会、日本シミュレーション医療教育学会、日本医学英語教育学会、日本保険医療福祉連携教育学会、医療系全国eラーニング交流会、AMEE（欧州医学教育学会）、AAMC（米国医科大学協会）、APMEC（アジア太平洋医学教育学会）等
14	医学教育の情報発信に関すること。 医学教育の質向上及び説明責任を果たすため、学内の学生、教職員、及び国内外の社会を対象として、ウェブサイト、SNS、その他の手段により、センターの業務に関する情報を発信する。
15	その他、医学教育・カリキュラムに関すること。
シミュレーション教育部門	
1	シミュレーション教育に係るカリキュラムの策定・評価・改定に関すること。 シミュレータや模擬患者等を活用する総合教育、専門教育の授業等の策定・評価及び改定を行う。
2	シミュレータの選定・管理に関すること。 国内外の医療系教育機関及び学術集会等でシミュレーション教育やシミュレータの情報を収集し、シミュレータの選定及び故障時や消耗品等の管理を行う。
3	模擬患者（SP）の養成に関すること。 学外の地域住民等と連携し、模擬患者の養成、登録、研修、及び模擬患者参加型授業やOSCE等の試験を担当する教職員へのFD・SDを実施した上で、各授業への派遣を行う。
4	その他、シミュレーション教育に関すること。

別表第2 委員会の役割、委員及び開催頻度(第9条関係)

カリキュラム委員会	
役割	カリキュラムの策定・実施・評価・改定に関する重要事項を審議
委員	センター長（委員長） コース・ディレクター 実習調整ディレクター シミュレーション教育部門の担当教員 その他センター長が指名する教職員
開催頻度	年3回以上
臨床実習運営連絡協議会	
役割	臨床実習の運営に関する重要事項の審議、連絡調整等
委員	センター長（委員長） 実習調整ディレクター 実習ディレクター 附属病院長 その他センター長が指名する教職員
開催頻度	年3回以上
成績管理・卒業判定委員会	
役割	成績管理・卒業判定に関する重要事項を審議 同委員会で、別紙のフローに従い、各学生の成績や卒業の判定について協議を行い、教授会の承認を得る。
委員	センター長（委員長） コース・ディレクター 実習調整ディレクター その他センター長が指名する教職員
開催頻度	年3回以上

成績管理・卒業判定のフロー(別表第2 関係)

医学教育統括センター 成績管理のフロー



7 その他全般的事項

<成田保健医療学部 言語聴覚学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 修了要件単位数 124単位 必修科目98単位、選択科目26単位 ② 施設・設備 a 講義室4室(427.80㎡) 言語聴覚学科専用 b 自習室6室(1,665.78㎡) 成田看護学部・成田保健医療学部共通 c 図書 設置時6,400冊、完成時予定16,000冊 成田看護学部・成田保健医療学部共通	① 当初の予定から変更なし ② 当初の予定から変更なし

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

学則に基づき大学としてFD委員会を置き、成田キャンパスには「成田キャンパスFD委員会」を設置している。
（別紙2「国際医療福祉大学FD委員会規程」）

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

平成28年度は成田キャンパスのFD委員会を11回開催した。29年度は医学部、成田看護学部、成田保健医療学部の3学部合同で11人の委員によるFD委員会を既に1回開催している。
委員会は原則として月1回、毎月第3木曜日に開催される。

c 委員会の審議事項等

成田キャンパスFD委員会は、FD研修会の開催などによる教員の資質向上、授業アンケートの実施などを審議する。

② 実施状況

a 実施内容

①大学全体でのFD研修会（年2回、9月、3月）

②成田キャンパスにおけるFD研修会（年1回）

b 実施方法

①大学全体でのFD研修会（年2回、9月、3月）

各キャンパスが持ち回りで担当。外部講師を招聘し、ポートフォリオ、IPEなどのテーマで講演会を実施。

②成田キャンパスにおけるFD研修会（年1回）

年1回の開催に向け、FD委員会にて企画運営。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

①大学全体でのFD研修会（年2回、9月、3月）

＜2016年9月の実施テーマ＞

高等教育における21世紀型スキルの育成について（小田原キャンパスの企画運営にて実施）

参加状況：352 / 441 名 出席（出席率 79.8 %）

＜2017年3月の実施テーマ＞

平成28年度 学生が選ぶグッドティーチング賞表彰式・報告会／各キャンパスFD活動報告会

参加状況：337 / 436 名 出席（出席率 77.3 %）

②成田キャンパスにおけるFD研修会（年1回）

＜2016年度の実施テーマ＞

2年次からスタートする関連職種連携教育の準備として、「国際医療福祉大学における関連職種連携教育（IPE）」テーマとして2017年2月に開催した。

本学の特色あるカリキュラムとなる関連職種連携教育について、各教員が理解を深める機会となった。

参加状況：成田キャンパスに着任済の教員計51名が参加

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

実施後にアンケート等から各教員へフィードバックを実施した。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

大学全体の方針として、半期の場合は15回目、半期の半分の場合は8回目に授業アンケートを実施。さらに、成田看護学部、成田保健医療学部独自の方針として、半期で実施される科目の一部について中間アンケートを実施し、後半の授業運営改善の一助とした。

b 教員や学生への公開状況、方法等

各教員へは集計結果をフィードバック。学生はホームページなどで集計結果を公開している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

昨年4月に開設した、成田看護学部及び成田保健医療学部は、千葉県をはじめ南関東地域の保健・医療・福祉に関わる専門職の需要にこたえとともに、国際都市である成田の特徴を生かし、地域・国際社会でグローバルに活躍できる人材の育成を図るために、設置したものである。

本年4月入学の第2期生の募集に当たっては、成田看護学部が入学定員100人に対し、914人の志願者（志願倍率9.14倍）が、また、成田保健医療学部が入学定員240人に対し、1,615人の志願者（志願倍率6.72倍）があり、昨年を越える志願倍率（成田看護学部7.15倍、成田保健医療学部5.14倍）となった。最終的には、成田看護学部で107人、成田保健医療学部で254人の入学者を迎えることができ、昨年に引き続き順調な学生募集の実施と、優秀な人材の確保ができていると考える。

また、本学教員による定期的な公開講座の実施や、地元産業および自治体と連携した講義の実施などにより、地域貢献を果たすとともに本学の理念の一つでもある「社会に開かれた大学」の体現を行っている。

開設2年目となり、設置時留意事項や昨年度の履行状況調査にて附された留意事項等、改善意見を踏まえ、可能な範囲で見直しを行い、大学運営の改善を行っているところである。今後も継続して改善を図り、学生に最適な学修環境の整備を進めていく。

本年4月に隣接する敷地に医学部が開設されたことにより、より実際の臨床現場に近い環境での職種間連携教育の実践や教育施設の相互利用による教育効果の向上が可能となる。

学部学科の連携を強固にすることで、これまで以上に保健・医療・福祉分野における優れた人材を養成していききたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

大学全体として平成29年度に、27～28年度を対象期間として3つのポリシー点検とPDCAサイクルの構築を中心に自己点検・評価を行う。29年度末までに点検を終え、報告書を公表することを目指している。

b 公表方法

大学ホームページに掲載するほか、関係する自治体・図書館・他大学などに報告書を配付し、本学への外部からの意見の収集に努める。

③ 認証評価を受ける計画

平成33年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受ける予定。

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 ・ 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(平成29年 5月 31日頃)

国際医療福祉大学 FD 委員会規程

(設置)

第 1 条 国際医療福祉大学学則第 11 条に基づき、本学に FD 統括委員会（以下「統括委員会」という。）を置く。

2 各キャンパス及び医学部にキャンパス FD 委員会及び医学部 FD 委員会（以下「FD 委員会」という。）を置き、統括委員会がこれを統括する。

3 この規定において「委員会」とは、統括委員会及び FD 委員会を指す。

(目的及び責務)

第 2 条 委員会は、本学の定める教学の基本方針にしたがい、教育法の改善及び教員の資質の向上など FD（ファカルティ・ディベロプメント）に関して討議を行い、より質の高い教育方法の推進を図るものとする。

2 委員会で協議された内容については、常任理事会、経営会議及び管理運営委員会に適宜報告するものとする。

(統括委員会の構成)

第 3 条 統括委員会は、次の各号の委員をもって構成する。

- 一 学務部長
- 二 各 FD 委員会の委員長
- 三 事務局長
- 四 人事にかかる事務責任者
- 五 教務にかかる事務責任者

2 委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(FD 委員会の構成)

第 4 条 FD 委員会は、次の各号の委員をもって構成する。

- 一 学長が指名する専任教員
- 二 学長が指名する者
- 三 理事長が指名する者

2 委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置く。

2 FD 委員会においては、委員の中から学長が推薦し、理事長が指名する。

3 統括委員会においては、学務部長をもって委員長とする。

4 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

5 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代行する。

(委員会の成立)

第6条 委員会は、過半数の委員の出席により成立する。

(委員以外の出席)

第7条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(事務処理)

第8条 統括委員会の事務は東京事務部教務企画部が取り扱う。

2 FD 委員会の事務は、各キャンパス及び医学部の教務事務担当部署が取り扱う。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、常任理事会の承認事項とする。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人国際医療福祉大学

(2) 大 学 名

国際医療福祉大学

(3) 大学の位置

〒286-8686

千葉県成田市公津の杜4丁目3番

(本部：〒324-8501 栃木県大田原市北金丸2600番1)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(タカギ クニノリ) 高木 邦格 (平成7年4月)		
学 長	(キタジマ マサキ) 北島 政樹 (平成21年7月)	(オオトモ クニ) 大友 邦 (平成28年4月)	任期満了に伴う変更(28)
学 部 長	(スギハラ モトコ) 杉原 素子 (平成28年4月)		
学科長等	(オオサワ ススム) 大澤 進 (平成28年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
成田保健医療学部 医学検査学科	保健衛生学 関係 (看護学関係及び リハビリテーション 関係以外)	4 年	80 人	— 年次 人	320 人	
学士(医学検査学)						

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平均入学定員 超過率	備考
			春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人 人		80 (-) [-]		80 (-) [-]		() () []		() () []		1.06倍	
志願者数	人 人		499 (-) [1]	- (-) [-]	727 (-) [1]	- (-) [-]	() () []	() () []	() () []	() () []		
受験者数	人 人		495 (-) [1]	- (-) [-]	714 (-) [1]	- (-) [-]	() () []	() () []	() () []	() () []		
合格者数	人 人		141 (-) [0]	- (-) [-]	148 (-) [0]	- (-) [-]	() () []	() () []	() () []	() () []		
B 入学者数	人 人		86 (-) [0]	- (-) [-]	84 (-) [0]	- (-) [-]	() () []	() () []	() () []	() () []		
入学定員超過率 B/A			1.07		1.05							

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には, 編入学の状況について外数で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ [] 内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「—」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	対象年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	86 [0] ()	[] ()	84 [0] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次			85 [0] (0)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次							[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
4年次									[] ()	[] ()	
計	86 [0] ()		169 [0] (0)								

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成28年度 入学者	86 人	1 人	平成28年度	1 人	人	就学意欲の低下	1.16 %
			平成29年度	人	人		
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
平成29年度 入学者	84 人	0 人	平成29年度	人	人		0.00 %
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	0 人	平成30年度	人	人		#DIV/0! %
			平成31年度	人	人		
平成31年度 入学者	人	0 人	平成31年度	人	人		#DIV/0! %
合 計	170 人	1 人					0.58 %

(注)・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。（途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。）
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合（%）を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下（○人）」というように、その人数も含めて記入してください。
- （記入項目例）・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<成田保健医療学部 医学検査学科>

(1) 授業科目表

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					
			必修	選択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	
人間系	文学論	1 2 3 4 前	2							兼1 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、 兼任秋原北嵐に変更(28)
	演劇論	1 2 3 4 前	1							兼1
	パフォーマンス表現論	1 2 3 4 前	2							兼1
	心理学	1 2 3 4 前	2							兼1 就任辞退に伴い兼任矢口大雄に変更(26)
	哲学	1 2 3 4 前	2							兼1
	コミュニケーション概論	1 2 3 4 後	2							兼1 就任辞退に伴い兼任山川誠司に変更(28)
	筆談と傾聴～話す力と聴く力～	未開講 1-2-3-4 前	2							兼7 履修希望者がいなかったため(29) 兼1 履修希望者がいなかったため(28)
	人間学	1 2 3 4 後	2							兼1 就任辞退に伴い兼任鹿島峰雄に変更(28)
	歴史学	1 2 3 4 後	2							兼1 就任辞退に伴い兼任町田明広に変更(28)
	倫理学	1 2 3 4 後	2							兼1
	宗教学	1 2 3 4 後	2							兼1
	日本近現代史	1 2 3 4 後	2							兼1
	文化人類学	1 2 3 4 前	2							兼1 就任辞退に伴い兼任加藤尚子に変更(28)
	教育学	1 2 3 4 後	2							兼1
	死生学-死を通して生を考える	1 2 3 4 前	2							兼1
社会系	法学	1 2 3 4 後	2							兼1 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、 兼任伊東達也に変更(28)
	法と道徳・倫理	1 2 3 4 後	2							兼1
	医療関連法規	1 2 3 4 前	2							兼1
	社会保障制度論	1 2 3 4 前	2							兼1 就任辞退に伴い兼任金野充博に変更(28)
	経済の仕組み	1 2 3 4 前	2							兼1 就任辞退に伴い兼任堀岡健一に変更(28)
	経済の歴史	1 2 3 4 前後	2							兼1 就任辞退に伴い、兼任濱田敏彰に変更(29) 教育効果を考慮し、開講期を変更(28)
	世界の経済	1 2 3 4 前後	2							兼1
	アジア諸国の経済・社会・文化	1 2 3 4 後	2							兼1 教育効果を考慮し、兼任村上大介に変更(29) 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任 高須賀茂文に変更(28)
	世界の中の和文化	1 2 3 4 前	1							兼1 専門性の深化を図り、各回の講義テーマに基づく専門化によるオ ムニバス化(28)
	世界遺産と国際文化政策	1 2 3 4 前	2							兼1 就任辞退に伴い兼任佐藤祐一に変更(28)
	経営の仕組み	1 2 3 4 前	2							兼1
	組織運営管理論	1 2 3 4 前	2							兼1 教育効果を考慮し兼任羽田明浩に変更(28)
	社会学(人間と社会)	1 2 3 4 前	2							兼1
	マスメディア論	1 2 3 4 後	2							兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任 川上和久に変更(28)
	新聞でみた日本と世界	1 2 3 4 前	2							兼1
	国際関係論	1 2 3 4 前後	2							兼1 教育効果を考慮し、兼任村上大介に変更(29) 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任 高須賀茂文に変更、教育効果に配慮し開講学期を 変更(28)
	国際医療福祉論	1 2 3 4 前	2							兼1
	海外保健福祉事情Ⅰ(論議)	1 2 3 4 前 未開講 1-2-3-4 前	1							兼1 教育効果を考慮し、兼任城間将江に変更(29) 履修希望者がいなかったため(28)
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	1 2 3 4 前 未開講 1-2-3-4 前	1							兼1 履修希望者がいなかったため(28)
	ボランティア論	1 2 3 4 後	2							兼1
	ボランティアコーディネート論	未開講 1-2-3-4 前	2							兼1 退職に伴い兼任吉田浩道に変更(29) 履修希望者がいなかったため(28)
	手話入門	1 2 3 4 後 未開講 1-2-3-4 前	2							兼1 履修希望者がいなかったため(28)
	防災と生活デザイン	1 2 3 4 前	2							兼1 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、 兼任梶秀樹に変更(28)
自然・ 情報系	統計学	1 2 3 4 後	2							兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任 稲垣誠一に変更(28)
	疫学・保健医療統計学	1 2 3 4 後	2							兼1
	数学	1 2 3 4 前	2							兼1
	物理学	1 2 3 4 前	2							兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任 宮嶋宏行に変更(28)
	化学	1 2 3 4 前	2							兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任 清宮正徳に変更(28)
	生物学	1 2 3 4 前	2							兼1 退職に伴い、兼任若澤聡に変更(29)
	情報処理Ⅰ(初歩)	1 2 3 4 前	1							兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任 稲垣誠一に変更(28)
	情報処理Ⅱ(基礎)	1 2 3 4 前	1							兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任 宮嶋宏行に変更(28)
	情報処理Ⅲ(応用)	1 2 3 4 後	1							兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任 宮嶋宏行に変更(28)
	生命倫理	1 2 3 4 前	2							兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任 梅井正徳に変更(28)
	医学/医療史	1 2 3 4 後	2							兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼任 宮嶋宏行に変更(28)
	人間工学	1 2 3 4 後	2							兼1
総合系	大学入門講座Ⅰ(基礎)	1 前	1							兼9 教育効果を考慮し、担当の追加変更(29)
	大学入門講座Ⅱ(展開)	1 2 3 4 前	1							兼7 教育効果を考慮し、担当の追加変更(29)
	郷土論	1 2 3 4 前	1							兼1 専門性の深化を図り、地方自治体および地域と連携しオムニ バス化(28)
	医療福祉敬愛論	1 2 3 4 後	1							兼1
	メディカルマナー入門	1 2 3 4 後	2							兼2 教育効果を考慮し、担当の追加変更(29)
	食と人間	1 2 3 4 後	1							兼1 就任辞退に伴い兼任門脇弘子に変更(28)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置						
			必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
総合教育（つづき）	外国語系	英語A-1(聴読基礎)	1	前	1						兼2 兼1 教育効果を考慮し、兼任Vivek Paul Pintoを追加(29) 成田キャンパス所属の担当教員着任および効果的な教育のための少人数教育実践のため、担当教員の追加変更(28)
		英語A-2(聴読応用)	1	後	1						兼2 兼1 教育効果を考慮し、兼任Timothy T. Johnstonを追加(29) 成田キャンパス所属の担当教員着任および効果的な教育のための少人数教育実践のため、担当教員の追加変更(28)
		英語B-1(視聴覚英語基礎)	1	前	1						兼2 兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任および効果的な教育のための少人数教育実践のため、担当教員の追加変更(28)
		英語B-2(視聴覚英語応用)	1	後	1						兼2 兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任および効果的な教育のための少人数教育実践のため、担当教員の追加変更(28)
		英語A-3(聴読中級1)	2	3	4	前	1				兼1 教育効果を考慮し、兼任Vivek Paul Pintoに変更(29)
		英語A-4(聴読中級2)	2	3	4	後	1				兼1 教育効果を考慮し、兼任Vivek Paul Pintoに変更(29)
		英語C-1(英会話初級)	2	3	4	前	1				兼1 教育効果を考慮し、兼任師岡ヒビアンルイスに変更(29)
		英語C-2(英会話中級)	2	3	4	後	1				兼1 教育効果を考慮し、兼任師岡ヒビアンルイスに変更(29)
		英語ライティング1(Primary)	1	2	3	4	前	1			兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼担田中泰郎に変更(28)
		英語ライティング2(Basic)	1	2	3	4	後	1			兼1 退職に伴い、兼担坪井貴之に変更(29)
		国際医療通訳入門	1	2	3	4	前	1			兼1 兼1 兼1
		資格英語1(Primary)	1	2	3	4	前	1			兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任および効果的な教育のための少人数教育実践のため、担当教員の追加変更(28)
		資格英語2(Basic)	1	2	3	4	後	1			兼1 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任師岡ヒビアンルイスに変更(28)
		基礎英文法1(Primary)	1	2	3	4	前	1			兼1 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任張佳恵に変更(28)
		基礎英文法2(Basic)	1	2	3	4	後	1			兼1 成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴い、兼任崔誠姫に変更(28)
		上級英文文法読解	1	2	3	4	前	1			兼1 教育効果を考慮しネイティブスピーカーである兼任Silvia Antoniaに変更(28)
		上級英語会話1(発展)	1	2	3	4	前	1			兼1
		上級英語会話2(総合)	1	2	3	4	後	1			兼1
		ドイツ語入門(会話含む)	1	2	3	4	前	1			兼1
		ドイツ語応用(会話含む)	1	2	3	4	後	1			兼1
		中国語入門(会話含む)	1	2	3	4	前	1			兼1
		中国語応用(会話含む)	1	2	3	4	後	1			兼1
		韓国語入門(会話含む)	1	2	3	4	前	1			兼1
		韓国語応用(会話含む)	1	2	3	4	後	1			兼1
		フランス語入門(会話含む)	1	2	3	4	前	1			兼1
		フランス語応用(会話含む)	1	2	3	4	後	1			兼1
		スペイン語入門(会話含む)	1	2	3	4	前	1			兼1
		スペイン語応用(会話含む)	1	2	3	4	後	1			兼1
		タイ語入門(会話含む)	1	2	3	4	前	1			兼1
		タイ語応用(会話含む)	1	2	3	4	後	1			兼1
		ベトナム語入門(会話含む)	1	2	3	4	前	1			兼1
		ベトナム語応用(会話含む)	1	2	3	4	後	1			兼1
		ビルマ語入門(会話含む)	1	2	3	4	前	1			兼1
		ビルマ語応用(会話含む)	1	2	3	4	後	1			兼1
	留学生の日本語科目	日本語Ⅰ-A(作文)	1	2	3	4	前	1			兼1
		日本語Ⅰ-B(文法・語彙)	1	2	3	4	前	1			兼1
		日本語Ⅱ-A(作文)	1	2	3	4	後	1			兼1
		日本語Ⅱ-B(文法・語彙)	1	2	3	4	後	1			兼1
		日本語Ⅱ-C(発表・討論)	1	2	3	4	前	1			兼2 兼1 新規教員の就任に伴い、兼担山元一晃、加藤林太郎および兼任江頭由美を追加(29)
		日本語Ⅱ-D(専門日本語)	1	2	3	4	前	1			兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼担茅野正雄、小川美香に変更(28)
		日本語Ⅲ-A(作文)	1	2	3	4	後	1			兼1
		日本語Ⅲ-B(文法・語彙)	1	2	3	4	後	1			兼1
		日本語Ⅲ-C(発表・討論)	1	2	3	4	前	1			兼1
		日本語Ⅲ-D(専門日本語)	1	2	3	4	前	1			兼1
	保健体育	医療福祉専門漢字	1	2	3	4	後	1			兼2 兼1
		医療福祉専門語彙	1	2	3	4	後	1			兼1
保健体育	健康科学理論	1	2	3	4	前	1				兼1 成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、兼担西田裕介に変更(28)
	健康科学実践	1	2	3	4	前	1				兼3 兼1 教育効果を考慮し、兼任志村圭太、澤龍一を追加(29)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置										
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手						
専門教育	専門基礎	公衆衛生学	2	後	1									兼1	担当の教員の成田キャンパス着任に伴い、兼担柳生文宏に変更(29)	
		救急医学	1	2	3	4	前	1							兼1	就任辞退に伴い兼担小川俊夫に変更、教育効果を考慮し配当年次を変更(28)
		感染と免疫	1	2	3	4	後		2		1	2	1		兼4	遠藤に伴い、専任長沢光章、梅宮敏文、工藤芳子、木村明佳子に変更(29)
		リハビリテーション概論	1	2	3	4	前		2						兼2 兼1	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い、専任林琢磨に変更、教育効果を考慮し配当年次を変更(28)
		関連職種連携概論	2	後	2			1							兼1 兼4	教育効果を考慮し、兼担吉田清澄を追加(29)
		ケアマネジメント論	1	2	3	4	前		1						兼1	遠藤に伴い、兼担林和典に変更(29)
		ケースワーク論	1	2	3	4	後		1						兼1	就任辞退に伴い兼担井上善行に変更、教育効果を考慮し配当年次を変更(28)
		医療管理学	1	2	3	4	前		2						兼1	就任辞退に伴い、兼担福岡健一に変更(29)
		保健医療福祉制度論	1	2	3	4	後	2							兼1	履修希望者がいなかったため(28)
		社会福祉学	1	2	3	4	前		2						兼1	教育効果を考慮し兼担金野充博に変更(28)
		臨床心理学概論	1	2	3	4	前		2						兼1	就任辞退に伴い兼担井上善行に変更、教育効果を考慮し配当年次を変更(28)
		医療情報学概論	2	3	4	後		2							兼1	遠藤に伴い、兼担小林雅彦に変更(29)
		福祉支援工学概論	1	2	3	4	前		2						兼1	就任辞退に伴い兼担山川誠司に変更、教育効果を考慮し配当年次を変更(28)
		関連職種連携ワーク	3	前	1			1							兼4	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴い兼担中村美緒に変更(28)
		関連職種連携実習	4	前		1		1							兼4	
		リスクマネジメント論	2	3	4	後		2							兼1	
		電子カルテによるチーム医療概論	2	3	4	後		2							兼1	教育効果を考慮し配当年次を変更(28)
		エビデンスベースドプラクティス(研究と文献)	2	3	4	前		1		1	5	3	2		兼1	教育効果を考慮し、専任工藤芳子、大澤進、梅宮敏文、清宮正徳、池田勝秀、木村明佳子、山口良孝、赤堀ゆきこ、河野弥生、佐藤正一、田嶋明彦に変更(29)
		レクリエーション概論	2	3	4	後		1							兼2 兼1	教育効果を考慮し、兼担堀田英樹、竹内真太に変更に変更(29)
		災害保健学	1	2	3	4	前		1		1				兼3	教育効果を考慮し、配当年次を変更(28)
		予防保健学	1	2	3	4	前		1		1				兼2 兼3	教育効果を考慮し、兼担町田和、原田浩美、石井清志に変更(29)
		国際医療保健学	1	2	3	4	前後		1		1				兼3	教育効果を考慮し配当年次を変更(28)
		異文化体験実習	1	2	3	4	後		1		1				兼6 兼3	教育効果を考慮し、各学科教員による担当制を施行(29)
		解剖学	1	前	2										兼1	教育効果を考慮し配当年次を変更(28)
		肉眼解剖学実習	1	後	1										兼2	
		生理学	1	前	2										兼1	教育効果を考慮し、兼担松野義晴を追加(29)
		病理学	1	後	2										兼1	
		臨床医学概論	2	前	1			1							兼1	教育効果を考慮し、兼担北村聖を追加(29)
		内科学	1	後	1			1							兼1	教育効果を考慮し、兼担北村聖を追加(29)
		臨床神経学	1	2	3	後		1							兼1	
		精神医学	1	2	3	後		1							兼1	
		リハビリテーション医学	1	2	3	後		1							兼1	
		小児科学	1	2	3	後		1							兼1	
		老年学	1	2	3	前		1							兼1	
		薬理学	1	後	1			1							兼1	
		栄養学	1	2	3	前		1							兼1	
		遺伝学	1	前	1			1			1				兼4	教育効果を考慮し、専任山口良孝に変更(29)
		微生物学	1	前		2		1							兼4	教育効果を考慮し、専任長沢光章に変更(29)
		分析化学	1	前	2			1	1							教育効果を考慮し、専任大澤進を追加(29)
		生化学	1	前	2											
		生化学実習	1	後	1			1	1			2	1			教育効果を考慮し、専任大澤進、清宮正徳、赤堀ゆきこを追加(29)
		医用工学・情報概論	1	前	2				1						兼2	教育効果を考慮し、専任佐藤正一に変更(29)
		医用工学・情報実習	1	後	1			1	1	2	2				兼2	教育効果を考慮し、専任大澤進、池田勝秀、山口良孝、赤堀ゆきこ、河野弥生、佐藤正一に変更(29)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					
			必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手
専門教育	病理検査学Ⅰ(総論)	2 前	2			1				
	病理検査学Ⅱ(各論)	2 後	2			1				
	病理検査学実習Ⅰ(基礎)	3 前	1			1				
	病理検査学実習Ⅱ(応用)	3 後	1			1				
	細胞診断検査学	2 前	2				1			
	細胞診断検査学実習	2 後	1				1			
	血液検査学Ⅰ(総論)	2 前	2			1				
	血液検査学Ⅱ(各論)	2 後	2			1				
	血液検査学実習Ⅰ(基礎)	3 前	1				1			
	血液検査学実習Ⅱ(応用)	3 前	1				1			
	一般検査学Ⅰ(総論)	1 前	2			1		1	+	
	一般検査学Ⅱ(各論)	1 後	2					1		
	一般検査学実習	2 前	1				1	1	1	
	臨床化学検査学Ⅰ(総論)	2 前	2			1				
	臨床化学検査学Ⅱ(各論)	2 後	2			1				
	臨床化学検査学実習Ⅰ(基礎)	3 後	1			1				
	臨床化学検査学実習Ⅱ(応用)	3 後	1			1				
	遺伝子検査学	1 前	2					1		
	遺伝子検査学実習	2 後	1					1		
	遺伝子工学	1 2 3 前	1	1				1		
	放射性同位元素検査技術学	1 前	1				1	+		
	放射性同位元素検査技術学実習	2 前	1				2	1	1	
	微生物検査学Ⅰ(総論)	2 前	2			1				
	微生物検査学Ⅱ(各論)	2 後	2			1				
	微生物検査学実習Ⅰ(基礎)	3 後	1			1				
	微生物検査学実習Ⅱ(応用)	3 後	1			1				
	医動物検査学	1 前	2				1			
	医動物検査学実習	2 前	1				1			
	免疫検査学Ⅰ(総論)	2 前	2			+		1		
	免疫検査学Ⅱ(各論)	2 後	2			+	1			
	免疫検査学実習Ⅰ(基礎)	2 後	1			+	1	1	2	
	免疫検査学実習Ⅱ(応用)	3 前	1			1				
	輸血・移植検査学	3 前	1			1				
	輸血・移植検査学実習	3 後	1					1		
	生理検査学Ⅰ(総論)	2 前	2			1		+		
	生理検査学Ⅱ(各論)	2 後	2			1				
	生理検査学実習Ⅰ(基礎)	2 後	1			1		+		
	生理検査学実習Ⅱ(応用)	3 前	1			1				
	超音波検査学	3 前	2			1				
	超音波検査学実習	3 後	1			1				
	臨床検査管理総論	1 前	2			1		+		
	精度管理	3 後	1			1				
	検査機器・医用機器学総論	2 前	2			1				
	検査情報システム学	3 後	1			1				
	臨床診断学	3 後	1			1				
	臨床検査技術開発論	3 4 後	1			1				
	国際臨床検査学	3 4 前	1			1				
	先端臨床検査学	3 4 後	1			1				
	臨床検査統計学	3 前	1			1				
	国際保健学	1 後	1			1				
	医療安全管理学	4 前	1			1				
	臨床検査技術開発論演習	3 4 後	1			1				
	臨床検査特論	4 前	1			1				
	臨地実習	4 前	7			3	4	4	1	
	卒業研究	4 後	4			3	4	4	1	
	国際医療保健学演習	2 3 後	1			1				
	国際医療保健学実習	3 4 後	1			1				

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼○」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成○年○月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設 置 時 の 計 画				変 更 状 況				備 考
必 修	選 択	自 由	計 (A)	必 修	選 択	自 由	計	
科目 73	科目 131	科目 0	科目 204	科目 73 [0]	科目 131 [0]	科目 0 [0]	科目 204 [0]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに, [] 内に, 設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{204} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	※大学全体		
	校 舎 敷 地	262,852㎡ 104,962㎡	0㎡	0㎡	262,852㎡ 104,962㎡	成田キャンパス（医学部）校地を無償借用のため増加（28） 小田原保健医療学部と小田原市とで土地の等価交換を行い、18㎡減少（H28）		
	運動場用地	88,807㎡ 83,147㎡	0㎡	0㎡	88,807㎡ 83,147㎡			
	小 計	351,659㎡ 283,796㎡	0㎡	0㎡	351,659㎡ 283,796㎡			
	そ の 他	372,772㎡ 372,790㎡	0㎡	0㎡	372,772㎡ 372,790㎡			
	合 計	724,431㎡ 656,550㎡	0㎡	0㎡	724,431㎡ 656,550㎡			
(2)校 舎		専 用 143,615㎡ (143,615㎡)	共 用 0㎡ (0㎡)	共用する他の 学校等の専用 0㎡ (0㎡)	計 143,615㎡ (143,615㎡)	大学全体		
(3)教 室 等		講 義 室 176室	演 習 室 60室	実験実習室 216室	情報処理学習施設 18室 (補助職員 4人)	語学学習施設 6室 (補助職員 0人)	大学全体	
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称 成田保健医療学部 医学検査学科			室 数 12 室			
(5)図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	
	成田保健医療学部	11,000 [1,540] 9,268 [604] 6,501 [264] (4,400 [616])	64 [20] 77 [13] 156 [0] (52 [16])	3,336 [2,205] 5,267 [4,004] 4,115 [2,892] (3,176 [2,085])	196 317 136 (44)	6,500 3,746 2,478 (5200)	590 175 113 (334)	成田保健医療学部共通
	計	11,000 [1,540] 9,268 [604] 6,501 [264] (4,400 [616])	64 [20] 77 [13] 156 [0] (52 [16])	3,336 [2,205] 5,267 [4,004] 4,115 [2,892] (3,176 [2,085])	196 317 136 (44)	6,500 3,746 2,478 (5200)	590 175 113 (334)	図書、視聴覚資料、機械・器具の増加分は新規購入による。学術雑誌の減少分は、H28報告時に誤って冊数をカウントしていたものを種数にて再カウントしたため（29）
(6)図 書 館		面 積 7,087.11㎡		閱 覧 座 席 数 1,613席		収 納 可 能 冊 数 299,400冊		大学全体
(7)体 育 館		面 積 5,715.34㎡		体育館以外のスポーツ施設の概要 弓道場 テニスコート				大学全体
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	朱書修正金額は5学科合計（H28）
	教員 1 人 当 り 研 究 費 等	400千円	400千円	図書購入費	477 44,000千円	87,750 32,000千円	16,000千円	
	共 同 研 究 費 等	1,500千円	3,000千円	設備購入費	153,900 373,480千円	900,000 459,800千円	18,500千円	
	学生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次 1,550千円	第 2 年 次 1,450千円	第 3 年 次 1,450千円	第 4 年 次 1,450千円	第 5 年 次 一 千 円	第 6 年 次 一 千 円	
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資金運用収入 等					

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「（5）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（29）」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「（8）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学 の 名 称	国 際 医 療 福 祉 大 学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
《AC対象学部等》	年	人	年次 人	人		倍			
医学部						1.00			
医学科	6	140	-	840	学士 (医学)	1.00	平成29年度	千葉県成田市 公津の杜4丁目3番	
保健医療学部						1.11			
看護学科	4	115	-	415	学士 (看護学)	1.12	平成7年度	栃木県大田原市北金丸 2600番1	
理学療法学科	4	100	-	340	学士 (理学療法 学)	1.12	平成7年度	同上	
作業療法学科	4	80	-	320	学士 (作業療法 学)	1.12	平成7年度	同上	
言語聴覚学科	4	80	-	320	学士 (言語聴覚 学)	1.09	平成7年度	同上	
視機能療法学科	4	50	-	170	学士 (視機能療法 学)	1.11	平成14年度	同上	
放射線・情報科学	4	120	-	420	学士 (放射線・情報 科学)	1.11	平成7年度	同上	
医療福祉学部						1.01			
医療福祉・マネジメント学科	4	160	-	640	学士 (医療福祉 学) 学士 (医療マシ ン学)	1.01	平成9年度	同上	
薬学部						1.08			
薬学科	6	180	-	1,080	学士 (薬学)	1.08	平成18年度	同上	
小田原保健医療学部						1.13			
看護学科	4	80	-	320	学士 (看護学)	1.09	平成18年度	神奈川県小田原市城山一 丁目2番25号	
理学療法学科	4	80	-	200	学士 (理学療法 学)	1.15	平成18年度	同上	
作業療法学科	4	40	-	160	学士 (作業療法 学)	1.16	平成18年度	同上	
福岡看護学部						1.15			
看護学科	4	100	-	360	学士 (看護学)	1.15	平成20年度	福岡市早良区 百道浜1-7-4	
福岡保健医療学部						1.12			
理学療法学科	4	80	-	320	学士 (理学療法 学)	1.15	平成17年度	同上	
作業療法学科	4	40	-	160	学士 (作業療法 学)	1.10	平成17年度	同上	

言語聴覚学科	4	40	-	160	学士 (言語聴覚学)	1.13	平成19年度	同上	
医学検査学科	4	80	-	320	学士 (医学検査学)	1.09	平成25年度	同上	
成田看護学部						1.07			
看護学科	4	100	-	400	学士 (看護学)	1.07	平成28年度	千葉県成田市 公津の杜4丁目3番	
成田保健医療学部						1.06			
理学療法学科	4	80	-	320	学士 (理学療法学)	1.10	平成28年度	同上	
作業療法学科	4	40	-	160	学士 (作業療法学)	1.06	平成28年度	同上	
言語聴覚学科	4	40	-	160	学士 (言語聴覚学)	1.03	平成28年度	同上	
医学検査学科	4	80	-	320	学士 (医学検査学)	1.06	平成28年度	同上	
医療福祉学研究科 修士課程						1.39			
保健医療学専攻	2	100	-	200	修士 (保健医療学)	1.68	平成11年度	栃木県大田原市北金丸 2600番1	
					修士 (看護学)				
					修士 (助産学)				
					修士 (言語聴覚学)				
					修士 (生殖補助医療学)				
					修士 (医療福祉教育・管理学)				
					修士 (臨床検査学)				
医療福祉経営専攻	2	50	-	100	修士 (医療福祉学)	1.02	平成13年度	同上	
					修士 (診療情報管理学)				
					修士 (医療ビジネス経営学)				
					修士 (医療福祉管理学)				
					修士 (介護福祉・ケアマネジメント学)				
					修士 (医療福祉シヤナリズム学)				
臨床心理学専攻	2	25	-	50	修士 (臨床心理学)	1.00	平成19年度	同上	
医療福祉学研究科 博士課程						1.38			

保健医療学専攻	3	50	-	150	博士 (保健医療学)	1.38	平成13年度	同上	
					博士 (看護学)				
					博士 (助産学)				
					博士 (言語聴覚学)				
					博士 (生殖補助医療学)				
					博士 (臨床検査学)				
					博士 (医療福祉経営学)				
					博士 (医療福祉学)				
					博士 (診療情報管理学)				
					博士 (介護福祉・ケアマネジメント学)				
					博士 (臨床心理学)				
					博士 (医療福祉ジャーナリズム学)				
薬科学研究科 修士課程						0.20			
生命薬科学専攻	2	5	-	10	修士 (薬科学)	0.20	平成22年度	同上	
薬学研究科 博士課程						0.45			
医療・生命薬学 専攻	4	5	-	20	博士 (薬学)	0.45	平成24年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず、履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<成田保健医療学部 医学検査学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	学科長 教授	材料 スム 大澤 進 (68)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	兼任	教授	堀間 得江 (54)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	負担軽減の観点から、担当科目の変更 (29)
				関連職種連携論					関連職種連携論	
				関連職種連携ワーク						
				関連職種連携実習						
				臨床化学検査Ⅰ（総論）						
				臨床化学検査Ⅱ（各論）						
				臨床化学検査実習Ⅰ（基礎）						
				臨床化学検査実習Ⅱ（応用）						
				精度管理学						
				検査情報システム学						
				臨床検査技術開発論						
				臨床検査統計学						
				医療安全管理学						
				臨床検査技術開発論演習						
				臨床検査特論						
				臨地実習						
				卒業研究						
								平成29年4月	医用工学・情報実習	教育効果を考慮し、担当科目の追加 (29)
								平成29年4月	一般検査Ⅰ（総論）	
								平成29年4月	生化学実習	
								平成29年4月	大学入門講座Ⅱ（展開）	
								平成29年4月	分析化学	
								平成29年4月	臨床検査管理総論	
								平成29年4月	エビデンスベースドプラクティス （研究と文献）	
								平成29年4月	医用工学・情報実習	
専任	教授	柳川 陽子 (67)	平成28年4月	臨床医学概論	兼任	教授	北村 聖 (62)	平成29年4月	臨床医学概論	教育内容を考慮し、担当教員の変更 (29)
				内科学	兼任	教授	北村 聖 (62)	平成29年4月	内科学	教育効果を考慮し、担当教員の追加 (29)
				臨床診断学						
専任	教授	材料 ミナ 長沢 光章 (58)	平成28年4月	微生物検査Ⅰ（総論）						負担軽減の観点から、担当科目の変更 (29)
				災害保健学						
				微生物検査Ⅱ（各論）						
				微生物検査実習Ⅰ（基礎）						
				微生物検査実習Ⅱ（応用）						教育効果を考慮し担当科目の追加 (29)
				臨地実習						
				卒業研究						
								平成29年4月	微生物学	
								平成29年4月	感染と免疫	

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授	ハシノ タツヲ 林 琢磨 (51)	平成28年4月	生物学	兼任	講師	湯澤 聡 (46)	平成29年4月	生物学	退職に伴う教員の変更。後任は平成30 年春に予定で採用進行中であり、教育 上問題なし。(29)
				国際医療通訳入門	兼任	准教授	押林 寛之 (44)	平成29年4月	国際医療通訳入門	
				免疫検査Ⅰ（総論）	専任	講師	山口 良孝 (47)	平成29年4月	免疫検査Ⅰ（総論）	
				異文化体験実習	兼任	准教授	森山 ますみ (54)	平成29年4月	異文化体験実習	
					兼任	教授	小川 正子 (65)	平成29年4月		
					兼任	講師	高 純一郎 (48)	平成29年4月		
					兼任	助教	二田水 彩 (34)	平成29年4月		
					専任	助教	河野 弥季 (34)	平成29年4月		
					兼任	助教	大石 慧子 (34)	平成29年4月		
				免疫検査Ⅱ（各論）	専任	准教授	清宮 正徳 (53)	平成29年4月	免疫検査Ⅱ（各論）	
				免疫検査学実習Ⅰ（基礎）	専任	准教授	清宮 正徳 (53)	平成29年4月	免疫検査学実習Ⅰ（基礎）	
					専任	講師	山口 良孝 (47)	平成29年4月		
					専任	助教	赤堀 ゆきこ (30)	平成29年4月		
					専任	助教	河野 弥季 (34)	平成29年4月		
				免疫検査学実習Ⅱ（応用）					免疫検査学実習Ⅱ（応用）	
				輸血・移植検査学					輸血・移植検査学	
				臨地実習					臨地実習	
				卒業研究					卒業研究	
専任	准教授	ウメヤマ トシキ 梅宮 敦文 (51)	平成28年4月	病理検査Ⅰ（総論）						教育内容の深化の観点から変更 (29)
				病理検査Ⅱ（各論）						
				病理検査学実習Ⅰ（基礎）						
				病理検査学実習Ⅱ（応用）						
				臨地実習						
				卒業研究						
								平成29年4月	放射性同位元素検査技術学	
								平成29年4月	放射性同位元素検査技術学実習	
								平成29年4月	エビデンスベーストプラクティス （研究と文献）	
								平成29年4月	感染と免疫	
専任	准教授	ウヅマキ シノブ 工藤 芳子 (53)	平成28年4月	医動物検査学						教育効果を考慮し、担当教員を追加 (29)
				医動物検査学実習						
				国際臨床検査学						
				国際保健学						
				国際医療保健学演習						
				国際医療保健学実習						
				予防保健学	兼任	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	予防保健学	
				国際医療保健学					国際医療保健学	
				臨地実習						
				卒業研究						
							平成29年4月	放射性同位元素検査技術学実習		
							平成29年4月	エビデンスベーストプラクティス （研究と文献）		
							平成29年4月	感染と免疫		

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フカナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	准教授	セミヤ マサノ 清宮 正徳 (52)	平成28年4月	分析化学	専任	教授	大澤 進 (69)	平成29年4月	分析化学	教育効果を考慮し、担当教員の追加 (29)
				生化学						
				臨床検査管理総論	専任	教授	大澤 進 (69)	平成29年4月	臨床検査管理総論	教育効果を考慮し、担当教員の追加 (29)
				検査機器・医用機器学総論	専任	准教授	佐藤 正一 (58)	平成29年4月	検査機器・医用機器学総論	
				先端臨床検査学						
				臨地実習						
				卒業研究						
								平成29年4月	一般検査学実習	教育効果を考慮し、担当科目の追加 (29)
								平成29年4月	免疫検査学Ⅱ（各論）	
								平成29年4月	生化学実習	
								平成29年4月	免疫検査学実習Ⅰ（基礎）	
								平成29年4月	エビデンスベーストプラクティス （研究と文献）	
専任	准教授	トボイ エイ 遠田 栄一 (65)	平成28年4月	生理検査学Ⅱ（各論）	専任	准教授	田嶋 明彦 (51)	平成29年4月	生理検査学Ⅱ（各論）	追補に伴う教員の更替。後任田嶋明彦 を採用済みであり、教育上問題なし (29)
				生理検査学実習Ⅱ（応用）					生理検査学実習Ⅱ（応用）	
				超音波検査学					超音波検査学	
				超音波検査学実習					超音波検査学実習	
				臨地実習					臨地実習	
				卒業研究					卒業研究	
専任	講師	イケガキ カズ 池田 勝秀 (39)	平成28年4月	細胞診断検査学						
				細胞診断検査学実習						
				一般検査学Ⅱ（各論）						
				臨地実習						
				卒業研究						
								平成29年4月	医用工学・情報実習	教育効果を考慮し、担当科目の追加 (29)
								平成29年4月	放射性同位元素検査技術実習	
専任	講師	キムラ アサコ 木村 明佐子 (40)	平成28年4月	血液検査学Ⅰ（総論）						
				血液検査学Ⅱ（各論）						
				血液検査学実習Ⅰ（基礎）						
				血液検査学実習Ⅱ（応用）						
				輸血・移植検査学実習						
				臨地実習						
				卒業研究						
								平成29年4月	一般検査学Ⅰ（各論）	教育内容を考慮し、担当科目の追加 (29)
								平成29年4月	エビデンスベーストプラクティス （研究と文献）	
								平成29年4月	感染と免疫	

設置時の計画					変更状況					備 考	
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名		
専任	講師	ヤマウチ ヨシカ 山口 良考 (46)	平成28年4月	遺伝子検査学						食育軽減の観点から、担当科目の変更 (29)	
				遺伝子検査学実習							
				遺伝子工学							
				放射性同位元素検査技術学	専任	准教授	梅宮 敬文 (62)	平成29年4月	放射性同位元素検査技術学		
				放射性同位元素検査技術学実習	専任	准教授	梅宮 敬文 (62)	平成29年4月	放射性同位元素検査技術学実習		
					専任	准教授	工藤 芳子 (64)	平成29年4月			
					専任	講師	池田 勝秀 (40)	平成29年4月			
					専任	助教	赤堀 ゆきこ (30)	平成29年4月			
				臨地実習							
				卒業研究							
								平成29年4月	遺伝学		教育内容を考慮し、担当科目の追加 (29)
								平成29年4月	医用工学・情報実習		
								平成29年4月	免疫検査学Ⅰ（総論）		
								平成29年4月	免疫検査学実習Ⅰ（基礎）		
								平成29年4月	エビデンスベーストプラクティス （研究と文献）		
専任	講師	ヤマウチ マチカ 山崎 まどか (38)	平成28年4月	生理検査学Ⅰ（総論）	専任	准教授	田嶋 明彦 (51)	平成29年4月	生理検査学Ⅰ（総論）	教育内容を考慮し、担当教員の変更 (29)	
				生理検査学実習Ⅰ（基礎）	専任	准教授	佐藤 正一 —(59)—	平成29年4月	生理検査学Ⅰ（総論）	就任辞退に伴う教員の変更—(28)—	
					専任	准教授	田嶋 明彦 (51)	平成29年4月	生理検査学実習Ⅰ（基礎）	教育内容を考慮し、担当教員の変更 (29)	
					専任	准教授	佐藤 正一 —(59)—	平成29年4月	生理検査学実習Ⅰ（基礎）	就任辞退に伴う教員の変更—(28)—	
				臨地実習							
				卒業研究							
専任	助教	カノ ミキ 河野 弥季 (32)	平成28年4月	一般検査学Ⅰ（総論）	専任	教授	大澤 進 (69)	平成29年4月	一般検査学Ⅰ（総論）	食育軽減の観点から、担当科目の変更 (29)	
				専任	講師	木村 明佐子 (41)					
				生化学実習	専任	教授	大澤 進 (69)	平成29年4月	生化学実習	教育効果を考慮し対応教員の追加 (29)	
					専任	准教授	清宮 正徳 (53)				
					専任	助教	赤堀 ゆきこ (30)				
					専任	講師	池田 勝秀 (40)				
				一般検査学実習	専任	准教授	清宮 正徳 (53)	平成29年4月	一般検査学実習	教育効果を考慮し対応教員の追加 (29)	
				臨地実習							
				卒業研究							
								平成29年4月	異文化体験実習	教育内容を考慮し、担当科目の追加 (29)	
								平成29年4月	医用工学・情報実習		
								平成29年4月	免疫検査学実習Ⅰ（基礎）		
								平成29年4月	エビデンスベーストプラクティス （研究と文献）		
								平成29年4月	医用工学・情報実習		

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	カノ マコト 河野 真 (49)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	兼任	教授	城間 将江 (54)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	教育内容を考慮し、担当教員の追加 (29)
				異文化体験実習	兼任	准教授	森山 ますみ (54)	平成29年4月	異文化体験実習	
					兼任	教授	小川 正子 (65)	平成29年4月		
					兼任	講師	高 純一郎 (48)	平成29年4月		
					兼任	助教	二田水 彩 (34)	平成29年4月		
					専任	助教	河野 弥季 (34)	平成29年4月		
					兼任	助教	大石 慧子 (34)	平成29年4月		
				国際医療保健学	兼任	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	国際医療保健学	
兼任	教授	カノ トシオ 河野 寿夫 (68)	平成28年4月	小児科学	兼任	教授	門脇 弘子 (69)	平成29年4月	小児科学	教育内容を考慮し、担当教員の変更 (29)
兼任	教授	コタリ ヒロキ 小堀 浩幸 (51)	平成28年4月	生理学	兼任	講師	林 真理子 (47)	平成28年4月	生理学	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
				薬理学	兼任	教授	岸 浩一郎 (64)	平成29年4月	薬理学	教育内容を考慮し、担当教員の変更 (29)
兼任	教授	シロノ マチ 城間 将江 (53)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）						
				関連職種連携論						
				関連職種連携ワーク						
				関連職種連携実習						
兼任	教授	スギノウ エリカ 杉原 素子 (73)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	兼任	教授	城間 将江 (54)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	教育内容を考慮し、担当教員の変更 (29)
				大学入門講座Ⅰ（基礎）	兼任	教授	山下 香枝子 (72)	平成29年4月	大学入門講座Ⅰ（基礎）	負担軽減の観点から、担当教員の追加 (29)
					兼任	教授	松田 有希雄 (57)			
					兼任	教授	川上 和久 (59)			
					兼任	教授	西田 裕介 (41)			
					兼任	教授	木戸 久美子 (49)			
					兼任	教授	梅井 正義 (69)			
					兼任	准教授	吉田 浩彦 (64)			
					兼任	助教	山川 誠司 (52)			
				大学入門講座Ⅱ（展開）	兼任	教授	山下 香枝子 (72)	平成29年4月	大学入門講座Ⅱ（展開）	負担軽減の観点から、担当教員の追加 (29)
					兼任	教授	川上 和久 (59)			
					兼任	教授	西田 裕介 (41)			
					兼任	教授	河野 真 (50)			
					専任	教授	大澤 進 (69)			
					兼任	教授	城間 将江 (54)			
				関連職種連携論	兼任	教授	城間 将江 (54)	平成29年4月	関連職種連携論	教育内容を考慮し、担当教員の変更 (29)
				関連職種連携ワーク						
				関連職種連携実習						
兼任	教授	スノウ エイコ 須藤 英一 (54)	平成28年4月	老年学	兼任	教授	浦野 友彦 (48)	平成29年4月	老年学	教育内容を考慮し、担当教員の変更 (29)

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	コウ マサキ 西木 雅行 (61)	平成28年4月	医用工学・情報概論	専任	准教授	佐藤 正一 (58)	平成29年4月	医用工学・情報概論	専任としての兼任に伴う職位の変更 (29)
					兼任	講師	佐藤 正一 (58)	平成28年4月		就任辞退に伴う教員の変更 (28)
				医用工学・情報実習	専任	教授	大澤 進 (69)	平成29年4月	医用工学・情報実習	教育効果を考慮し、担当教員の追加 (29)
					専任	講師	池田 勝秀 (40)			
					専任	講師	山口 良孝 (47)			
					専任	助教	赤堀 ゆきこ (30)			
					専任	助教	河野 初季 (24)			
					専任	准教授	佐藤 正一 (58)			
					兼任	講師	佐藤 正一 (57)	平成28年4月		専任としての兼任に伴う職位の変更 (29)
										就任辞退に伴う教員の変更 (28)
兼任	教授	コウ マサキ 西田 裕介 (40)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ (実習)	兼任	教授	城間 裕江 (54)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅱ (実習)	負担軽減の観点から、担当教員の変更 (29)
				関連職種連携論					関連職種連携論	
				関連職種連携ワーク						
				関連職種連携実習						
				レクリエーション概論	兼任	准教授	堀田 英樹 (50)	平成29年4月	レクリエーション概論	負担軽減の観点から、担当教員の変更 (29)
					兼任	助教	竹内 真太 (31)	平成29年4月		
兼任	教授	カマ マサキ 栗松 祐佐 (41)	平成28年4月	リハビリテーション概論	兼任	准教授	吉田 浩彦 (64)	平成29年4月	リハビリテーション概論	教育効果を考慮し、担当教員の追加 (29)
					兼任	教授	杉原 素子 (72)	平成28年4月		教育内容からより適切な教員へ変更 (28)

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	ハラタ ヒロミ 原田 浩美 (52)	平成28年4月	災害保健学						教育効果を考慮し、担当教員の変更 (29)
				国際医療保健学	兼任	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	国際医療保健学	
				予防保健学					予防保健学	
				異文化体験実習	兼任	准教授	森山 ますみ (54)	平成29年4月	異文化体験実習	
					兼任	教授	小川 止子 (65)	平成29年4月	異文化体験実習	
					兼任	講師	鳳 純一郎 (48)	平成29年4月	異文化体験実習	
					兼任	助教	二田水 彩 (34)	平成29年4月	異文化体験実習	
					専任	助教	河野 効季 (34)	平成29年4月	異文化体験実習	
					専任	助教	大石 慧子 (34)	平成29年4月	異文化体験実習	
兼任	教授	ミヤ カキ 三宅 克也 (62)	平成28年4月	解剖学	兼任	教授	松野 豊晴 (51)	平成29年4月	解剖学	教育効果を考慮し、担当教員の変更 (29)
				肉眼解剖学実習					肉眼解剖学実習	
兼任	教授	ミヤ フミ 宮田 哲郎 (61)	平成28年4月	救急医学	兼任	准教授	志賀 隆 (40)	平成29年4月	救急医学	教育効果を考慮し、担当教員の変更 (29)
兼任	教授	サト イサヲ 森 一郎 (64)	平成28年4月	病理学						
兼任	准教授	イトハシ マサヒ 糸数 昌史 (38)	平成28年4月	予防保健学	兼任	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	予防保健学	教育効果を考慮し、担当教員の変更 (29)
兼任	准教授	サヤマ シズエ 小山田 静枝 (49)	平成28年4月	精神医学	兼任	教授	古城 慶子 (66)	平成28年4月	精神医学	教育内容からより適切な教員に変更 (28)
				人間学	兼任	教授	鹿島 晴雄 (71)	平成28年4月	人間学	教育内容からより適切な教員に変更 (28)
兼任	准教授	カネ ショウコ 金子 松五 (51)	平成28年4月	栄養学	兼任	教授	門脇 弘子 (68)	平成28年4月	栄養学	就任辞退に伴う教員の変更 (28)
				食と人間					食と人間	
兼任	講師	エノ ジュンイチ 魚 純一郎 (47)	平成28年4月	予防保健学	兼任	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	予防保健学	教育効果を考慮し、担当教員の変更 (29)
兼任	講師	シムラ タケ 志村 圭太 (33)	平成28年4月	国際医療保健学	兼任	助教	石井 清志 (36)	平成29年4月	国際医療保健学	教育効果を考慮し、担当教員の変更 (29)
兼任	講師	スズキ ジュンコ 鈴木 純子 (46)	平成28年4月	臨床神経学	兼任	教授	内山 真一郎 (68)	平成29年4月	臨床神経学	教育効果を考慮し、担当教員の変更 (29)
				遺伝学	専任	講師	山口 良孝 (47)	平成29年4月	遺伝学	
兼任	講師	ミウラ ハナカ 三浦 和 (36)	平成28年4月	災害保健学						
兼任	講師	ミヤギ カズキ 宮森 隆行 (41)	平成28年4月	健康科学実践	兼任	講師	志村 圭太 (34)	平成29年4月	健康科学実践	教育効果を考慮し、担当教員を追加 (29)
					兼任	助教	澤 龍一 (29)	平成29年4月		
兼任	助教	イシイ キヨシ 石井 清志 (35)	平成28年4月	災害保健学	兼任	講師	町田 和 (37)	平成29年4月	災害保健学	教育効果を考慮し、担当教員の変更 (29)
兼任	助教	サカリノイ 澤 龍一 (28)	平成28年4月	異文化体験実習	兼任	准教授	森山 ますみ (54)	平成29年4月	異文化体験実習	教育効果を考慮し、担当教員の変更 (29)
					兼任	教授	小川 止子 (65)	平成29年4月		
					兼任	講師	鳳 純一郎 (48)	平成29年4月		
					兼任	助教	二田水 彩 (34)	平成29年4月		
					専任	助教	河野 効季 (34)	平成29年4月		
					兼任	助教	大石 慧子 (34)	平成29年4月		

5 教員組織の状況

< 共 通 >

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備 考				
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名					
兼任	教授	アカシ ドロコ 縣 俊彦 (63)	平成28年4月	統計学 疫学・保健医療統計学	兼任	教授	稲垣 誠一 (60)	平成28年4月	統計学 疫学・保健医療統計学	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)				
兼任	教授	アマノ タカヒロ 天野 隆弘 (72)	平成28年4月	医学/医療史	兼任	教授	黒澤 和生 (58)	平成28年4月	医学/医療史	就任辞退に伴う教員の変更 (28)				
				エビデンスベースドプラクティス (研究と文献)	専任	准教授	工藤 秀子 (54)	平成29年4月	エビデンスベースドプラクティス (研究と文献)	教育内容を考慮し、担当教員の追加変更 (29)				
					専任	教授	大澤 進 (69)							
					専任	准教授	梅宮 敏文 (62)							
					専任	准教授	清宮 正徳 (53)							
					専任	講師	池田 勝秀 (40)							
					専任	講師	木村 明佐子 (41)							
					専任	講師	山口 良孝 (47)							
					専任	助教	赤堀 ゆきこ (30)							
					専任	助教	河野 初季 (34)							
					専任	准教授	佐藤 正一 (58)							
					専任	准教授	田嶋 明彦 (51)							
兼任	教授	カサハ マサ 小川 正子 (64)	平成28年4月	スペイン語入門(会話含む) スペイン語応用(会話含む)	兼任	講師	Silvia Antonia (53)	平成28年4月	スペイン語入門(会話含む) スペイン語応用(会話含む)	専門性を考慮し、ネイティブスピーカーの非常勤教員に変更 (28)				
兼任	教授	カサハ ケン 亀口 憲治 (68)	平成28年4月	コミュニケーション概論	兼任	助教	山川 誠司 (52)	平成28年4月	コミュニケーション概論	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)				
				雑談と傾聴-話す力と聴く力-	兼任	准教授	小野寺 敦志 (53)	平成29年4月	雑談と傾聴-話す力と聴く力-	教育効果を考慮し、担当教員の追加 (29)				
					兼任	准教授	小島 秀吾 (48)							
					兼任	准教授	波田野 茂幸 (50)							
					兼任	准教授	白井 明美 (50)							
					兼任	講師	矢口 大雄 (31)							
					兼任	助教	山川 誠司 (52)							
					兼任	助教	山川 誠司 (51)	平成28年4月	臨床心理学概論	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)				
				臨床心理学概論										

設置時の計画					変更状況					
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	備 考
兼任	教授	サキ テヲウ 菊池 哲郎 (68)	平成28年4月	経済の仕組み	兼任	教授	堀岡 健一 (57)	平成28年4月	経済の仕組み	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
				経済の歴史	兼任	教授	濱田 敏彰 (62)	平成28年4月	経済の歴史	就任辞退に伴う教員の変更 (29)
				世界の経済					世界の経済	
				世界遺産と国際文化政策	兼任	教授	佐藤 慎一 (74)	平成28年4月	世界遺産と国際文化政策	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
兼任	教授	サキヨ ヨシロ 北村 義浩 (55)	平成28年4月	国際医療福祉論						
				公衆衛生学	兼任	准教授	柳生 文宏 (46)	平成29年4月	公衆衛生学	教育効果を考慮し、担当教員の変更 (29)
					兼任	准教授	中川 俊夫 (46・0)	平成28年4月		教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
				感染と免疫	専任	教授	長沢 光章 (59)	平成29年4月	感染と免疫	退職に伴う教員の変更 (29)
					専任	准教授	梅宮 敏文 (62)			
					専任	准教授	工藤 芳子 (54)			
					専任	講師	木村 明佐子 (41)			
					兼任	教授	林 玲磨 (46・1)			
				微生物学	専任	教授	長沢 光章 (58)	平成28年4月	微生物学	教育内容からより適切な教員へ変更 (28)
				兼任	教授	シノウ ナオ 島田 直樹 (52)	平成28年4月	数学	兼任	教授
兼任	教授	サハラ イタル 武原 格 (48)	平成28年4月	リハビリテーション医学	兼任	教授	栗松 祐佐 (41)	平成28年4月	リハビリテーション医学	成田キャンパス所属の担当教員兼任に 伴う教員の変更 (28)
兼任	教授	タケイ マサヨシ 樽井 正義 (68)	平成28年4月	哲学						
				倫理学						
兼任	教授	チエイン ミカ 茶園 美香 (66)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ (実習)	兼任	教授	城間 将江 (64)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅱ (実習)	教育効果を考慮し、担当教員の変更 (29)
				関連職種連携論					関連職種連携論	
				関連職種連携ワーク						
				関連職種連携実習						
兼任	教授	ホウタ サトコ 堀田 聡子 (39)	平成28年4月	ケアマネジメント論	兼任	准教授	林 和美 (57)	平成29年4月	ケアマネジメント論	退職に伴う担当教員の変更 (29)
					兼任	准教授	井上 昌行 (44・1)	平成28年4月		就任辞退に伴う教員の変更 (28)
				社会福祉学	兼任	教授	小林 雅彦 (59)	平成29年4月	社会福祉学	退職に伴う担当教員の変更 (29)
					兼任	准教授	井上 昌行 (44・1)	平成28年4月		就任辞退に伴う教員の変更 (28)
兼任	教授	マサキ カズシゲ 丸木 一成 (67)	平成28年4月	社会保障制度論	兼任	教授	金野 充博 (59)	平成28年4月	社会保障制度論	就任辞退に伴う教員の変更 (28)
				マスメディア論	兼任	教授	川上 和久 (58)	平成28年4月	マスメディア論	成田キャンパス所属の担当教員兼任に 伴う教員の変更 (28)
				新聞でみた日本と世界					新聞でみた日本と世界	成田キャンパス所属の担当教員兼任に 伴う教員の変更 (28)
兼任	教授	マサキ ヒロコ 丸山 仁子 (65)	平成28年4月	医療福祉教養講義	兼任	教授	山口 敬道 (51)	平成29年4月	医療福祉教養講義	教育効果を考慮し、担当教員の変更 (29)

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	ミヤノ ミチ子 宮崎 睦子 (59)	平成28年4月	英語B-1(視聴覚英語基礎)	兼任	准教授	田中 泰郎 (57)	平成28年4月	英語B-1(視聴覚英語基礎)	成田キャンパス所属の担当教員着任および効果的な教育のための少人数教育実践のため、教員の追加変更(28)
					兼任	講師	佐藤 寛子 (44)	平成28年4月	英語B-1(視聴覚英語基礎)	
				英語B-2(視聴覚英語応用)	兼任	准教授	田中 泰郎 (57)	平成28年4月	英語B-2(視聴覚英語応用)	成田キャンパス所属の担当教員着任および効果的な教育のための少人数教育実践のため、教員の追加変更(28)
					兼任	講師	佐藤 寛子 (44)	平成28年4月	英語B-2(視聴覚英語応用)	
				英語ライティング1 (Primary)	兼任	講師	新岡ビジュアルイメージ (80)	平成29年4月	英語ライティング1 (Primary)	教育内容からより適切な教員へ変更(29)
					兼任	准教授	田中 泰郎 (57)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の追加変更(28)
				英語ライティング2 (Basic)	兼任	講師	新岡ビジュアルイメージ (80)	平成29年4月	英語ライティング2 (Basic)	教育内容からより適切な教員へ変更(29)
					兼任	准教授	田中 泰郎 (57)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の追加変更(28)
				基礎英文法1 (Primary)	兼任	准教授	田中 泰郎 (57)	平成28年4月	基礎英文法1 (Primary)	成田キャンパス所属の担当教員着任および効果的な教育のための少人数教育実践のため、教員の追加変更(28)
					兼任	講師	Cosmin-Florescu (43-6)	平成28年4月		教員の異動に伴う変更(29)
				基礎英文法2 (Basic)	兼任	准教授	田中 泰郎 (57)	平成28年4月	基礎英文法2 (Basic)	成田キャンパス所属の担当教員着任および効果的な教育のための少人数教育実践のため、教員の追加変更(28)
					兼任	講師	Cosmin-Florescu (43-6)	平成28年4月		教員の異動に伴う変更(29)
兼任	教授	ムロイ マサ 武藤 正樹 (67)	平成28年4月	経営の仕組み	兼任	准教授	羽田 明浩 (53)	平成28年4月	経営の仕組み	教育内容からより適切な教員に変更(28)
				組織運営管理論					組織運営管理論	
				リスクマネジメント論						
兼任	教授	モイ マリコ 桃井 真理子 (68)	平成28年4月	保健医療福祉制度論	兼任	教授	金野 充博 (59)	平成28年4月	保健医療福祉制度論	教育内容からより適切な教員に変更(28)
				海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	兼任	教授	城間 河江 (64)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	教育効果を考慮し、担当教員の変更(29)
兼任	教授	ヤマシタ カミコ 山下 香枝子 (71)	平成28年4月	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	兼任	教授	城間 河江 (64)	平成29年4月	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	教育効果を考慮し、担当教員の変更(29)
					兼任	教授	松谷 有希雄 (67)	平成29年4月	大学入門講座Ⅰ(基礎)	教育効果を考慮し、担当教員の追加(29)
					兼任	教授	川上 和久 (59)			
					兼任	教授	西田 裕介 (41)			
				大学入門講座Ⅰ(基礎)	兼任	教授	本戸 久美子 (49)			
					兼任	教授	橋井 正義 (69)			
					兼任	准教授	吉田 浩哉 (64)			
					兼任	助教	山川 誠司 (52)	平成29年4月	大学入門講座Ⅱ(展開)	教育効果を考慮し、担当教員の追加(29)
					兼任	教授	川上 和久 (59)			
					兼任	教授	西田 裕介 (41)			
				大学入門講座Ⅱ(展開)	兼任	教授	河野 真 (50)			
					兼任	教授	大澤 進 (69)			
					兼任	教授	城間 河江 (64)			

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	ヤマシ スミコ 山本 澄子 (64)	平成28年4月	福祉支援工学概論	兼任	講師	中村 美緒 (35)	平成28年4月	福祉支援工学概論	教育内容からより適切な教員に変更 (28)
				人間工学	兼任	教授	宮嶋 宏行 (46)	平成28年4月	人間工学	教育内容からより適切な教員に変更 (28)
兼任	准教授	イノエ ミチ子 井上 善行 (41)	平成28年4月	ケースワーク論	兼任	准教授	林 和美 (57)	平成29年4月	ケースワーク論	退職に伴う教員の変更 (29)
兼任	准教授	オグシ カシ 大石 剛史 (40)	平成28年4月	ボランティア論						
				ボランティアコーディネート論	兼任	准教授	吉田 浩哉 (64)	平成29年4月	ボランティアコーディネート論	退職に伴い教員の変更 (29)
					兼任	准教授	井上 善行 (41)	平成28年4月		教育内容からより適切な教員に変更 (28)
兼任	准教授	オムラ せり 岡村 世里奈 (45)	平成28年4月	医療関連法規						
				医療管理学	兼任	教授	堀岡 健一 (57)	平成28年4月	医療管理学	教育内容からより適切な教員に変更 (28)
兼任	准教授	オグシ ジュンイチ 金子 純一郎 (46)	平成28年4月	健康科学理論	兼任	教授	西田 裕介 (40)	平成28年4月	健康科学理論	成田キャンパス所属の担当教員兼任に 伴う教員の変更 (28)
兼任	准教授	サイトウ ケイ子 齋藤 恵一 (b7)	平成28年4月	医療情報学概論	兼任	教授	宮嶋 宏行 (47)	平成29年4月	医療情報学概論	教育内容を考慮し、担当教員の変更 (29)
				電子カルテによるチーム医療概論					電子カルテによるチーム医療概論	
				医用工学・情報概論	兼任	准教授	佐藤 正一 (57)	平成28年4月	医用工学・情報概論	成田キャンパス独自の兼任講師採用に 伴う教員の変更 (28)
				医用工学・情報実習	専任	教授	大澤 達 (69)	平成29年4月	医用工学・情報実習	教育効果を考慮し、担当教員の追加 (29)
					専任	講師	池田 勝秀 (40)			
					専任	講師	山口 良孝 (47)			
					専任	助教	赤堀 ゆきこ (30)			
					専任	助教	河野 功季 (34)			
兼任	准教授	サイトウ 和 齋藤 智恵 (48)	平成28年4月	英語A-1(講読基礎)	兼任	講師	Vivek Paul Pinto (05)	平成29年4月	英語A-1(講読基礎)	教育効果を考慮し、担当教員の変更 (29)
					兼任	講師	佐藤 寛子 (44)	平成28年4月		
					兼任	准教授	田中 泰郎 (57)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任お よび効果的な教育のための少人数教育 実践のため、教員の追加変更 (28)
				英語A-2(講読応用)	兼任	講師	Timothy I Johnson	平成29年4月	英語A-2(講読応用)	負担軽減の観点から担当変更 (29)
					兼任	講師	佐藤 寛子 (44)	平成28年4月		
					兼任	准教授	田中 泰郎 (57)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任お よび効果的な教育のための少人数教育 実践のため、教員の追加変更 (28)
				英語C-1(英会話初級)	兼任	講師	神岡ヒビアンリズ (60)	平成29年4月	英語C-1(英会話初級)	教育効果を考慮し、担当教員の変更 (29)
				英語C-2(英会話中級)					英語C-2(英会話中級)	
				上級英語文献講読	兼任	講師	佐藤 寛子 (44)	平成28年4月	上級英語文献講読	成田キャンパス所属の担当教員兼任お よび効果的な教育のための少人数教育 実践のため、教員の追加変更 (28)
					兼任	講師	Cosmin Florescu (35)	平成28年4月		
				上級英語会話1(発展)					上級英語会話1(発展)	
				上級英語会話2(総合)	兼任	講師	神岡ヒビアンリズ (60)	平成28年4月	上級英語会話2(総合)	成田キャンパス独自の兼任講師採用に 伴う教員の変更 (28)
兼任	准教授	チン カン 陳 寛男 (59)	平成28年4月	中国語入門(会話含む)	兼任	講師	張 佳恵 (50)	平成28年4月	中国語入門(会話含む)	成田キャンパス独自の兼任講師採用に 伴う教員の変更 (28)
				中国語応用(会話含む)				平成28年4月	中国語応用(会話含む)	

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任 の別	職名	フリガナ 氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任 准教授		フカイ ユズノ 福井 諒 (44)	平成28年4月	歴史学	兼任	講師	町田 明広 (54)	平成28年4月	歴史学	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更 (28)
				日本近現代史						
				韓国語入門(会話含む)	兼任	講師	崔 誠姫 (50)	平成28年4月	韓国語入門(会話含む)	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更 (28)
				韓国語応用(会話含む)					韓国語応用(会話含む)	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更 (28)
兼任 准教授		モリヤマ マスミ 森山 ますみ (52)	平成28年4月	世界の中の和文化						
兼任 講師		イノリ ツイイチロ 井尻 総一郎 (38)	平成28年4月	化学	兼任 准教授		清宮 正徳 (52)	平成28年4月	化学	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (28)
兼任 講師		イノノ マネ 磯野 真穂 (39)	平成28年4月	文化人類学	兼任 教授		加藤 尚子 (52)	平成28年4月	文化人類学	就任辞退に伴う教員の変更 (28)
兼任 講師		オカダ ユウジ 岡田 直利 (45)	平成28年4月	物理学	兼任 教授		宮嶋 宏行 (46)	平成28年4月	物理学	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (28)
兼任 講師		サトウ カシ 佐藤 寛子 (44)	平成28年4月	英語A-3(講読中級1)	兼任 講師	Vivek Paul Pinto (55)	平成28年4月	英語A-3(講読中級1)		教育効果を考慮し、担当教員の変更 (29)
				英語A-4(講読中級2)				英語A-4(講読中級2)		
				資格英語1(Primary)						
				資格英語2(Basic)						
				フランス語入門(会話含む)						
				フランス語応用(会話含む)						
兼任 講師		イトウ テツヤ 江田 哲也 (37)	平成28年4月	情報処理Ⅰ(初歩)	兼任 教授		稲垣 誠一 (60)	平成28年4月	情報処理Ⅰ(初歩)	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (28)
				情報処理Ⅱ(基礎)	兼任 教授		宮嶋 宏行 (46)	平成28年4月	情報処理Ⅱ(基礎)	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (28)
				情報処理Ⅲ(応用)	兼任 教授		宮嶋 宏行 (46)	平成28年4月	情報処理Ⅲ(応用)	成田キャンパス所属の担当教員着任に伴う教員の変更 (28)
兼任 講師		テラタ ヨシカ 寺田 佳孝 (33)	平成28年4月	教育学						
兼任 助教		オオカ ヒサン 大塚 尚 (30)	平成28年4月	心理学	兼任 講師		矢口 大雄 (31)	平成28年4月	心理学	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更 (28)

設置時の計画					変更状況					
専任 兼任 兼任 の別	職名	氏名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	備 考
兼任	助教	私う りあの 木村 亮子 (34)	平成28年4月	日本語Ⅰ-A(作文)	兼任	講師	品川 なぎさ (45)	平成28年4月	日本語Ⅰ-A(作文)	産休に伴う担当教員の変更 (29)
					兼任	講師	小川美香 (40)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (29)
				日本語Ⅱ-A(作文)	兼任	講師	稲田 朋華 (42)	平成29年4月	日本語Ⅱ-A(作文)	産休に伴う担当教員の変更 (29)
					兼任	講師	小川美香 (40)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (29)
				日本語Ⅱ-C(発表・討論)	兼任	講師	品川 なぎさ (45)	平成29年4月	日本語Ⅱ-C(発表・討論)	産休に伴う担当教員の変更 (29)
					兼任	講師	小川美香 (40)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (29)
				日本語Ⅲ-A(作文)	兼任	助教	山元 一晃 (32)	平成28年4月	日本語Ⅲ-A(作文)	産休に伴う担当教員の変更 (29)
					兼任	講師	小川美香 (40)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (29)
				日本語Ⅲ-C(発表・討論)	兼任	助教	加藤 林太郎 (36)	平成29年4月	日本語Ⅲ-C(発表・討論)	産休に伴う担当教員の変更 (29)
					兼任	講師	小川美香 (40)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (29)
				医療福祉専門漢字	兼任	講師	江頭 由美 (56)	平成28年4月	医療福祉専門漢字	産休に伴う担当教員の変更 (29)
					兼任	講師	小川美香 (40)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (29)
兼任	助教	ウライ ルミ 櫻井 留美 (29)	平成28年4月	日本語Ⅰ-B(文法・語彙)	兼任	講師	品川 なぎさ (45)	平成28年4月	日本語Ⅰ-B(文法・語彙)	教育効果を考慮し、兼任品川なぎさに変更 (29)
					兼任	講師	茅野一雅雄 (60)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (29)
				日本語Ⅱ-B(文法・語彙)	兼任	講師	稲田 朋華 (42)	平成29年4月	日本語Ⅱ-B(文法・語彙)	教育効果を考慮し、担当教員の変更 (29)
					兼任	講師	茅野一雅雄 (60)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (29)
				日本語Ⅱ-D(専門日本語)	兼任	講師	茅野 雅雄 (60)	平成28年4月	日本語Ⅱ-D(専門日本語)	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
				日本語Ⅲ-B(文法・語彙)	兼任	助教	山元 一晃 (32)	平成29年4月	日本語Ⅲ-B(文法・語彙)	教育効果を考慮し、担当教員の変更 (29)
					兼任	講師	茅野雅雄 (60)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (29)
				日本語Ⅲ-D(専門日本語)	兼任	助教	加藤 林太郎 (36)	平成29年4月	日本語Ⅲ-D(専門日本語)	教育効果を考慮し、担当教員の変更 (29)
					兼任	講師	茅野一雅雄 (60)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (29)
				医療福祉専門語彙	兼任	講師	江頭 由美 (56)	平成29年4月	医療福祉専門語彙	教育効果を考慮し、担当教員の変更 (29)
					兼任	講師	茅野一雅雄 (60)	平成28年4月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (29)
				兼任	講師	アサキ キョウ 青木 清 (78)	平成28年4月	生命倫理	専任	教授
兼任	講師	ヒノハラ クニオ 澤老原 邦雄 (63)	平成28年4月	防災と生活デザイン	兼任	講師	梶 秀樹 (75)	平成28年4月	防災と生活デザイン	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更 (28)
兼任	講師	オホノ トシヲ 大野 聡明 (64)	平成28年4月	アジア諸国の経済・社会・文化	兼任	教授	村上 大介 (60)	平成29年4月	アジア諸国の経済・社会・文化	教育効果を考慮し、担当教員の変更 (29)
					兼任	教授	高津賀一茂文 (65)	平成28年5月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
				国際関係論	兼任	教授	村上 大介 (60)	平成29年4月	国際関係論	教育効果を考慮し、担当教員の変更 (29)
					兼任	教授	高津賀一茂文 (65)	平成28年5月		成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
兼任	講師	オホノ ケン 大場 建治 (84)	平成28年4月	文学	兼任	講師	秋原 北嵐 (63)	平成28年4月	文学論	課程のため科目名修正、成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更 (28)

設置時の計画					変更状況					備 考
専任 兼任 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任 兼任 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	カノ ケノ 司野 賢二 (49)	平成28年4月	ビルマ語入門(会話含む) ビルマ語応用(会話含む)						
兼任	講師	カノ ケノ 押小路 忠昭 (55)	平成28年4月	社会学 (人間と社会)	兼任	講師	大澤 幸子 (45)	平成28年4月	ビルマ語応用(会話含む)	教育効果を考慮し、担当教員の変更 (29)
兼任	講師	サトウ リノ 佐藤 里野 (36)	平成28年4月	演劇論	兼任	教授	川上 和久 (68)	平成28年4月	社会学 (人間と社会)	成田キャンパス所属の担当教員兼任に伴う教員の変更 (28)
兼任	講師	サトウ リノ 佐藤 里野 (36)	平成28年4月	演劇論	兼任	講師	秋原 北風 (63)	平成28年4月	演劇論	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更 (28)
兼任	講師	シズミ エリ 清水 英里 (44)	平成28年4月	ベトナム語入門(会話含む) ベトナム語応用(会話含む)	兼任	講師	小川 有子 (46)	平成28年4月	ベトナム語入門(会話含む) ベトナム語応用(会話含む)	教育効果を考慮し、担当教員の変更 (29)
兼任	講師	ストウ マサヒコ 須藤 正彦 (73)	平成28年4月	法学 法と道徳・倫理	兼任	講師	伊東 達也 (62)	平成28年4月	法学 法と道徳・倫理	成田キャンパス独自の兼任講師採用に伴う教員の変更 (28)
兼任	講師	スニサー・ ウィッタヤパニヤノ Sunisa Wittayapanyanon (46)	平成28年4月	タイ語入門(会話含む) タイ語応用(会話含む)						
兼任	講師	カヤマ ノボル 高山 昇 (52)	平成28年4月	パフォーマンス表現論						
兼任	講師	タニ テル 谷 千香 (55)	平成28年4月	手話入門						
兼任	講師	トキタ マサキ 時田 正樹 (64)	平成28年4月	郷土論	兼任	教授	川上 和久 (68)	平成28年4月	郷土論	兼任辞退に伴う教員の変更と、専門性の深化を図り、地方自治体および地域と連携する科目としてオムニバス化 (28)
兼任	講師	トマヨ ヨシノ 戸松 義晴 (62)	平成28年4月	宗教学 死生学-死を通して生を考える						
兼任	講師	ヘップ ミチコ 別府 美知子 (55)	平成28年4月	メディカルマナー入門	兼任	教授	谷口 敬通 (51)	平成28年4月	メディカルマナー入門	教育効果を考慮し、担当教員の変更 (29)
兼任	講師	ハウアー・ラース Frank Wilhelm Bauer-Lars Frank Wilhelm Achim (27)	平成28年4月	ドイツ語入門(会話含む) ドイツ語応用(会話含む)	兼任	講師	黒川 谷 太一 (38)	平成28年4月	ドイツ語入門(会話含む) ドイツ語応用(会話含む)	退職に伴う変更 (29)

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
 ・ 後任が決まっていなかった場合は、「後任未定」と記入してください。
 ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成28年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていなかった場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 ・ 既に設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。
 ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
8 名	4 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十条別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
4	4	4	1	13	3	5	3	2	13	4	5	3	2	14
(4)	(4)	(4)	(1)	(13)						[0]	[1]	[Δ1]	[1]	[]

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
- ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
- ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記（A））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	2 名	2 名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由				
1	講師	山崎 まどか	必修	生電検査学Ⅰ（総論）	①	現勤務先における業務都合のため就任辞退（28）				
			必修	生電検査学実習Ⅰ（基礎）	①					
			必修	臨地実習	①					
			必修	卒業研究	①					
合 計（A）					後任補充状況の集計（B）					
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
1	人	必修	4	科目	必修	4	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	4	科目	計	4	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	教授	林 琢磨	必修	免疫検査Ⅰ（総論）	①	自己都合による退職のための辞任（29）			
			必修	免疫検査Ⅱ（各論）	①				
			必修	免疫検査実習Ⅰ（基礎）	①				
			必修	免疫検査実習Ⅱ（応用）	①				
			必修	輸血・移植検査学	①				
			必修	臨地実習	①				
			必修	卒業研究	①				
			選択	生物学	②				
			選択	国際医療通訳入門	②				
			選択	異文化体験実習	③				
2	准教授	遠田 栄一	必修	生理検査学実習Ⅱ（応用）	①	自己都合による退職のための辞任（29）			
			必修	超音波検査学	①				
			必修	超音波検査学実習	①				
			必修	臨地実習	①				
			選択	卒業研究	①				
			必修	生理検査学Ⅱ（各論）	①				
合計（C）				後任補充状況の集計（D）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
2	人	必修	12 科目	必修	12 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	4 科目	選択	1 科目	選択	3 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	16 科目	計	13 科目	計	3 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記(3)－① ・ (3)－② の合計

合計(A) + (C)				後任補充状況の集計(B) + (D)							
辞任等した教員数		担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)			
3	人	必修	16 科目	必修	16 科目	必修	0 科目	必修	0 科目		
		選択	4 科目	選択	1 科目	選択	3 科目	選択	0 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	20 科目	計	17 科目	計	3 科目	計	0 科目		

(注) ・ 就任辞退(未就任)及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

辞任となった2名教員については、いずれも本人の都合によるものでありやむを得ない事情であると判断した。
 学生には授業の際に周知を行った。後任の教員については既に1名については採用が済んでおり、残る1名については現在後任候補の検討中
 ではあるが、担当予定科目については着任済の教員にて分担して担当することが可能であり、教育上問題は無い(29)

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

成田看護学部 看護学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・人間をライフステージや発達課題からとらえ、その上で人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察能力、判断能力を強化する「人間理解（こころとからだ）系」科目群は、学部配置科目となっており、他学科の共通の内容となっているが、看護学の修得に非常に重要な科目群であると思われる。そのため、他学科と共通の内容とするのではなく、看護学の修得を前提とした適切な内容に改めることを検討すること。	留意事項 成田看護学部は単科の学部であり、学部設置科目＝看護学科だけの開設科目である。したがって左記指摘のように看護学部の専門基礎科目を他 学部学生が履修することはない。 また、この科目は看護学部学生のための科目とし、看護学の視点で内容を構成をしている。 さらに、入学する学生が上記について理解できるように学生便覧および履修の手引き、担当アドバイザーからの履修指導や教務委員会からのカリキュラム説明などを通して周知も徹底している。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・養成する人材の「6つの能力」の⑥に「基礎的研究力を修得する」とあるが、教育課程には研究力を培う授業科目が見受けられない。そのため、研究力を培う授業科目を配置するか、プロジェクト科目の内容を研究力を培う内容に改めるなどの検討をすること。	留意事項 「基礎的研究力を修得する」ため、「エビデンス・ベストプラクティス（研究と文献）」「読む技術・伝える技術」「行動科学とモチベーション」「問題解決とアイディアイノベーション」「プレゼンテーション技法」などの科学的思考、問題解決力、研究の基礎的な能力を高めるための科目を複数設けている。 これらの科目は、それぞれ、アクティブラーニングを取り入れ、学生が思考しながら学ぶ方法を用いる。 また、2年次から「プロジェクト」科目を設けて、テーマを決めて取り組むことにより、研究の基礎力を育成する計画である。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・本学部の特徴として「国際性」を挙げているが、教育研究上の到達目標にそれらが反映されていないように思われる。そのため、グローバルな活動ができる看護専門職の育成にふさわしい教育内容であることが明確になるよう、授業科目や講義内容を追加することなどの検討をすること。(成田看護学部)	留意事項 本学部の特長の一つとしてグローバルに活躍する人材を育成することを挙げている。本学部の考えるグローバルとは、日本を含む、多様な国の人々を地球市民としてとらえ、一人ひとりのもっている文化や地域性、価値観を理解した上で必要な支援のできる能力を育成することである。そのために、異文化理解のためのカリキュラムと国際的な視野を養う実践的カリキュラムを用意している。 科目として、「世界の中の和文文化」、「新聞で見た日本と世界」、「海外保健福祉事情Ⅰ・Ⅱ（講義・実習）」、「国際医療通訳入門」、「異文化体験実習」、「国際医療保健学」、「外国語（英・独・西・仏・中・韓・タイ・ビルマ・ベトナム）」の他、「国際看護学Ⅰ・Ⅱ」、「海外看護研修」、「国際看護研修」等の科目では、国際看護学分野の専任教員、実務家を中心となり、本学部の教員が連携して学習を支援していくものであり、特にJICAや国際協力機関などと連携して学ぶ、実践・体験型プログラムで学ぶように計画している点は、グローバルな活動ができる看護専門職の育成にふさわしい教育内容であるといえる。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・保健師課程の選抜方法や人数制限等の詳細が不明確であることから、学生に対しては、選抜方法等を具体的に周知すること。(成田看護学部)	留意事項 学生便覧、履修の手引き等の中に保健師課程に関するページを設け、選抜方法、人数制限等について学生に周知徹底する。 また、履修オリエンテーションなどの際に時間を設け、左記指摘事項に関し遺漏のないよう周知する。	

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・遠隔地での実習施設が多いように見受けられることから、実習施設内での学習環境の整備が重要であると考えられる。そのため、実習施設内での学習環境の整備が十分な計画となっているか検討し、必要に応じて充実させること。(成田看護学部)	留意事項	成田看護学部の開設にあたっては、その目的の一つとして千葉県内の看護師の不足を補うことが成田看護学部の開設目的の一つとして挙げている。 この目的を達成するためにも、臨床実習は、原則、県内の近隣の医療施設等を中心に行う。 また実習や科目の特性においては、学生の同意のもと、県外にある本学の附属病院、関連病院で実習を行う。この場合、宿泊先や学修スペースなど十分に確保しており、学生に負担を強いることはない。 (28)	
設 置 時 (27年7月)	・実習助手の採用基準と決定方法、実習助手に対するFDに関する記載がないため、これらが計画されていないのであれば、具体的な計画を定めること。(成田看護学部)	留意事項	実習助手の採用基準は、看護師免許を有し、大学を卒業後、3年以上当該専門領域の臨床経験を有する者とする。また専門学校および短期大学卒業で優れた臨床実践能力をもつ者については、5年以上臨床経験を有する場合に限り、実習助手として採用する。またリプロダクティブヘルス看護学領域（母性看護学）の実習助手については、上記の条件を満たし、看護師および助産師免許を有している者、まちづくり・公衆衛生看護学領域（公衆衛生看護学）の実習助手については、上記の条件を満たし、看護師および保健師免許を有している者とする。 実習助手は、大学における実習指導を行った経験を有することが望ましいが、指導経験がない場合は、実習指導に関する基礎的な知識、技術について学内にて下記のような研修を行う。 1) 教育目的、目標、実習の位置づけ、展開方法、学生のレディネスなどを説明する。 2) 実習助手として、学生を指導する目的、方法について 3) 学習への取り組みと動機付けについての指導者の役割 4) 実習の評価の目的と方法について 加えて担当する実習場所での実地研修を行い指導にあたることとする。なお、具体的な職務内容は、当該科目の担当教員の指導の下、グループを担当して学生の指導を行う。実習助手が行う実習指導の責任は、その指導を担う教員とする。(28)	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・大学設置基準第10条第1項では、主要な授業科目については原則として専任の教授又は准教授に担当させることを原則としているが、本学の教育課程を見ると、看護学の体系性や学科設置の趣旨から主要と思われる授業科目に専任の教授又は准教授が配置されていない例が散見される。そのため、以下の指摘を踏まえ、担当教員の充実に努めること。 (成田看護学部) (1)「まちづくり・公衆衛生看護学」に関する5科目、「在宅・生活デザイン看護学」に関する6科目については、いずれも1名の講師・助教が担当することとなっている。設置の趣旨には、「高齢社会の到来に伴う医療やケアニーズの高まりに対応して、…地域・在宅における訪問看護、介護老人保健施設、老人福祉施設における看護師の需要が高まっている」とうたわれており、これらの科目は、人材養成の中核的な科目であると思われるが、担当教員は講師・助教であることから、設置の趣旨に即した十分な教育が行われるか懸念がある。そのため、中核的な科目については、担当教員の充実に努めること。 (2)精神看護学及び公衆衛生看護学を担当する教授と准教授が不在である。これらは主要な看護専門科目であることから、専任の教授又は准教授を配置すること。 (3)「こども・子育て看護学」の科目区分(5科目)については、准教授は配置されているものの、科目区分全体で教授が配置されていない。そのため、教授を配置しない体制で適切な教育が行えるか検討し、必要に応じて教授を配置するなど、教育体制のさらなる充実に努めることが望ましい。	留意事項	(1)について 「まちづくり・公衆衛生看護学」を担当する教授の採用を決めており、2017年4月から着任予定。また准教授、講師、助教についても2017年4月の着任を目指して教員の選定を行っている。 (2)について 「在宅・生活デザイン看護学」を担当する教授、准教授については2017年4月からの着任を目指して教員の選定を行っている。また、「精神看護学」を担当する教授、准教授についても2017年4月の着任を目指して教員の選定を行っている。 (3)について 「こども・子育て看護学」を担当する教授、講師については、2017年4月の着任を目指して教員の選定を行っている。(28)
設 置 時 (27年7月)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。(言語聴覚学科、医学検査学科、成田看護学部)	留意事項	今回の採用では、カリキュラム等の特性上、定年年齢の教員を採用した。今後、採用する教員については、学部の継続的な発展を踏まえ、原則、完成年度において退職年齢を超えることのない50歳代以下の教員を中心に選考を行っている。(28)

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期（1、2年次）に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一覧の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部）	改善意見	科目の順序性が担保できるよう履修モデルおよび履修系統図の再検討を行い、年度開始時のオリエンテーションにおいての履修モデル、履修系統図の提示や、配当年次が複数年設定されている科目については履修推奨年次を設定するなど体系的な学修が可能となるよう履修指導を実施した（29）
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・担当科目が著しく多い専任教員がいることから、教員の専門性と科目内容の整合性に留意しつつ、負担が偏らないように適切な教員組織編制となるよう改善すること。また、オムニバス科目は各担当教員の専門性を踏まえた上で、各専門領域を十分に教授できるように検証し、充実することが望ましい。	改善意見	負荷軽減を考慮し、科目担当の再編成を実施した。オムニバス科目についても、各教員の専門性を考慮した分担を検討し、より充実した科目運営の実現を図った（29）
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・保健師課程を履修できる学生の選抜方法や選抜基準が曖昧であり、必要な情報が適切に周知されていないため、学生に不利益が生じる可能性がある。選抜方法や前提科目の履修など要件を周知するとともに、適切な履修指導を行うこと。	改善意見	学生便覧中にある保健師課程の履修についての説明文章を再度見直し、学生が正確に情報を取得できるよう修正した。また、年度開示のオリエンテーションでも1年生、2年生それぞれに内容説明を実施し、履修指導とした。（29）
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・届出時においては、1年次の実習科目から実習助手を配置する計画が示されているが、調査時点においては、実習助手が配置されていない状況である。学年進行に応じて臨地実習の対象学生数や対象期間が増えることを踏まえ、実習助手の確保は重要となる。報告書に示された要件を満たした実習助手の確保を図るとともに、担当教員との連携やFDへの参加等により実習助手の能力向上に努め、当初計画に基づく実習指導体制を担保すること。	改善意見	平成29年度においては5月1日時点で既に1名の実習助手の採用が決定しており、同年度中にさらに追加で2～3名の実習助手を採用する計画を進めている。採用された実習助手に対しては、定期的の実習運営のための打合せを実施する他、看護学部にて実施する勉強会への参加を促すことで能力向上を図る。（29）
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・成田看護学部看護学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。	改善意見	設置申請以降、教授3名、准教授1名、講師1名、助教1名が新たに採用となっており、このうち教授1名を除く5名が完成年次に退職年齢を超えない構成となっている。学年進行に合わせ継続的に教員組織の拡充を図るとともに、学部内でのFD活動に若手教員の育成を推進する。（29）

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

6 留意事項等に対する履行状況等

成田保健医療学部 理学療法学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・卒業要件単位数が124単位であるにもかかわらず、全ての履修モデルが124単位を超える単位数で作成されていることから、学生に誤解を生じさせるおそれがある。そのため、人材養成の方針に整合しつつ124単位で卒業する形の履修モデルを新たに作成すること。(理学療法学科)	留意事項 各学科124単位で卒業する形の履修モデルを作成し、学生に周知する。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・専門基礎科目における選択科目の一部科目において、1から4年次のいずれでも履修を可能としているような、配当年次に幅を持たせた科目があるが、体系的な学修の前提となる学修の順序性が配慮されていない懸念がある。そのため、体系的な学修の観点から選択科目の配当年次の設定について再度検討を行い、必要に応じて配当年次を見直すこと。(理学療法学科)	留意事項 「2 授業科目の概要」に記載したとおり、変更対応。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・臨床実習の参加要件が「4年次の実習への学生の参加要件は、3年次までの必修科目を全て修得していることを条件としている。」とあるのみであるが、実習参加の水準が確保されるよう、客観的臨床能力試験の実施等について検討すること。(理学療法学科)	留意事項 OSCE、CBTの導入を視野に入れた対応を行う。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・主として専門科目を教授する教員において、多数の授業科目を担当する教員がいるなど、一部の教員に負担が偏っているように思われることから、教員の負担について検討し、必要に応じて負担が偏らないよう教員組織編制を適切に改めること。なお、教員の負担の検討に当たっては、職位のレベルに応じた負担ともなるよう考慮すること。(理学療法学科)	留意事項 講師以上の教員採用を準備中。(28)	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期（1、2年次）に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一覧の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部）	改善意見 科目の順序性が担保できるよう履修モデルおよび履修系統図の再検討を行い、年度開始時のオリエンテーションにおいての履修モデル、履修系統図の提示や、配当年次が複数設定されている科目については履修推奨年次を設定するなど体系的な学修が可能となるよう履修指導を実施した（29）	
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・担当科目が著しく多い専任教員がいることから、教員の専門性と科目内容の整合性に留意しつつ、負担が偏らないように適切な教員組織編制となるよう改善すること。また、オムニバス科目は各担当教員の専門性を踏まえた上で、各専門領域を十分に教授できるように検証し、充実することが望ましい。（理学療法学科、成田看護学部）	改善意見 負荷軽減を考慮し、科目担当の再編成を実施した。オムニバス科目についても、各教員の専門性を考慮した分担を検討し、より充実した科目運営の実現を図った（29）	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

6 留意事項等に対する履行状況等

成田保健医療学部 作業療法学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・卒業要件単位数が124単位であるにもかかわらず、全ての履修モデルが124単位を超える単位数で作成されていることから、学生に誤解を生じさせるおそれがある。そのため、人材養成の方針に整合しつつ124単位で卒業する形の履修モデルを新たに作成すること。(作業療法学科)	留意事項 各学科124単位で卒業する形の履修モデルを作成し、学生に周知する。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・専門基礎科目における選択科目の一部科目において、1から4年次のいずれでも履修を可能としているような、配当年次に幅を持たせた科目があるが、体系的な学修の前提となる学修の順序性が配慮されていない懸念がある。そのため、体系的な学修の観点から選択科目の配当年次の設定について再度検討を行い、必要に応じて配当年次を見直すこと。(作業療法学科)	留意事項 「2 授業科目の概要」に記載したとおり、変更対応。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・臨床実習の参加要件が「4年次の実習への学生の参加要件は、3年次までの必修科目を全て修得していることを条件としている。」とあるのみであるが、実習参加の水準が確保されるよう、客観的臨床能力試験の実施等について検討すること。(作業療法学科)	留意事項 OSCE、CBTの導入を視野に入れた対応を行う。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・主として専門科目を教授する教員において、多数の授業科目を担当する教員がいるなど、一部の教員に負担が偏っているように思われることから、教員の負担について検討し、必要に応じて負担が偏らないよう教員組織編制を適切に改めること。(作業療法学科)	留意事項 准教授1名を採用済、教員の負担軽減に対応。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・養成すべき人材像で強調されている地域・地域包括ケアに関する教授内容について、関連する授業科目名からはその全体像が学生に伝わりにくいと思われることから、教授内容が学生に具体的に伝わるよう、科目名称等の工夫を検討すること。また、必修科目である「地域ケアシステム実習」に対応する講義科目が不明確であるので、演習科目に対応する講義科目があることが明確になるよう、該当する科目名称を変更するか講義科目を追加するなどの修正をすること。(作業療法学科)	留意事項 科目名称の変更にて対応。 「地域ケアシステム実習」⇒「地域生活支援システム実習」 なお、同科目に対応する講義科目としては、「地域生活支援論」という科目を配置している。(28)	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期（1、2年次）に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一覧の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部）	改善意見	科目の順序性が担保できるよう履修モデルおよび履修系統図の再検討を行い、年度開始時のオリエンテーションにおいての履修モデル、履修系統図の提示や、配当年次が複数設定されている科目については履修推奨年次を設定するなど体系的な学修が可能となるよう履修指導を実施した（29）
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・成田保健医療学部作業療法学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。	改善意見	設置申請時より追加で准教授の1名を採用している。今後も継続して若手教員の採用を検討するとともに、学科内での教員指導体制の充実を図る（29）

- （注）・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

6 留意事項等に対する履行状況等

成田保健医療学部 言語聴覚学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・卒業要件単位数が124単位であるにもかかわらず、全ての履修モデルが124単位を超える単位数で作成されていることから、学生に誤解を生じさせるおそれがある。そのため、人材養成の方針に整合しつつ124単位で卒業する形の履修モデルを新たに作成すること。(言語聴覚学科)	留意事項 各学科124単位で卒業する形の履修モデルを作成し、学生に周知する。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・専門基礎科目における選択科目の一部科目において、1から4年次のいずれでも履修を可能としているような、配当年次に幅を持たせた科目があるが、体系的な学修の前提となる学修の順序性が配慮されていない懸念がある。そのため、体系的な学修の観点から選択科目の配当年次の設定について再度検討を行い、必要に応じて配当年次を見直すこと。(言語聴覚学科)	留意事項 「2 授業科目の概要」に記載したとおり、変更対応。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。(言語聴覚学科)	留意事項 今回の採用では、カリキュラム等の特性上、定年年齢の教員を採用した。今後、採用する教員については、学部の継続的な発展を踏まえ、原則、完成年度において退職年齢を超えることのない50歳代以下の教員を中心に選考を行っている。(28)	
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期(1、2年次)に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一覧の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。(理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部)	改善意見 科目の順序性が担保できるよう履修モデルおよび履修系統図の再検討を行い、年度開始時のオリエンテーションにおいての履修モデル、履修系統図の提示や、配当年次が複数設定されている科目については履修推奨年次を設定するなど体系的な学修が可能となるよう履修指導を実施した(29)	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

6 留意事項等に対する履行状況等

成田保健医療学部 医学検査学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・卒業要件単位数が124単位であるにもかかわらず、全ての履修モデルが124単位を超える単位数で作成されていることから、学生に誤解を生じさせるおそれがある。そのため、人材養成の方針に整合しつつ124単位で卒業する形の履修モデルを新たに作成すること。（医学検査学科）	留意事項 各学科124単位で卒業する形の履修モデルを作成し、学生に周知する。（28）	
設 置 時 (27年7月)	・履修モデルによると、1年次前期に38～39単位の修得することになっている。CAP制は導入されているものの、半期に38～39単位の履修では実質的な学修時間が確保されない懸念がある。そのため、このような科目履修をしても学生に適切な学修時間を確保させることができるか検討し、必要に応じて履修モデルまたは授業科目の配当年次を修正すること。なお、導入されるCAP制は年間の上限を「50単位未満」としているが、履修モデルでは1年次の合計単位数がCAP制への算入除外科目（海外保健福祉事情Ⅰ及びⅡ）を考慮しても50～51単位になりCAP制の定めと整合しないと思われることから、学生に示す際に整合するよう修正すること。（医学検査学科）	留意事項 「2 授業科目の概要」に記載したとおり、1年前期の数科目を1年後期に廻し、前期と後期とのバランスをとるように変更した。（28）	
設 置 時 (27年7月)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。（医学検査学科）	留意事項 今回の採用では、カリキュラム等の特性上、定年年齢の教員を採用した。今後、採用する教員については、学部の継続的な発展を踏まえ、原則、完成年度において退職年齢を超えることのない50歳代以下の教員を中心に選考を行っている。（28）	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期（1、2年次）に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一覧の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部）	改善意見 科目の順序性が担保できるような履修モデルおよび履修系統図の再検討を行い、年度開始時のオリエンテーションにおける履修モデル、履修系統図の提示や、配当年次が複数設定されている科目については履修推奨年次を設定するなど体系的な学修が可能となるような履修指導を実施した（29）	
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・成田保健医療学部医学検査学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。	改善意見 設置計画時点から追加で3名の教員採用（准教授2名、助教1名）が済んでいる。さらに現在講師、助教の公募を行っており、教員組織の充実を図っている。完成年次以降の学科運営に支障がないよう教員組織編制を構想している。（29）	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

6 留意事項等に対する履行状況等

医学部医学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (H29年 4 月)	「臨床実習Ⅳ」の国内での実習については、学生の希望に応じた診療科への配属がなされるよう可能な限り配慮すること。また、海外での実習については、実習先が提供するプログラムの内容や指導体制について、実習調整ディレクターが中心となってあらかじめ調整し、教育の質を確保した上で実施すること。なお、海外での実習先はアジア諸国を中心に調整が進められているが、欧米諸国をはじめとしたより多様な実習先を確保するよう引き続き調整し、学生により多くの選択肢を提供することが望ましい。	留意事項 選択制の臨床実習となる「臨床実習Ⅳ」については、学生の希望に応じた配属ができるよう、学生が提出した希望順位に応じて割り付けを行う予定である。受け入れ先としては、平成32年に成田市に開院予定の附属病院も含めた5つの本学附属病院、および臨床実習の受け入れ意思を既に表明している本学の臨床医学研究センター・グループ外の医療機関等だけでなく、さらに受け入れ先の拡大に努め、十分な枠を確保したいと考えている。このうち附属病院等については、平成29年度から臨床実習受け入れについて打ち合わせを始めることについて、平成29年4月末に開催した第1回医学部教授連絡会議で附属病院等で勤務する教授に伝えたところである。今後の予定としては、平成29年度中に各附属病院等との打ち合わせを開始し、平成31年度中に、平成32年度から始まる臨床実習のプログラムを決定する計画である。 平成34年度に始まる「臨床実習Ⅳ」の海外臨床実習については、申請時に受け入れの意思表示済みの一部の大学医学部等について、平成29年度留学生特別選抜のため現地を訪問した際、先方の連絡担当者を決めた。欧米諸国については、麻酔科に日本の大学医学部から6年生の臨床実習の受け入れ実績があるドイツの医学部において、担当の准教授に受け入れ意思があることを確認した。さらに米国の複数の医学部において、臨床実習への学生受け入れについて調査を行った。今後の予定として、申請時に受け入れの意思表示済みの大学医学部等については、平成29年度の「海外医療体験」の引率を兼ねた現地訪問の際に打ち合わせを開始し、プログラムについて検討を開始するとともに、実習調整ディレクター等の人員配置を行う。今後、新たに開拓する海外臨床実習の受け入れ先については、平成30年度には調査を終了、先方の担当者との打ち合わせを開始し、平成31年度にはMOUを締結した上で実習プログラムの検討を開始し、平成32年度中に実習プログラムを決定、平成33年度に学生の希望調査を行う計画である。(29)	

	人体の生理機能を理解するためにシミュレータを利用すると説明しているが、生物実験を体験したことのない学生であって基礎医学に関する知識や技能を十分に修得できるように、生理学、生化学及び分子生物学など、基礎医学に関する実習を充実すること。	留意事項	すでに1年次1学期における生物学において、生物学未履修者を中心とした学生に対して、顕微鏡を用いた鶏胚の発生の観察を行った。また、1年次2学期には必修の基礎医学総論の5科目で様々な実習を導入予定である。例えば、生化学では生細胞から溶解液を調整し、比色法を用いてタンパク質の定量とさらに酵素活性の定量をおこなう。この過程を通じ、生化学の基本的な手技を習得するとともに、標準曲線の作成、酵素の誘導や特異的発現の観察を通じて対照実験について学ぶ。分子生物学では生体組織からの核酸の抽出、増幅、同定という一連の作業を体験する。この過程でピペットの使い方から核酸の調整法、酵素の取り扱い方、PCR法、ゲル電気泳動など分子生物学の基礎的な手技を習得する。免疫学ではEnzyme-Linked ImmunoSorbent Assay (ELISA) を用いてサイトカイン濃度を測定すると共に抗体の抗原特異性を観察する。(29)	
--	---	-------------	--	--

(次頁へ)

(次頁より)	全ての留学生が将来母国のリーダーとして活躍できるよう、母国の政府機関等の推薦を受けていない私費留学生も含め、卒後の進路についての支援体制を充実すること。	留意事項	母国の政府機関等の推薦を踏まえ本学が奨学金を支給する留学生(平成29年度はベトナム、モンゴル、インドネシア、ミャンマー、カンボジアの5か国計13人)及び私費の留学生(平成29年度は韓国、中国、台湾、ミャンマー、米国の5か国・地域計7人)の全ての留学生が本学医学部を卒業後、将来的に母国において医療貢献を行い、ひいては指導者として活躍することができるよう組織的な支援を行っていく。例として、在学中6年次に必修として全員が履修・参加する「海外臨床実習」を通じた本学留学生と母国等の医療機関との橋渡しや、本学が有する海外大学・医療機関等のネットワークを用いて、卒業後に医師としてのキャリア形成ができるようキャリア学習や帰国支援など本学から協力を要請していく、等の活動が含まれる。 また、奨学金を支給する留学生については、医師免許取得後、奨学金支給期間の1.5倍程度の期間(以下、義務年限)、本学が指定する日本及び母国の医療機関において医師として勤務することとしているが、義務年限修了後の進路については、留学生と推薦元が相談の上決定することになる。本学は、各国の人的、組織的なネットワークによる支援及び交流を継続的に行う。 全ての外国人卒業生が母国において保健医療の各分野でのリーダーとして活躍しながら、我が国の医学や医療制度を学び続けられるよう継続的に支援していく中で、こうした卒業生が本学の留学生の開拓、卒業後のキャリア形成における各国の人的拠点となり、本学の留学生に対する医学教育、卒後支援に持続可能なサイクルを生み出す体制を構築していく。(29)
---------------	---	-------------	--

(次頁へ)

(次頁より)	医学教育統括センターは、本学の教育目標を達成するために重要な位置付けであると考えられることから、以下の点に留意し、その役割を十分に果たせるよう適切に運営すること。 (1) 同センターに係る規程等を整備し、コース・ディレクター等センターに配置される職員の役割、責任体制、指揮命令系統等を明確にすること。 (2) 専任教員25名及び兼任教員15名に加え、事務職員や技術職員等を十分に配置し、多岐にわたる業務を円滑に実施する体制を整えること。	留意事項	(1) 「国際医療福祉大学医学教育統括センター規程」を別紙1の通り整備し、同センターが学長直属の組織であることを明記した。その業務を統括する医学教育統括センター長の役割を明記したほか、コース・ディレクター等の役割、責任体制等を明確にした。 15のコースのコース・ディレクターは担当教員から授業計画の提示を受け、指導・助言をする。授業ごとに行われる担当科目の授業アンケートに目を通し、評価に問題があった場合は担当教員と具体的な改善策を話し合うほか、次の授業を見学して授業評価が向上するまで細やかな支援を行う。 (2) 医学教育統括センターに専従の3人の事務職員を配置したほか、学務課の教務係・学生係および国際交流センターの事務職員が日常的に業務を支援する体制をとっている。ICT活用など技術面では、本学の情報システム部長であり教育システムの責任者を務めている准教授がe-learningの整備・運用を担当し、講義資料のオンライン提供や出欠管理、授業アンケート等を管理している。さらに、医療情報学が専門の医学教育統括センターの教授が学生などに関して得られたデータの集計・分析を担当している。 (29)	
	運動場が別地にあることから、教育に支障のないようにすることはもとより、学生の課外活動等に配慮すること。	留意事項	校地から1,400mのところにある5,600㎡余りの運動場に平成29年4月、テニスコート3面と駐車場、トイレ、シャワー室、ロッカールームが完成し、成田看護学部・成田保健医療学部と共用で利用を開始した。医学部のカリキュラムに体育の科目はないが、今後課外活動などの際に必要に応じマイクロバスなど大学の公用車により学生の利用の便を図る。クラブ活動は成田キャンパスの3学部一体で行うこととし、顧問の教員の活動や外部の施設を利用する場合の補助などを通じ、引き続き大学として課外活動を支援していく。 (29)	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

国際医療福祉大学医学教育統括センター規程

(目的)

第 1 条 医学教育統括センターは、学長直属の組織として医学部に設置し、医学教育について企画・指導及び必要な調整を行うと同時に、学生の情報収集・分析、そして医学教育の研究・情報発信を行い、医学教育の統括と向上を図ることを目的とする。

(医学教育統括センター長)

第 2 条 医学教育統括センターに、医学教育統括センター長を置く。

2 医学教育統括センター長は、医学教育統括センターを代表し業務を統括する。業務にあたっては医学部長、副医学部長及び学務部長と協議し、業務を遂行するものとする。

3 医学教育統括センター長は、専任の教授のうちから学長の推薦に基づき理事長が任命する。

4 医学教育統括センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(組織・運営)

第 3 条 センターの行う業務は、別表第 1 のとおりとする。

第 4 条 センターに、学長の指名する教員を置く。

2 前項の教員の数は、理事長が別に定める。

第 5 条 センター長は、前条の教員のうちからコース・ディレクター及び実習調整ディレクターを指名する。

第 6 条 コース・ディレクターは、別表第 1 の教育・カリキュラム部門の第 1 欄、第 2 欄及び第 6 欄の業務を主として担当する。

2 コース・ディレクターの数は、別表第 1 の教育・カリキュラム部門の第 2 欄に掲げるコースの数とする。

第 7 条 実習調整ディレクターは、別表第 1 の教育・カリキュラム部門の第 3 欄の業務を主として担当する。

2 実習調整ディレクターの数は 10 人以上とし、そのうち附属病院・関連教育病院担当を 6 人以上、海外実習病院担当を 4 人以上とする。

第 8 条 センター長は、第 3 条の教員のうちから別表第 1 のシミュレーション教育部門の業務を担当する者を 3 人指名する。

第 9 条 センターにカリキュラム委員会、臨床実習運営連絡協議会及び成績管理・卒業判定委員会を置く。

2 前項の委員会の役割、委員及び開催頻度は、別表第 2 のとおりとする。

第 10 条 この規程に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

(改廃)

第 11 条 この規程の改廃は、常任理事会の承認事項とする。

附則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

別表第1 センターの行う業務(第3条関係)

教育・カリキュラム部門																	
1	カリキュラムの策定・評価・改定に関すること。 各学生の各授業における日々の成績や授業評価、医師国家試験の結果、その他に関する情報を収集し、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに照らして問題の発見、評価、改定の立案を行い、カリキュラム委員会で報告・審議し、PDCA サイクルを推進する。																
2	コースの運営に関すること。 各授業が連携を取り合い効率的・効果的に進めるため、類似の授業をまとめて、次に掲げるコースとし、各コースの企画・実施管理・成績集計とその一次判定を行う。 【コース】 <table border="0"> <tr> <td>① リベラルアーツ（文系）コース</td><td>⑨ 基礎医学（機能系）コース</td></tr> <tr> <td>② リベラルアーツ（理系）コース</td><td>⑩ 産婦人科コース</td></tr> <tr> <td>③ 外国語系コース</td><td>⑪ 基礎臨床総合コース</td></tr> <tr> <td>④ 日本語系コース</td><td>⑫ 専門臨床コース</td></tr> <tr> <td>⑤ 医療プロフェッショナリズムコース</td><td>⑬ 多職種連携教育（IPE）コース</td></tr> <tr> <td>⑥ 国際医療保健コース</td><td>⑭ 社会医学コース</td></tr> <tr> <td>⑦ 医療面接・身体診察コース</td><td>⑮ 応用臨床コース</td></tr> <tr> <td>⑧ 基礎医学（構造系）コース</td><td></td></tr> </table>	① リベラルアーツ（文系）コース	⑨ 基礎医学（機能系）コース	② リベラルアーツ（理系）コース	⑩ 産婦人科コース	③ 外国語系コース	⑪ 基礎臨床総合コース	④ 日本語系コース	⑫ 専門臨床コース	⑤ 医療プロフェッショナリズムコース	⑬ 多職種連携教育（IPE）コース	⑥ 国際医療保健コース	⑭ 社会医学コース	⑦ 医療面接・身体診察コース	⑮ 応用臨床コース	⑧ 基礎医学（構造系）コース	
① リベラルアーツ（文系）コース	⑨ 基礎医学（機能系）コース																
② リベラルアーツ（理系）コース	⑩ 産婦人科コース																
③ 外国語系コース	⑪ 基礎臨床総合コース																
④ 日本語系コース	⑫ 専門臨床コース																
⑤ 医療プロフェッショナリズムコース	⑬ 多職種連携教育（IPE）コース																
⑥ 国際医療保健コース	⑭ 社会医学コース																
⑦ 医療面接・身体診察コース	⑮ 応用臨床コース																
⑧ 基礎医学（構造系）コース																	
3	臨床実習の運営に関すること。 学生に対し臨床実習のオリエンテーションを行う。 実習日程や配属先など全般的な事項を企画、臨床実習運営連絡協議会で報告・審議し、実習ディレクター（各附属病院・関連教育病院・海外実習病院の各診療科に所属する臨床実習の責任者をいう。別表第2において同じ。）とともに、屋根瓦方式の教育体制を含む実習計画の立案、準備、実施中の連絡、情報収集、事後の評価、再立案を行い、PDCA サイクルを推進する。																
4	教材の企画・開発及び ICT 活用教育に関すること。 共通教材及び教材を配布・閲覧する ICT システム等について、直接企画・開発する。その他、個別の授業教材について、各授業の担当教員や学生による企画・開発を支援する。																
5	臨床実習前の CBT、OSCE、卒業時 OSCE に関すること。 医学教育モデル・コア・カリキュラムをもとに、臨床実習前に修得しておくことが必要とされる知識・技能・態度を評価する CBT (computer-based testing)																

	及び OSCE (objective structured clinical examination)、さらには卒業時 OSCE について、シミュレーション教育部門とともに、立案、準備、実施、事後の評価、再立案を行い、試験の質に関する PDCA サイクルを推進する。
6	成績管理及び卒業判定に関すること。 各学生の各授業における日々の出欠状況及び成績に関する情報を収集し、成績管理・卒業判定委員会で報告・審議し、その結果を代表者会議で報告する。
7	学生相談に関すること。 学生に対し、主に心療内科、精神科等の医師、臨床心理士との連携の下、生活・健康・修学に関する相談窓口を設けるほか、学生の生活・健康・修学に関するパンフレットやウェブサイトを作成し、学生への周知を行う。さらに、各学生の各授業における出欠状況及び成績の情報、生活・健康・修学に関する情報収集を行い、問題の早期発見・早期介入を行う。
8	FD・SD の企画・運営に関すること。 教職員のニーズや授業評価等、学生の授業に対するニーズに関する情報収集を行い、教職員研修の立案、教材作成、準備、実施、事後の評価、再立案を行い、PDCA サイクルを推進する。
9	入学者選抜の管理に関すること。 学外の情報収集、アドミッション・ポリシーに則った入学者選抜に関する企画立案を行い、入学試験システム委員会に提案する。また、学生の入学後の修学・成績状況、卒業後の進路等の情報を収集し、選抜制度の見直しを行う。
10	多職種連携教育に関すること。 学内の他学部・学科の教職員との連携の下、他学部・学科の授業に関する情報や関連学術会議等の情報を収集し、本学の多職種連携教育に関する授業等の立案、準備、実施、事後の評価、再立案を行い、PDCA サイクルを推進する。
11	学外の医学教育の情報収集に関すること。 各業務及び大学の方針への反映に資するため、国内外の他の医科大学、他の医療専門職の教育機関等による発信情報、及び学術会議、全国医学部長病院長会議、医師会等の非政府機関による医学教育に関する方針、さらには文部科学省、厚生労働省、内閣府等の政府・行政機関、WHO、WFME 等の国際機関による医学教育に関する政策等の情報を収集し管理する。
12	医学教育の IR に関すること。 将来的に各ポリシーをはじめとする医学教育全般及び大学全体の運営方針の改善に資するため、各学生の入学から在学中、卒業後の進路等に関する情報を収集、分析し管理する。
13	医学教育の研究に関すること。 本学の医学教育に関する種々の試みを実証し、国内外の医学教育の質向上に資するため、センターの全教員及び一部の職員は、担当する業務に応じた研究課

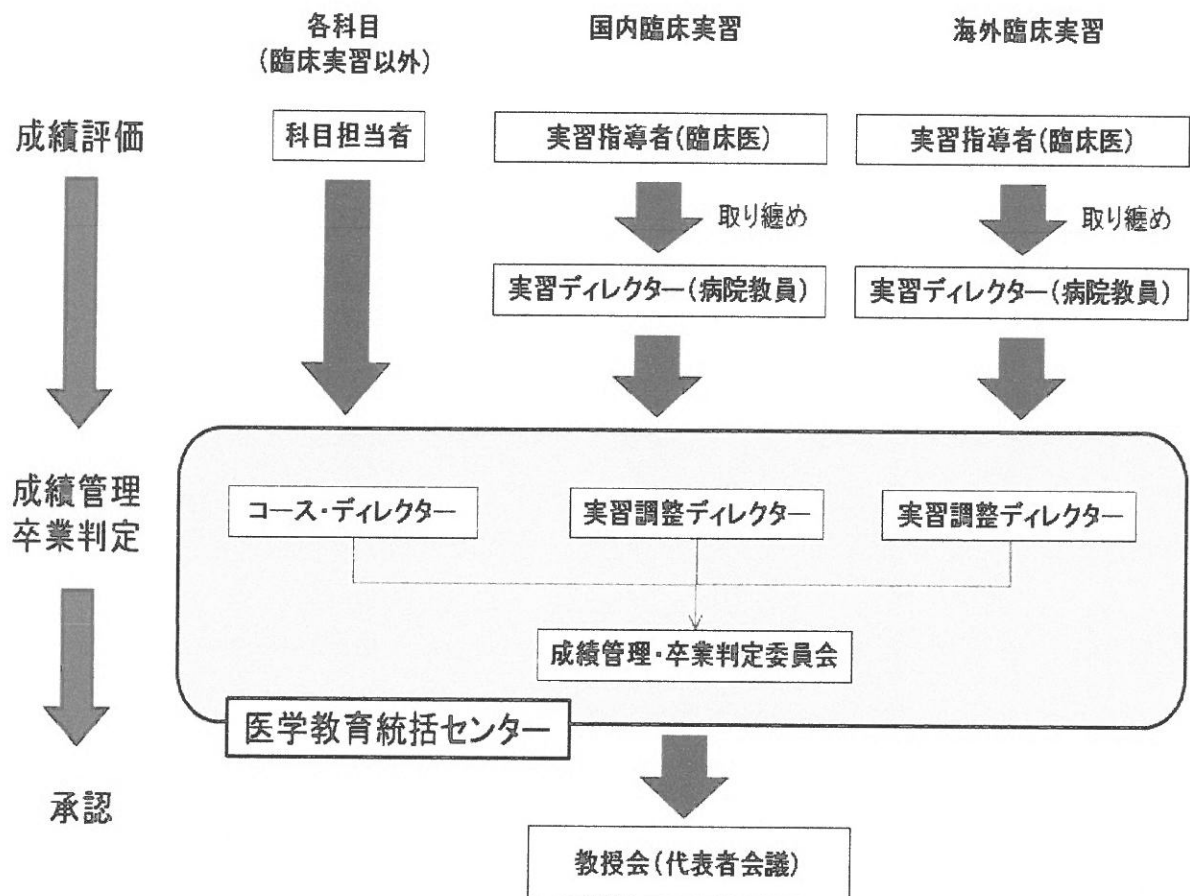
	題を設定し、研究の進捗状況を共有する。一方、次に掲げる国内外の医学教育に関する学術団体に所属し情報収集に努め、これらの学術集会、学術雑誌等に研究成果を発信する。 日本医学教育学会、日本シミュレーション医療教育学会、日本医学英語教育学会、日本保険医療福祉連携教育学会、医療系全国 e ラーニング交流会、AMEE（欧州医学教育学会）、AAMC（米国医科大学協会）、APMEC（アジア太平洋医学教育学会）等
14	医学教育の情報発信に関すること。 医学教育の質向上及び説明責任を果たすため、学内の学生、教職員、及び国内外の社会を対象として、ウェブサイト、SNS、その他の手段により、センターの業務に関する情報を発信する。
15	その他、医学教育・カリキュラムに関すること。
シミュレーション教育部門	
1	シミュレーション教育に係るカリキュラムの策定・評価・改定に関すること。 シミュレータや模擬患者等を活用する総合教育、専門教育の授業等の策定・評価及び改定を行う。
2	シミュレータの選定・管理に関すること。 国内外の医療系教育機関及び学術集会等でシミュレーション教育やシミュレータの情報を収集し、シミュレータの選定及び故障時や消耗品等の管理を行う。
3	模擬患者（SP）の養成に関すること。 学外の地域住民等と連携し、模擬患者の養成、登録、研修、及び模擬患者参加型授業や OSCE 等の試験を担当する教職員への FD・SD を実施した上で、各授業への派遣を行う。
4	その他、シミュレーション教育に関すること。

別表第2 委員会の役割、委員及び開催頻度(第9条関係)

カリキュラム委員会	
役割	カリキュラムの策定・実施・評価・改定に関する重要事項を審議
委員	センター長（委員長） コース・ディレクター 実習調整ディレクター シミュレーション教育部門の担当教員 その他センター長が指名する教職員
開催頻度	年3回以上
臨床実習運営連絡協議会	
役割	臨床実習の運営に関する重要事項の審議、連絡調整等
委員	センター長（委員長） 実習調整ディレクター 実習ディレクター 附属病院長 その他センター長が指名する教職員
開催頻度	年3回以上
成績管理・卒業判定委員会	
役割	成績管理・卒業判定に関する重要事項を審議 同委員会で、別紙のフローに従い、各学生の成績や卒業の判定について協議を行い、教授会の承認を得る。
委員	センター長（委員長） コース・ディレクター 実習調整ディレクター その他センター長が指名する教職員
開催頻度	年3回以上

成績管理・卒業判定のフロー(別表第2 関係)

医学教育統括センター 成績管理のフロー



7 その他全般的事項

<成田保健医療学部 医学検査学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 修了要件単位数 124単位 必修科目108単位、選択科目16単位 ② 施設・設備 a 講義室4室 (569.76㎡) 理学療法学科専用 b 自習室6室 (1,665.78㎡) 成田看護学部・成田保健医療学部共通 c 図書 設置時6,400冊、完成時予定16,000冊 成田看護学部・成田保健医療学部共通	① 当初の予定から変更なし ② 当初の予定から変更なし

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

学則に基づき大学としてFD委員会を置き、成田キャンパスには「成田キャンパスFD委員会」を設置している。
（別紙2「国際医療福祉大学FD委員会規程」）

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

平成28年度は成田キャンパスのFD委員会を11回開催した。29年度は医学部、成田看護学部、成田保健医療学部の3学部合同で11人の委員によるFD委員会を既に1回開催している。
委員会は原則として月1回、毎月第3木曜日に開催される。

c 委員会の審議事項等

成田キャンパスFD委員会は、FD研修会の開催などによる教員の資質向上、授業アンケートの実施などを審議する。

② 実施状況

a 実施内容

①大学全体でのFD研修会（年2回、9月、3月）

②成田キャンパスにおけるFD研修会（年1回）

b 実施方法

①大学全体でのFD研修会（年2回、9月、3月）

各キャンパスが持ち回りで担当。外部講師を招聘し、ポートフォリオ、IPEなどのテーマで講演会を実施。

②成田キャンパスにおけるFD研修会（年1回）

年1回の開催に向け、FD委員会にて企画運営。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

①大学全体でのFD研修会（年2回、9月、3月）

＜2016年9月の実施テーマ＞

高等教育における21世紀型スキルの育成について（小田原キャンパスの企画運営にて実施）

参加状況：352 / 441 名 出席（出席率 79.8 %）

＜2017年3月の実施テーマ＞

平成28年度 学生が選ぶグッドティーチング賞表彰式・報告会／各キャンパスFD活動報告会

参加状況：337 / 436 名 出席（出席率 77.3 %）

②成田キャンパスにおけるFD研修会（年1回）

＜2016年度の実施テーマ＞

2年次からスタートする関連職種連携教育の準備として、「国際医療福祉大学における関連職種連携教育（IPE）」テーマとして2017年2月に開催した。

本学の特色あるカリキュラムとなる関連職種連携教育について、各教員が理解を深める機会となった。

参加状況：成田キャンパスに着任済の教員計51名が参加

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

実施後にアンケート等から各教員へフィードバックを実施した。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

大学全体の方針として、半期の場合は15回目、半期の半分の場合は8回目に授業アンケートを実施。さらに、成田看護学部、成田保健医療学部独自の方針として、半期で実施される科目の一部について中間アンケートを実施し、後半の授業運営改善の一助とした。

b 教員や学生への公開状況、方法等

各教員へは集計結果をフィードバック。学生はホームページなどで集計結果を公開している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

昨年4月に開設した、成田看護学部及び成田保健医療学部は、千葉県をはじめ南関東地域の保健・医療・福祉に関わる専門職の需要にこたえとともに、国際都市である成田の特徴を生かし、地域・国際社会でグローバルに活躍できる人材の育成を図るために、設置したものである。

本年4月入学の第2期生の募集に当たっては、成田看護学部が入学定員100人に対し、914人の志願者(志願倍率9.14倍)が、また、成田保健医療学部が入学定員240人に対し、1,615人の志願者(志願倍率6.72倍)があり、昨年を越える志願倍率(成田看護学部7.15倍、成田保健医療学部5.14倍)となった。最終的には、成田看護学部で107人、成田保健医療学部で254人の入学者を迎えることができ、昨年に引き続き順調な学生募集の実施と、優秀な人材の確保ができていると考える。

また、本学教員による定期的な公開講座の実施や、地元産業および自治体と連携した講義の実施などにより、地域貢献を果たすとともに本学の理念の一つでもある「社会に開かれた大学」の体現を行っている。

開設2年目となり、設置時留意事項や昨年度の履行状況調査にて附された留意事項等、改善意見を踏まえ、可能な範囲で見直しを行い、大学運営の改善を行っているところである。今後も継続して改善を図り、学生に最適な学修環境の整備を進めていく。

本年4月に隣接する敷地に医学部が開設されたことにより、より実際の臨床現場に近い環境での職種間連携教育の実践や教育施設の相互利用による教育効果の向上が可能となる。

学部学科の連携を強固にすることで、これまで以上に保健・医療・福祉分野における優れた人材を養成していきたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

大学全体として平成29年度に、27～28年度を対象期間として3つのポリシー点検とPDCAサイクルの構築を中心に自己点検・評価を行う。29年度末までに点検を終え、報告書を公表することを目指している。

b 公表方法

大学ホームページに掲載するほか、関係する自治体・図書館・他大学などに報告書を配付し、本学への外部からの意見の収集に努める。

③ 認証評価を受ける計画

平成33年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受ける予定。

(注)・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(☒ 有 ☐ 無)

b 公表時期(未公表の場合は予定時期)

(平成29年 5月 31日 頃)

国際医療福祉大学 FD 委員会規程

(設置)

第1条 国際医療福祉大学学則第11条に基づき、本学にFD統括委員会（以下「統括委員会」という。）を置く。

2 各キャンパス及び医学部にキャンパスFD委員会及び医学部FD委員会（以下「FD委員会」という。）を置き、統括委員会がこれを統括する。

3 この規定において「委員会」とは、統括委員会及びFD委員会を指す。

(目的及び責務)

第2条 委員会は、本学の定める教学の基本方針にしたがい、教育法の改善及び教員の資質の向上などFD（ファカルティ・ディベロプメント）に関して討議を行い、より質の高い教育方法の推進を図るものとする。

2 委員会で協議された内容については、常任理事会、経営会議及び管理運営委員会に適宜報告するものとする。

(統括委員会の構成)

第3条 統括委員会は、次の各号の委員をもって構成する。

- 一 学務部長
- 二 各FD委員会の委員長
- 三 事務局長
- 四 人事にかかる事務責任者
- 五 教務にかかる事務責任者

2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(FD委員会の構成)

第4条 FD委員会は、次の各号の委員をもって構成する。

- 一 学長が指名する専任教員
- 二 学長が指名する者
- 三 理事長が指名する者

2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置く。

2 FD委員会においては、委員の中から学長が推薦し、理事長が指名する。

3 統括委員会においては、学務部長をもって委員長とする。

4 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

5 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代行する。

(委員会の成立)

第6条 委員会は、過半数の委員の出席により成立する。

(委員以外の出席)

第7条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(事務処理)

第8条 統括委員会の事務は東京事務部教務企画部が取り扱う。

2 FD 委員会の事務は、各キャンパス及び医学部の教務事務担当部署が取り扱う。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、常任理事会の承認事項とする。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。